仙台市文化財調査報告書第419集

南 小 泉 遺 跡

第67次発掘調査報告書

2014 年 2 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

株 式 会 社　イ ズ ミ ヤ

仙台市文化財調査報告書第419集

南 小 泉 遺 跡

第67次発掘調査報告書

2014 年 2 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

株 式 会 社　イ ズ ミ ヤ

序　　文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が遺されています。当教育委員会といたしましては、市民の皆様からのご理解・ご協力のもと、これらの文化財を保存・活用し、次世代へ継承していけるように努めているところです。

本報告書は民間の宅地造成工事に伴い、平成 24 年度に実施しました南小泉遺跡第 67 次発掘調査成果をまとめたものです。

南小泉遺跡は昭和初期に霞の目飛行場の拡張工事の際に、弥生時代と古墳時代の遺構と遺物が大量に見つかり、東北地方の弥生時代と古墳時代を代表する遺跡として知られています。また、今回の調査地点の北東には、仙台市内最大の前方後円墳である国史跡遠見塚古墳があります。今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡や中近世の区画溝跡と掘立柱建物跡などが見つかり、遺構からは土師器や陶磁器などの遺物が出土しました。これから中世の南小泉周辺の様相が、今回の調査で発見された遺構と遺物からうかがえるかと思います。

本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史と文化財に関心を抱く契機として頂ければ幸いです。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、仙台市内も甚大な被害を受けました。現在仙台市は「ともに、前へ仙台　～ 3．11 からの再生～」を掲げて復興計画を進めているところです。そうした中、本報告書刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申しあげます。

平成　26　年　2　月

仙台市教育委員会
教育長　　上田　昌孝

例　　言

1．本書は、平成24年度に仙台市若林区遠見塚地区での宅地造成事業に伴い実施した南小泉遺跡第67次発掘調査の報告書である。

2．本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、国際文化財株式会社が行った。本書の作成及び編集は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係　庄子裕美、主濱光朗、荒井格、工藤信一郎の監理のもと、国際文化財株式会社が行った。

3．執筆は仙台市教育委員会の庄子裕美、国際文化財株式会社の前川雅夫、吾妻俊典、水上匡彦、横井奏が担当し、以下の分担で行った。編集は水上と横井が行った。

第1章第1節　庄子裕美　第1章第2節、第3章　吾妻俊典、第2章、第4章、第5章、第6章第1節、第3節　水上匡彦、第6章第2節　前川雅夫

4．石器・石製品の石材鑑定については東北大学名誉教授蟹澤聰史氏に依頼し、肉眼で鑑定していただいた。

5．本調査の実施、及び報告書作成に際し、株式会社イズミヤよりご協力を賜った。

6．発掘調査と報告書作成で得られた全ての資料と記録は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．第1図は、国土地理院発行の2万5000分の1地形図「仙台東南部」(平成14年)を一部加工し使用している。

2．土色記載は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』2002版を使用した。

3．座標値は世界測地系を使用し、調査地の北西隅にあたるX＝-195635.000、Y＝6930.000に測量基準点を設置した。標高値はT.P.(東京湾平均海面)を用いている。

4．掲載した遺構の縮尺は、各区の遺構配置図を1/200、住居跡、土坑、溝跡、井戸跡を1/60としたが、SD8の平面図、SX6の断面図を1/100、SR1の断面図を1/150で掲載した。

5．遺構平面図の表示に関して、該当遺構より新しい遺構は該当遺構の上端線より細い線で、上端及び下端線、ケバを入れて表現し、古い遺構は該当遺構の上端線より細い線で、上端線のみ表現した。ただし、遺構配置図においてはケバを省いた。

6．遺構表記は、遺構ごとに下記の略号を付与し、各遺構に通し番号を与え、あらわした。

SA：柱列跡、SB：掘立柱建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SI：竪穴住居跡、SK：土坑、SR：河川跡、SX：その他の遺構、P：ピット

7．土層番号は、基本層序にローマ数字、遺構内堆積層に算用数字を使用した。

柱痕跡　　被熱範囲　　炭化物分布範囲

8．　遺構観察表の、(　) は残存値を、「—」表記は計測不能を示している。

9．　遺構図で使用したスクリーントーンは以下の通りである。

10．　出土遺物は、種類ごとに次の記号を付し、これに記号ごとの番号を与え、登録している。

B：弥生土器、C：土師器(非ロクロ)、D：土師器(ロクロ調整)、E：須恵器、F：丸瓦・軒丸瓦、I：陶器・瓦質土器・土師質土器、J：磁器、K：石器・石製品、N：金属製品、P：土製品、X：その他の遺物

11．　掲載した遺物の縮尺は、打製石器、土玉、管玉、臼玉が2/3、ミニチュア土器、石製模造品、石庖丁、磨製石斧が1/2、その他は1/3で掲載した。

12．　遺物観察表の、(　) 内の数値は復元値を、「—」表記は計測不能を示している。

13．　土器の実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

黒色処理

14．　石器の実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

磨滅　　敲打痕　　光沢面

目　次

序文
例言・凡例

第１章　調査に至る経緯と調査要項 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査要項 …… 1

第２章　地理的環境と歴史的環境 …… 2
第１節　地理的環境 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　調査の方法と経過 …… 3
第１節　調査の方法 …… 3
(1)野外調査 …… 3
(2)屋内整理 …… 4
第２節　調査の経過 …… 5
(1)野外調査の経過 …… 5
(2)屋内整理・報告書作成の経過 …… 5

第４章　基本層序 …… 6

第５章　調査の概要と成果 …… 7
第１節　調査の成果 …… 7
第２節　検出遺構と出土遺物 …… 7
(1)Ⅳ層検出の遺構と遺物 …… 7
1.掘立柱建物跡・柱列跡 …… 12
2.溝跡 …… 15
3.井戸跡 …… 22
4.土坑 …… 23
5.ピット …… 24
(2)Ⅴ層検出の遺構と出土遺物 …… 29
1.竪穴住居跡 …… 29
2.溝跡 …… 54
3.土坑 …… 62
4.河川跡 …… 70
5.土器集中遺構 …… 71
6.性格不明遺構 …… 73

(3)遺構外出土遺物 …… 73
第6章　総括 …… 78
第1節　中世の検出遺構と出土遺物 …… 78
(1)中世区画施設及び掘立柱建物跡と出土遺物について …… 78
1.区画溝と橋脚 …… 78
2.掘立柱建物跡 …… 79
第2節　古墳時代から古代の出土遺物と検出遺構 …… 80
(1)古墳時代～古代の遺構出土土器 …… 80
1.時期設定 …… 80
2.遺構出土土器の年代観の概略 …… 80
3.土器以外の遺構出土遺物 …… 83
(2)竪穴住居跡について …… 88
第3節　まとめ …… 91

参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第1図　南小泉遺跡と周辺の遺跡 …… 2
第2図　調査区・グリッド配置図 …… 4
第3図　基本層序柱状模式図 …… 6
第4図　Ⅰ区Ⅳ層上面遺構配置図 …… 8
第5図　Ⅱ区Ⅳ層上面遺構配置図 …… 9
第6図　Ⅲ区Ⅳ層上面遺構配置図 …… 10
第7図　Ⅳ区Ⅳ層上面遺構配置図 …… 11
第8図　SB1掘立柱建物跡 …… 12
第9図　SB2掘立柱建物跡(1) …… 12
第10図　SB2掘立柱建物跡(2) …… 13
第11図　SB3掘立柱建物跡 …… 13
第12図　SB4掘立柱建物跡 …… 14
第13図　SA1柱列跡 …… 15
第14図　SD7溝跡(1) …… 15
第15図　SD7溝跡(2) …… 16
第16図　SD8溝跡(1) …… 17
第17図　SD8溝跡(2) …… 18
第18図　SD8溝跡出土遺物 …… 19
第19図　SD1溝跡 …… 19
第20図　SD2溝跡 …… 19
第21図　SD4溝跡 …… 20
第22図　SD5溝跡 …… 20
第23図　SD6溝跡 …… 20
第24図　SD11溝跡 …… 20
第25図　SD19溝跡 …… 21
第26図　SD21溝跡 …… 21
第27図　SD35溝跡 …… 21
第28図　SD19溝跡出土遺物 …… 22
第29図　SE1井戸跡 …… 22
第30図　SK1土坑 …… 23
第31図　SK2土坑 …… 23
第32図　SK3土坑 …… 23
第33図　SK7土坑 …… 23
第34図　SK17土坑 …… 23
第35図　SK23土坑 …… 24
第36図　P248・265出土遺物 …… 24
第37図　Ⅰ区Ⅴ層上面遺構配置図 …… 25
第38図　Ⅱ区Ⅴ層上面遺構配置図 …… 26
第39図　Ⅲ区Ⅴ層上面遺構配置図 …… 27
第40図　Ⅳ区Ⅴ層上面遺構配置図 …… 28

第41図　SI1竪穴住居跡 …… 29
第42図　SI2竪穴住居跡・出土遺物 …… 30
第43図　SI4竪穴住居跡・出土遺物 …… 31
第44図　SI5竪穴住居跡・出土遺物 …… 32
第45図　SI6竪穴住居跡(1) …… 32
第46図　SI6竪穴住居跡(2)・出土遺物 …… 33
第47図　SI7竪穴住居跡・出土遺物 …… 34
第48図　SI8竪穴住居跡 …… 35
第49図　SI8竪穴住居跡出土遺物(1) …… 36
第50図　SI8竪穴住居跡出土遺物(2) …… 37
第51図　SI9竪穴住居跡・出土遺物 …… 37
第52図　SI10竪穴住居跡 …… 38
第53図　SI 11・SI 18竪穴住居跡・SI 11竪穴住居跡出土遺物 …… 39
第54図　SI13竪穴住居跡 …… 40
第55図　SI13竪穴住居跡出土遺物 …… 41
第56図　SI14竪穴住居跡(1) …… 41
第57図　SI14竪穴住居跡(2) …… 42
第58図　SI14竪穴住居跡出土遺物 …… 43
第59図　SI15竪穴住居跡・出土遺物 …… 44
第60図　SI16竪穴住居跡(1) …… 45
第61図　SI16竪穴住居跡(2)・出土遺物 …… 46
第62図　SI17竪穴住居跡・出土遺物 …… 47
第63図　SI19竪穴住居跡(1) …… 47
第64図　SI19竪穴住居跡(2)・出土遺物 …… 48
第65図　SI20竪穴住居跡 …… 48
第66図　SI21竪穴住居跡 …… 49
第67図　SI22竪穴住居跡 …… 50
第68図　SI22竪穴住居跡出土遺物(1) …… 51
第69図　SI22竪穴住居跡出土遺物(2) …… 52
第70図　SI23竪穴住居跡(1) …… 52
第71図　SI23竪穴住居跡(2) …… 53
第72図　SI24竪穴住居跡 …… 53
第73図　SI24竪穴住居跡出土遺物 …… 54
第74図　SD13溝跡 …… 54
第75図　SD14溝跡 …… 55
第76図　SD14溝跡出土遺物(1) …… 56
第77図　SD14溝跡出土遺物(2) …… 57
第78図　SD3溝跡 …… 57
第79図　SD9・10溝跡 …… 57
第80図　SD12溝跡 …… 58
第81図　SD16溝跡 …… 58
第82図　SD17溝跡 …… 58
第83図　SD20溝跡 …… 58
第84図　SD22溝跡 …… 58
第85図　SD23溝跡 …… 59
第86図　SD24溝跡 …… 59
第87図　SD27溝跡 …… 59
第88図　SD28溝跡 …… 59
第89図　SD29～33溝跡 …… 60
第90図　SD34溝跡 …… 60
第91図　SD12溝跡出土遺物 …… 61
第92図　SK4土坑 …… 62
第93図　SK5土坑 …… 62
第94図　SK6土坑 …… 62
第95図　SK8土坑 …… 62
第96図　SK11土坑 …… 62
第97図　SK12土坑 …… 63
第98図　SK13土坑 …… 63
第99図　SK15土坑 …… 63
第100図SK16土坑 …… 63
第101図SK18土坑 …… 63
第102図SK19土坑 …… 64
第103図SK20土坑 …… 64
第104図SK21土坑 …… 64
第105図SK22土坑 …… 64
第106図SK24土坑 …… 64
第107図SK25土坑 …… 65
第108図SK26土坑 …… 65
第109図SK27土坑 …… 65
第110図SK28土坑 …… 65
第111図SK29土坑 …… 65
第112図SK30土坑 …… 65
第113図SK31土坑 …… 66
第114図SK32土坑 …… 66
第115図SK33土坑 …… 66
第116図SK34土坑 …… 66
第117図SK35・36土坑 …… 67

第118図 SK37土坑 …… 67
第119図 SK38土坑 …… 67
第120図 SK39土坑 …… 67
第121図 SK42土坑 …… 67
第122図 SK43土坑 …… 68
第123図 SK44土坑 …… 68
第124図 SK45土坑 …… 68
第125図 SK47土坑 …… 68
第126図 SK5・21土坑出土遺物 …… 70
第127図 SR1河川跡 …… 70
第128図 SR1河川跡出土遺物 …… 71
第129図 SX5土器集中遺構 …… 71
第130図 SX5土器集中遺構出土遺物 …… 72
第131図 SX2性格不明遺構 …… 73
第132図 SX6性格不明遺構 …… 73
第133図 遺構外出土遺物(1) …… 74
第134図 遺構外出土遺物(2) …… 75
第135図 遺構外出土遺物(3) …… 76
第136図 遺構外出土遺物(4) …… 77
第137図 中世区画溝配置図 …… 78
第138図 Ⅳ層上面検出掘立柱建物跡 …… 79
第139図 出土土器集成(1) …… 84
第140図 出土土器集成(2) …… 85
第141図 出土土器集成(3) …… 86
第142図 出土土器集成(4) …… 87
第143図 竪穴住居跡重複関係模式図 …… 89
第144図 竪穴住居跡分布図 …… 90

写真図版目次

写真図版1　調査区全景・Ⅳ層上面検出遺構 …… 95
写真図版2　Ⅳ層上面検出遺構(1) …… 96
写真図版3　Ⅳ層上面検出遺構(2) …… 97
写真図版4　Ⅳ層上面検出遺構(3) …… 98
写真図版5　Ⅴ層上面検出遺構(1) …… 99
写真図版6　Ⅴ層上面検出遺構(2) …… 100
写真図版7　Ⅴ層上面検出遺構(3) …… 101
写真図版8　Ⅴ層上面検出遺構(4) …… 102
写真図版9　Ⅴ層上面検出遺構(5) …… 103
写真図版10　Ⅴ層上面検出遺構(6) …… 104
写真図版11　溝跡(1)・ピット・竪穴住居跡(1)出土遺物 …… 105
写真図版12　竪穴住居跡(2)出土遺物 …… 106
写真図版13　竪穴住居跡(3)出土遺物 …… 107
写真図版14　竪穴住居跡(4)出土遺物 …… 108
写真図版15　竪穴住居跡(5)出土遺物 …… 109
写真図版16　竪穴住居跡(6)出土遺物 …… 110
写真図版17　竪穴住居跡(7)・溝跡(2)出土遺物 …… 111
写真図版18　溝跡(3)出土遺物 …… 112
写真図版19　溝跡(4)・土坑・河川跡出土遺物 …… 113
写真図版20　土器集中遺構出土遺物 …… 114
写真図版21　遺構外出土遺物(1) …… 115
写真図版22　遺構外出土遺物(2) …… 116
写真図版23　遺構外出土遺物(3) …… 117

第１章　調査に至る経緯と調査要項

第１節　調査に至る経緯

南小泉遺跡第67次調査は、平成24年度に仙台市若林区遠見塚一丁目地内で宅地造成工事に伴う発掘調査である。

今回の発掘調査は、平成24年1月27日に事業者である株式会社イズミヤにより、仙台市教育委員会に事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議書が提出された。仙台市教育委員会は事業地内の近隣での調査結果から古墳時代の集落跡と中近世の屋敷跡が検出されることが予測されることから、事業地内で確認調査を行い、遺構等が発見された場合は遺跡保存の協議を行う旨の回答（平成24年2月1日付H23教正文第149-42号）をした。平成24年3月7･8日に確認調査を行ったところ竪穴住居跡などが確認され、事業地内に遺構が分布していることがわかり、事業者と仙台市教育委員会との間で埋蔵文化財の取り扱いについて再協議を行った。その結果、道路部分と擁壁部分のうち地下遺構に影響を与える箇所を対象に本発掘調査を実施することとした。

第２節　調査要項

遺跡名　　南小泉遺跡(宮城県遺跡登録番号　01021　仙台市登録番号C-102)
所在地　　仙台市若林区遠見塚一丁目242-10外
調査主体　　仙台市教育委員会
調査原因　　民間宅地開発に伴う発掘調査
調査対象面積　約800㎡

平成24年度発掘調査、基礎整理体制
調査担当　　仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係　主事　庄子裕美、専門員　篠原信彦
調査組織　　国際文化財株式会社　主任調査員　吾妻俊典、調査補助員　佐藤洋、本荘剛志(10/25 ～ 11/24)
調査期間　　野外調査　平成24年10月1日～平成25年1月29日
　　室内整理　平成25年1月15日～平成25年3月26日
調査面積　　約782.5㎡

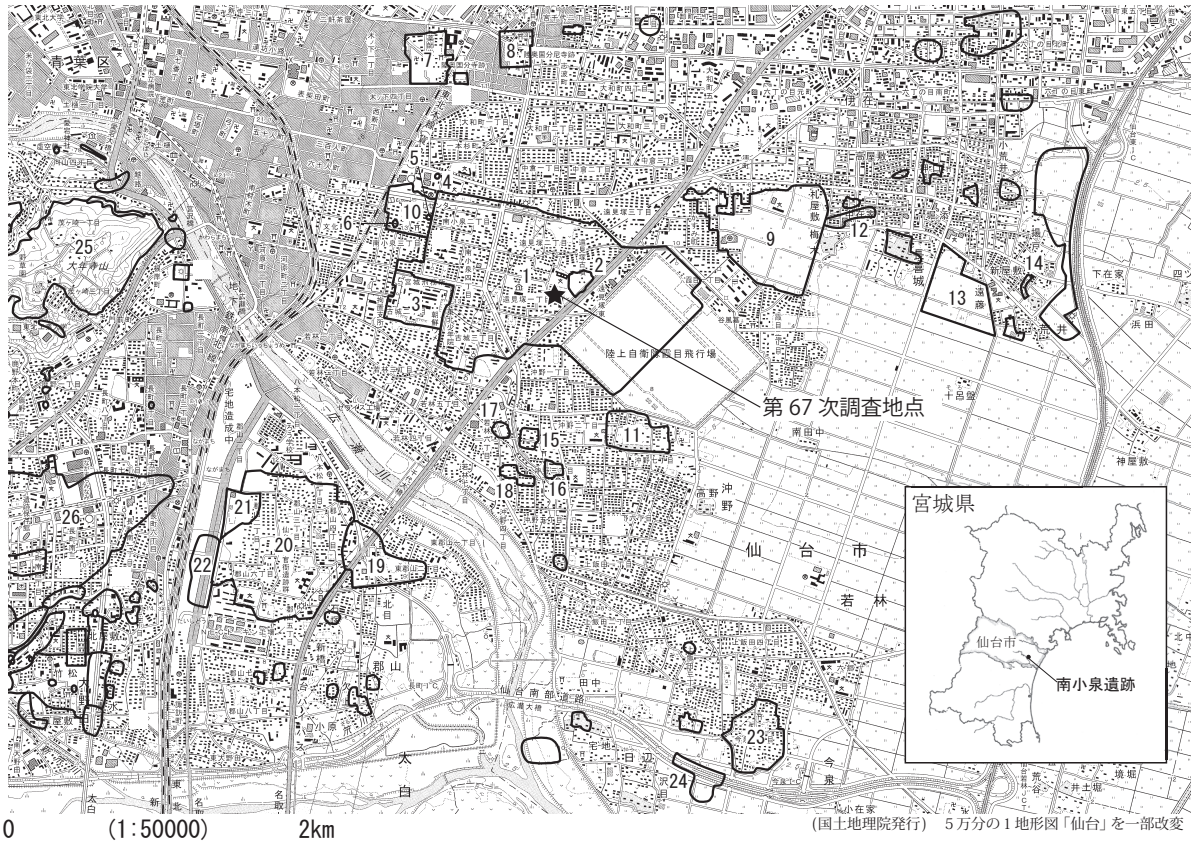
平成25年度発掘調査整理、報告書作成体制
調査担当　　仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係　主事　庄子裕美、主査　主濱光朗、同　荒井格、
　　主任　工藤信一郎、

調査組織　　国際文化財株式会社　主任調査員　吾妻俊典(6/17 ～ 7/7)、水上匡彦(7/8 ～ 2/28)、
　　調査員　横井奏
作成期間　　平成25年6月17日～平成26年2月28日

第２章　地理的環境と歴史的環境

第１節　地理的環境

南小泉遺跡は、北は宮城県宮城郡七ケ浜町、南は同県亘理郡山元町に及ぶ南北約50㎞、東西約10㎞の三日月形に広がる仙台平野の中に位置し、その中でも広瀬川以北の霞の目低地と呼ばれる平野北側に所在する。この地は、仙台市の東部を南流する広瀬川と南部を東流する名取川合流地の、やや北側、広瀬川左岸に形成された自然堤防上にあたる。標高は海抜約７～14 m である。遺跡範囲は東西約２ km、南北約１ km、約158 ha に及び、仙台市内



(国土地理院発行)　５万分の１地形図「仙台」を一部改変

No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	南小泉遺跡	自然堤防	屋敷跡・集落跡	弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・中世・近世
2	遠見塚古墳	自然堤防	前方後円墳・散布地	弥生・古墳(前・中)
3	若林城跡	自然堤防	円墳・集落・城館跡	古墳・平安・中世・近世
4	法領塚古墳	自然堤防	古墳	古墳(後期)
5	蛇塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
6	猫塚古墳	沖積平野	古墳	古墳
7	陸奥国分寺跡	段丘	寺院跡	奈良・平安
8	陸奥国分尼寺跡	段丘	寺院跡	奈良・平安
9	仙台東郊条里跡	沖積平野	条里跡	奈良・平安
10	養種園遺跡	自然堤防	屋敷跡・集落跡	奈良・平安～近世
11	沖野城跡	沖積平野	城館跡	中世
12	中在家南遺跡	自然堤防・沖積平野	墓・河川跡・水田跡	弥生・古墳・平安～近世
13	荒井南遺跡	自然堤防	水田跡	弥生

No.	遺跡名	立地	種別	時代
14	荒井広瀬遺跡	自然堤防	河川跡	弥生・古墳
15	神柵遺跡	自然堤防	官衙跡	古代
16	中柵西遺跡	自然堤防	散布地	弥生・古墳・古代
17	砂押Ⅰ遺跡	自然堤防	散布地	古墳・古代
18	砂押Ⅱ遺跡	自然堤防	散布地	古墳・古代
19	北目城跡	自然堤防	城館・集落跡・水田跡	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
20	郡山遺跡	自然堤防	官衙跡・寺院跡・散布地	縄文(後・晩)・弥生(中)・飛鳥・奈良・平安・中世
21	西台畑遺跡	自然堤防	官衙関連・集落跡・墓跡	縄文(後・晩)・弥生(中)・飛鳥・奈良・平安・中世
22	長町駅東遺跡	自然堤防	官衙関連・集落跡・水田跡・墓跡	縄文(後・晩)・弥生(中)・飛鳥・奈良・平安・中世
23	今泉遺跡	自然堤防	集落跡・城館	縄文・弥生・古墳・奈良～近世
24	高田Ｂ遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡・屋敷跡	縄文(後・晩)・弥生・古墳・平安・中世・近世
25	茂ヶ崎城跡	丘陵	城館	中世
26	富沢遺跡	後背湿地	集落跡・水田跡・散布地	後期旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世

第１図　南小泉遺跡と周辺の遺跡

でも最大級の面積をもつ。

第２節　歴史的環境

本遺跡は昭和11年頃、耕作に際し土器が多量に出土した事により発見された。昭和14～15年の霞目飛行場拡張工事では、宮城県で初めて竪穴住居跡の存在を確認し、後に紹介された遺跡でもある。遺跡名も東北地方南部における古墳時代中期土師器の標式となっている。これまでに仙台市教育委員会によって66次の発掘調査と、調査団による２度の発掘調査、宮城県教育委員会の調査が行われ、縄文時代から近世にいたる遺物や遺構が出土・検出されている。主なものに、弥生時代桝形囲式の甕棺墓、古墳時代の集落跡、中世から近世の城館や屋敷がある。今次調査地の南と西は、これまで第16次調査と第30次調査、第44次調査の発掘調査が行われ、古墳時代の住居跡が濃密に分布すること、中世から近世初頭の区画溝跡と、その溝跡の内部に建物が存在することがわかっている。

本遺跡の周辺をみると主軸長110ｍを測る、大型前方後円墳である史跡遠見塚古墳を内包し、本遺跡北西には径55ｍを測る、横穴式石室をもつ円墳、法領塚古墳のほか猫塚古墳、蛇塚古墳もある。南西約1.5kmには７世紀から８世紀の官衙である史跡郡山遺跡、北西約1.5Kmに８世紀半ばに造営した史跡陸奥国分寺跡、国分尼寺跡が所在する。遺跡の西隣には伊達政宗が寛永４年(1627)から死去する寛永13年(1636)まで屋敷を構えた若林城跡がある。本遺跡は古墳時代から古代の集落が多数検出されているとともに、城館とその周辺に家臣の屋敷が散在する中世村落の姿も明らかになっている。中世後期には国分氏が同地を支配し、天正15年(1587)冬以降に伊達氏の領国へ組み入れられたと考えられている。これまで南小泉遺跡で調査した屋敷群は17世紀前半の若林城の廃絶とともに消長を同じくしている。近世の同地は宮城郡国分沖通小泉村に属し、南方群奉行、原町代官所の差配下に置かれていた。戊辰戦争後は陸前国に編入され、その後、新仙台領の一部になり仙台県を経て明治５年に宮城県の一部となる。明治７年には宮城郡に二つの小泉村があるため南小泉と改称した。明治22年(1869)には仙台市の市制発足とともに市域に組み込まれた。仙台近郊の農業地帯となっていた明治後半の様子は真山青果著『南小泉村』(1912　新潮)によって伝えられている。その後、昭和30年代に遺跡を縦断する４号線バイパスが造られ急速な宅地化も進行し、遺跡内の田畑は減少して現在に至っている。第67次調査区は調査直前まで同地域に残った数少ない畑地であった。

第３章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

(1)　野外調査

調査区は宅地造成地の排水路、擁壁、道路部分にあたる範囲を対象とした。排水路部分は幅１ｍ×68ｍ、擁壁部分は幅1.5ｍ×48ｍ、道路部分は幅６ｍと３ｍで、長さは総長141ｍである。面積は782.5㎡である。遺構と遺物の出土地を把握する測量基準点は、調査地の北西隅の世界測地系Ｘ＝-195635.000、Ｙ＝6930.000の地に設けた。遺構と遺物を大まかに把握するために、基準点から東に向かいＡからＺの順にアルファベット、南に向かい１から21の順に数字を振り、アルファベットと数字の組み合わせで、５ｍ四方のグリッドを設けた。合わせて、実際のグリッドが、調査地内部で細分されることから、便宜上、最も東にあたる排水路部分の調査地をⅠ区、最も南にあたる擁壁部分をⅡ区、道路部分の東側をⅢ区、西側をⅣ区と呼称し、基本層から出土した遺物の取り上げ等に利用した。

表土掘削は、主にバックホー０.４㎥を使用した。遺構面が２面ある調査区西側の下層は人力で掘り下げている。表土掘削後は、Ⅰ～Ⅲ区、Ⅳ区の中央と東側でⅤ層上面、Ⅳ区の西側ではⅣ層上面とⅤ層上面で遺構検出を行なっている。

検出遺構は、遺構精査の各段階の必要に応じ、写真撮影、断面図、平面図、土層註記の記録をとった。写真撮影は、35mm×24mm判のモノクロネガとカラーリバーサルを主体に、デジタルカメラも使用した。Ⅲ区とⅣ区Ⅳ層上面の全景写真には、スカイマスターを使用した。平面図はトータルステーションによる計測を主とし、必要に応じ手実測の平面図及び断面図を縮尺1/20で作成した。

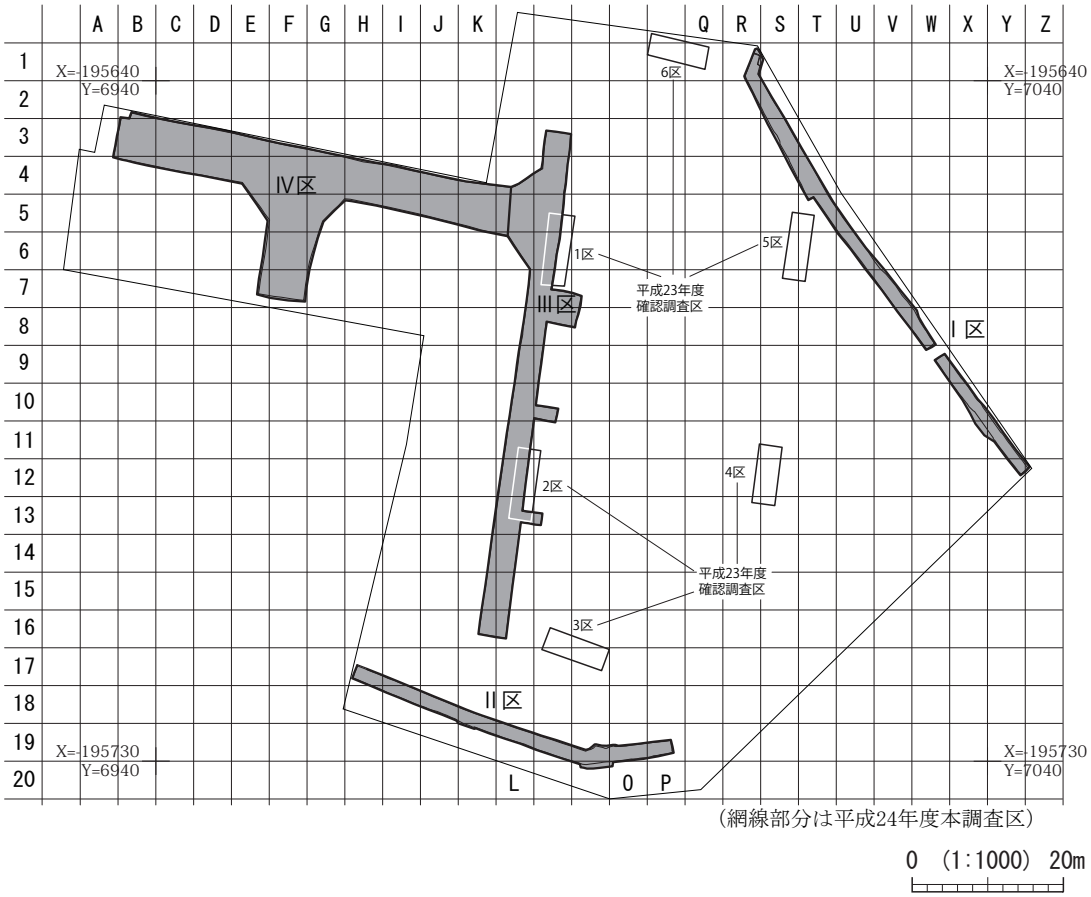
(2) 屋内整理

検出した遺構は、野外調査時にComputer aided designで記録したデータをIllustratorCS4(Adobesystems)で整理と調整を行い、両者のデータをCD-Rに正副2部焼き付け保存している。IllustratorCS4のデータは、A2版の紙面に印刷し、基図とした。

出土遺物は、洗浄後、「遺跡番号(C102)、調査次数(67次)、遺物取り上げ番号、出土遺構と層位」などの注記をおこなった。なお石器、石製品、金属製品については注記を行っていない。遺物の接合はセメダインC、復元はモビニールパウダーDM200、エレホン#415、マールライトM60Hを使用した。接合と復元は、実測を必要とすると考えた資料に行っている。遺物は、遺構の年代を示す資料や貴重性を考慮し必要に応じ抽出し、種類ごとに仙台市共通のアルファベット記号と登録番号を付けている(凡例参照)。この登録番号を付けたものから、実測図作製及び写真撮影を行なった。

遺物と遺構のトレース、レイアウトはIllustratorCS4、編集はIndesign(Adobesystems)を使用している。

写真は、アルバムに収納した。デジタルカメラのデータはDVD-Rに正副2部焼き付け保存した。これらは、台帳を作成した。



第2図　調査区・グリッド配置図

第２節　調査の経過

平成23年度に確認調査、平成24年度に本発掘調査とその成果の基礎整理を、平成25年度に報告書作成と刊行を行った。

(1)　野外調査の経過

確認調査は平成24年３月７日と８日の２日間行った。重機を使用し調査区内に６箇所のトレンチを設け、Ｖ層上面で遺構の分布状況を探った。古墳時代以降の遺構と遺物が確認され、事業者と調整を行ったうえ、本発掘調査を平成24年10月１日から行った。10月１日は調査事務所の設営と調査機材を搬入した。同月２日からは測量基準点を移動させ、発掘調査区を設定した。調査区を囲うフェンスは、調査地の引渡しの都合、10月初めと半ばの２回に分けて設置し、最終的に調査区全体を外部から進入ができないように囲った。表土掘削は調査区などの都合で３回に分け、主に重機を使用した。

遺構検出及び精査は、全て人力で行っている。調査区西端については、中近世と古墳時代の遺構検出面が異なるため、検出作業を二面で行っている。最終的な遺構検出を行ったＶ層より下層については、遺構及び攪乱の底や壁から遺物が出土していないこと、隣接している第17次調査と第30次調査で1.8m(東日本大震災前の標高で９m)まで掘り下げ、遺構や遺物が確認されていないことから、今回の調査では掘り下げを行っていない。

発見した遺構は、柱列跡(SA)、掘立柱建物跡(SB)、竪穴住居跡(SI)、土坑(SK)、井戸跡(SE)、溝跡(SD)、性格不明遺構(SX)、ピット(P)等があり、それぞれ１からの連番を順に付け、これに(　)内の符号を付し、遺構記号とした。

調査区の埋め戻しは、重機を使用して行った。1月29日に事業者へ調査区の引渡しを行い、野外での調査は終了した。

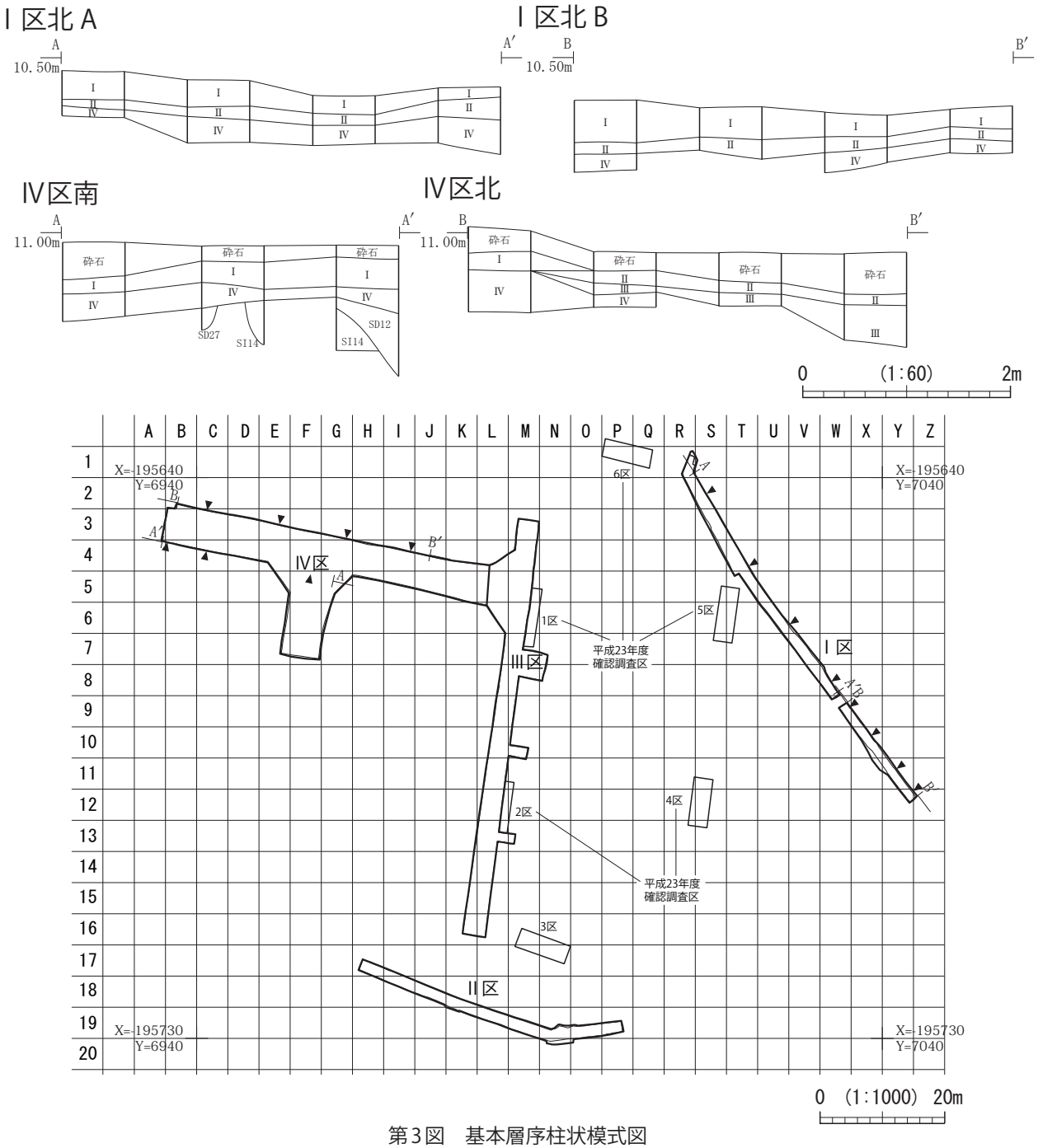
(2)　屋内整理・報告書作成の経過

遺物の洗浄は平成25年１月15日から、出土地及び層位等の注記は２月22日から行った。あわせて、写真整理、図面の表記の統一、遺構のデジタルトレース、住居跡出土遺物の接合を行った。３月26日に、作製した図面、撮影した写真、出土遺物等の一式を仙台市向田文化財整理事務所に納品し、平成24年度の委託業務の一切を終えた。

報告書作成刊行は、平成25年度の委託業務として６月17日から行った。遺物の接合、復元、抽出、登録、実測、拓影、トレース、写真撮影、図版組、執筆等を行った。報告書は、仙台市教育委員会内で原稿の協議を経て、300部印刷･製本し、完成させた。その後、２月28日に関係機関への報告書送付と、発掘調査及び報告書作成で得られた一切の資料を、仙台市向田文化財整理収蔵室へ納品し、委託業務の一切を終えた。

第４章　基本層序

基本層序は、Ⅰ層からⅤ層に区分した。Ⅰ層とⅢ層は畑の耕作土である。Ⅱ層は水田耕作を示すグライ化した層である。Ⅰ～Ⅲ層は、いずれもビニール製品を含み、現代の堆積層である。このほか調査区西側にあたるⅣ区は、調査直前までアスファルト敷きの駐車場で、そのアスファルトの下に砕石と砂が堆積していた。これについては層番号を振らず、砕石と記載している。Ⅳ層は各調査区に分布するが、Ⅰ区西側及びⅣ区北西側で厚く分布する。Ⅳ層上面は、柱穴や土坑、溝跡の多くが掘り込まれる、中近世の遺構の検出面である。Ⅴ層の上面では古墳時代と平安時代の竪穴住居跡を検出した。



第３図　基本層序柱状模式図

Ⅰ層からⅤ層の標高は、概ね調査区の西側にあたるⅣ区西側が高く、南東に向かい低くなる。仙台平野の丘陵側から海岸に向かい標高が低くなる傾きは、古墳時代から現代まで一貫している。

第Ⅰ層：暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト。15～40㎝程の厚さである。
第Ⅱ層：暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粘土。5～20㎝程の厚さである。下層に0.5～1㎝の酸化鉄の集積がある。
第Ⅲ層：黒褐色(10YR2/3)シルト。10～20㎝程の厚さである。畑地の土壌改良に伴う攪拌層である。下層の一部に、第Ⅴ層のシルトをブロックで互層に含む箇所がある。
第Ⅳ層：にぶい黄橙色(10YR7/4)シルト。中世、近世の遺構が掘り込まれている。
第Ⅴ層：黄橙色(10YR8/6)シルト。いわゆる地山である。この上面で古墳時代、古代の遺構を検出している。

第５章　調査の概要と成果

第１節　調査の成果

本調査で発見した遺構は、柱列跡１列、掘立柱建物跡４棟、竪穴住居跡22棟、土坑40基、溝跡31条、井戸跡１基、河川跡１条、土器集中遺構１基、性格不明遺構２基、ピット593基である。このうち調査区の西側で、掘立柱建物群(SB１、SB２、SB３、SB４)、柱列跡(SA１)、井戸跡(SE１)、土坑(SK７、SK16、SK22、SK23)、溝(SD10)、ピット群を、Ⅳ層上面で確認した。この調査区西側では、より下層のⅤ層上面で、竪穴住居跡(SI13、SI14、SI15、SI16、SI18、SI19、SI20)、溝跡(SD12、SD27)を検出し、遺構検出面が２面あることを確認した。一方、Ⅳ層自体が東側に向かい層厚が薄くなり、部分的な残存となる。そのため調査区西側の一部を除き、全ての遺構をⅤ層上面で確認した。このように、本来、掘立柱建物群を中心とするピット群はⅣ層上面、住居跡群はⅤ層上面と、検出した層が異なる。

出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、土製品(勾玉、土玉、紡錘車)、石器(石鏃、石斧、石庖丁など)、石製品(石製模造品、臼玉、砥石)、金属製品(刀、鏃、鎌、釘)、ガラス製品(管玉)がある。総数は平箱(600㎜×440㎜×150㎜、以下同)69箱分である。

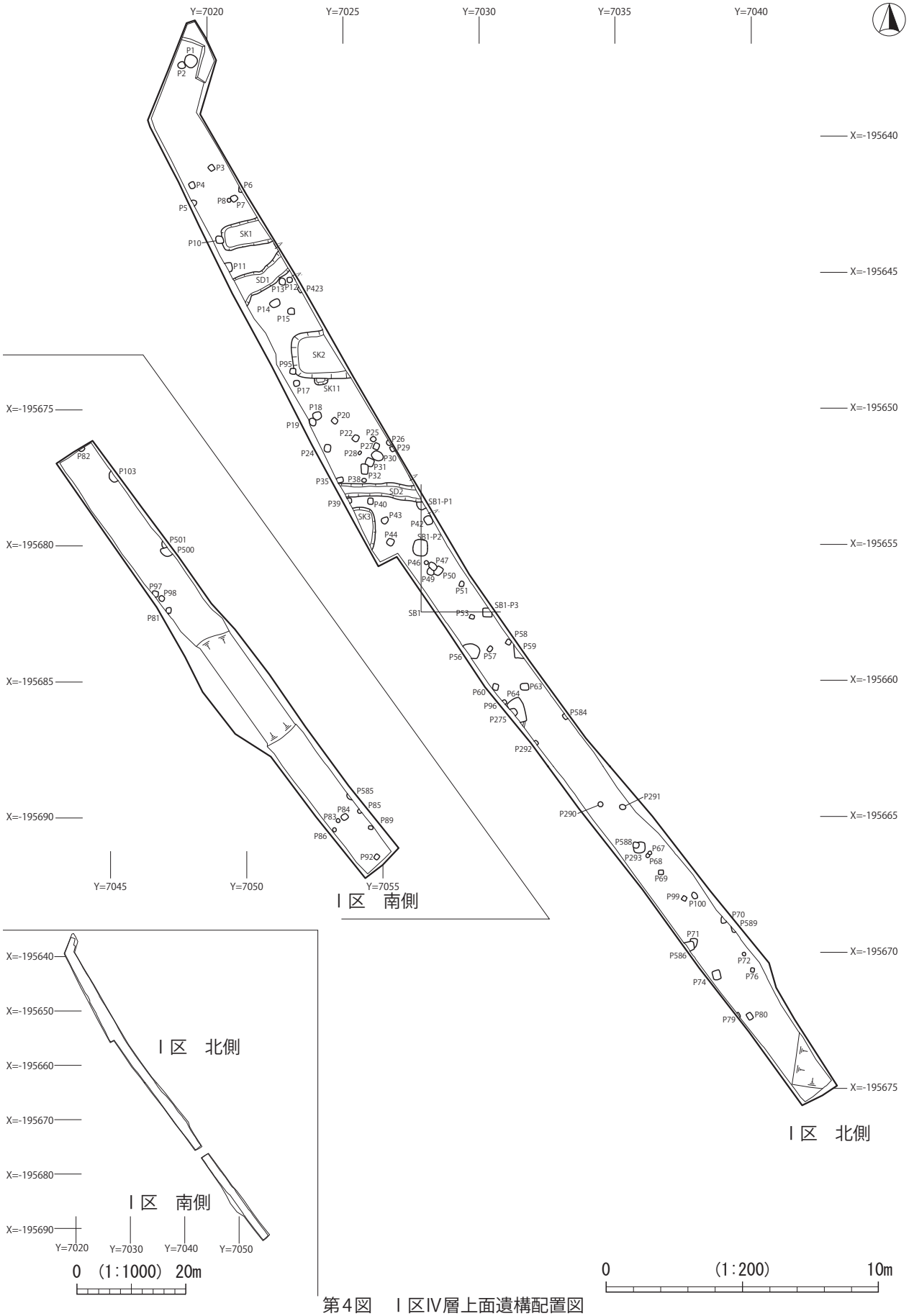
第２節　検出遺構と出土遺物

(1)Ⅳ層検出の遺構と遺物(第４～36図)

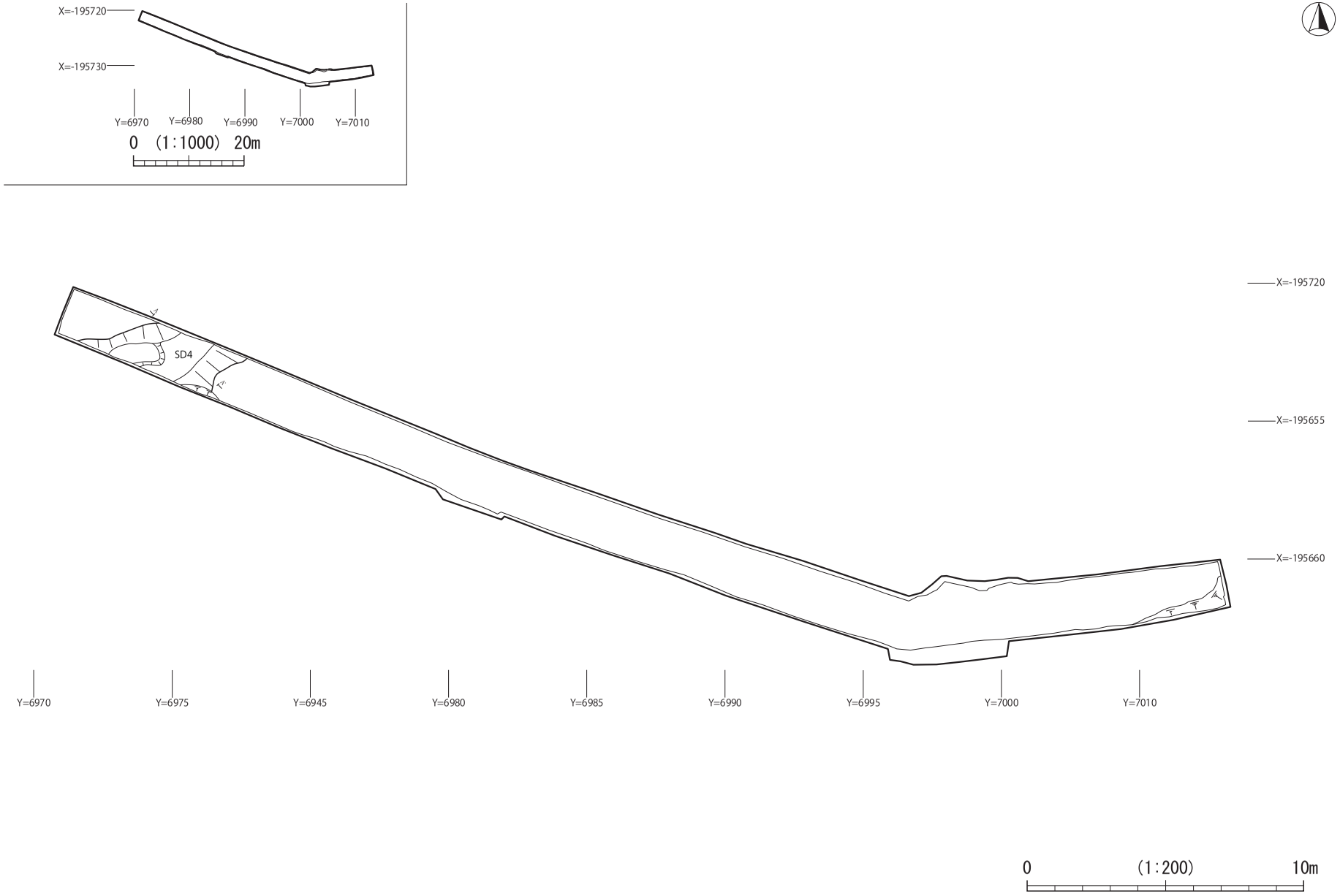
Ⅳ層上面において、柱列跡１列、掘立柱建物跡４棟、溝跡９条、井戸跡１基、土坑６基、ピット593基を検出した。遺構内から、弥生土器、土師器、須恵器、中世陶磁器、土師質土器、剥片石器、金属製品が、遺構外からは土師器、須恵器の破片が出土した。

Ⅱ区で検出したSD4･5は、Ⅱ区でⅣ層が削平されⅤ層の上位にⅠ層が堆積している状況であるためⅤ層検出遺構と考えられるが、出土遺物からⅣ層上面遺構として考えられることから、ここで記載した。

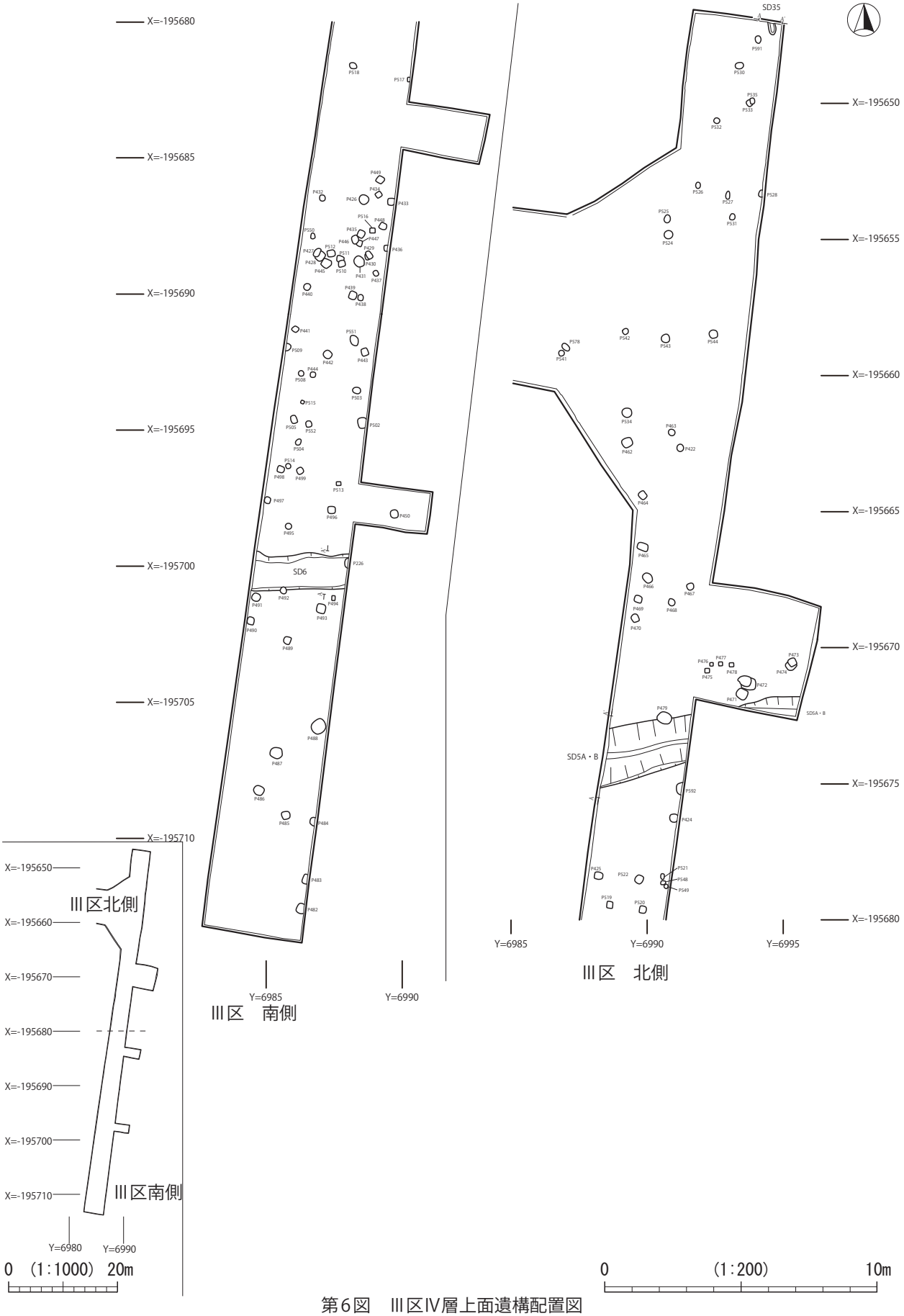
特記するSA１およびSB１～４、SD７・８以外の平面図は遺構配置図に提示し、溝跡の断面図はまとめて掲載した。



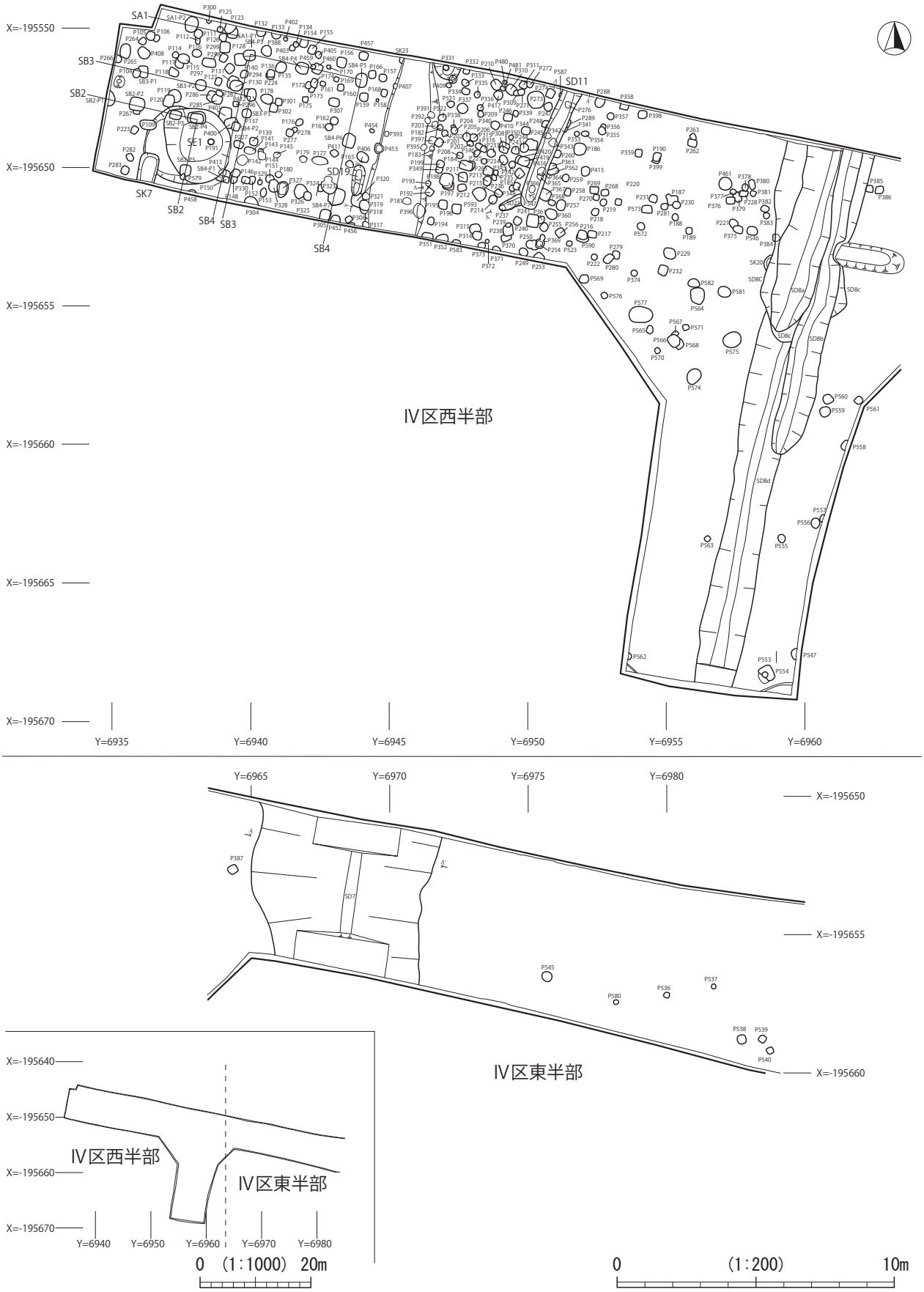
第4図　Ⅰ区Ⅳ層上面遺構配置図



第5図　II区IV層上面遺構配置図



第6図　Ⅲ区Ⅳ層上面遺構配置図



第７図　Ⅳ区Ⅳ層上面遺構配置図

1. 掘立柱建物跡・柱列跡

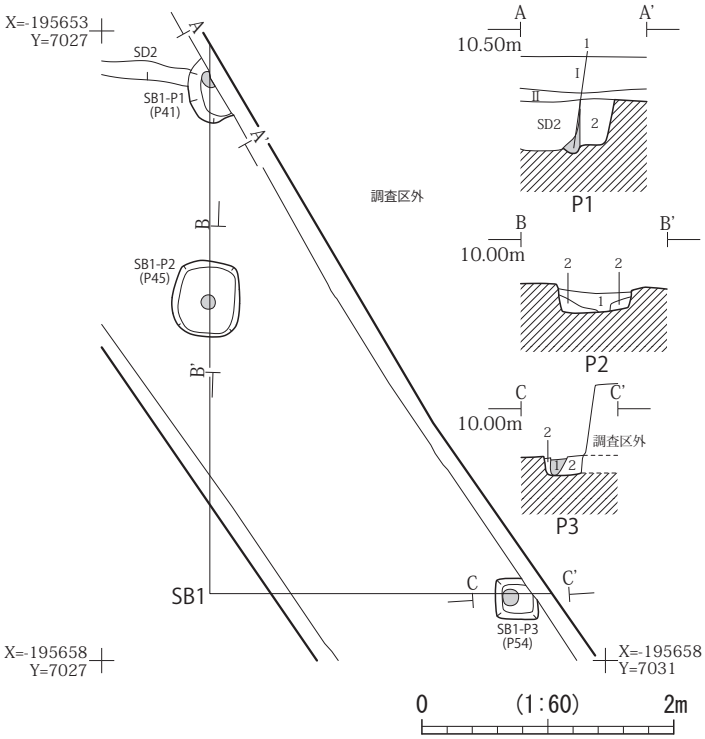
SB1掘立柱建物跡(第8図、写真図版1)

〔位置と重複〕 Ⅰ区のほぼ中央付近、T4・5、Q5、U5グリッドに位置する。SD2と重複し、これより古い。

〔規模と建物方向〕 桁行南北2間以上(4.11m以上)、梁行東西1間以上(2.41m以上)の南北棟と考えられる。梁行方向は、N-0°-Eである。建物は調査区外の北、南、東に延びる。

〔柱穴〕3基を(P1～3)確認した。P1～3は径0.11～0.14mの丸柱痕跡、P2は柱抜取穴をもつ。柱掘り方は方形を基調とし、長軸0.30～0.59m、短軸0.24～0.54mを測る。

〔出土遺物〕土師器の破片が、柱痕跡、柱掘り方から出土している。



SB1 堆積土註記表

遺構名	旧遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	層位	土色		土性	備考
SB1-P1	P41	Ⅰ区	T-4・5、U-5	隅丸方形	(0.48)×(0.24)	0.43	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。柱アタリ有。【柱掘り方】
SB1-P2	P45	Ⅰ区	T-4・5	隅丸方形	0.59×0.54	0.23	1	10YR5/4	黄褐色	シルト	暗褐色シルトを含む。【柱抜取穴】
							2	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
SB1-P3	P54	Ⅰ区	Q-5	方形	(0.30)×(0.30)	0.23	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトを含む。【柱掘り方】

第8図 SB1掘立柱建物跡

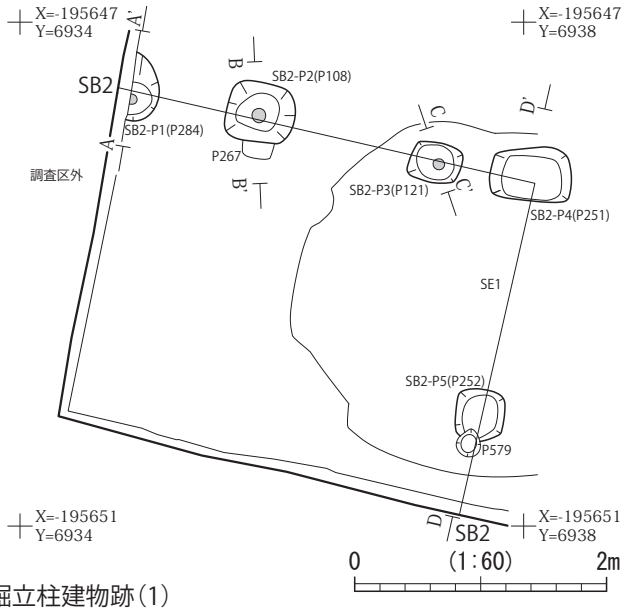
SB2 掘立柱建物跡(第9・10図、写真図版2)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の西側、A3、B3・4グリッドに位置する。SE1、P267・579と重複し、SE1、P267より新しくP579より古い。

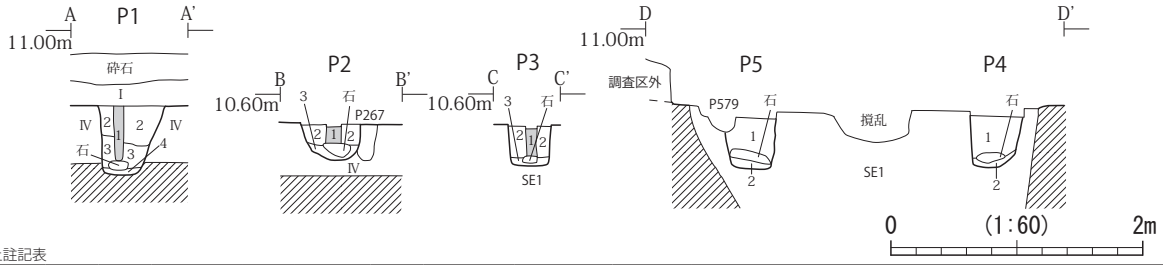
〔規模と建物方向〕 桁行東西3間以上(3.26m以上)、梁行南北1間以上(1.87m以上)の、東西棟と考えられる。梁行方向はN-12°-Eである。建物は調査区外の西と南に延びる。また、その柱筋方向から本調査区の西隣にあたる第30次調査区で検出されたSK31、P107・109・127・130と一連の建物跡であると考えられる。この場合、桁行東西6間(約9.37m)、梁行南北2間以上(約1.87m以上)の東西棟となる。

〔柱穴〕 5基(P1～5)確認した。P1～3は径0.08～0.11mの丸柱痕跡、P4・5は柱抜取穴をもつ。P1～5まで、共通して礎板に川原石を使用している。柱掘り方は方形を基調とし、長軸0.42～0.60m、短軸0.24～0.48mを測る。

〔出土遺物〕 土師器の破片が、柱痕跡、柱掘り方から出土している。



第9図 SB2掘立柱建物跡(1)



SB2　堆積土註記表

遺構名	旧遺構名	調査区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備　　考
SB2-P1	P284	Ⅳ区	A・B-3	(0.54)×(0.24)	0.54	楕円形	1	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
							3	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
							4	10YR3/3	暗褐色	シルト	礎板に丸石。【柱掘り方】
SB2-P2	P108	Ⅳ区	B-3	0.54×0.48	0.56	隅丸方形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
							3	10YR4/4	褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に含む。礎板に丸石。【柱掘り方】
SB2-P3	P121	Ⅳ区	B-3	0.42×0.30	0.65	隅丸方形	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
							3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロックを含む。礎板に丸石。【柱掘り方】
SB2-P4	P251	Ⅳ区	B-3	0.60×0.42	0.48	隅丸方形	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	【柱抜取穴】
							2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを僅かに含む。礎板に丸石。【柱掘り方】
SB2-P5	P252	Ⅳ区	B-3・4	(0.42)×0.36	0.50	隅丸方形	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	【柱抜取穴】
							2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを僅かに含む。礎板に丸石。【柱掘り方】

第10図　SB2掘立柱建物跡(2)

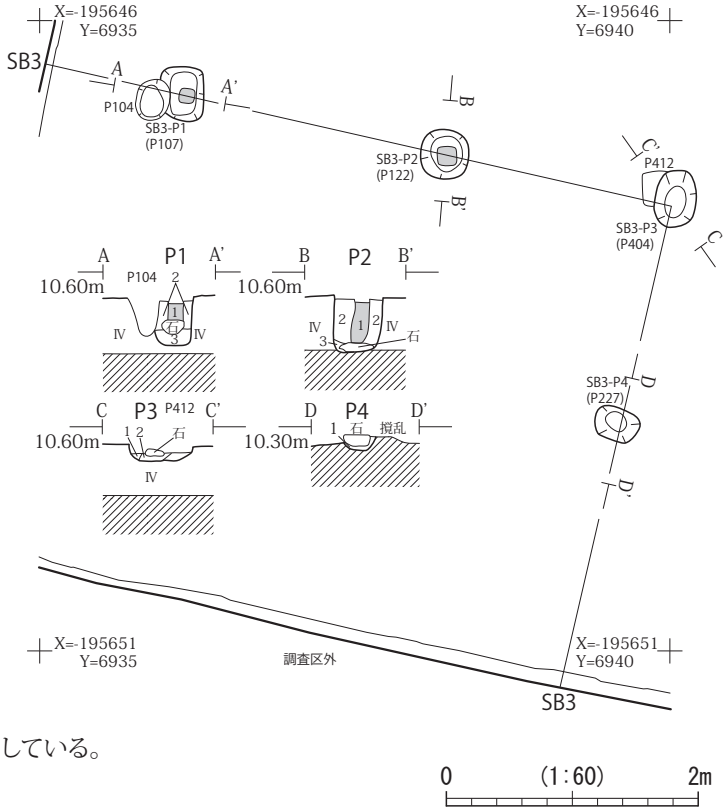
SB3　掘立柱建物跡(第11図、写真図版2)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、B3、C3グリッドに位置する。P104・412と重複し、P412より新しく、P104より古い。

〔規模と建物方向〕　桁行東西2間以上(3.93m以上)、梁行南北1間以上(1.79m以上)の、東西棟と考えられる。梁行方向は、N-13°-Eである。建物は調査区外の西と南に延び、第30次調査SB02と一連の建物と考えられる。この場合、桁行東西5間以上(約13.42m)、梁行南北2間以上(1.79m以上)の規模の東西棟となる。

〔柱穴〕　4基(P1～4)確認した。P1・2は一辺0.12mの角柱痕跡をもつ。P1～5まで共通して、礎板に川原石を使用している。柱掘り方は方形もしくは円形・楕円形を基調とし、長軸0.36～0.45m、短軸0.30～0.36mを測る。

〔出土遺物〕　土師器の破片が、柱掘り方から出土している。



SB3　堆積土註記表

遺構名	旧遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備　　考
SB3-P1	P107	Ⅳ区	B-3	0.42×0.36	0.56	隅丸方形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、角柱】
							2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
							3	10YR3/4	暗褐色	シルト	礎板に丸石。【柱掘り方】
SB3-P2	P122	Ⅳ区	B-3	0.36×0.36	0.46	円形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄褐色シルト・炭化物を斑に含む。【柱痕跡、角柱】
							2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを多く含む。【柱掘り方】
							3	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを含む。礎板に丸石。【柱掘り方】
SB3-P3	P404	Ⅳ区	B・C-3	0.45×0.30	0.13	楕円形	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロックを含む。【柱掘り方】
							2	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。礎板に丸石。【柱掘り方】
SB3-P4	P227	Ⅳ区	B-3	0.36×0.30	0.20	隅丸方形	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロックを含む。礎板に丸石。【柱掘り方】

第11図　SB3掘立柱建物跡

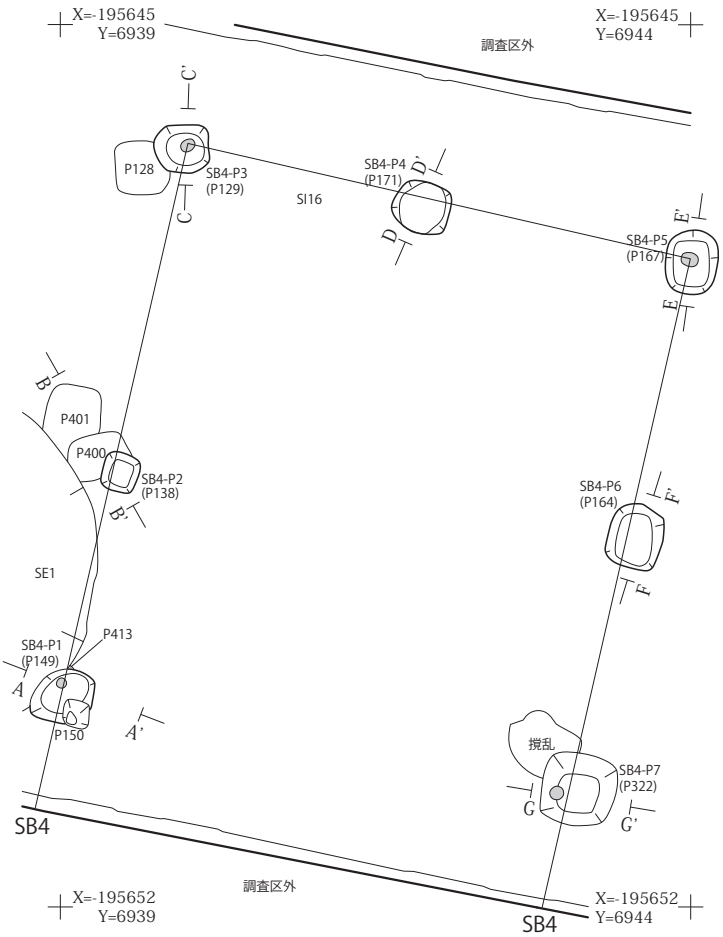
SB4　掘立柱建物跡(第12図、写真図版3)

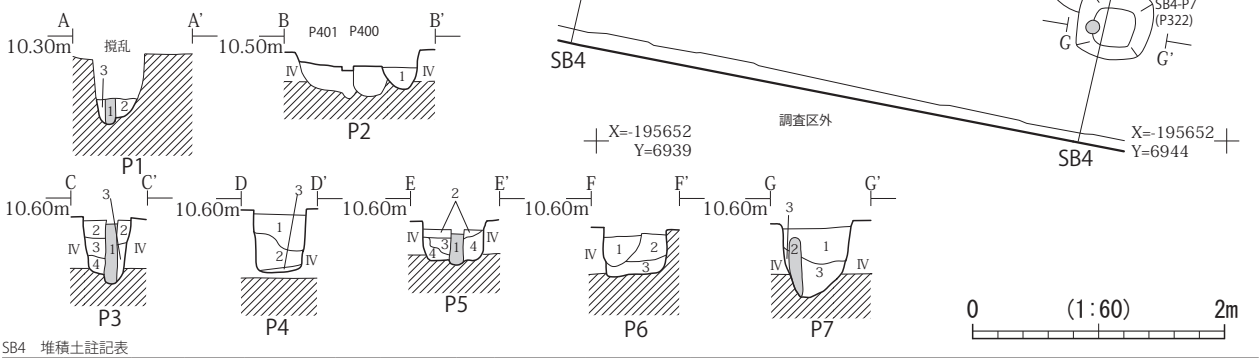
〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、B3・4、C3・4グリッドに位置する。SE 1、P 128・150・400・413と重複し、SE 1、P 128、P 400、P 413より新しく、P150より古い。

〔規模と建物方向〕　桁行東西2間以上(4.39m以上)、梁行南北2間以上(4.90m以上)の南北棟と考えられる。桁行方向は、N-13°-Eである

〔柱穴〕　7基(P 1 ～ 7)確認した。P 1・3・5・7は径0.08 ～ 0.14mの丸柱痕跡、P 4・6・7は柱切取穴をもつ。柱掘り方は方形を基調とし、長軸0.30 ～ 0.57m、短軸0.28 ～ 0.54mを測る。

〔出土遺物〕　土師器の破片が、柱抜取穴、柱痕跡、柱掘り方から出土している。





SB4　堆積土註記表

遺構名	旧遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備　　考
SB4-P1	P149	Ⅳ区	B-4	0.45×0.42	0.44	不整形	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物を少し含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを少し含む。【柱掘り方】
							3	10YR4/6	褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを多く含む。【柱掘り方】
SB4-P2	P138	Ⅳ区	B-3	0.30×0.28	0.31	隅丸方形	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを含む。【柱掘り方】
SB4-P3	P129	Ⅳ区	B･C-3	0.42×0.36	0.53	不整形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを含む。【柱掘り方】
							3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し含む。【柱掘り方】
							4	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し含む。【柱掘り方】
SB4-P4	P171	Ⅳ区	C-3	0.42×0.38	0.50	不整形	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルト粒を含む。【柱抜取穴】
							2	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを含む。【柱抜取穴】
							3	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルト粒を含む。【柱掘り方】
SB4-P5	P167	Ⅳ区	C-3	0.48×0.39	0.34	不整形	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを含む。【柱掘り方】
							3	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを含む。【柱掘り方】
							4	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルト粒を含む。【柱掘り方】
SB4-P6	P164	Ⅳ区	C-3	0.48×0.42	0.40	隅丸方形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱抜取穴】
							2	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロック・炭化物を含む。【柱掘り方】
							3	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロック・炭化物を含む。【柱掘り方】
SB4-P7	P322	Ⅳ区	C-4	0.57×0.54	0.51	隅丸方形	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く、灰を少し含む。【柱切取穴】
							2	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							3	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色のシルトブロックを1層より多く含み、灰を少し含む。【柱掘り方】

第12図　SB4掘立柱建物跡

SA1　柱列跡(第13図、写真図版2)

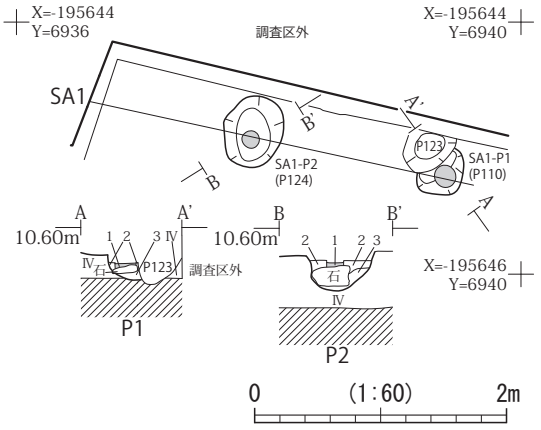
〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、B2・3グリッドに位置する。P123と重複し、これより古い。

〔規模と柱列方向〕　桁行東西1間以上(1.57m以上)、方向はN-78°-Wである。柱列の西は、本調査区外に延び、

第30次調査SB 03と一連の遺構と考えられる。この場合、東西3間以上(約9.85m)の規模となる。本調査区の北は未調査のため、北に展開する建物の可能性もある。

〔柱穴〕 2基(P 1・2)確認した。P 1・2は径0.14～0.18mの丸柱痕跡をもつ。P 1は礎板に川原石を、P 2は割り石を使用している。柱掘り方は円形を基調とし、径0.36m、または長軸0.54m、短軸0.45mを測る。

〔出土遺物〕 土師器の破片が、柱掘り方から出土している。



SA1 堆積土註記表

遺構名	旧遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備考
SA1-P1	P110	Ⅳ区	B-3	(0.36)×(0.36)	0.31	不整形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
							3	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に含む。礎板に丸石。【柱掘り方】
SA1-P2	P124	Ⅳ区	B-2・3	0.54×0.45	0.20	不整形	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡、丸柱】
							2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物を少し含む。【柱掘り方】
							3	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に含む。礎板に角石。【柱掘り方】

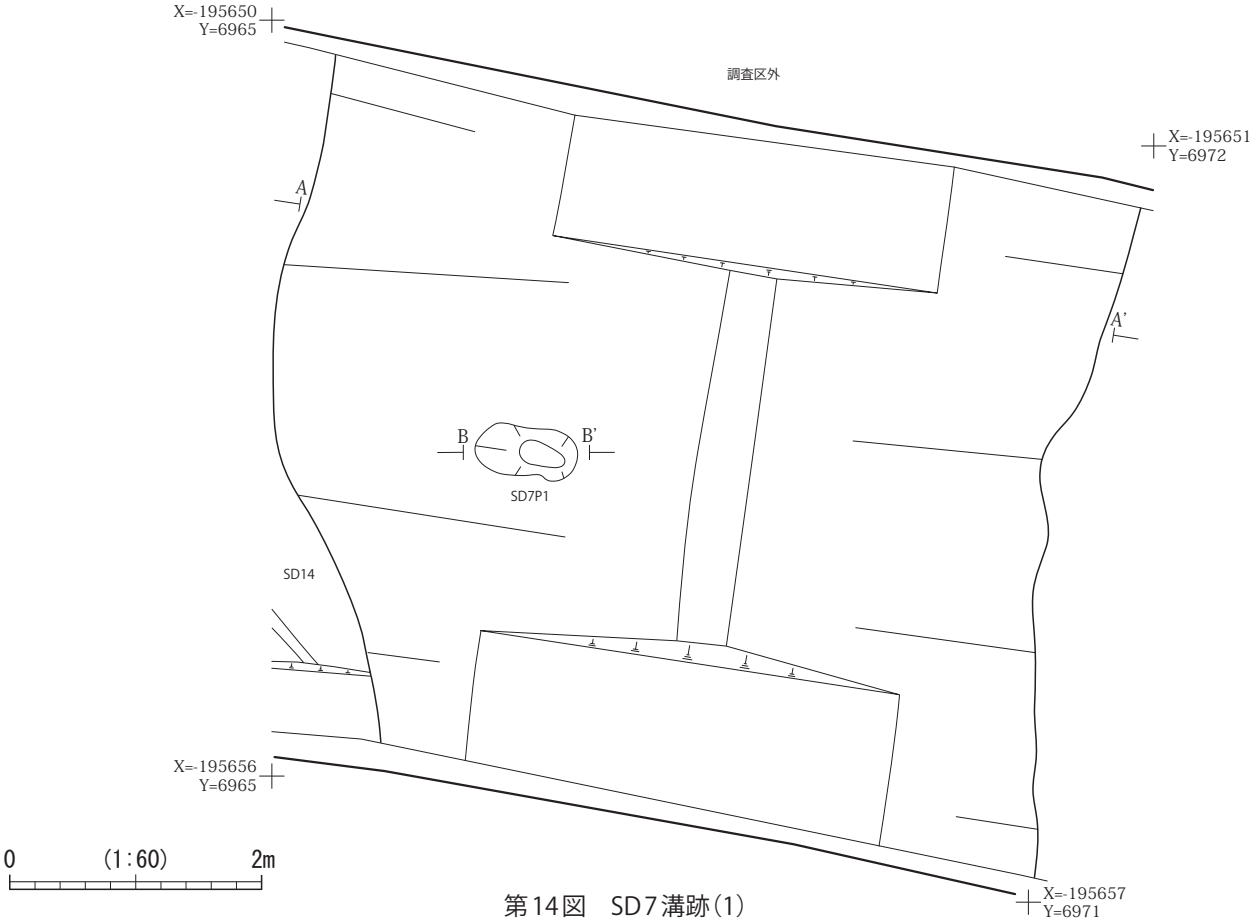
第13図 SA1柱列跡

2. 溝跡

SD7溝跡(第14・15図、写真図版3)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央、H4・5、I4・5グリッドに位置する。SD14と重複し、これより新しい。

〔断面形、規模、方向〕 断面形は漏斗形を呈する。上端幅5.38～6.48m、下端幅0.36～0.44m、長さ5.40m以上、深さ1.05mを測る。方向は、N-5°-Eである。底面は、北から南に向かい低くなる。

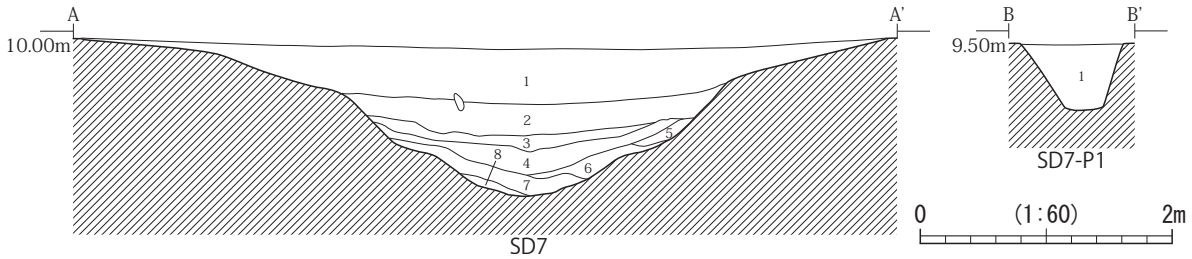


第14図 SD7溝跡(1)

〔堆積層〕　８層に分層した。全て自然堆積である。

〔ピット〕　１基(Ｐ１)、確認した。平面形が不整な楕円形で、長軸０．80ｍ、短軸０．35ｍ、深さ０．50ｍを測る。堆積層は締りが弱く、その位置を考慮すると、柱の抜き取り穴と考えられる。この場合、Ｐ１はSD７を横断する橋脚の一部の可能性が想定できる。

〔出土遺物〕　土師器や須恵器、中世陶器の破片が堆積層から出土した。



SD7　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m) 全長	上幅	下幅	深さ	層位	土色		土性	備考
SD7	Ⅳ区	H・I-4・5	N-5°-E	(5.40)	(5.38)~(6.48)	(0.36)~(0.44)	1.05	1	10YR4/6	褐色	シルト	自然堆積層。
								2	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。自然堆積層。
								3	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。自然堆積層。
								4	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルト粒を斑に多く含む。自然堆積層。
								5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	自然堆積層。
								6	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルト粒・にぶい黄橙色シルトブロックを斑に含む。自然堆積層。
								7	10YR4/4	褐色	シルト	黄褐色シルト粒を斑に含む。自然堆積層。
								8	10YR5/6	黄褐色	シルト	自然堆積層。
				-	0.80	0.35	0.50	P1-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。締り弱い。自然堆積層。

第15図　SD７溝跡(2)

SD８　溝跡(第16～18図、写真図版３・４)

〔位置と重複〕　Ⅳ区のほぼ中央付近、F３～７・G３～５グリッドに位置する。P384・385と重複し、これらより古い。

〔変遷〕　５時期の変遷(SD８a←SD８b←SD８c←SD８d←SD８e)がある。

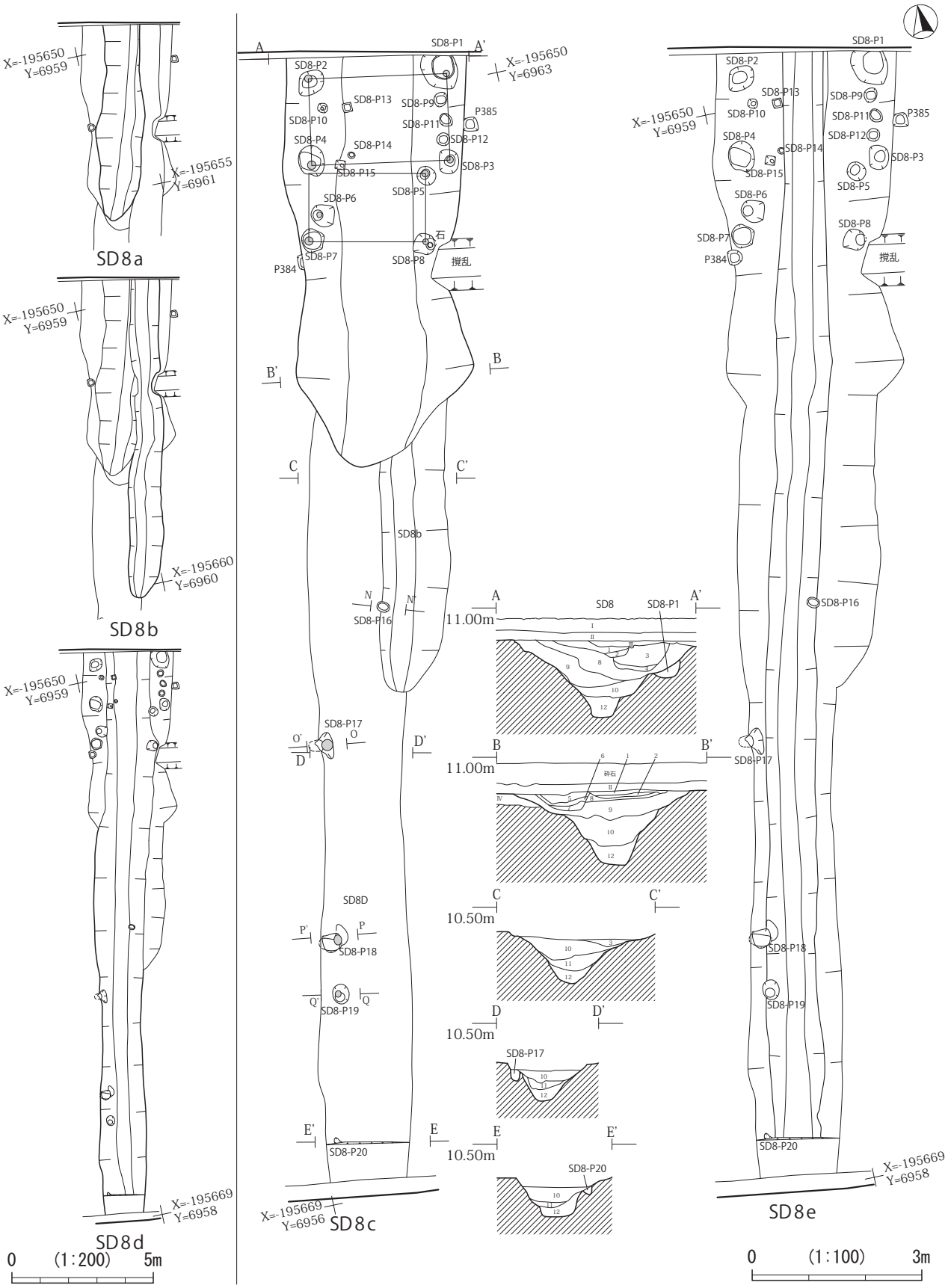
〔断面形、規模、方向〕　SD８aの断面形は箱形に近いＵ字形を呈する。上端幅１．13～１．68ｍ、下端幅０．26～０．51ｍ、長さ6．93ｍ以上、深さ０．30ｍを測る。方向は、N-14°-Eである。SD８bの断面形は逆台形を呈する。上端幅０．49～１．20ｍ、下端幅０．23～０．48ｍ、長さ11．26ｍ以上、深さ０．51ｍを測る。方向は、N-13°-Eである。SD８cの断面形は逆台形を呈する。上端幅２．24～３．19ｍ、下端幅１．10～１．37ｍ、長さ7．29ｍ以上、深さ０．83ｍを測る。方向は、N-14°-Eである。SD８dの断面形はＵ字状を呈する。上端幅１．36～１．82ｍ、下端幅０．30～０．86ｍ、長さ19．98ｍ以上、深さ１．36ｍを測る。方向は、N-12°-Eである。SD８eの断面形は逆台形またはＵ字状を呈する。上端幅０．69～０．98ｍ、下端幅０．25～０．52ｍ、長さ19．86ｍ以上、深さ１．01ｍを測る。方向は、N-12°-Eである。底面は、いずれも北に向かい低くなる。

〔堆積層〕　SD８aを２層、SD８bを５層、SD８cを２層、SD８dを２層、SD８eを１層に分層した。SD８bの上層部(３・４層)が人為堆積であるほか、全て自然堆積である。

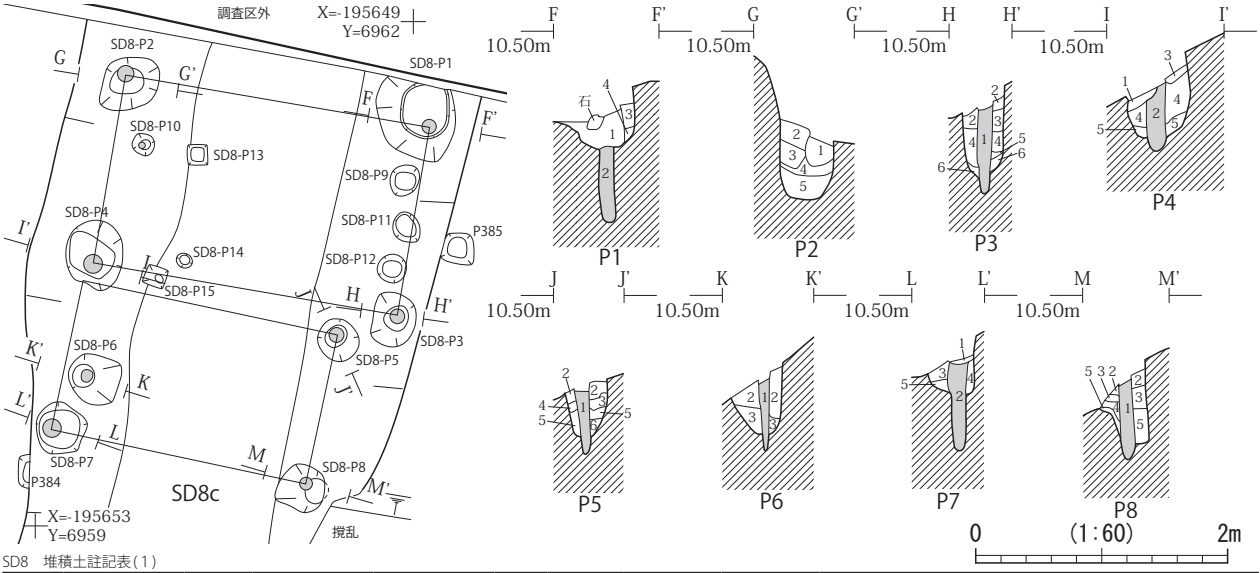
〔ピット〕　20基(Ｐ１～20)、確認した。Ｐ１～８・17～19に柱痕跡、Ｐ１・４・７に柱切取穴、Ｐ２・９～11に柱抜取穴が認められる。Ｐ12～15は角材もしくは丸材の打込杭の痕跡である。柱掘り方は、長軸０．21ｍの大きさで方形を基調とする大型のものと、長軸０．12～０．16ｍの大きさで方形を基調とする小型のものがある。Ｐ１～７は、SD８bの堆積層に覆われており、SD８c、SD８d、SD８eのいずれかの時期につくられている。Ｐ19は、SD８aの堆積層を掘り込んでおり、これよりも新しい時期に帰属する。これらのピットは、その位置から、SD８を横断する橋脚の一部と考えられる。Ｐ１～６はその柱筋とSD８を挟む対照的な位置から、一連の橋脚跡と考えられる。

〔出土遺物〕　SD８eの堆積層から龍泉窯製品の青磁碗の破片(第18図５)、SD８dの堆積層から在地産中世陶器甕と擂鉢の破片、SD８cの堆積層から龍泉窯製品の青磁碗の破片(第18図４)、在地産甕の破片、瓦質土器火鉢の破片(

第18図2)、鉄和釘、SD８bの堆積層から青磁小皿(第18図3)、捏ね鉢の破片(第18図1)が出土している。このほか土師器、須恵器、弥生土器の破片、古墳時代の石製品がSD８a～SD８e堆積層から出土している。



第16図　SD８溝跡(1)



SD8　堆積土註記表(1)

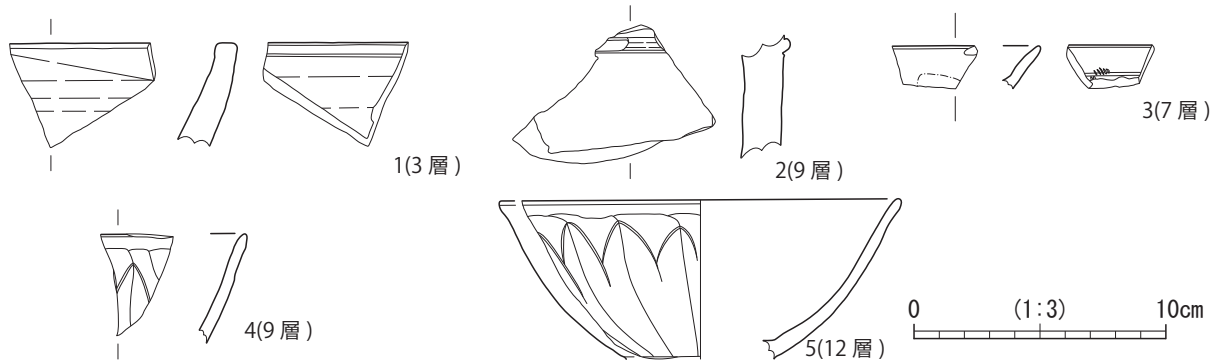
遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m) 全長	上幅	下幅	深さ	層位	土色		土性	備考
SD8a	Ⅳ区	F・G-3～5	N-14°-E	(6.93)	1.13～1.68	0.26～0.51	0.30	1	10YR4/4	褐色	シルト	自然堆積層。【SD8a-1】
								2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。自然堆積層。【SD8a-2】
SD8b	Ⅳ区	F・G-3～6	N-13°-E	(11.26)	0.49～1.20	0.23～0.48	0.51	3	10YR5/8	黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを斑に含む。人為堆積層。【SD8b-1】
								4	10YR7/4	にぶい黄橙色	シルト	明褐色シルト粒を斑に含む。人為堆積層。【SD8b-2】
								5	10YR3/3	暗褐色	シルト	人為堆積層。【SD8b-3】
								6	10YR3/4	暗褐色	シルト	自然堆積層。【SD8b-4】
								7	10YR3/3	暗褐色	シルト	自然堆積層。【SD8b-5】
SD8c	Ⅳ区	F・G-3～5	N-14°-E	(7.29)	2.24～3.19	1.10～1.37	0.83	8	10YR3/4	暗黒色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。自然堆積層。【SD8c-1】
								9	10YR3/4	暗黒色	シルト	炭化物を少し含む。自然堆積層。【SD8c-2】
SD8d	Ⅳ区	F・G-3～7	N-12°-E	(19.98)	1.36～1.82	0.30～0.86	1.36	10	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を含む。自然堆積層。【SD8d-1】
								11	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロック・炭化物を含む。自然堆積層。【SD8d-2】
SD8e	Ⅳ区	F・G-3～7	N-12°-E	(19.86)	0.69～0.98	0.25～0.52	1.01	12	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	明褐色シルト粒を斑に含む。自然堆積層。【SD8e-1】

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模(m) 長軸×短軸	深さ	層位	土色		土性	備　考
SD8-P1	Ⅳ区	G-3・4	円形	(0.72)×0.57	0.95	P1-1	10YR3/2	黒褐色	シルト	【柱切取穴】
						P1-2	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱痕跡】
						P1-3	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P1-4	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
SD8-P2	Ⅳ区	F-3	不整形	0.42×0.39	0.63	P2-1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱抜取穴】
						P2-2	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
						P2-3	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P2-4	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P2-5	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
SD8-P3	Ⅳ区	G-4	不整形	0.40×0.33	0.78	P3-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	部分的に空洞になっている。【柱痕跡】
						P3-2	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P3-3	10YR4/4	褐色	シルト	【柱掘り方】
						P3-4	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
						P3-5	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P3-6	10YR3/3	暗褐色	シルト	【柱掘り方】
SD8-P4	Ⅳ区	F-4	円形	0.54×0.42	0.69	P4-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱切取穴】
						P4-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を少し、黄橙色シルトブロックを含む。【柱痕跡】
						P4-3	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物を少し、黄橙色シルトブロックを含む。【柱掘り方】
						P4-4	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。【柱掘り方】
						P4-5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。【柱掘り方】。
SD8-P5	Ⅳ区	G-4	円形	0.32×0.30	0.58	P5-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱痕跡】
						P5-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P5-3	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P5-4	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P5-5	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
						P5-6	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱掘り方】
SD8-P6	Ⅳ区	F-4	不整形	0.39×0.36	0.67	P6-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱痕跡】
						P6-2	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱掘り方】
						P6-3	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱掘り方】
						P6-4	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱掘り方】
SD8-P7	Ⅳ区	F-4	不整形	0.39×0.39	0.76	P7-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱切取穴】
						P7-2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱痕跡】
						P7-3	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
						P7-4	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
						P7-5	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】

第17図　SD8溝跡(2)

SD8　堆積土註記表(2)

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	層位	土色		土性	備　　考
SD8-P8	Ⅳ区	G-4	不整形	0.36×0.33	0.72	P8-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱痕跡】
						P8-2	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱掘り方】
						P8-3	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
						P8-4	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し含む。【柱掘り方】
						P8-5	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。【柱掘り方】
SD8-P9	Ⅳ区	G-4	円形	0.24×0.21	0.28	P9-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	【柱抜取穴】
SD8-P10	Ⅳ区	F-3・4	隅丸方形	0.18×0.18	0.06	P10-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト・　黄橙色シルトブロックを斑に含む。【柱抜取穴】
SD8-P11	Ⅳ区	G-4	円形	0.24×0.21	0.17	P11-1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に少し含む。【柱抜取穴】
SD8-P12	Ⅳ区	G-4	方形	0.21×0.21	0.22	P12-1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【丸柱打込】
SD8-P13	Ⅳ区	G-4	隅丸方形	0.21×0.21	0.55	P13-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【角柱打込】
SD8-P14	Ⅳ区	G-4	方形	0.12×0.09	0.42	P14-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【丸柱打込】
SD8-P15	Ⅳ区	E・G-4	隅丸方形	0.16×0.13	0.84	P15-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。【角柱打込】
SD8-P16	Ⅳ区	F-5	楕円形	0.20×0.15	0.05	P16-1	10YR3/2	黒褐色	シルト	【角材打込】
SD8-P17	Ⅳ区	F-6	不整形	0.45×0.40	0.20	P17-1	10YR2/1	黒色	シルト	黄橙色シルト粒を斑に多く含む。【柱痕跡】
						P17-2	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
SD8-P18	Ⅳ区	F-6	不整形	0.50×0.35	0.17	P18-1	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルト粒を全体に含む。【柱痕跡】
						P18-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを全体に斑に含む。【柱掘り方】
SD8-P19	Ⅳ区	F-7	円形	0.35×0.25	0.22	P19-1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	黄橙色シルトを全体に含む。【柱痕跡】
						P19-2	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
						P19-3	10YR4/1	褐灰色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。
SD8-P20	Ⅳ区	F-7	不明	0.10×(0.10)	0.09	P20-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に含む。炭化物を含む。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	I-004	Ⅳ区	SD8b	3層	陶器	捏ね鉢	口縁部	-	-	(4.1)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		11-1
2	I-001	Ⅳ区	SD8c	9層	瓦質土器	火鉢	胴部	-	-	(5.3)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	奈良火鉢?	11-2
3	J-001	Ⅳ区	SD8b	7層	青磁	皿	口縁部	-	-	(1.7)	-	櫛状工具痕有り	龍泉窯製品	11-3
4	J-003	Ⅳ区	SD8c	9層	青磁	碗	口縁部～体部	-	-	(4.3)	鎬蓮弁文	-	龍泉窯製品	11-4
5	J-002	Ⅳ区	SD8e	12層	青磁	碗	口縁部～体部	(16.0)	-	(6.3)	鎬蓮弁文	-	龍泉窯製品	11-5

第18図　SD8溝跡出土遺物

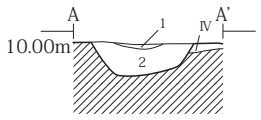
SD1溝跡(第19図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の北側、S2・3グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.66～1.00m、下端幅0.49～0.84m、長さ2.04m以上、深さ0.40mを測る。方向は、N-58°-Eである。底面は、南西から北東に向かい低くなる。

〔堆積層〕　2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片、剥片石器が出土した。



第19図　SD1溝跡

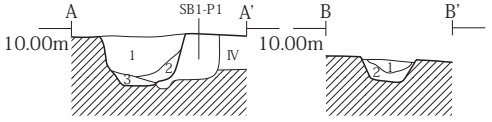
SD2溝跡(第20図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の北側、S4、T4グリッドに位置する。SB1-P1と重複し、これより新しい。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.42～0.55m、下端幅0.21～0.34m、長さ2.80m以上、深さ0.45mを測る。方向は、N-92°-Eである。底面は、西から東に向かい低くなる。

〔堆積層〕　3層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片が出土した。



第20図　SD2溝跡

0　(1:60)　2m

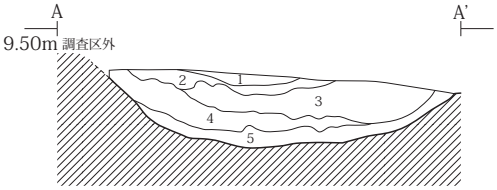
SD４溝跡（第21図、写真図版４）

〔位置と重複〕　Ⅱ区の西側、H17・18、I17・18グリッドに位置する。SX５と重複し、これより新しい。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は上端が大きく広がるU字形を呈する。上端幅2.76 ～ 3.54m、下端幅0.57 ～ 1.47m、長さ1.86m以上、深さ0.80mを測る。方向は、N-53°-Eである。底面は、北東から南西に向かい低くなる。

〔堆積層〕　５層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片、須恵器、中世陶器、石製品、鉄製和釘が出土した。



第21図　SD４溝跡

SD５溝跡（第22図、写真図版４）

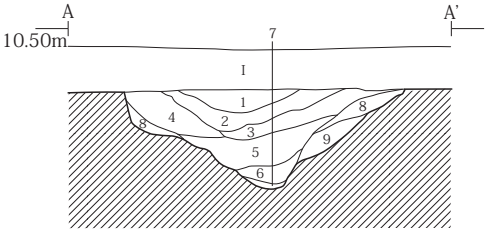
〔位置と重複〕　Ⅲ区の中央付近、L８・９、M８、N８グリッドに位置する。SD 23、P 479と重複し、SD 23より新しく、P 479より古い。

〔変遷〕　断面の観察から、２時期の変遷（SD５b→SD５a）がある。

〔断面形、規模、方向〕　SD５aの断面形はV字形を呈する。上端幅1.67 ～ 2.10m、下端幅0.22 ～ 0.62m、長さ7.11m以上、深さ0.80mを測る。方向は、N-88°-Eである。SD５bの断面形は上端が大きく広がるU字形を呈すると考えられる。上端幅2.05m、深さ0.52mを測る。SD５bの方向と長さはSD５aと同じと類推している。底面は、西から東へ低くなる。

〔堆積層〕　SD５aを７層、SD５bを２層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器や近世陶器、剥片石器、石製品が出土した。



第22図　SD５溝跡

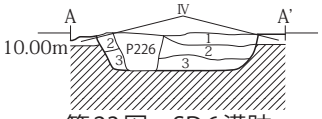
SD６溝跡（第23図）

〔位置と重複〕　Ⅲ区の南側、K13・14、L13・14グリッドに位置する。P226・492と重複し、これらより古い。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅1.21 ～ 1.47m、下端幅0.88 ～ 1.09m、長さ3.48m以上、深さ0.31mを測る。方向は、N-88°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　３層に分層した。全て自然堆積である。１層上面に0.50m×0.30mの範囲で焼土が分布していた。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片が出土した。



第23図　SD６溝跡

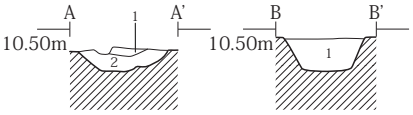
SD11溝跡（第24図）

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、D４、E３・４グリッドに位置する。SD21、P248・275・276・289・341 ～ 343・362 ～ 367・416・587と重複し、これらより新しい。

〔断面形、規模、方向〕断面形は逆台形を呈する。上端幅0.58 ～ 0.71m、下端幅0.27 ～ 0.42m、長さ4.48m以上、深さ0.21mを測る。方向はN-20°-Eである。底面は、北から南に向かい低くなる。

〔堆積層〕　２層に分層した。全て自然堆積である

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第24図　SD11溝跡

0　(1:60)　2m

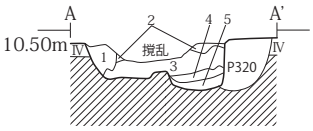
SD19溝跡（第25・28図）

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、C３・４グリッドに位置する。P320と重複し、これより新しい。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はW字状を呈する。上端幅0.36 ～ 0.42m、下端幅0.08 ～ 0.23m、長さ1.11m以上、深さ0.41mを測る。方向は、N-10°-Eである。底面は、中央部分が高まる。

〔堆積層〕　５層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕　土師器、土師質土器が出土した。図示したのは土師質土器(第28図1)である。



第25図　SD19溝跡

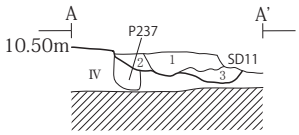
SD21溝跡(第26図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、D4グリッドに位置する。SD11、P237と重複し、P237より新く、SD11より古い。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はU字形を呈する。上端幅0.26～0.39m、下端幅0.12～0.22m、長さ1.02m、深さ0.28mを測る。方向は、N-65°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　３層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第26図　SD21溝跡

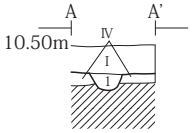
SD35溝跡(第27図)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、M3グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はU字形を呈する。上端幅0.19～0.26m、下端幅0.13～0.15m、長さ0.45m以上、深さ0.14mを測る。方向は、N-10°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。

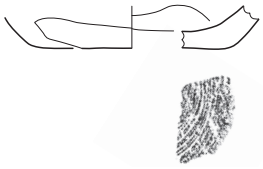


第27図　SD35溝跡

0　(1:60)　2m

SD　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m) 全長	上幅	下幅	深さ	層位	土色		土性	備考
SD1	Ⅰ区	S-2・3	N-58°-E	(2.04)	(0.66)~(1.00)	(0.49)~(0.84)	0.40	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。
								2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトを多く含む。自然堆積層。
SD2	Ⅰ区	S・T-4	N-92°-E	(2.80)	(0.42)~(0.55)	(0.21)~(0.34)	0.45	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒を僅かに含む。自然堆積層。
								2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を少し、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
								3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト粒を少し含む。にぶい黄褐色シルトを多く含む。自然堆積層。
SD4	Ⅱ区	H・I-17・18	N-53°-E	(1.86)	(2.76)~(3.54)	(0.57)~(1.47)	0.80	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	酸化鉄粒を斑に多く、炭化物を少し含む。強くグライ化。流入の遺物を多く含む。自然堆積層。
								2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	酸化鉄粒を斑に多く含む。ややグライ化。流入の遺物を多く含む。自然堆積層。
								3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄粒を斑に多く含む。自然堆積層。
								4	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄粒を斑に多く、炭化物を少し含む。自然堆積層。
								5	10YR4/4	褐色	粗砂	酸化鉄粒を斑に多く含む。自然堆積層。
SD5	Ⅲ区	L-8・9、M・N-8	N-88°-E	(7.11)	(1.67)~(2.10)	(0.22)~(0.62)	0.80	1	10YR4/4	褐色	シルト	黒褐色シルトを少し、黄橙色シルト粒を斑に含む。自然堆積層。【SD5a-1】
								2	10YR4/4	褐色	シルト	層下部に炭化物を互層状に含む。自然堆積層。【SD5a-2】
								3	10YR4/6	褐色	シルト	自然堆積層。【SD5a-3】
								4	10YR4/4	褐色	シルト	灰黄褐色シルトを含む。自然堆積層。【SD5a-4】
								5	10YR4/4	褐色	シルト	灰黄褐色シルトを多く含む。自然堆積層。【SD5a-5】
								6	10YR4/6	褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰黄褐色シルトを含む。自然堆積層。【SD5a-6】
								7	10YR4/6	褐色	シルト	自然堆積層。【SD5a-7】
				不明	2.05	不明	0.52	8	10YR4/4	褐色	シルト	自然堆積層。【SD5b-1】
								9	10YR4/4	褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰黄褐色シルトを含む。自然堆積層。【SD5b-2】
SD6	Ⅲ区	K・L-13・14	N-88°-E	(3.48)	(1.21)~(1.47)	(0.88)~(1.09)	0.31	1	7.5YR4/6	褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。層上面に火を焚いた痕跡有り。自然堆積層。
								2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを含む。自然堆積層。
								3	10YR4/4	褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。
SD11	Ⅳ区	D-4、E-3・4	N-20°-E	(4.48)	(0.58)~(0.71)	(0.27)~(0.42)	0.21	1	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを僅かに含む。自然堆積層。
								2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土粒を含む。粘性強い。
SD19	Ⅳ区	C-3・4	N-10°-E	(1.11)	0.36~0.42	0.08~0.23	0.41	1	7.5YR2/1	黒色	シルト	明黄褐色ブロック・炭化物を少し含む。締り強い。人為堆積層。
								2	10YR4/1	褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロックを斑に、炭化物を少し含む。締り強い。人為堆積層。
								3	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロックを多く含む。締り強い。人為堆積層。
								4	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	-
								5	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	にぶい黄橙色粘土質シルト・明黄褐色シルトブロックを多く含む。人為堆積層。
SD21	Ⅳ区	D-4	N-65°-E	1.02	0.26~0.39	0.12~0.22	0.28	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く、炭化物を少し含む。自然堆積層。
								2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を少し含む。自然堆積層。
								3	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色ブロック・炭化物を少し含む。自然堆積層。
SD35	Ⅲ区	M-3	N-10°-W	(0.45)	(0.19)~(0.26)	(0.13)~(0.15)	0.14	1	10YR4/4	褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	I-010	Ⅳ区	SD19	1層	土師質土器	小皿	底部	-	(18.0)	(1.7)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	底部回転糸切り	11-6

第28図　SD19溝跡出土遺物

3．井戸跡

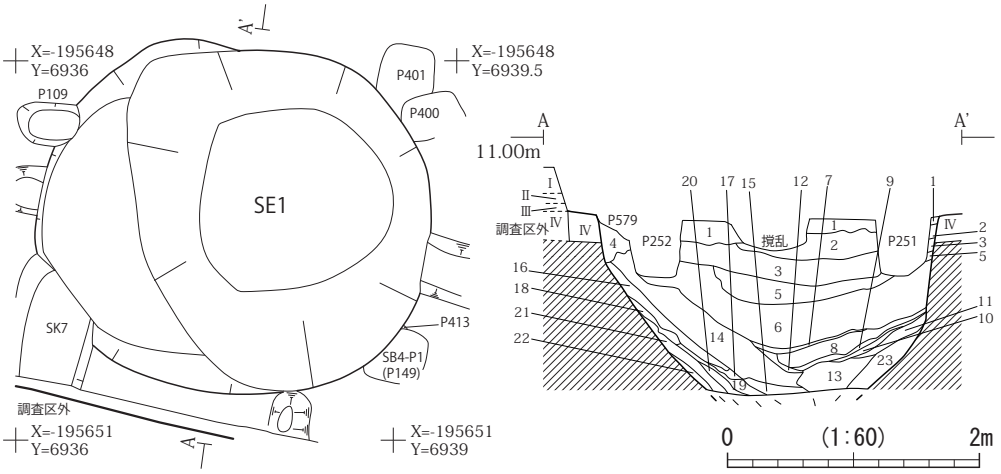
SE1　井戸跡(第29図、写真図版4)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の西側、B3・4グリッドに位置する。SB2・4、SK7、P109・400・401・413と重複し、SB4、P400、P401、P413より新しく、SB2、SK7、P109より古い。

〔平面形、規模〕 井戸枠の抜取り穴は、平面形が不整形、長軸2.94m、短軸2.82m、深さ1.40m以上を測る。

〔堆積層〕 23層に分層した。1～6層は整地層、7～22層は井戸枠の抜取り穴、23層は井戸枠の裏込め土である。

〔出土遺物〕 1～6層から弥生土器の破片、土師器と須恵器、青磁の破片、鉄和釘、刀子の刃が出土している。青磁の破片は、1cmに満たない小破片であるため図示することはできないが、施釉、胎土、器厚等から元朝期の龍泉窯製品碗の体部片である。



SE1　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模(m) 長軸×短軸	深さ	層位	土色		土性	備考
SE1	Ⅳ区	B-3・4	不整形	2.94×2.82	(1.40)	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルト粒を斑に含む。人為堆積層。【整地土】
						2	10YR7/4	にぶい黄橙色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。【整地土】
						3	10YR7/4	にぶい黄橙色	シルト	黄褐色シルト粒を斑に含む。2層に比べてブロックが大きい。人為堆積層。【整地土】
						4	10YR7/4	にぶい黄橙色	シルト	黄橙色シルト粒を斑に僅かに含む。人為堆積層。【整地土】
						5	10YR7/3	にぶい黄橙色	砂	締り弱い。人為堆積層。【整地土】
						6	10YR3/1	黒褐色	シルト	全体に黄橙色シルト粒、部分的に黄褐色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。【整地土】
						7	7.5Y2/1	黒色	シルト	有機物の堆積(流れ込み)層。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						8	10YR3/1	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを互層状に含む。炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						9	7.5Y2/1	黒色	シルト	有機物の堆積(流れ込み)層。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						10	10YR3/3	暗褐色	シルト	全体に黄橙色シルト粒を僅かに含む。炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						11	10YR3/4	暗褐色	シルト	全体に黄橙色シルト粒を多く、炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						12	10YR1.7/1	黒色	粘土質シルト	有機物を多く含む。締り弱い。粘性強い。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						13	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土	均質な粘土。自然堆積層。裏込め土の崩落層。【井戸枠抜取穴】
						14	10YR2/2	黒褐色	シルト	有機物を多く含む。部分的に白色のリン(骨に由来)を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						15	10YR2/1	黒色	シルト	全体に黄橙色シルト粒を含む。炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						16	10YR2/1	黒色	シルト	全体に黄橙色シルト粒を含む。炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						17	10YR1.7/1	黒色	粘土質シルト	有機物の堆積(流れ込み)層。締り弱い。粘性強い。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						18	2.5YR2/4	極暗赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロックを多く含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						19	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	全体に黄橙色シルト粒を含む。炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						20	2.5YR2/4	極暗赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロックを多く含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						21	7.5Y2/1	黒色	粘土質シルト	有機物を多く含む。部分的に白色のリン(骨に由来)を含む。炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						22	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	全体に黄橙色シルト粒を含む。炭化物を含む。自然堆積層。【井戸枠抜取穴】
						23	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	均質な土。人為堆積層。【井戸枠の裏込め土】

第29図　SE1井戸跡

4. 土坑

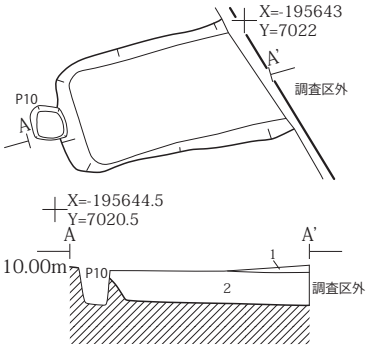
SK1土坑(第30図)

〔位置と重複〕 Ⅰ区の北側、S2グリッドに位置する。P10と重複し、これより古い。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は隅丸長方形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸1.68m以上、短軸0.93m以上、深さ0.48mを測る。長軸の方向は、N-72°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 2層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕 弥生土器、土師器、須恵器の破片が出土した。



第30図 SK1土坑

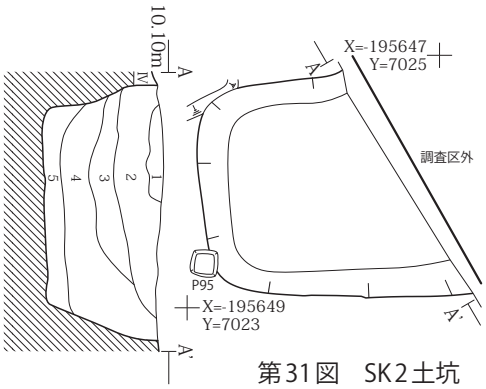
SK2土坑(第31図)

〔位置と重複〕 Ⅰ区の北側、S3、T3グリッドに位置する。P95と重複し、これより古い。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は隅丸長方形を基調とし、断面形は底の広い逆台形を呈する。長軸1.91m以上、短軸1.74m以上、深さ1.02mを測る。長軸の方向は、N-86°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 5層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕 弥生土器、土師器、須恵器の破片が出土した。



第31図 SK2土坑

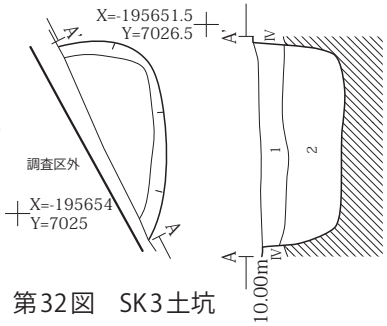
SK3土坑(第32図)

〔位置と重複〕 Ⅰ区の北側、T4・5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は隅丸長方形を基調とし、断面形はU字形を呈する。長軸1.74m以上、短軸0.60m以上、深さ0.72mを測る。長軸の方向は、N-1°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 2層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が、出土した。



第32図 SK3土坑

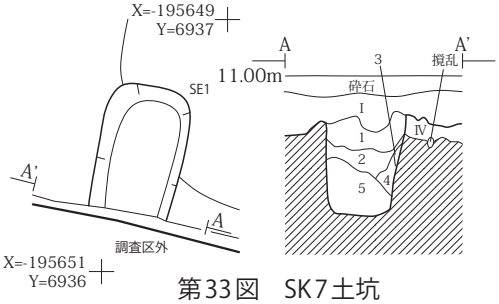
SK7土坑(第33図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の西側、B3・4グリッドに位置する。SE1、SD12と重複し、これらより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は隅丸長方形を基調とし、断面形はU字形、長軸1.00m以上、短軸0.66m、深さ0.83mを測る。長軸の方向は、N-11°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 5層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が、出土した。

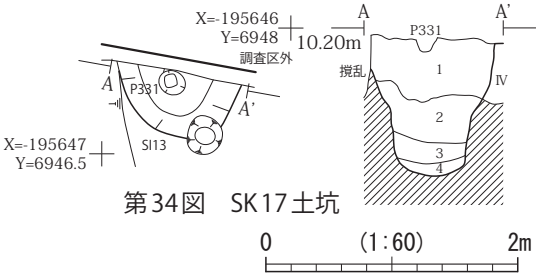


第33図 SK7土坑

SK17土坑(第34図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の西側、D3グリッドに位置する。P331と重複し、これより古い。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面は漏斗形を呈する。長軸0.96m、短軸0.48m以上、深さ1.12mを測る。底面は、中央に向かって低くなる。



第34図 SK17土坑

〔堆積層〕　4層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が、出土した。

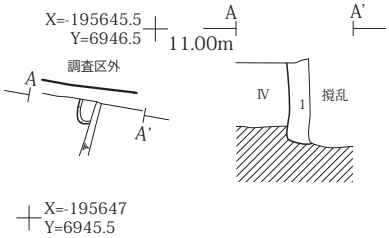
SK23土坑(第35図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、D3グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形・断面形は不明である。長軸0.18m以上、短軸0.12m以上、深さ0.68mを測る。長軸の方向は、不明である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第35図　SK23土坑

0　(1:60)　2m

SK　堆積土註記表

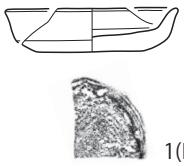
遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備考
SK1	Ⅰ区	S-2	(1.68)×(0.93)	0.48	隅丸長方形	1	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	浅黄色粘土ブロック・炭化物・焼土粒を少し含む。人為堆積層。
						2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	浅黄色粘土ブロック・炭化物・焼土粒を少し含む。人為堆積層。
SK2	Ⅰ区	S・T-3	(1.91)×(1.74)	1.02	隅丸長方形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を少し含む。人為堆積層。
						2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を多く含む。人為堆積層。
						3	10YR3/2	黒褐色	シルト	人為堆積層。
						4	10YR3/2	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。
						5	10YR3/2	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。人為堆積層。
SK3	Ⅰ区	T-4・5	(1.74)×(0.60)	0.72	隅丸長方形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を少し含む。人為堆積層。
						2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を少し含む。人為堆積層。
SK7	Ⅳ区	B-3・4	(0.96)×0.66	0.83	隅丸長方形	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を含む。人為堆積層。
						2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。
						3	10YR4/1	褐灰色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。人為堆積層。
						4	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を少し含む。人為堆積層。
						5	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。人為堆積層。
SK17	Ⅳ区	D-3	0.96×(0.48)	1.12	楕円形	1	10YR4/4	褐色	シルト	自然堆積層。
						2	10YR4/6	褐色	シルト	炭化物と土器を含む。自然堆積層。
						3	10YR5/6	黄褐色	シルト	炭化物と土器を含む。自然堆積層。
						4	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を含む。自然堆積層。
SK23	Ⅳ区	D-3	(0.18)×(0.12)	0.68	不明	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。炭化物を含む。人為堆積層。

5.　ピット

P1～593　ピット(第4・6・7・36図)

ピットを593基検出した。平面の規模は約15～40cmを測り、平面形は方形のものが多くみられる。柱痕跡をもつものは161基ある。柱痕跡には平面形で円形と方形があり、前者の方が多い。ピットの時期は、検出面と堆積層の状況から中近世期のものと推測している。

遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器・青磁、土師質土器、金属製品が出土した。そのうち図示したのは、土師質土器(第36図1)、刀の切先(第36図2)で、土師質土器はP265柱掘り方から、刀の切先はP248底面から出土した。



1(P265 柱掘り方)

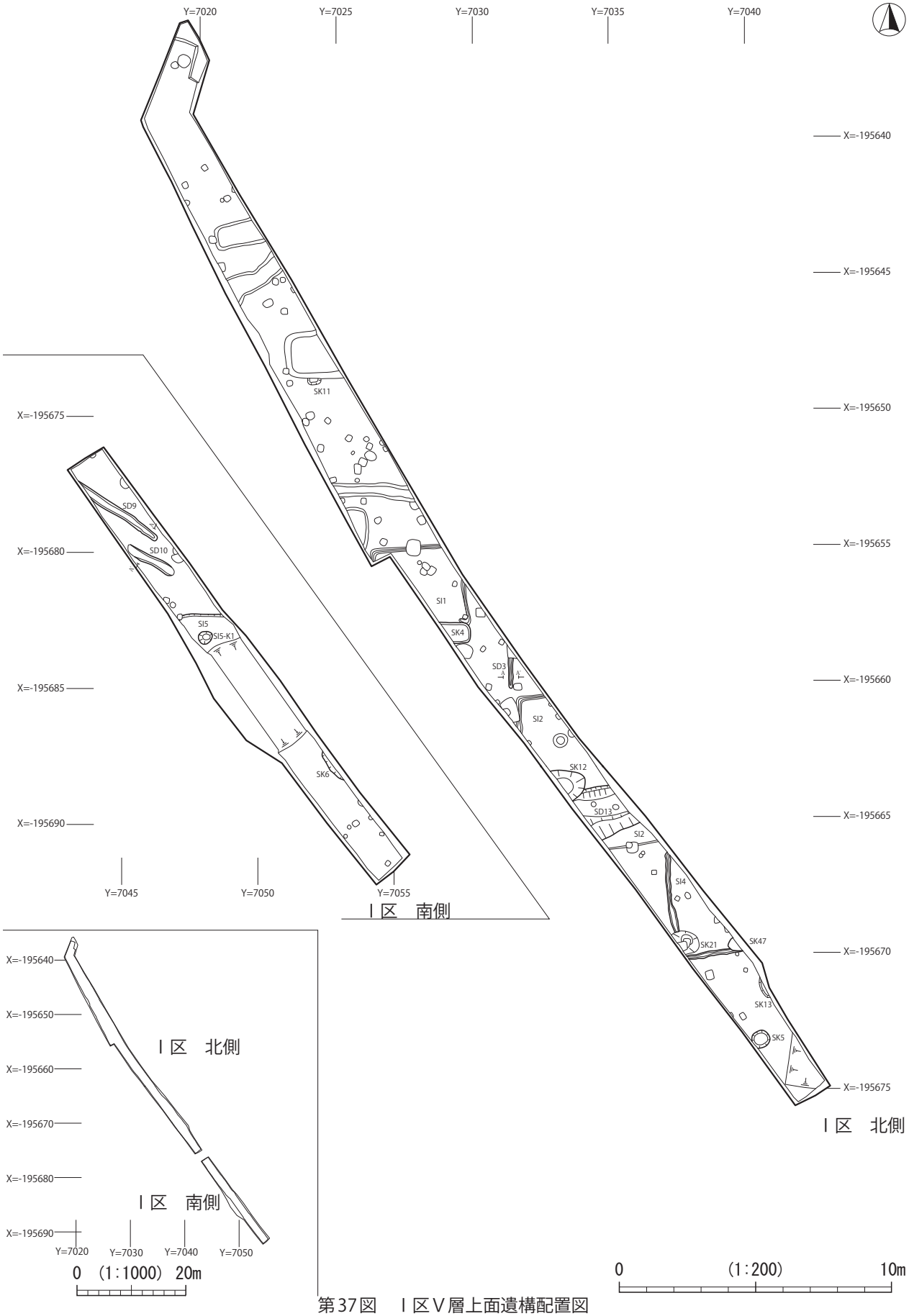
2(P248 底面)

0　(1:3)　10cm

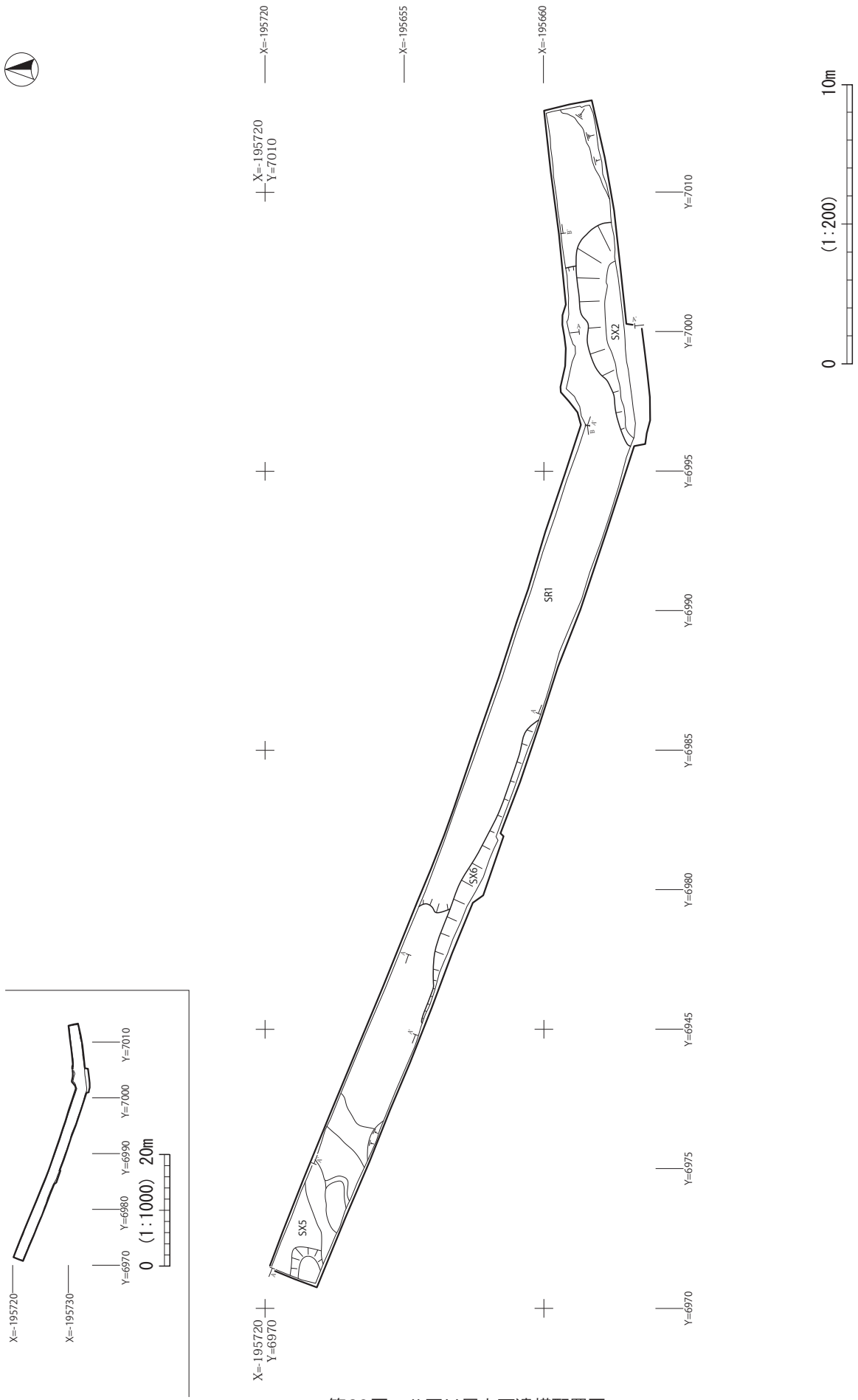
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	I-007	Ⅳ区	P265	柱掘り方	土師質土器	皿	口縁部～底部	(6.9)	(4.2)	(1.7)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	底部回転糸切り	11-7

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚	重量(g)	備考	写真図版
2	N-002	Ⅳ区	P248	底面	金属製品	刀	(9.6)	3.7	(1.3)	62.33	切先	11-8

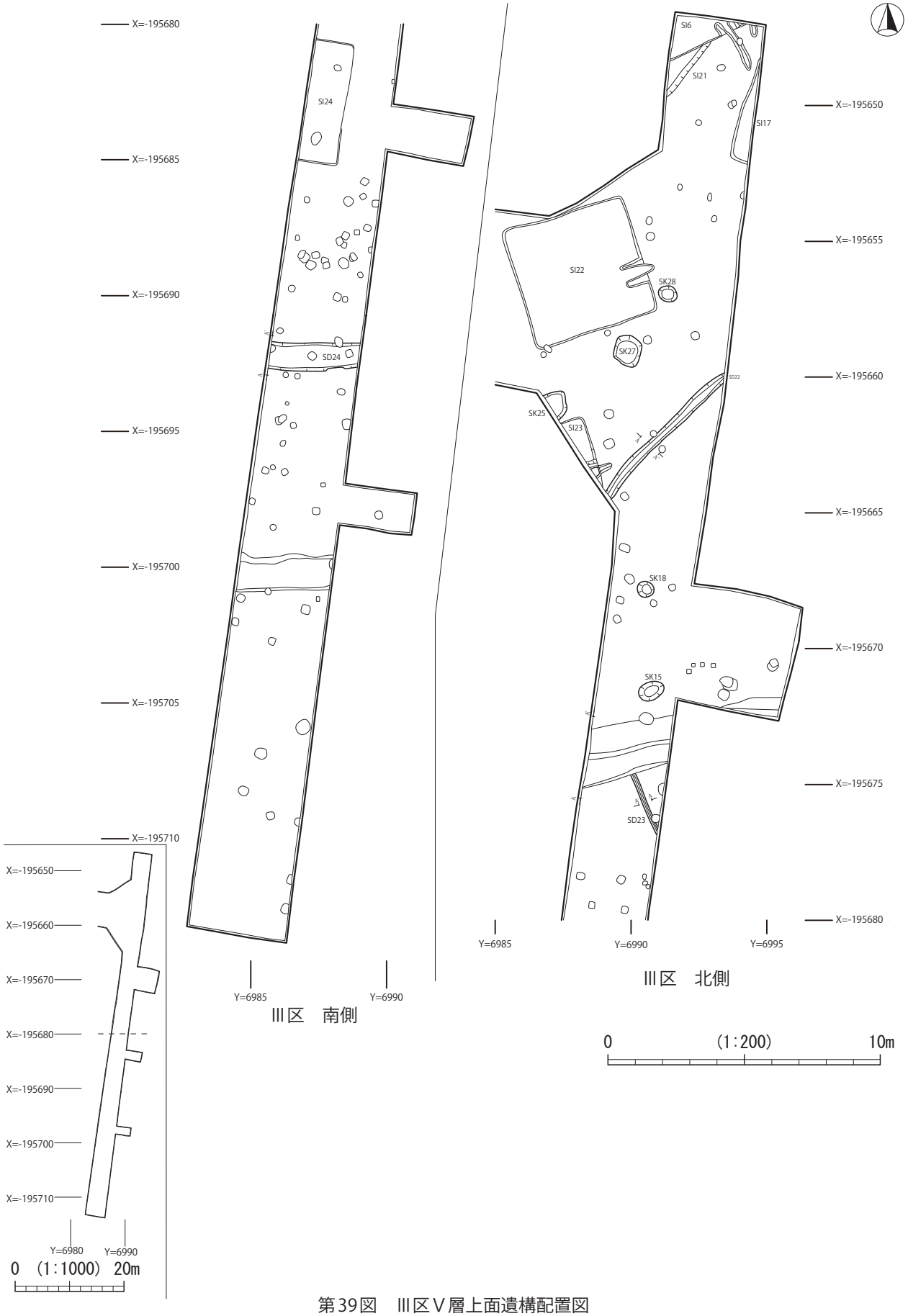
第36図　P248・265出土遺物



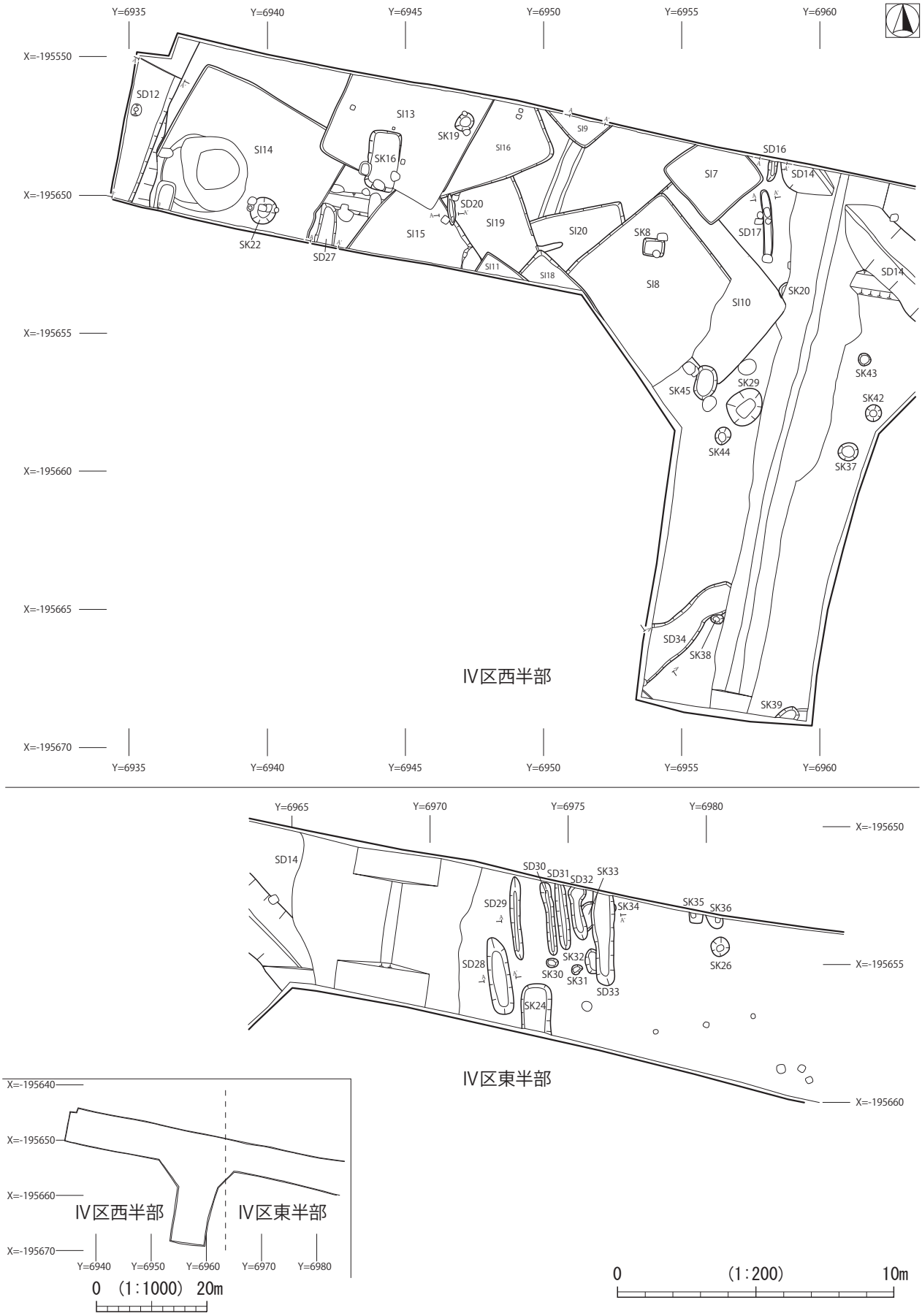
第37図　Ⅰ区Ⅴ層上面遺構配置図



第38図　Ⅱ区Ⅴ層上面遺構配置図



第39図　III区Ⅴ層上面遺構配置図



第40図　IV区Ⅴ層上面遺構配置図

(2) Ⅴ層検出の遺構と出土遺物 (第 37 ～ 132 図)

Ⅴ層上面において、竪穴住居跡22軒、溝跡22条、土坑35基、河川跡1条、性格不明遺構3基を検出した。遺構内からは、弥生土器、土師器、須恵器、剥片石器、礫石器、石製品、金属製品が、遺構外からは、土師器、須恵器、礫石器が出土した。

なお、SD13・14以外の溝跡、SR1、SX2・5・6の平面図は遺構配置図で提示し、断面図のみ掲載した。

1. 竪穴住居跡

SI1 竪穴住居跡(第41図、写真図版5)

〔位置と重複〕 Ⅰ区の北側、T5グリッドに位置する。SK4と重複し、これより古い。

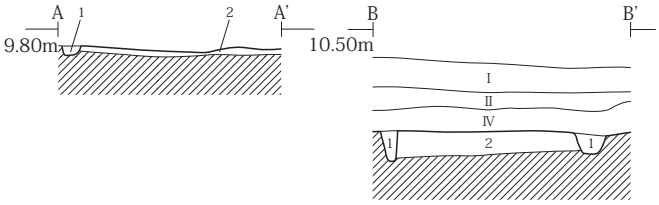
〔平面形、規模、方向〕 平面形は方形を基調とし、北壁2.46m以上、東壁1.44m以上を測る。北東と南西が調査区外へ延びる。北壁の方向は、N-86°-Eである。

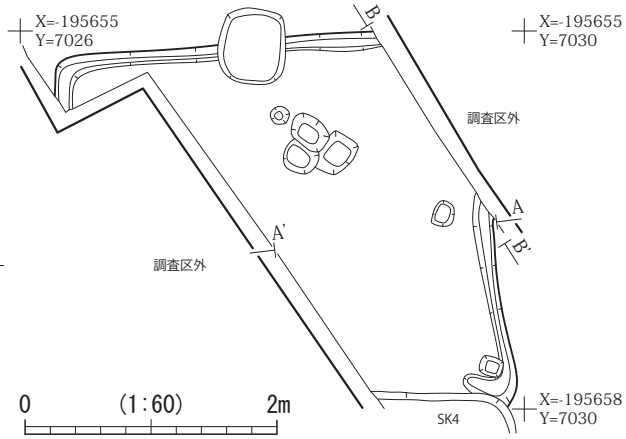
〔堆積層〕 2層に分層した。1層は周溝内堆積土、2層は掘り方埋土である。

〔床、壁、周溝〕 床と壁は、削平されている。周溝は、北、東、西壁で確認された。幅0.15m、深さ0.24mを測る。

〔掘り方〕 深さは最大0.50mを測り、底は平坦である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が、周溝内堆積土から出土した。





SI1 堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(2.46)×(1.44)	0.24	方形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。【周溝内堆積土】
			2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・暗褐色シルトブロックを斑に多く、炭化物・焼土ブロックを僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】

第41図 SI1竪穴住居跡

SI2 竪穴住居跡(第42図、写真図版5)

〔位置と重複〕 Ⅰ区のほぼ中央付近、U6・7、V6・7グリッドに位置する。SD13、SK12と重複し、これらより古い。

〔平面形、規模、方向〕 平面形は方形を基調とし、北壁0.95m以上、西壁1.02m以上を測る。南東と北西が調査区外へ延びる。南壁の方向は、N-80°-Eである。

〔堆積層〕 3層に分層した。1層は住居内堆積土、2層は周溝内堆積土、3層は掘り方埋土である。

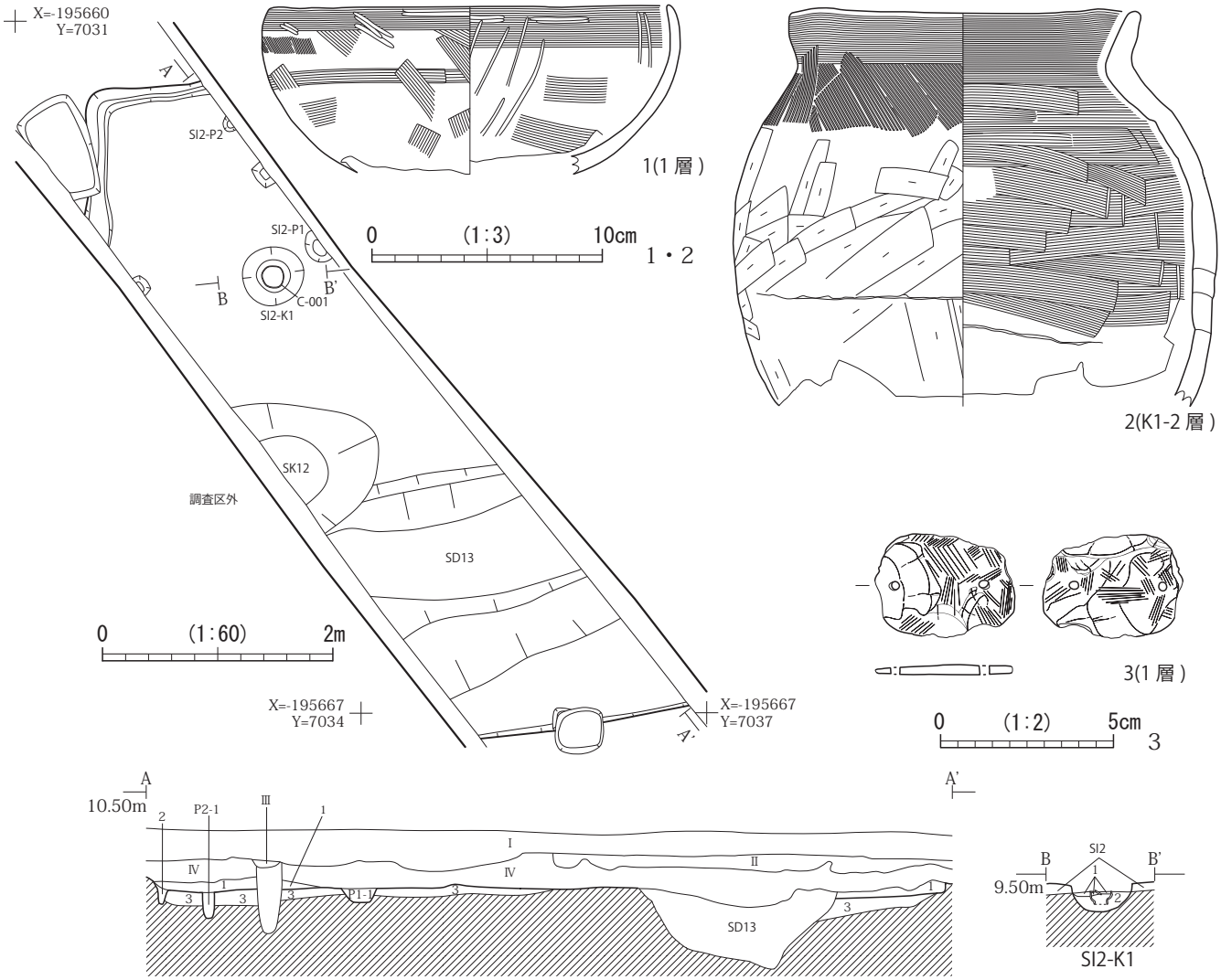
〔床、壁、周溝〕 床は、ほぼ平坦である。壁は、床から急角度に立ち上がり、最大0.10mを測る。周溝は北・西壁で確認された。幅0.20m、深さ0.10mを測る。

〔掘り方〕 深さは最大0.14mを測り、底は緩やかな起伏がみられる。

〔土坑〕 1基(K1)を確認した。住居の北西に位置し、平面形は円形で、径0.53m、深さ0.24mを測る。

〔ピット〕 2基(P1・2)を確認した。いずれも柱抜取穴と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器壺(第42図2)が、K1堆積土から逆位の状況で出土した。このほか、土師器と須恵器、弥生土器の破片、石器(剥片)、石製品が、住居内堆積土、K1堆積土、掘り方から出土している。図示した土師器壺(第42図2)は、床にあったものが、開口していたK1に落ち込んだと考えられる。この場合、住居の年代を示す資料となる。



SI2　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(0.95)×(1.02)	0.10	方形	1	10YR2/1	黒色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR3/3	暗褐色	シルト	褐色砂質シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【周溝内堆積土】
			3	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・暗褐色シルトブロックを斑に多く、炭化物・焼土ブロックを僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
径0.53	0.24	円形	K1-1	10YR2/1	黒色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
			K1-2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	黒色砂質シルト粒を少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
0.30×(0.13)	0.13	楕円形	P1-1	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。【柱抜取穴】
0.14×(0.07)	0.24	楕円形	P2-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。【柱抜取穴】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-002	Ⅰ区	SI2	1層	土師器	碗	口縁部～体部	17.4	-	(7.3)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ 口縁部～体部:放射状暗紋、ﾅﾃﾞ		11-9
2	C-001	Ⅰ区	SI2	K1-2層	土師器	壺	口縁部～体部	15.3	-	(17.2)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半:ﾊｹﾒ、胴部下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	短頸壺(直口壺)	11-10

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kd-013	Ⅰ区	SI2	1層	石製品	石製模造品	3.0	4.0	0.3	4.21	粘板岩	円板形	11-11

第42図　SI2竪穴住居跡・出土遺物

SI4　竪穴住居跡(第43図、写真図版5)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央やや南より、V7・8グリッドに位置する。SK21・47と重複し、これらより古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、西壁2.82m以上、南壁1.92m以上を測る。北東が調査区外に延びる。西壁の方向は、N-4°-Wである。

〔堆積層〕　3層に分層した。1層は住居内堆積土、2層は周溝内堆積土、3層は掘り方埋土である。

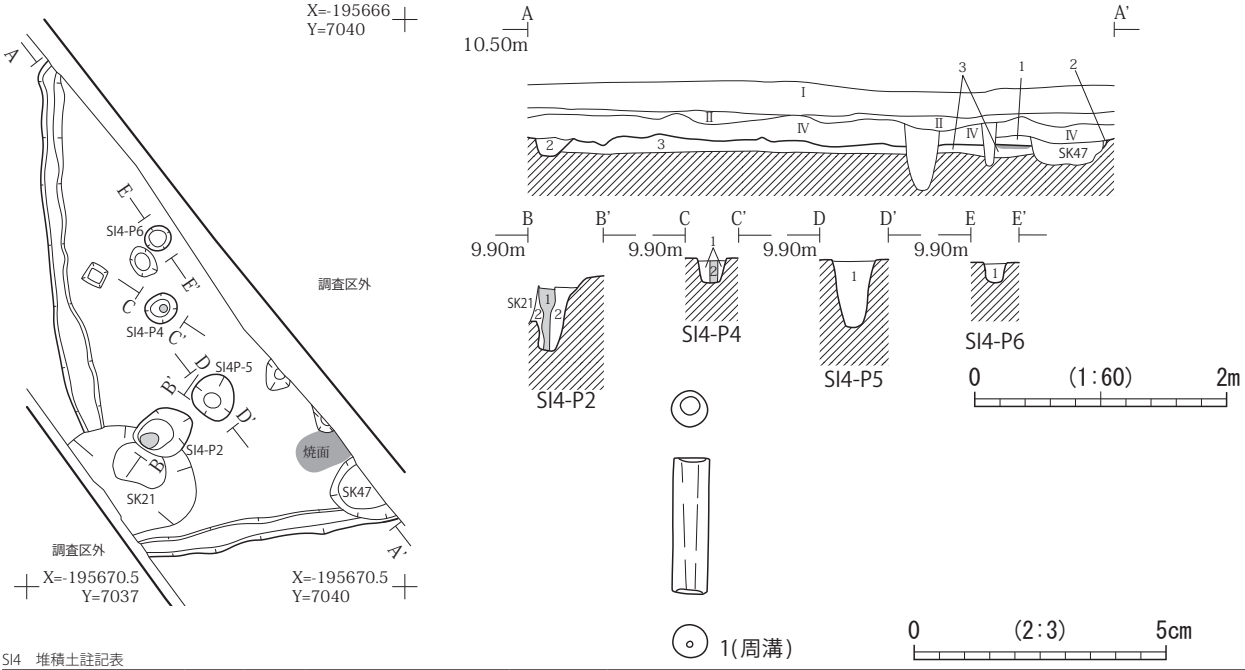
〔床、壁、周溝〕　床は、南側で部分的に検出し、ほぼ平坦である。壁は、床から急角度に立ち上がり、最大0.25mを測る。周溝は南・西壁で確認された。幅0.25m、深さ0.12mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.13mを測り、底面は平坦である。

〔カマド〕　検出していない。床南側に焼面があり、その位置からカマド跡と考えられる。

〔ピット〕　4基(P2・4～6)を確認した。P2・4は丸柱痕跡をもつ。径0.18～0.36mを測る掘り方の平面形は、円形を基調とし、P2は、位置と規模から主柱穴と考えられる。P5・6は柱抜取穴をもち、平面形は円形を基調とする。

〔出土遺物〕　土師器と弥生土器の破片、剥片、石製品が住居内堆積土、周溝内堆積土、掘り方、P2堆積土、P4堆積土から出土した。図示したのは、周溝内堆積土より出土した碧玉製の管玉(第43図1)である。



SI4　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(2.82)×(1.92)	0.12	方形	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	焼土粒を多く含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR2/1	黒色	シルト	黒色シルト・にぶい黄橙色シルトブロックを少し含む。人為堆積層。【周溝内堆積土】
			3	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・暗褐色シルトブロックを斑に多く、炭化物・焼土ブロックを僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
(0.38)×(0.36)	0.59	楕円形	P2-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を少し、焼土粒を僅かに含む。【柱痕跡】
			P2-2	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
0.24×0.22	0.19	円形	P4-1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土ブロックを少し含む。【柱痕跡】
			P4-2	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む【柱掘り方】
0.32×0.30	0.53	不整形	P5-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。【柱抜取穴】
0.18×0.18	0.15	円形	P6-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。【柱抜取穴】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
							全長	幅	厚				
1	Kd-001	I区	SI4	周溝	石製品	管玉	2.7	0.7	0.3	2.45	碧玉		11-12

第43図　SI4竪穴住居跡・出土遺物

SI5　竪穴住居跡(第44図、写真図版5)

〔位置と重複〕　I区の南側、X10グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北壁1.56m以上を測る。東西は調査区外に延び、南は撹乱を受け壊されている。北壁の方向は、N-90°-Eである。

〔堆積層〕　4層に分層した。1・2層は住居内堆積土、3層は周溝内堆積土、4層は掘り方埋土である。

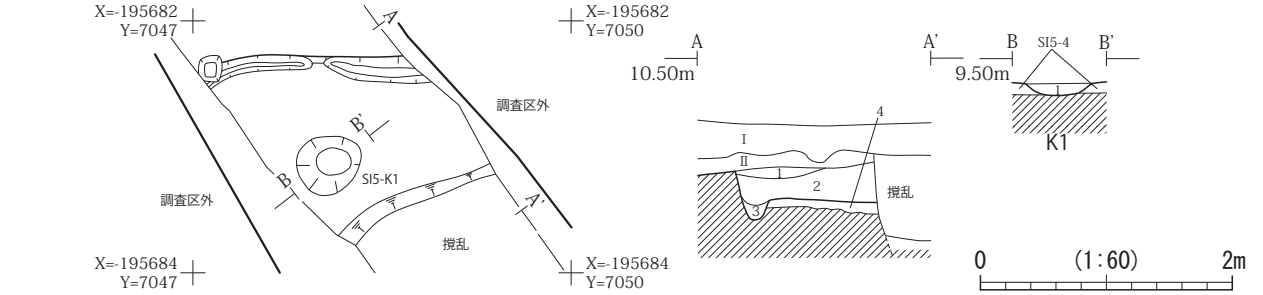
〔床、壁、周溝〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや開きながら立ち上がり、最大0.20mを測る。周溝は北壁で確認された。幅0.20m、深さ0.20mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.15mを測り、底面は平坦である。

〔土坑〕　1基(K1)を確認した。住居の北に位置し、平面形は楕円形で、長軸0.49m、短軸0.43m、深さ0.10mを

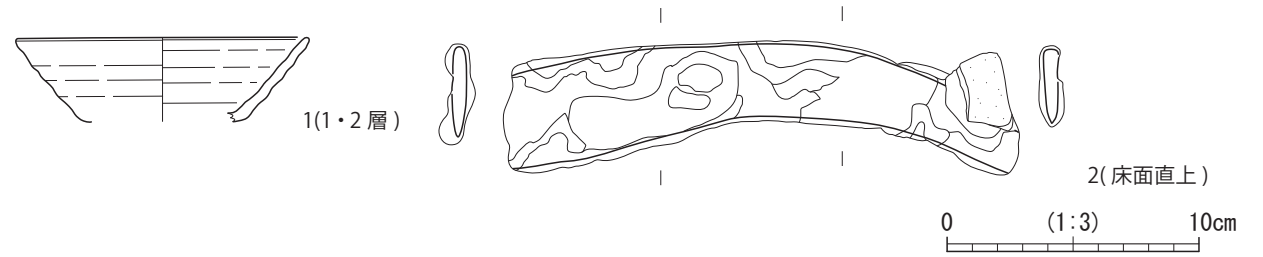
測る。

〔出土遺物〕　鉄鎌(第44図2)が床面から出土した。出土状況から、住居廃絶時に残されたとみられる。このほか、土師器と須恵器、弥生土器の破片が堆積層、掘り方から出土している。このうち、図示した須恵器坏(第44図1)は、住居内堆積土から出土したものである。



SI5　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(1.56)×(1.29)	0.20	方形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	酸化鉄粒を多く、灰白色火山灰を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR3/2	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを少し、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。【周溝内堆積土】
			4	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロックを斑に多く、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
0.49×0.43	0.10	楕円形	K1-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック・にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物・焼土ブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-009	I区	SI5	1・2層	須恵器	坏	口縁部～体部	(11.6)	-	(3.4)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		11-13

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	備考	写真図版
2	N-001	I区	SI5	床面直上	金属製品	鎌	(20.4)	(4.6)	(1.8)	157.12	土師器破片付着	11-14

第44図　SI5竪穴住居跡・出土遺物

SI6　竪穴住居跡(第45・46図、写真図版5)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、M3グリッドに位置する。SI21と重複し、これより新しい。

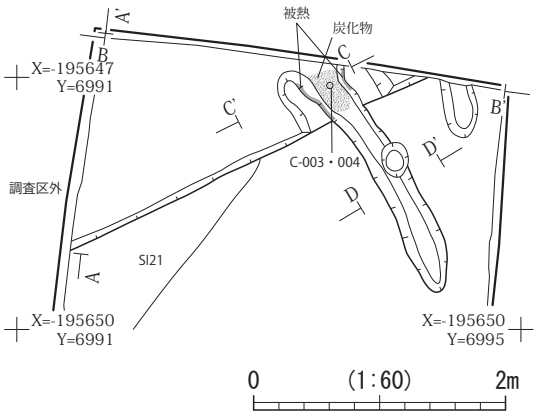
〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、南東壁が3.15m以上を測る。カマドの中軸線は、N-150°-Eである。

〔堆積層〕　12層に分層した。1～3層は住居内堆積土、4～6層はカマド内堆積土、7層はカマド構築土、8～10層は古カマド内堆積土、11・12層は掘り方埋土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや開きながら立ち上がり、最大0.20mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.10mを測り、底面は平坦である。

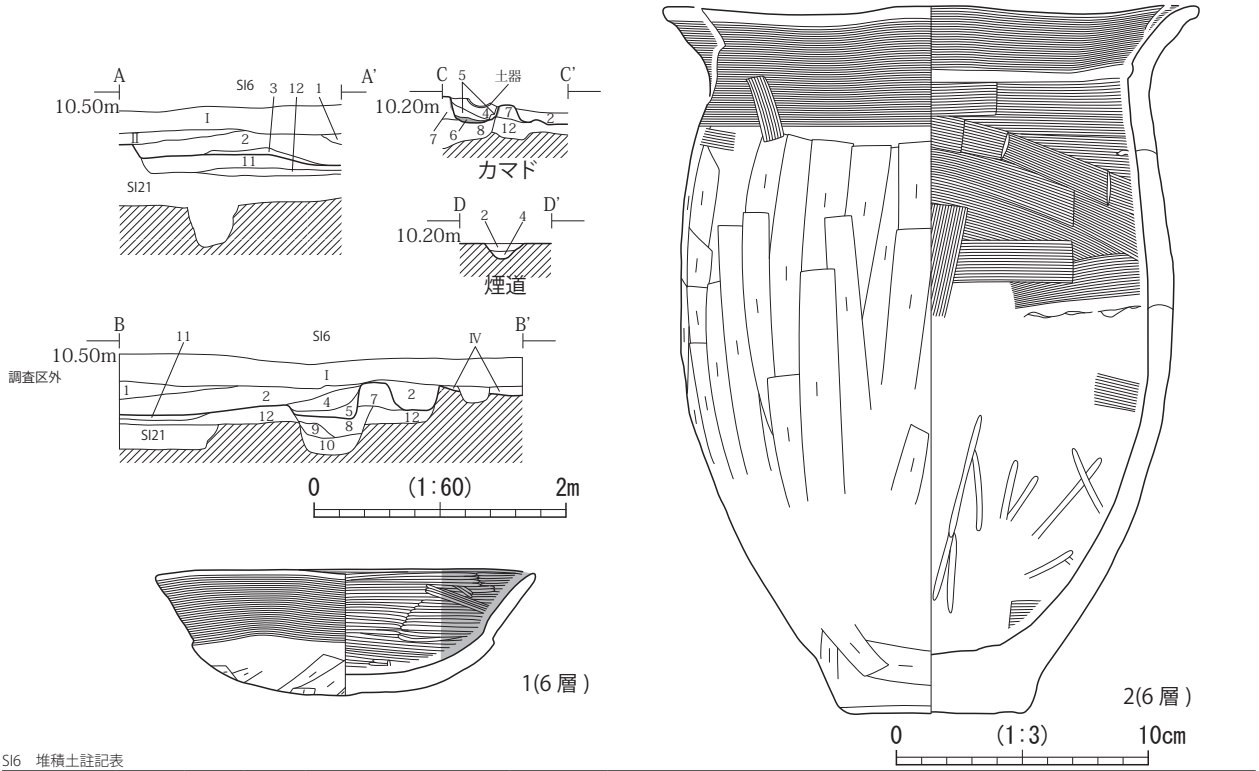
〔カマド〕　南東壁に位置する。長さ1.65mの煙道と燃焼部、燃焼部の囲い、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部の囲いは粘土で構築している。燃焼部は、被熱により赤変している。カマドの最終機能面の下には、深さ0.30mを測る掘り方がある。この掘り方はカマドの造り直しを反映している可



第45図　SI6竪穴住居跡(1)

能性がある。

〔出土遺物〕　土師器坏(第46図1)と甕（第46図2）が、住居廃絶時のカマドに残された状態で出土した。このほか、土師器と弥生土器の破片、石器(剥片)が、堆積層と掘り方から出土した。



SI6　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(3.15)×(2.21)	0.20	方形	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	褐色砂質シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	焼土粒を少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			5	10YR4/4	褐色	シルト	赤褐色シルトを少し含む。カマド構築土の崩落土。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			6	10YR3/3	暗褐色	シルト	全体に炭化物・焼土粒を含む。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			7	10YR4/4	褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・焼土粒を少し、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【カマド構築土】
			8	10YR4/4	褐色	シルト	黄褐色シルト粒を少し、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【古カマド内堆積土】
			9	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【古カマド内堆積土】
			10	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【古カマド内堆積土】
			11	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
			12	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-003	Ⅲ区	SI6	6層	土師器	坏	口縁部～底部	(15.0)	-	5.0	口縁部～体部:ﾖｺﾅﾃﾞ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部～体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	有段坏　内面黒色処理	12-1
2	C-004	Ⅲ区	SI6	6層	土師器	甕	口縁部～底部	(21.2)	7.2	28.0	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ、胴部下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	長胴ケズリ甕	12-2

第46図　SI6竪穴住居跡(2)・出土遺物

SI7　竪穴住居跡(第47図、写真図版6)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、E3、F3・4グリッドに位置する。SI10と重複し、これより新しい。

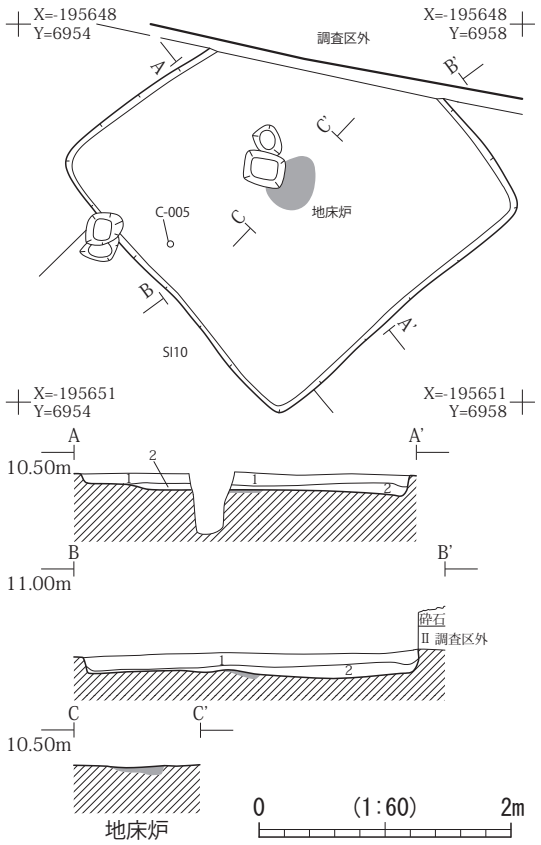
〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を呈し、南西壁が2.64m以上、南東壁が2.58m以上を測る。南東壁の方向は、N-50°-Eである。

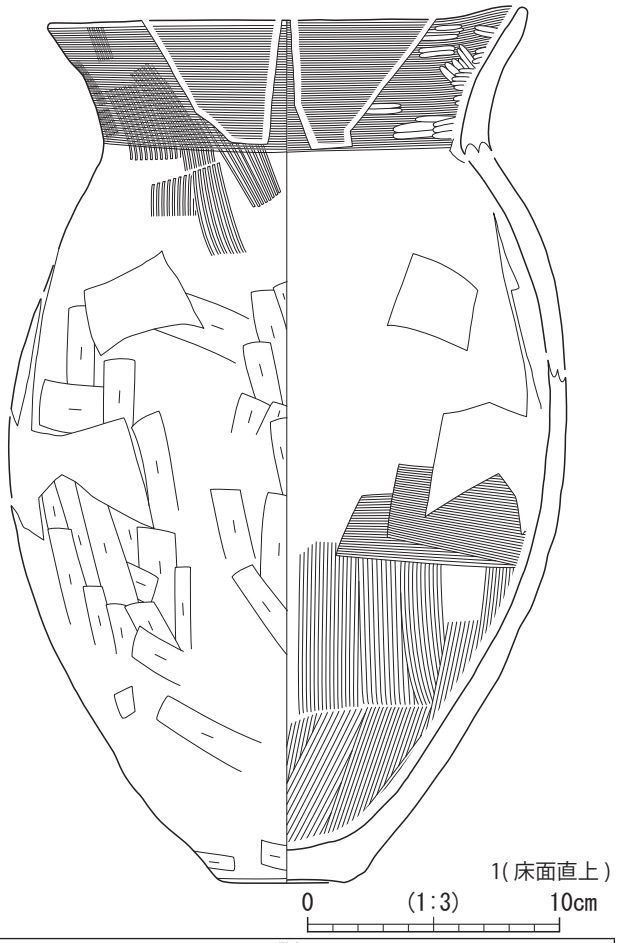
〔堆積層〕　2層に分層した。いずれも住居内堆積土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からほぼ垂直に立ち上がり、最大0.19mを測る。

〔炉〕　0.35m×0.45mを測る焼面である。

〔出土遺物〕　土師器甕(第47図1)が、床で潰れた状態で出土した。このほか、土師器の破片、石器（剥片）が住居内堆積土から出土した。





SI7　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(2.64)×(2.58)	0.19	方形	1	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	褐色砂質シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	明黄褐色シルトを多く、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-005	Ⅳ区	SI7	床面直上	土師器	甕	口縁部～底部	19.0	5.9	34.7	口縁部:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾊｹﾒ、ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部～底部:ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	長胴ケズリ甕	12-3

第47図　SI7竪穴住居跡・出土遺物

SI8　竪穴住居跡(第48～50図、写真図版6)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、E4・5、F4・5グリッドに位置する。SI10・18・20、SK8と重複する。SI10・20より新しく、SI18・SK8より古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北西壁が4.40m以上、北東壁が3.90m以上を測る。北西壁の方向は、N-50°-Eである。

〔堆積層〕　7層に分層した。1～5層は住居内堆積土、6~7層は掘り方埋土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、最大0.15mを測る。

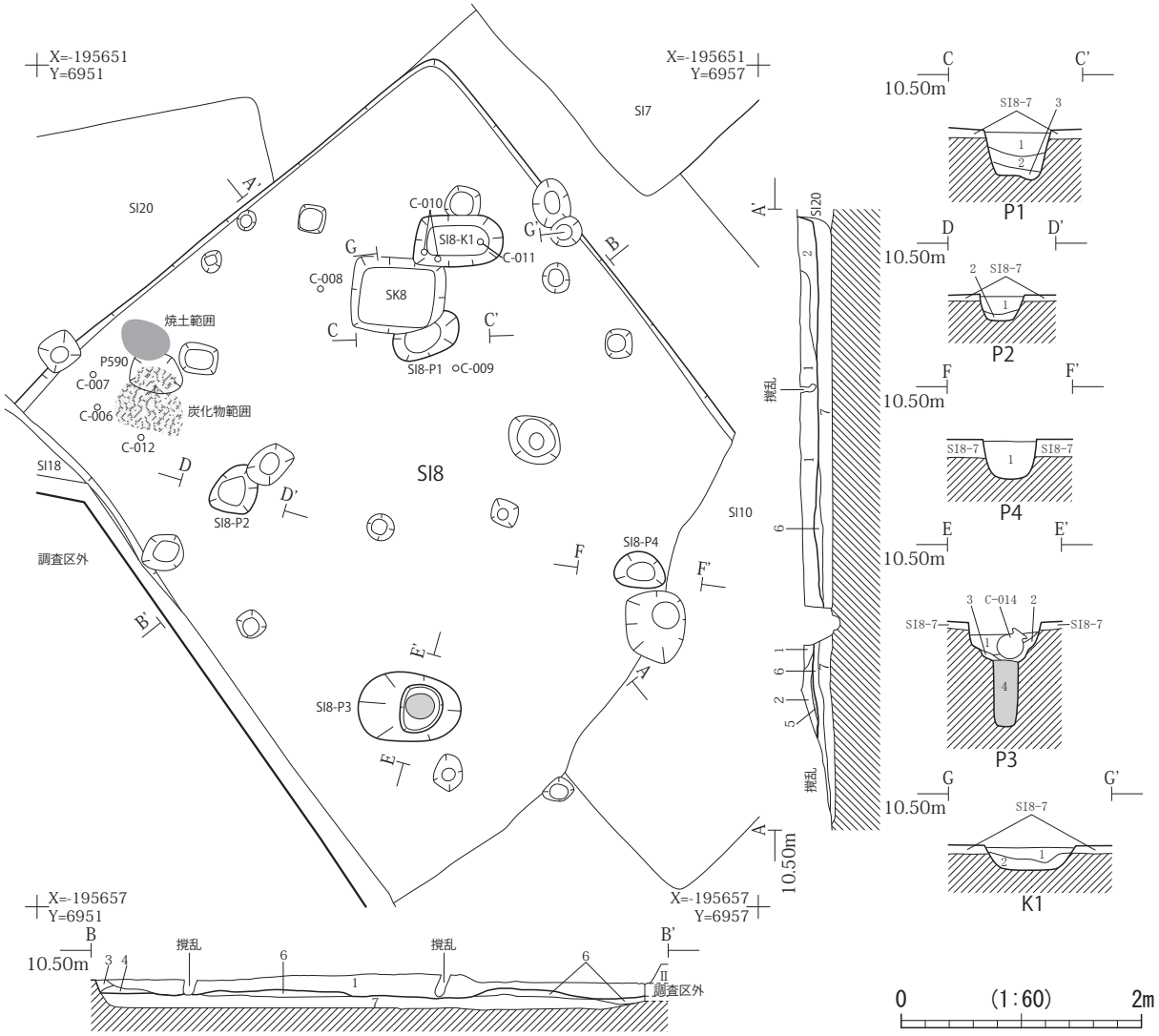
〔掘り方〕　深さは最大0.10mを測り、底面は平坦である。

〔カマド〕　北西壁の付近で、焼土が0.35m×0.40m、炭化物層が0.55m×0.60mの範囲に分布していたため、カマドの痕跡の可能性がある。

〔土坑〕　1基(K1)を確認した。住居の北東に位置し、平面形は隅丸長方形で、長軸0.72m、短軸0.36m以上、深さ0.21mを測る。

〔ピット〕　4基(P1～4)を確認した。平面形は楕円形もしくは不整形を基調とし、長軸0.39～0.54m、短軸0.27～0.36mを測る。

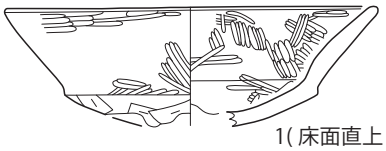
〔出土遺物〕　土師器坏(第49図1)、甕3点(第49図2～4)、甑(第50図1)が、床に横転し、潰れた状態で出土した。このほか、土師器・須恵器、弥生土器の破片、土製品が堆積層、掘り方、P3堆積層から出土した。図示した土師器坏、甕、壺、甑の9点は、住居の年代を示すものである。



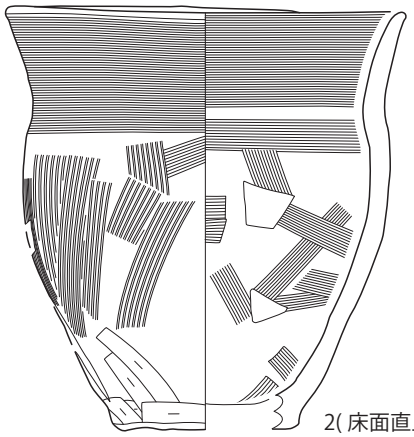
SI8　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(4.40)×(3.90)	0.15	方形	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	黒褐色シルト・明黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR4/6	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を少し、炭化物・焼土粒を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	暗褐色シルト粒・浅黄色粘土粒を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			5	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物層。人為堆積層。【住居内堆積土】
			6	10YR5/6	黄褐色	粘土	炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
			7	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	黄褐色シルトブロックを斑に多く、炭化物・焼土粒を少し含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
0.54×(0.30)	0.42	(楕円形)	P1-1	10YR4/6	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
			P1-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
			P1-3	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
0.42×0.33	0.26	不整形	P2-1	10YR4/4	褐色	シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
			P2-2	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
(0.39)×(0.36)	0.81	楕円形	P3-1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱切取穴】
			P3-2	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトを含む。【柱切取穴】
			P3-3	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトを多く含む。【柱切取穴】
			P3-4	10YR3/1	黒褐色	シルト	【柱痕跡、丸柱】
0.39×0.27	0.70	楕円形	P4	10YR4/4	褐色	シルト	褐色シルトを含む。
0.72×(0.36)	0.21	隅丸長方形	K1-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
			K1-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】

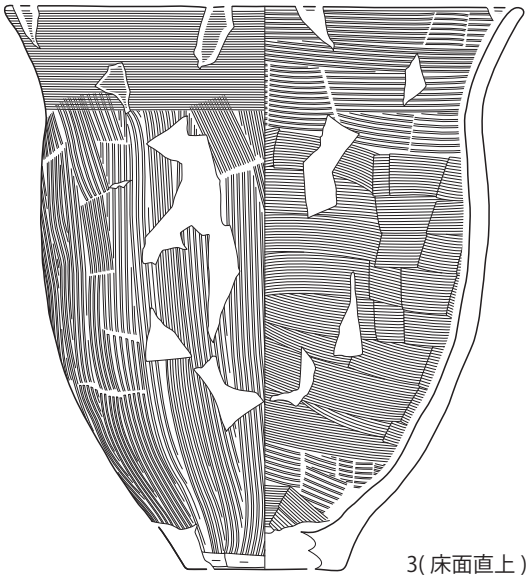
第48図　SI8竪穴住居跡



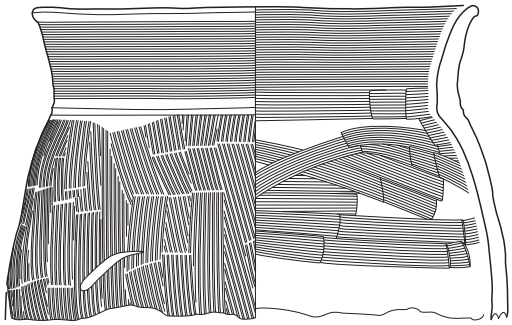
1(床面直上)



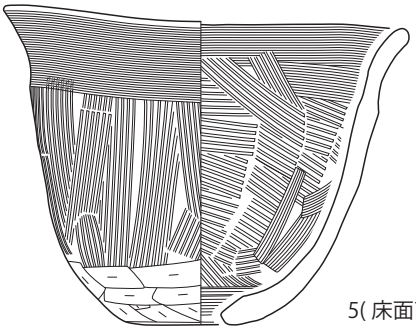
2(床面直上)



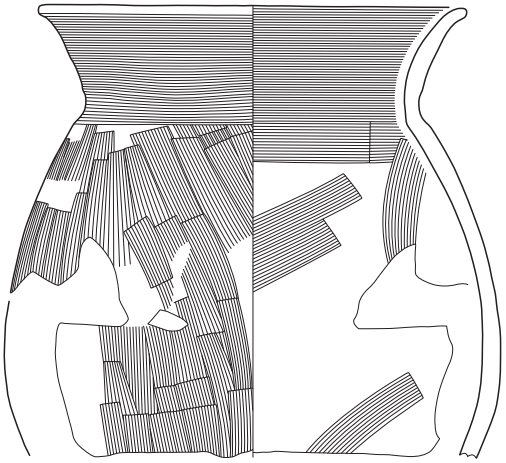
3(床面直上)



4(床面直上)



5(床面直上)



6(K1 底)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-006	Ⅳ区	SI8	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	14.8	-	(4.7)	坏部上半:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、坏部下半:ﾍﾗｹｽﾘ	坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面剥落、摩滅　被熱再酸化	12-4
2	C-007	Ⅳ区	SI8	床面直上	土師器	甕	口縁部～底部	15.9	(7.4)	16.8	口縁部:ﾅﾃﾞ→ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾅﾃﾞ→ﾊｹﾒ、胴部下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ、底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	小型長胴有段ハケ甕　底部穿孔	12-5
3	C-008	Ⅳ区	SI8	床面直上	土師器	甕	口縁部～底部	20.6	(6.2)	22.3	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾊｹﾒ、底部:ｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾊｹﾒ、胴部上半:ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部下端:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	小型長胴有段ハケ甕	12-6
4	C-009	Ⅳ区	SI8	床面直上	土師器	甕	口縁部～胴部上半	(17.6)	-	(12.4)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾊｹﾒ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	中型長胴有段ハケ甕	13-1
5	C-012	Ⅳ区	SI8	床面直上	土師器	甑	完形	16.0	-	12.7	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半:ﾊｹﾒ、ﾅﾃﾞ、胴部下半:ﾊｹﾒ→ｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 孔:ﾖｺﾅﾃﾞ	ハケ甑　単孔	13-2
6	C-011	Ⅳ区	SI8	K1 底	土師器	甕	口縁部～胴部上半	(17.0)	-	(17.9)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	中型長胴有段ハケとケズリ甕　外面一部摩滅	13-3

第49図　SI8竪穴住居跡出土遺物(1)

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-010	Ⅳ区	SI8	K1底	土師器	壺	口縁部～胴部上半	(17.2)	-	(13.3)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	中型長胴有段ハケ甕	13-4
2	C-013	Ⅳ区	SI8	K１底	土師器	甕	口縁部～胴部下半	19.3	-	21.1	口縁部:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	球胴甕	13-5
3	C-014	Ⅳ区	SI8	P３柱切取穴	土師器	甕	口縁部～底部	(16.4)	-	19.1	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ胴部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ胴部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	球胴甕　外面一部摩滅	13-6

第50図　SI8竪穴住居跡出土遺物(2)

SI9　竪穴住居跡(第51図、写真図版6)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、E3グリッドに位置する。

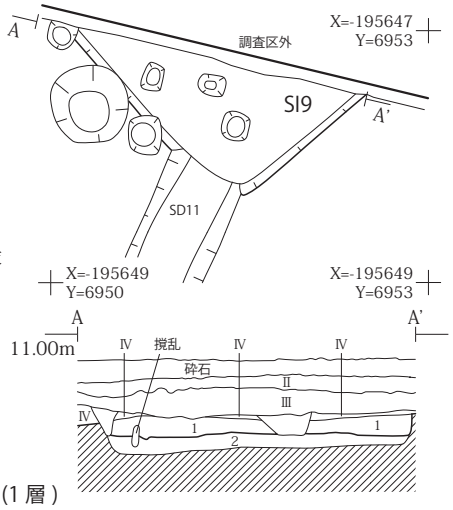
〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、南西壁が1.92m以上、南東壁が1.45m以上を測る。南東壁の方向は、N-50°-Eである。

〔堆積層〕　２層に分層した。１層は住居内堆積土、２層は掘り方埋土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、最大0.10mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.14mを測り、底面は平坦である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が床、堆積層、掘り方から出土した。このうち、土製品のミニチュア土器(第51図1)を図示した。



SI9　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(1.92)×(1.45)	0.10	方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR4/6	褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。【掘り方埋土】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	P-009	Ⅳ区	SI9	1層	土製品	ﾐﾆﾁｭｱ土器	口縁部～底部	(8.4)	(6.2)	(3.25)	口縁部:指押え	口縁部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	坏?	13-7

第51図　SI9竪穴住居跡・出土遺物

SI10　竪穴住居跡(第52図、写真図版6)

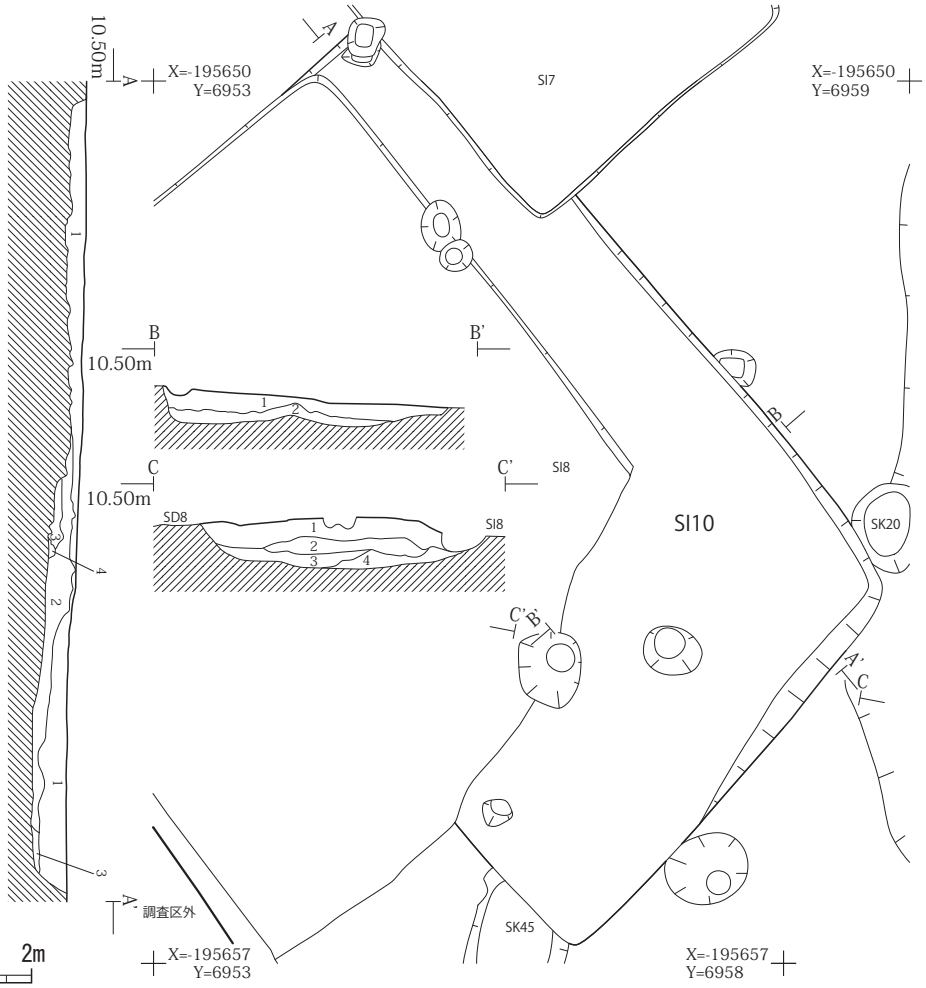
〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、E3・F3～5グリッドに位置する。SI7・8、SK20・45と重複し、これらより古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北東壁が6.00m以上、南東壁が3.80m以上を測る。北東壁の方向は、N-40°-Wである。

〔堆積層〕　4層に分層した。いずれも掘り方埋土である。

〔床と壁〕　床と壁は、残存していない。掘り方埋土の厚さは最大0.39mを測り、底は南東が窪み高低差が0.30mある。

〔出土遺物〕　土師器の破片と砥石が、掘り方から出土した。



SI10　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(6.00)×(3.80)	0.39	方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に多く、マンガン粒を少し、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
			2	10YR5/6	黄褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを斑に多く、マンガン粒を少し含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
			3	10YR4/6	褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを斑に多く、マンガン粒を少し、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
			4	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを斑に多く、マンガン粒を少し含む。人為堆積層。【掘り方埋土】

第52図　SI10竪穴住居跡

SI11　竪穴住居跡(第53図、写真図版6・7)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、D4グリッドに位置する。SI15・18・19と重複し、これらより新しい。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北西壁が0.85m以上、北東壁が1.77m以上を測る。北東壁の方向は、N-55°-Wである。

〔堆積層〕　3層に分層した。いずれも住居内堆積土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや開きながら立ち上がり、最大0.20mを測る。

〔掘り方〕　掘り方は確認されなかった。

〔出土遺物〕　土師器甕(第53図1)が、床面から出土した。

SI18　竪穴住居跡(第53図、写真図版8)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、D3、E4グリッドに位置する。SI8・11・19・20と重複し、SI8・19・20よりも新しく、SI11より古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北西壁が1.14m以上、北東壁は1.90m以上を測る。北東壁の方向はN-46°-Wである。

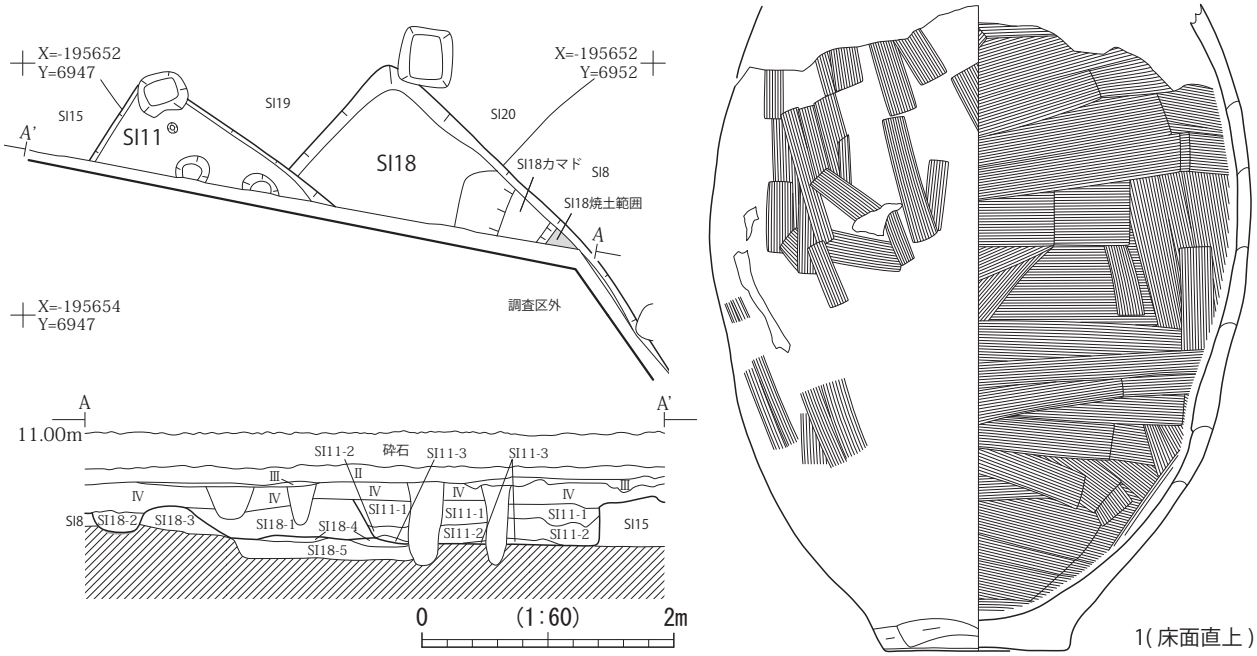
〔堆積層〕　1～5層に分層した。1層は住居内堆積土、2層はカマド内堆積土、3層はカマド構築土、4・5層は掘り方埋土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや開きながら立ち上がり、最大0.18mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.18mを測り、底面は平坦である。

〔カマド〕　北東壁に位置する。燃焼部と燃焼部を囲う構築土、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部を囲う構築土は粘土で造られている。燃焼部と構築土の内側は、被熱により赤変している。

〔出土遺物〕　土師器の破片が、堆積土と掘り方から出土している。



SI11　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(0.85)×(1.77)	0.20	方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを多く、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR4/6	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを多く、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-015	Ⅳ区	SI11	床面直上	土師器	甕	胴部～底部	-	7.2	(25.6)	胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	長胴ケズリ甕	14-1

SI18　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(1.14)×(1.90)	0.18	方形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を多く含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し、焼土を僅かに含む。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			3	10YR8/4	浅黄橙色	粘土質シルト	均質な層。【カマド構築土】
			4	10YR5/6	黄褐色	粘土	人為堆積層。【掘り方埋土】
			5	10YR6/1	褐灰色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。【掘り方埋土】

第53図　SI11・SI18竪穴住居跡・SI11竪穴住居跡出土遺物

SI13　竪穴住居跡(第54・55図、写真図版7)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、C3、D3・4グリッドに位置する。SI14~16、SK16・17・19と重複し、SI14~16より新しく、SK16・17・19より古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、南西壁が4.55m以上、南東壁が4.40m以上を測る。南東壁の方向は、N-29°-Eである。

〔堆積層〕　9層に分層した。1～5層は住居内堆積土、6層は周溝内堆積土、7層カマド内堆積土、8・9層は掘り方

埋土である。

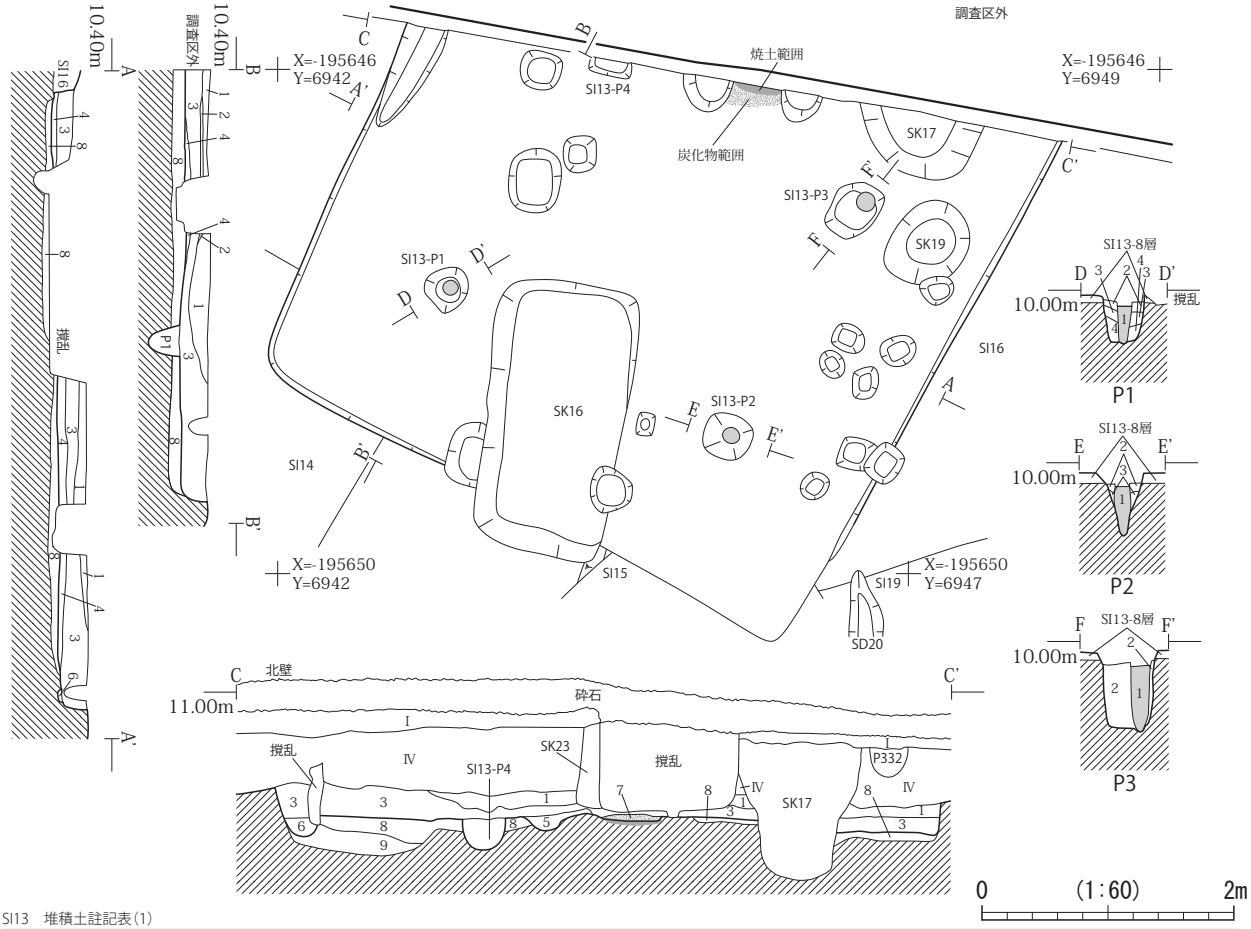
〔床、壁、周溝〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、最大0.21mを測る。周溝は北壁で確認された。幅0.20m、深さ0.05mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.30mを測る。住居中央部分がやや高くなっているのに対し、壁際は低くなっており、高低差は0.25mを測る。

〔カマド〕　北側の調査区壁際で燃焼部とその囲い、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部の囲いは基本層序Ⅴ層で造り出している。燃焼部と構築土の内側は、被熱により赤変している。

〔ピット〕　4基(P1～4)を確認した。P1～3は丸柱痕跡をもつ。柱掘り方の平面形は隅丸方形ないし楕円形を基調とし、長軸0.32～0.58m、短軸0.12～0.36mを測る。P1～3は、位置と規模から主柱穴で、P4もその一部と考えられる。

〔出土遺物〕　住居内堆積土からミニチュア土器(第55図1)、土玉（第55図2）が出土した。この他、土師器と須恵器の破片が、堆積土、掘り方、P2柱痕跡から出土した。



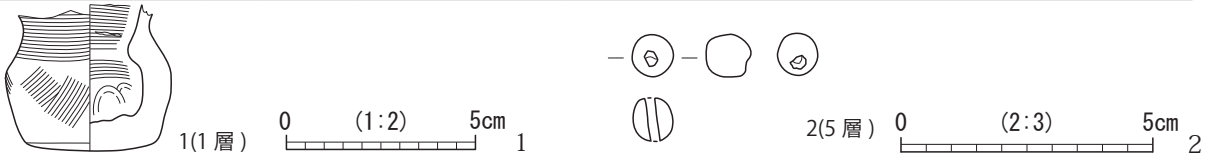
SI13　堆積土註記表(1)

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(4.55)×(4.40)	0.21	方形	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	締り弱い。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR7/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	締り強い。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR4/4	褐色	シルト	締り弱い。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を多く、黄橙色シルトブロックを僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			5	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			6	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【周溝内堆積土】
			7	10YR5/6	黄褐色	シルト	炭化物・焼土を多く含む。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			8	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。締り強い。人為堆積層。【掘り方埋土】
			9	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
0.36×0.34	0.39	楕円形	P1-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルト粒を少し、炭化物を僅かに含む。【柱痕跡】
			P1-2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
			P1-3	10YR4/6	褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
			P1-4	10YR5/6	黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】

第54図　SI13竪穴住居跡

SI13　堆積土註記表(2)

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
0.39×0.36	0.51	隅丸方形	P2-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。【柱痕跡】
			P2-2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを斑に多く、炭化物を僅に含む。【柱掘り方】
			P2-3	10YR4/6	褐色	シルト	暗褐色シルトを斑に多く、炭化物を僅に含む。【柱掘り方】
0.58×0.36	0.64	隅丸方形	P3-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルト粒を少し含む。【柱痕跡】
			P3-2	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを斑に多く、炭化物を少し含む。【柱掘り方】
0.32×(0.12)	0.23	隅丸方形	P4	-	-	-	註記なし。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	P-011	Ⅳ区	SI13	1層	土製品	ﾐﾆﾁｭｱ土器	口縁部～底部	-	3.4	(3.9)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ 胴部～底部:ﾅﾃﾞ、指押え	壺	14-2

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	備考	写真図版
2	P-002	Ⅳ区	SI13	5層	土製品	土玉	0.8	0.9	-	0.62	ﾅﾃﾞ　ﾍﾗﾐｶﾞｷ	14-3

第55図　SI13竪穴住居跡出土遺物

SI14　竪穴住居跡(第56～58図、写真図版7)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、B3・4、C3・4グリッドに位置する。SI13、SD12、SK22と重複し、これらより古い。

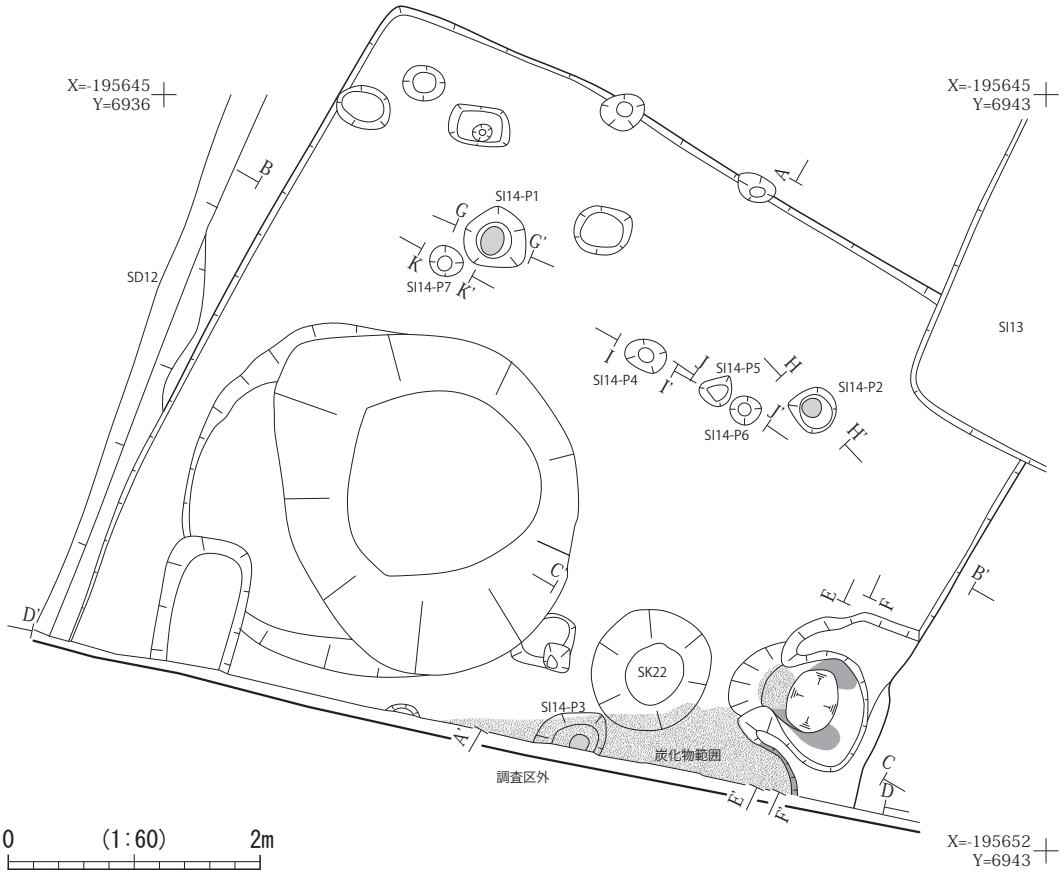
〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北西壁が5.40m以上、北東壁が4.70m以上を測る。北西壁の方向はN-28°-Eである。

〔堆積層〕　14層に分層した。1～5層は住居内堆積土、6・7は新カマド堆積土、8・9新カマド構築土、10・11層は古カマド堆積土、12・13層は古カマド構築土、14層は掘り方埋土である。

〔床、壁、周溝〕　床は、ほぼ平坦である。壁は床からほぼ直立に立ち上がり、残存の良い部分で0.25mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.30mを測り、底面は平坦である。

〔カマド〕　南東壁に位置し、断面の観察等から2時期のカマドを確認した。いずれも、燃焼部を囲う構築土、カマド使

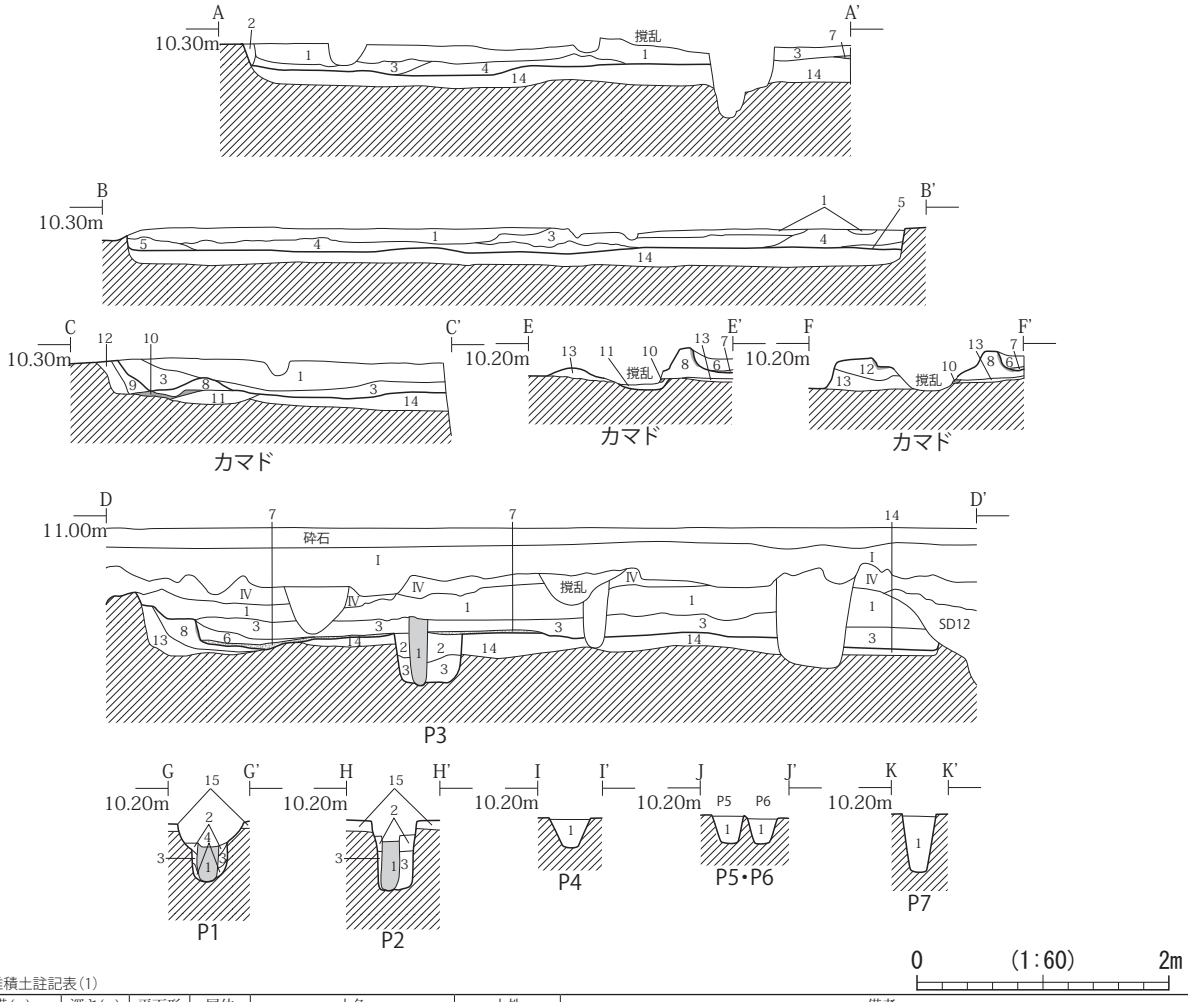


第56図　SI14竪穴住居跡(1)

用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部を囲う構築土は粘土で造られている。燃焼部と構築土の内側は、被熱により赤変している。

〔ピット〕　7基(P１～7)を確認した。P１～３は、柱痕跡をもつ。P１は柱切取穴を伴う。柱掘り方は長軸0.33～0.51m、短軸0.30～0.48mを測り、平面形は方形を基調とする。P４～７は、長軸0.24～0.30m、短軸0.21～0.24mをはかり、平面形は円形もしくは楕円形を基調とする。P１～３は、その配置と規模から主柱穴である。

〔出土遺物〕　土師器壺(第58図2・3)が、床でまとまって出土した。また、P１の柱痕跡から土師器坏(第58図1)が、堆積土から土製品(第58図4)、石製品(第58図5・6)が出土した。この他、弥生土器、土師器、須恵器の破片が堆積土と掘り方から出土した。図示した土師器壺の２点は、住居の年代を示すものである。



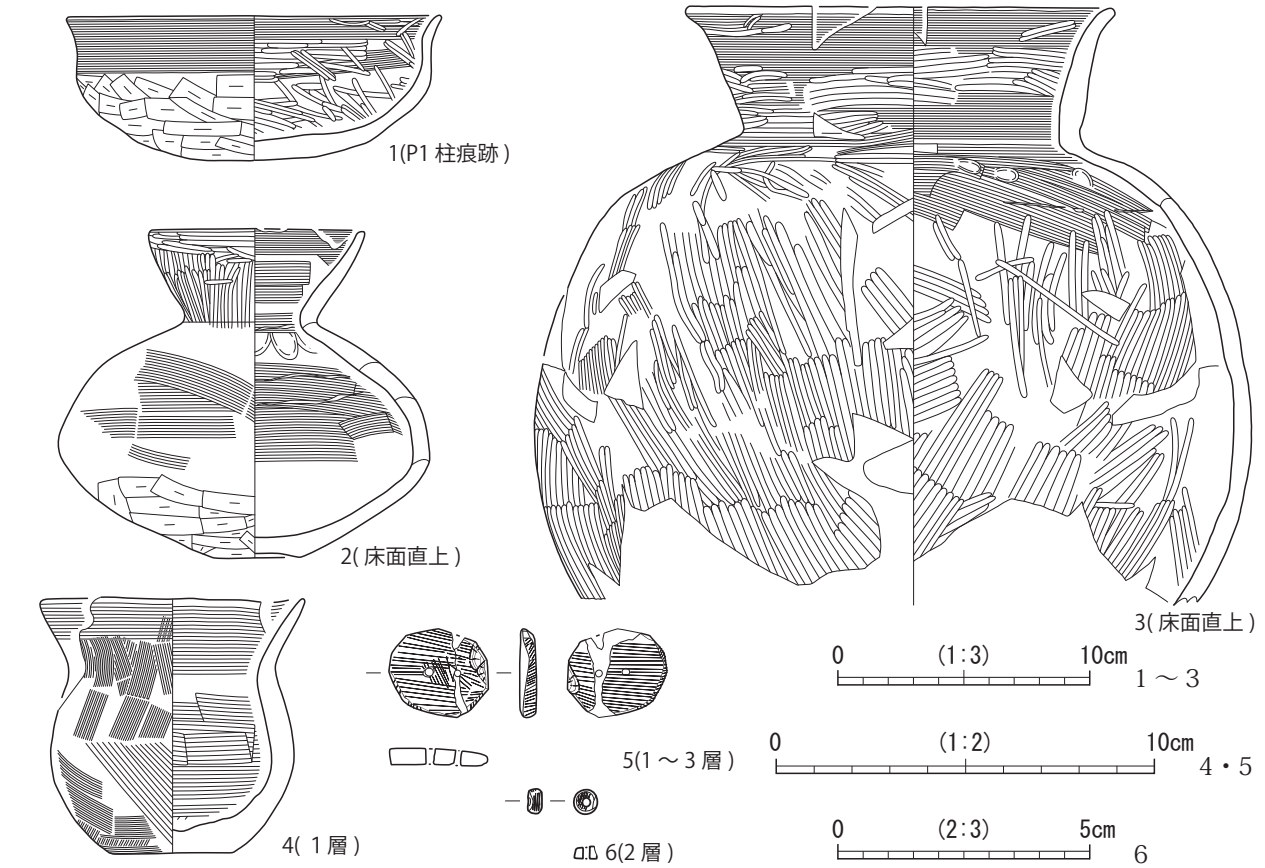
SI14　堆積土註記表(1)

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(5.40)×(4.70)	0.25	方形	1	10YR4/6	褐色	シルト	明黄褐色シルト粒を多く含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	壁際の崩落土。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR4/6	褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			5	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを多く含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	焼土を多く含む。【新カマド内堆積土】
			7	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物層。【新カマド内堆積土】
			8	7.5YR7/8	黄橙色	粘土質シルト	均質な層。締り強い。【新カマド構築土】
			9	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	【新カマド構築土】
			10	7.5YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物層。【古カマド内堆積土】
			11	5YR4/6	赤褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。【古カマド内堆積土】
			12	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【古カマド構築土】
			13	10YR8/6	黄橙色	シルト	【古カマド構築土】
			14	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
0.51×0.48	0.48	不整形	P1-1	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	炭化物を僅かに含む。締り弱い。【柱切取穴】
			P1-2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロック・炭化物を少し含む。締り弱い。【柱痕跡】
			P1-3	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く、炭化物を僅かに含む。【柱掘り方】
			P1-4	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。【柱掘り方】

第57図　SI14竪穴住居跡(2)

SI14　堆積土註記表(2)

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
0.33×0.33	0.54	不整形	P2-1	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。【柱痕跡】
			P2-2	10YR5/6	黄褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱掘り方】
			P2-3	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱掘り方】
0.36×(0.30)	0.43	不整形	P3-1	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。締り弱い。【柱痕跡】
			P3-2	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
			P3-3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
0.30×0.24	0.24	楕円形	P4	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱抜取穴】
0.27×0.24	0.22	不整形	P5	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱抜取穴】
0.27×0.21	0.23	円形	P6	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱抜取穴】
0.24×0.24	0.46	楕円形	P7	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱抜取穴】



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-018	Ⅳ区	SI14-P1	P1柱痕跡	土師器	坏	口縁部～底部	(14.8)	-	5.7	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ		14-4
2	C-016	Ⅳ区	SI14	床面直上	土師器	壺	ほぼ完形	8.5	3.5	13.0	口縁部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部上半:ﾅﾃﾞ、胴部下半:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →指押え	ﾍﾞﾝｶﾞﾗ付着 保存容器? 中型壺	14-5
3	C-019	Ⅳ区	SI14	床面直上	土師器	壺	口縁部～胴部上半	17.0	-	(23.6)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →指押え、ﾍﾗﾐｶﾞｷ		14-6

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
4	P-012	Ⅳ区	SI14	1層	土製品	ﾐﾆﾁｭｱ土器	ほぼ完形	(7.0)	(3.2)	6.8	口縁部:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部:ﾅﾃﾞ		14-7

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kd-019	Ⅳ区	SI14	1~3層	石製品	石製模造品	2.4	2.6	0.45	(4.22)	緑泥片岩	円板形	14-8
6	Kd-024	Ⅳ区	SI14	2層	石製品	白玉	0.5	0.5	0.2	0.11	緑泥片岩		14-9

第58図　SI14竪穴住居跡出土遺物

SI15　竪穴住居跡(第59図、写真図版7)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、C3・4、D4グリッドに位置する。SI11・13・16・19、SD20と重複し、SI16・19、よりも新しく、SI11・13、SD20より古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北西壁が2.65m以上、北東壁が2.60m以上を測る。北西端の方向は、N-38°-Eである。

〔堆積層〕　6層に分層した。1層は住居内堆積土、2・3層はカマド内堆積土、4層はカマド構築土、5・6層は掘り方

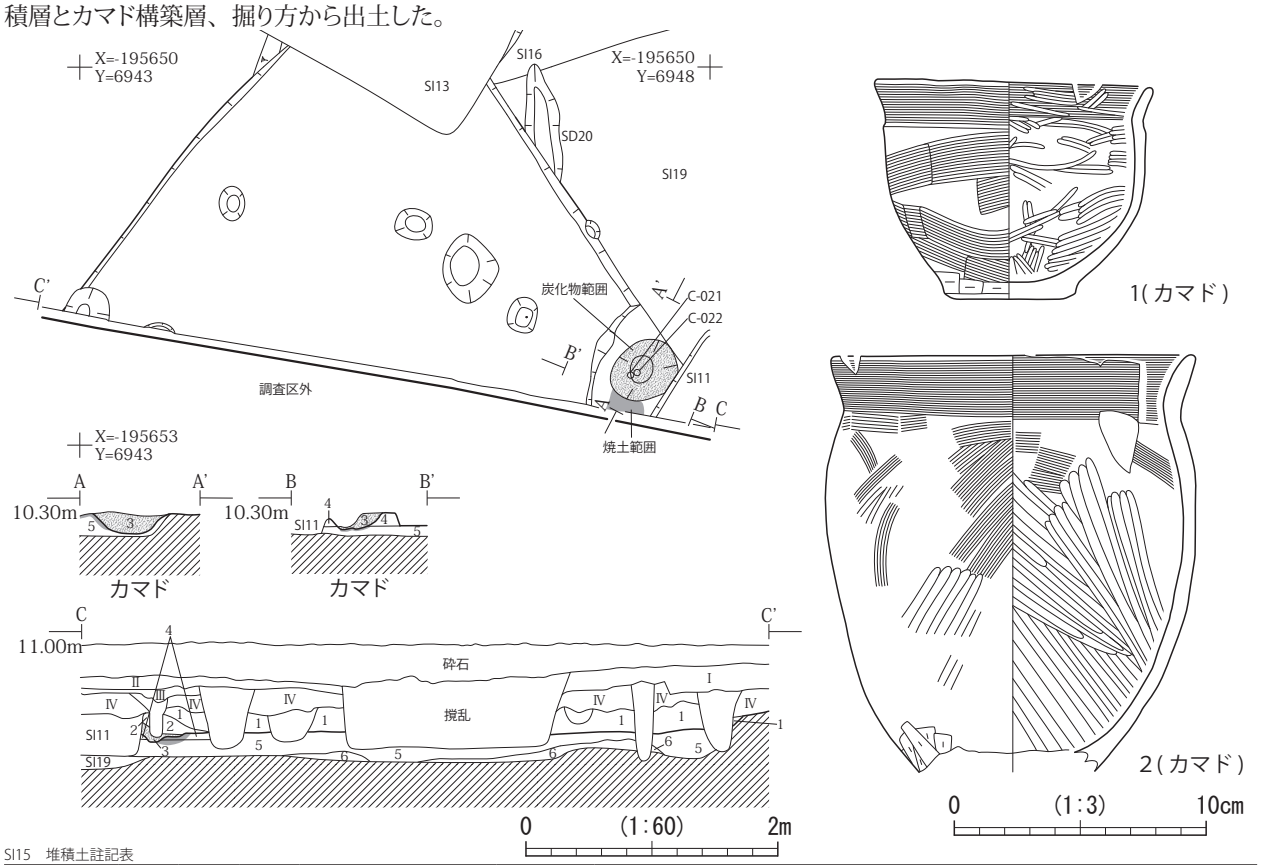
埋土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、残存の良い部分で0.20mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.20mを測り、底面は平坦である。

〔カマド〕　北東壁に位置する。燃焼部と燃焼部を囲う構築土、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部を囲う構築土は粘土で造られている。燃焼部と構築土の内側は、被熱により赤変している。

〔出土遺物〕　土師器鉢(第59図1)、甕(第59図2)が、カマド内から出土した。このほか、土師器と須恵器の破片が堆積層とカマド構築層、掘り方から出土した。



SI15　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(2.65)×(2.60)	0.20	方形	1	10YR4/6	褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。【住居内堆積土】
			2	10YR4/6	褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを少し、炭化物・焼土を含む。【カマド内堆積土】
			3	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物・焼土を多く含む。【カマド内堆積土】
			4	10YR6/8	明黄褐色	粘土質シルト	ほぼ均質な層。炭化物を僅かに含む。【カマド構築土】
			5	10YR4/6	褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを斑に多く、炭化物を僅かに含む。【掘り方埋土】
			6	10YR5/6	黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを斑に多く含む。【掘り方埋土】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-022	Ⅳ区	SI15	カマド	土師器	鉢	口縁部～底部	11.1	5.2	8.7	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		14-10
2	C-021	Ⅳ区	SI15	カマド	土師器	甕	口縁部～底部	14.4	-	(16.5)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部下端:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ		14-11

第59図　SI15竪穴住居跡・出土遺物

SI16　竪穴住居跡(第60・61図、写真図版7)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、D3・4、E3グリッドに位置する。SI13・15・19、SD20と重複し、SI19より新しく、SI13・15、SD20より古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、南東壁が4.40m以上、北東壁は1.90m以上を測る。カマド南袖の方向は、N-68°-Eである。

〔堆積層〕　11層に分層した。1～4層は住居内堆積土、5・6層はカマド内堆積土、7層は間仕切溝内堆積土、8層カマド構築土、9～11層は掘り方埋土である。

〔床と壁〕　９層上面の一部、および11層上面を床としている。K-１の周囲が一段高くなっている他は、ほぼ平坦である。残存する床の大部分で、厚さ2㎝ほどの炭火物層(４層)が堆積していた。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、最大0.16ｍを測る。炭化物層の分布状況と遺物の出土状況をふまえると、焼失住居と考えられる。

〔掘り方〕　深さは最大0.25ｍを測り、底面は平坦で、床全体へ均等に分布する。

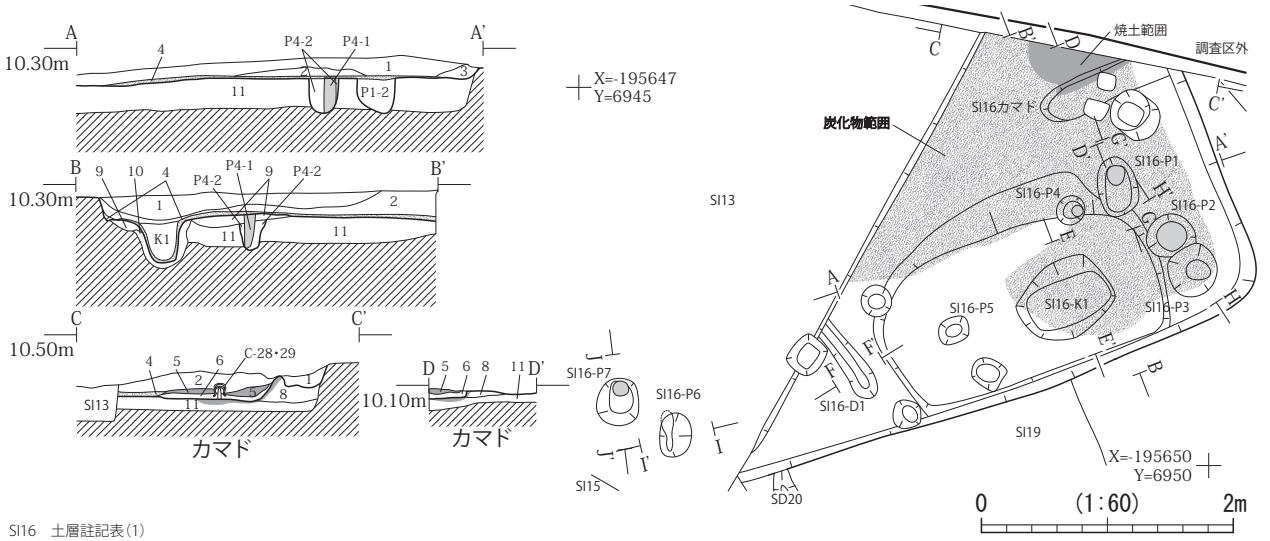
〔カマド〕　北東壁に位置する。燃焼部と燃焼部を囲う構築土、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部を囲う構築土は粘土で造られている。奥壁と側壁は、底からほぼ直立する急な角度で立ち上がる。燃焼部と構築土の内側は、被熱で赤変している。燃焼部のほぼ中央に土製の支脚が据えられていた。

〔溝跡〕　１条(D１)を確認した。住居南側に位置し、長さ0.98ｍ以上、幅0.20ｍ、深さ0.07ｍを測る。位置から、間仕切溝と考えられる。

〔土坑〕　１基(K１)を確認した。住居南東に位置し、平面形は不整形で、長軸0.72ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.48ｍを測る。底と壁にはにぶい黄褐色粘土を貼り付けている。また、土坑上端の外縁にもにぶい黄褐色粘土が堤状に貼り付けられ、土坑周辺が床よりも一段高く築かれている。貼り付けられた粘土の厚さは、0.10～0.15ｍ程である。土坑の底には、住居床を覆っていた炭化物層(４層)が堆積し、住居機能時に土坑は開口していたと考えられる。

〔ピット〕　７基(P１～７)を確認した。P１・２・４・７は丸柱痕跡、P７は柱切取穴、P５・６は柱抜取穴をもつ。柱掘り方は、平面形は方形ないし円形を基調とし、長軸0.24～0.45ｍ、短軸0.18～0.36ｍを測る。このうちP４の柱掘り方は、K-１の周囲から延びる粘土が覆い、柱痕跡だけを粘土上面から確認した。P１・７は位置と規模から主柱穴である。P2、P6についても、その位置と規模から、より古い時期の主柱穴の可能性がある。

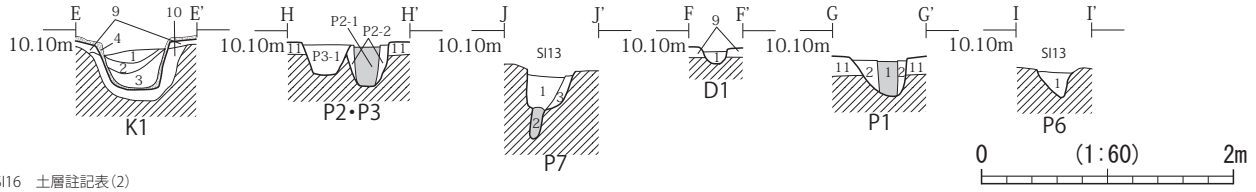
〔出土遺物〕　土師器坏５点(第61図１～５)が床から、坏２点(第61図６・７)がカマド内から出土している。カマドから出土した坏は、いずれも土製支脚の上に逆位で覆い重ねられていた。このほか、土師器と弥生土器の破片が、堆積層、掘り方、P１～３・７の１層から出土した。図示した土師器坏７点は、住居の年代を示すものである。



SI16　土層註記表(1)

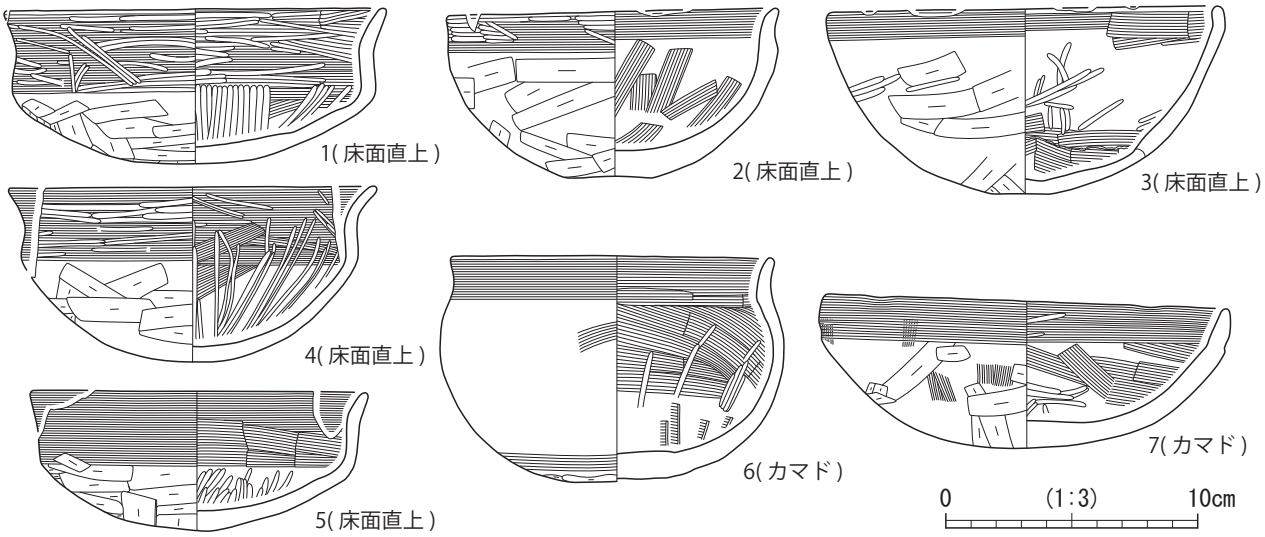
規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(4.40)×(1.90)	0.16	方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少し、炭化物を僅かに含む。【住居内堆積土】
			2	10YR4/6	褐色	シルト	暗褐色シルト粒を少し、炭化物を僅かに含む。【住居内堆積土】
			3	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを多く含む。【住居内堆積土】
			4	10YR3/2	黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・焼土ブロックを少し含む。炭化物層【住居内堆積土】
			5	5YR5/8	明赤褐色	シルト	部分的に被熱による赤変及び硬化している。【カマド内堆積土】
			6	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少し含む。【カマド内堆積土】
			7	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを少し含む。【間仕切溝内堆積土】
			8	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを多く含む。【カマド構築土】
			9	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト・にぶい黄橙色粘土を少し含む。【掘り方埋土】
			10	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。【掘り方埋土】
			11	10YR5/6	黄褐色	シルト	にぶい黄橙色ブロック・暗褐色シルトを斑に多く含む。【掘り方埋土】
0.45×0.30	0.32	楕円形	P1-1	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡】
			P1-2	10YR4/4	褐色	シルト	黒色シルトを少し、炭化物・焼土粒を含む。【柱掘り方】

第60図　SI16竪穴住居跡(1)



SI16　土層註記表(2)

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
0.36×0.30	0.35	楕円形	P2-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡】
			P2-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱掘り方】
0.36×0.36	0.24	円形	P3-1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	灰白色シルトブロックを少し、炭化物粒を僅かに含む。【柱抜取穴】
0.24×0.20	0.30	円形	P4-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを少し含む。【柱痕跡】
			P4-2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。【柱掘り方】
0.24×0.18	0.33	隅丸方形	P5-1	10YR4/4	褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。【柱抜取穴】
0.33×0.24	0.22	楕円形	P6-1	10YR3/1	黒褐色	シルト	暗褐色シルト・にぶい黄褐色シルトを少し含む。締り弱い。【柱抜取穴】
0.36×0.30	0.54	不整形	P7-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。締り弱い。【柱切取穴】
			P7-2	10YR3/1	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。【柱痕跡】
			P7-3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを斑に多く含む。【柱掘り方】
(0.98)×0.20	0.07	-	D1-1	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを少し含む。【間仕切溝内堆積土】
0.72×0.60	0.48	不整形	K1-1	10YR4/6	褐色	シルト	暗褐色シルト粒を少し、炭化物を僅かに含む。【住居内堆積土】
			K1-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を多く、にぶい黄褐色シルト・焼土粒を少し含む。【住居内堆積土】
			K1-3	10YR3/2	黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを少し含む。【住居内堆積土】
			K1-4	10YR3/2	黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・焼土ブロックを少し含む。炭化物層。【住居内堆積土】



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-023	Ⅳ区	SI16	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	15.1	-	6.1	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ		15-1
2	C-024	Ⅳ区	SI16	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	13.2	3.3	6.7	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		15-2
3	C-025	Ⅳ区	SI16	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	15.8	2.2	7.4	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		15-3
4	C-026	Ⅳ区	SI16	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	14.6	-	6.9	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部:放射状暗紋		15-4
5	C-027	Ⅳ区	SI16	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	13.4	-	5.6	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ体部～底部:ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ		15-5
6	C-028	Ⅳ区	SI16	カマド	土師器	坏	口縁部～底部	12.6	3.4	9.0	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、体部:ﾅﾃﾞ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ		15-6
7	C-029	Ⅳ区	SI16	カマド	土師器	坏	口縁部～底部	16.1	-	6.2	口縁部:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ、体部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ		15-7

第61図　SI16竪穴住居跡(2)・出土遺物

SI17　竪穴住居跡(第62図、写真図版8)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、M3・4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、南壁が0.63m以上、西壁は3.72m以上を測る。西壁の方向は、N-17°-Eである。

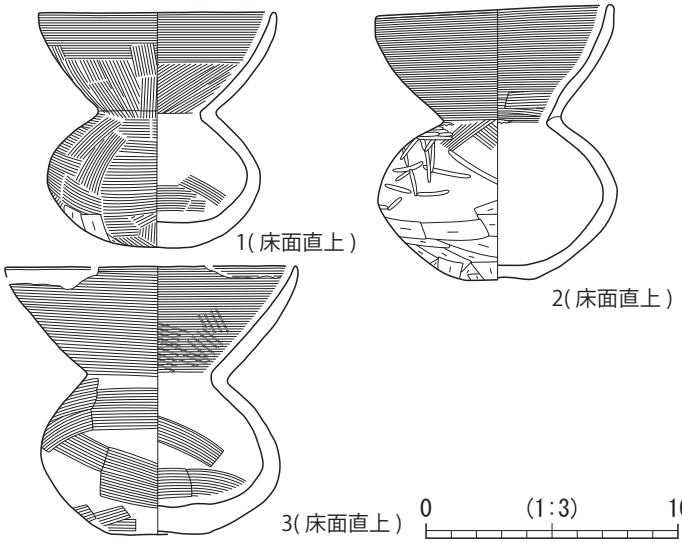
〔堆積層〕　5層に分層した。1～3層は住居内堆積土、4層は周溝内堆積土、5層は掘り方埋土である。

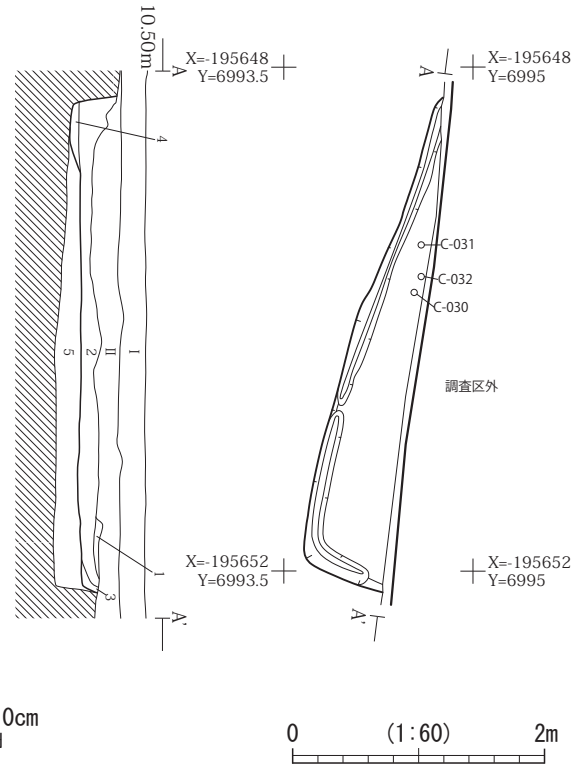
〔床、壁、周溝〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、最大0.22mを測る。周溝は南壁と

西辺で確認された。幅0.20m、深さ0.22mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.19m測り、底面は平坦である。

〔出土遺物〕　土師器小型壺3点(第62図1～3)が、床からまとまった状態で出土した。このほか土師器と弥生土器の破片が、堆積土と掘り方から出土している。





SI17　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(0.63)×(3.72)	0.22	方形	1	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物を多く含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを多く含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【周溝内堆積土】
			5	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを斑に多く、暗褐色シルトを少し含む。人為堆積層。【掘り方埋土】

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-030	Ⅲ区	SI17	床面直上	土師器	小型壺	完形	9.4	-	9.3	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ 胴部:ﾅﾃﾞ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 胴部:ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部:粘土紐巻き上げ痕		15-8
2	C-031	Ⅲ区	SI17	床面直上	土師器	小型壺	完形	9.5	2.8	10.9	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半:ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部下半～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ		15-9
3	C-032	Ⅲ区	SI17	床面直上	土師器	小型壺	完形	11.1	4.0	10.6	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ		15-10

第62図　SI17竪穴住居跡・出土遺物

SI19　竪穴住居跡(第63・64図、写真図版8)

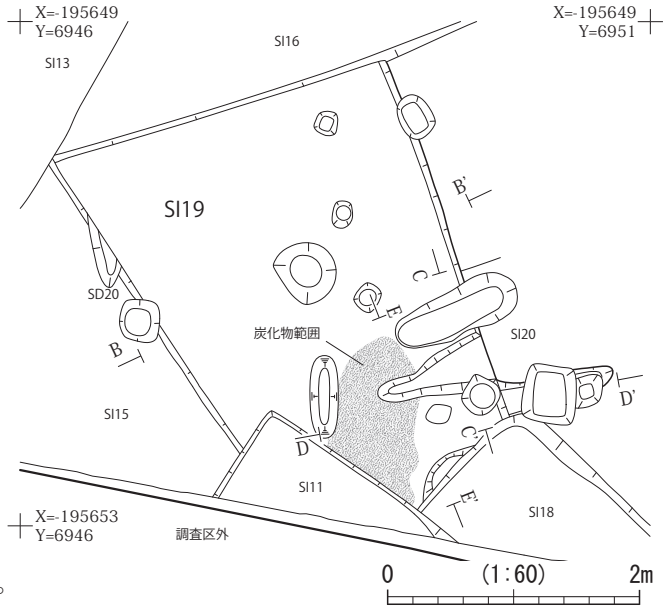
〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、D3・4グリッドに位置する。SI11・15・16・18・20、SD20と重複し、SI20よりも新しく、SI11・15・16・18、SD20より古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北壁が2.70m以上、東壁が3.00m以上を測る。カマドの中軸線は、N-72°-Eである。

〔堆積層〕　6層に分層した。1～3層は住居内堆積土、4層は煙道内堆積土、5層はカマド構築土、6層は掘り方埋土である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、残存の良い部分で0.15mを測る。

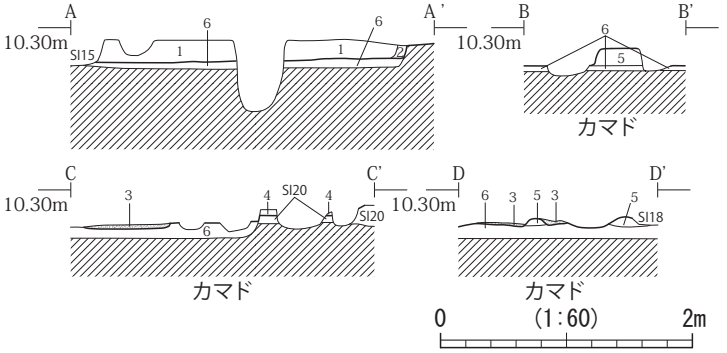
〔掘り方〕　深さは最大0.05m測り、底面は平坦である。



第63図　SI19竪穴住居跡(1)

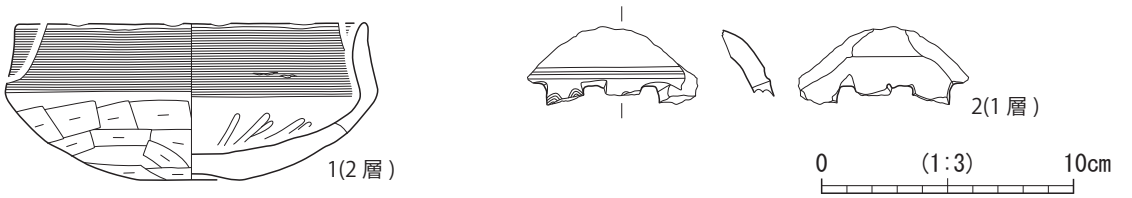
〔カマド〕　東壁に位置する。長さ0.90mの煙道と燃焼部、燃焼部の囲い、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部の囲いは粘土で造られている。燃焼部とその囲いの内側は、被熱により赤変している。

〔出土遺物〕　土師器と須恵器、弥生土器の破片が、堆積土とカマド構築土、掘り方埋土から出土している。このうち、土師器坏(第64図1)、須恵器瑞(第64図2)を図示した。



SI19　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(2.70)×(3.00)	0.15	方形	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄を多く斑に、暗褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	炭化物を僅かに含む。壁崩落土。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物層。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト粒を少し含む。人為堆積層。【煙道内堆積土】
			5	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック・酸化鉄粒を少し含む。人為堆積層。【カマド構築土】
			6	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・酸化鉄粒を少し含む。人為堆積層。【掘り方埋土】



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-034	Ⅳ区	SI19	2層	土師器	坏	口縁部～底部	(14.0)	4.0	6.2	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面摩滅顕著	15-11
2	E-001	Ⅳ区	SI19	1層	須恵器	瑞	肩部	-	-	(2.6)	沈線　櫛描き波状文	-	二重ﾊﾂｳ、窓の部分周辺。	15-12

第64図　SI19竪穴住居跡(2)・出土遺物

SI20　竪穴住居跡(第65図、写真図版8)

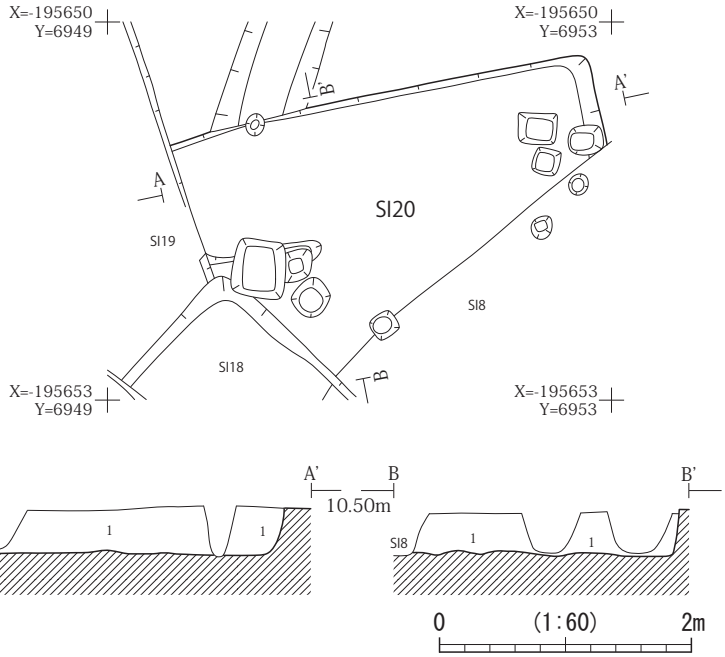
〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、D4・E4グリッドに位置する。SI8・18・19と重複し、これらより古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北壁が3.38m以上、東壁が0.78m以上を測る。北壁は、N-79°-Eである。

〔堆積層〕　住居内堆積土の単層である。

〔床と壁〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、残存の良い部分で0.20mを測る。

〔出土遺物〕　土師器と弥生土器の破片が、堆積土から出土している。



SI20　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(3.38)×(0.78)	0.20	方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を少し、酸化鉄粒を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】

第65図　SI20竪穴住居跡

SI21　竪穴住居跡(第66図、写真図版9)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、M3グリッドに位置する。SI6と重複し、これより古い。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北東壁が0.96m以上、南東壁が2.76m以上を測る。南東壁の方向は、N-37°-Eである。

〔堆積層〕　6層に分層した。1～3層は住居内堆積土、4層は周溝内堆積土、5・6層は掘り方埋土である。

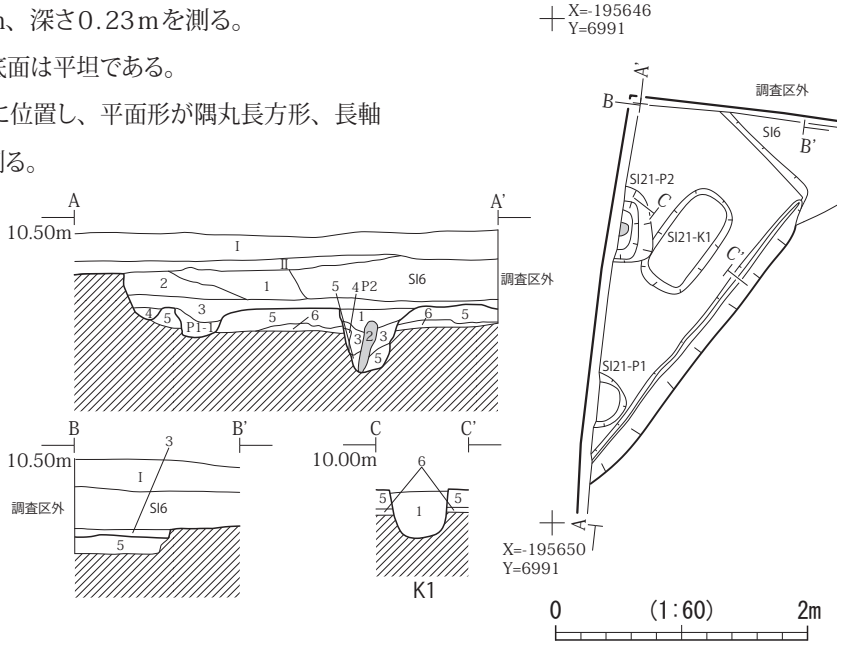
〔床、壁、周溝〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からやや垂直に立ち上がり、残存の良い部分で0.23mを測る。周溝は南東辺で確認された。幅0.10m、深さ0.23mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.15mを測り、底面は平坦である。

〔土坑〕　1基(K1)を確認した。住居東に位置し、平面形が隅丸長方形、長軸0.88m、短軸0.46m、深さ0.39mを測る。

〔ピット〕　2基(P1・2)を確認した。P2は丸柱痕跡をもつ。柱掘り方の平面形は方形を基調とし、長軸0.45m以上、短軸0.13m以上を測る。P1は平面形は円形を基調とし、長軸0.42m以上、短軸0.21m以上を測る。

〔出土遺物〕　土師器と弥生土器の破片、剥片石器が、堆積土と掘り方埋土から出土している。



SI21　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(0.96)×(2.76)	0.23	方形	1	10YR5/6	黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルト・炭化物粒を少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR3/4	暗褐色	シルト	明赤褐色シルトを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	黄褐色シルト・炭化物粒を少し含む。【周溝内堆積土】
			5	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトを斑に多く含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
			6	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトを斑に多く含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
(0.42)×(0.21)	0.19	楕円形	P1-1	10YR4/6	褐色	シルト	明赤褐色シルトを多く含む。【柱抜取穴】
(0.45)×(0.13)	0.68	隅丸方形	P2-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトを少し含む。【柱切取穴】
			P2-2	10YR4/4	褐色	シルト	全体に炭化物粒を含む。【柱痕跡】
			P2-3	10YR4/4	褐色	シルト	黄褐色シルトを斑に多く、炭化物を僅かに含む。【柱掘り方】
			P2-4	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトを斑に多く含む。【柱掘り方】
			P2-5	10YR4/6	褐色	シルト	黄褐色シルトを斑に多く含む。【柱掘り方】
0.88×0.46	0.39	隅丸長方形	K1-1	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】

第66図　SI21竪穴住居跡

SI22　竪穴住居跡(第67～69図、写真図版9)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、L4・5、M4・5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とする。南壁が4.56m、西壁が4.45mを測る。カマドの中軸線は、N-72°-Eである。

〔堆積層〕　11層に分層した。1～5層は住居内堆積土、6層は周溝内堆積土、7・8層はカマド内堆積土、9・10層はカマド構築土、11層は掘り方埋土である。

〔床、壁、周溝〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からほぼ直立に立ち上がり、残存の良い部分で0.21mを測る。周溝は西壁と南壁の一部で確認された。幅0.15m、深さ0.21mを測る。

〔掘り方〕　深さは最大0.25m測り、底面は平坦である。

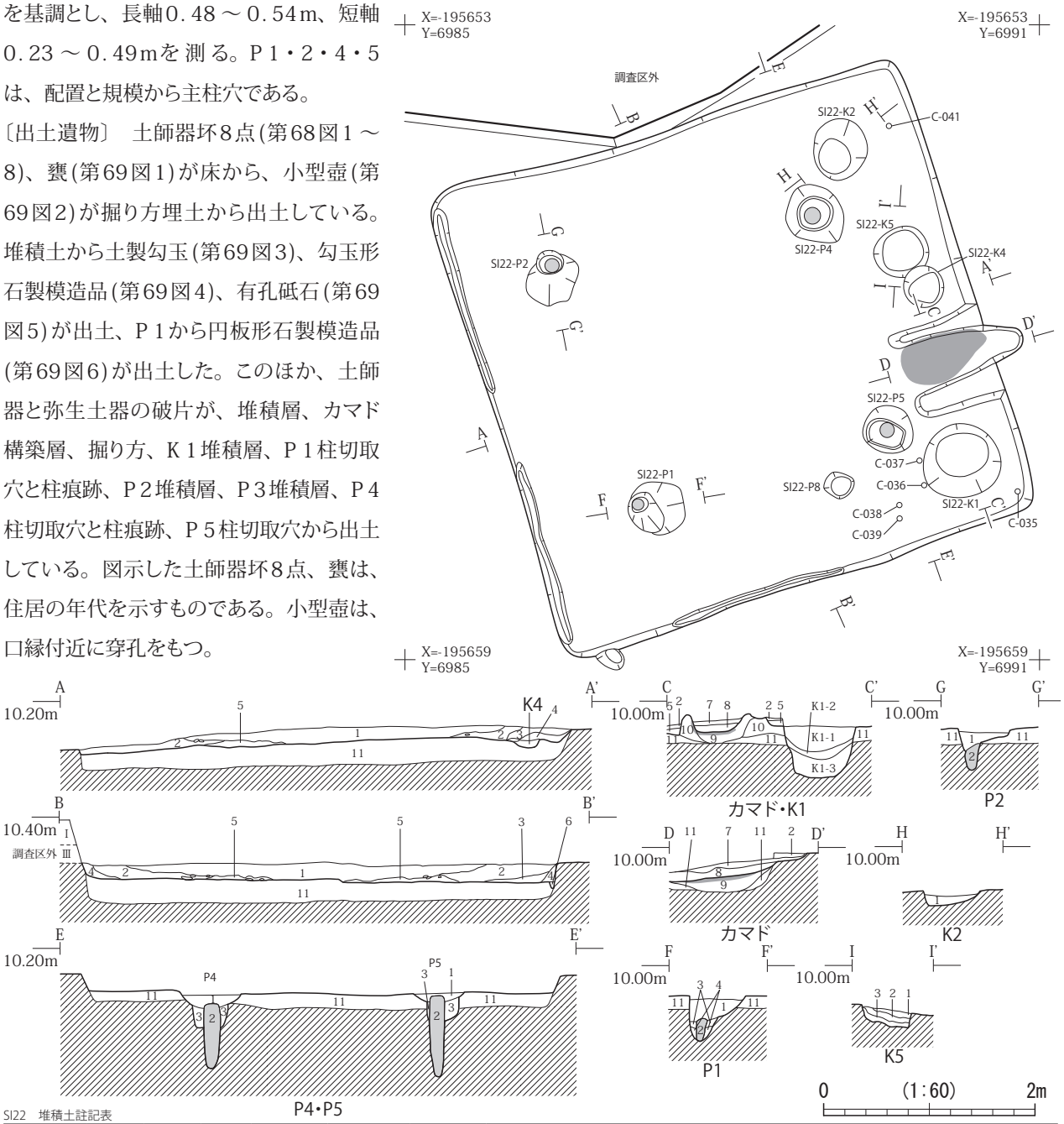
〔カマド〕　東壁に位置する。長さ0.35mの煙道と燃焼部、燃焼部の囲い、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部の囲いは粘土で構築している。燃焼部は、被熱により赤変している。

〔土坑〕　4基(K1・2・4・5)を確認した。住居東に位置し、平面形は円形を基調とし、長軸0.36～0.72m、短軸

0.36 ～ 0.66m、深さ0.12 ～ 0.51mを測る。

〔ピット〕 5基(P1・2・4・5・8)を確認した。P1・2・4・5は丸柱痕跡と柱切取穴をもつ。柱掘り方は、平面方形を基調とし、長軸0.48 ～ 0.54m、短軸0.23 ～ 0.49mを測る。P1・2・4・5は、配置と規模から主柱穴である。

〔出土遺物〕 土師器坏8点(第68図1～8)、甕(第69図1)が床から、小型壺(第69図2)が掘り方埋土から出土している。堆積土から土製勾玉(第69図3)、勾玉形石製模造品(第69図4)、有孔砥石(第69図5)が出土、P1から円板形石製模造品(第69図6)が出土した。このほか、土師器と弥生土器の破片が、堆積層、カマド構築層、掘り方、K1堆積層、P1柱切取穴と柱痕跡、P2堆積層、P3堆積層、P4柱切取穴と柱痕跡、P5柱切取穴から出土している。図示した土師器坏8点、甕は、住居の年代を示すものである。小型壺は、口縁付近に穿孔をもつ。



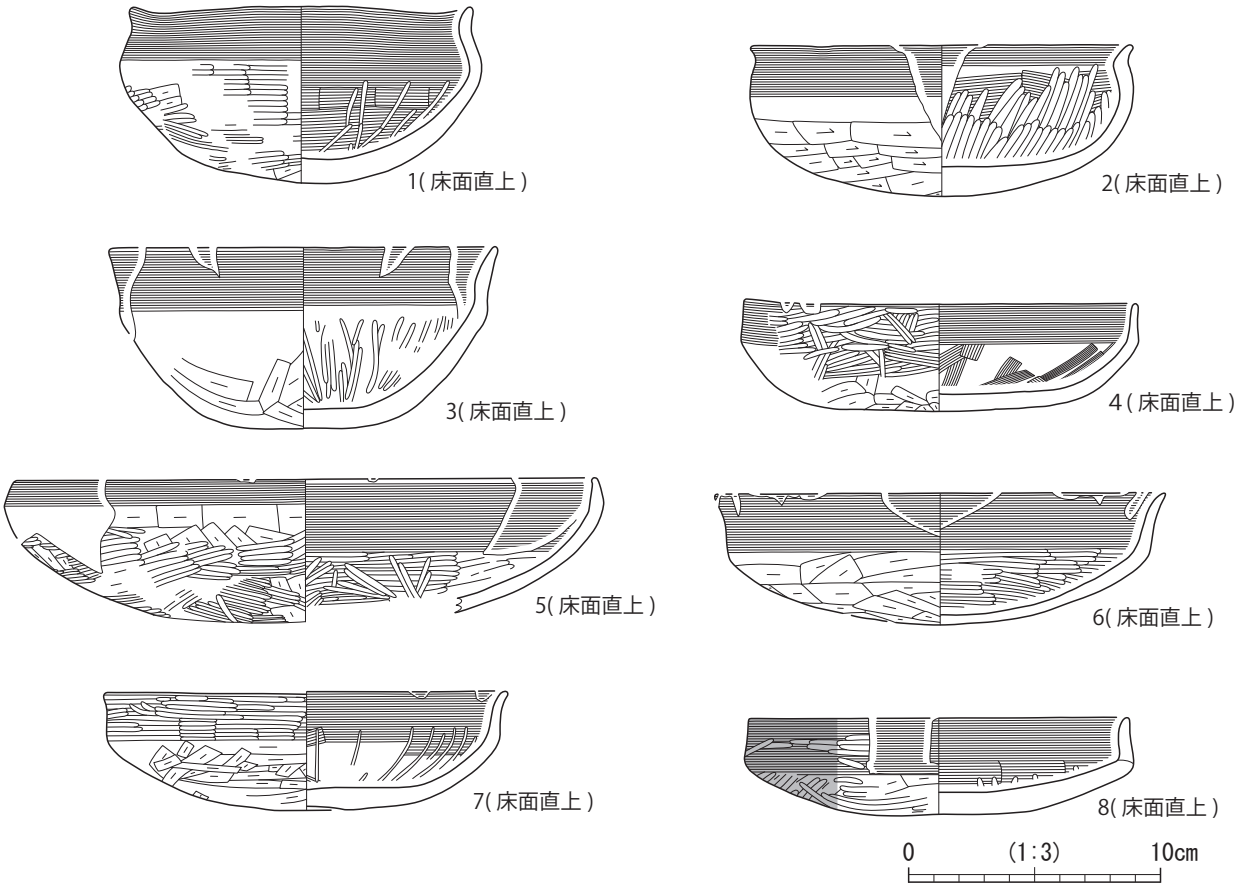
SI22　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
4.56×4.45	0.21	方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	暗褐色シルト・にぶい黄褐色シルトを斑に、炭化物・焼土粒を少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR4/6	褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			5	10YR2/3	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を少し含む。炭化物層。自然堆積層。【住居内堆積土】
			6	10YR3/4	暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【周溝内堆積土】
			7	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少し含む。【カマド内堆積土】
			8	10YR4/6	褐色	シルト	炭化物を少し含む。【カマド内堆積土】
			9	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少し含む。人為堆積層。【カマド構築土】
			10	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを少し含む。人為堆積層。【カマド構築土】
			11	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を少し含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
0.54×0.49	0.44	不整形	P1-1	10YR4/6	褐色	シルト	炭化物を少し含む。【柱切取穴】
			P1-2	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物を少し含む。にぶい黄褐色シルトを含む。【柱痕跡】
			P1-3	10YR5/6	黄褐色	シルト	炭化物を少し含む。にぶい黄褐色シルトを含む。【柱掘り方】
			P1-4	10YR4/6	褐色	シルト	炭化物を少し含む。にぶい黄褐色シルトを含む。【柱掘り方】

第67図　SI22竪穴住居跡

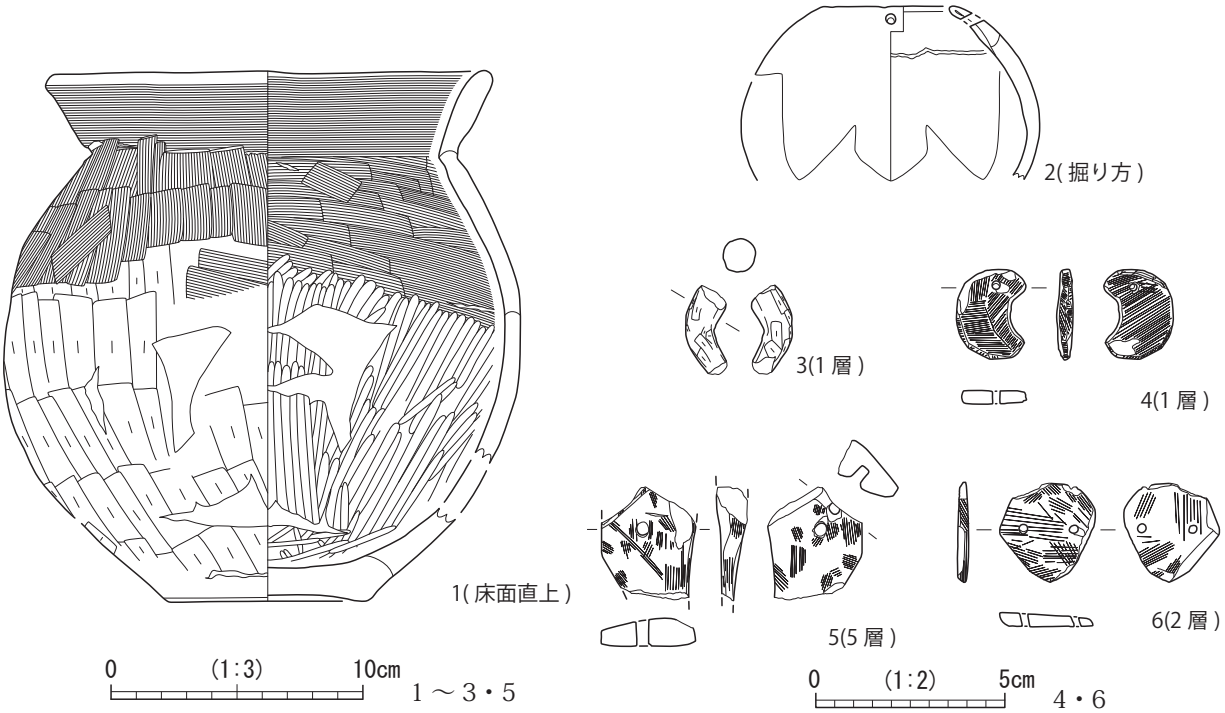
SI22　堆積土註記表(2)

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
0.48×0.42	0.40	不整形	P2-1	10YR5/6	黄褐色	シルト	炭化物を少し含む。【柱切取穴】
			P2-2	10YR3/4	暗褐色	シルト	全体に炭化物を含む。【柱痕跡】
0.48×0.42	0.72	不整形	P4-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱切取穴】
			P4-2	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡】
			P4-3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを含む。【柱掘り方】
0.48×0.42	0.81	隅丸方形	P5-1	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを含む。【柱切取穴】
			P5-2	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。【柱痕跡】
			P5-3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを含む。【柱掘り方】
0.24×0.23	0.22	隅丸方形	P8-1	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物を少し含む。自然堆積層。【柱抜取穴】
0.72×0.66	0.51	円形	K1-1	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土粒を少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
			K1-2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物・焼土粒を少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
			K1-3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物を少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
0.56×0.49	0.14	楕円形	K2	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトを含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
0.36×0.36	0.12	円形	K4-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黒褐色シルト・炭化物・焼土粒を少し含む。【柱抜取穴】
0.50×0.45	0.25	不整形	K5-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。【柱抜取穴】
			K5-2	10YR4/4	褐色	シルト	黒褐色シルト粒・炭化物を少し含む。自然堆積層。【柱抜取穴】
			K5-3	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物を少し含む。自然堆積層。【柱抜取穴】



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-036	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	(13.6)	-	7.0	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾅﾃﾞ →ﾖｺﾅﾃﾞ →放射状暗紋	内面一部剥落 外面剥落顕著	16-1
2	C-037	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	(15.1)	-	6.0	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		16-2
3	C-038	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	(15.4)	-	7.2	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		16-3
4	C-039	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	完形	15.7	-	4.5	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	内外面剥落	16-4
5	C-040	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	口縁部～体部	(23.1)	-	(5.4)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ体部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部～体部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		16-5
6	C-041	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	17.8	-	5.2	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面やや摩滅 一部剥落	16-6
7	C-042	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	ほぼ完形	16.0	3.0	4.7	口縁部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ		16-7
8	C-043	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	坏	ほぼ完形	(15.0)	-	3.8	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾅﾃﾞ →放射状暗紋	外面黒色処理	16-8

第68図　SI22竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-035	Ⅲ区	SI22	床面直上	土師器	甕	口縁部～底部	(17.7)	7.8	(21.0)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ケズリ甕　外面やや摩滅	16-9
2	C-044	Ⅲ区	SI22	掘り方	土師器	小型壺	口縁部～胴部	(5.2)	-	6.9	-	-	内外面摩滅顕著　口縁部付近焼成前穿孔一箇所	16-10

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	備考	写真図版
3	P-001	Ⅲ区	SI22	1層	土製品	勾玉	3.5	-	1.3	7.02	頭部欠損　ﾍﾗｹｽﾞﾘ	16-11

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
4	Kd-025	Ⅲ区	SI22	1層	石製品	石製模造品	2.4	1.7	0.4	2.74	緑泥片岩	勾玉形	16-12
5	Kd-026	Ⅲ区	SI22	5層	石製品	砥石	(4.4)	(3.7)	(1.2)	(19.27)	凝灰岩	提砥　穿孔部2箇所	16-13
6	Kd-015	Ⅲ区	SI22-P1	2層	石製品	石製模造品	2.6	2.5	0.35	2.73	粘板岩	円板形	16-14

第69図　SI22竪穴住居跡出土遺物(2)

SI23　竪穴住居跡(第70・71図、写真図版9)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、L6グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、北壁が0.78m以上、東壁が2.55m以上を測る。カマドの中軸線は、N-66°-Eである。

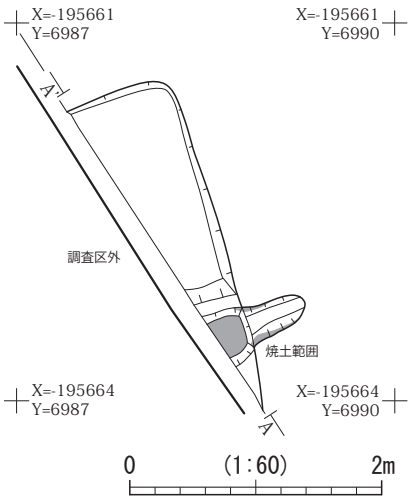
〔堆積層〕　9層に分層した。1～4層は住居内堆積土、5~7層はカマド内堆積土、8層はカマド構築土、9層は掘り方埋土である。

〔床、壁、周溝〕　床は、ほぼ平坦である。壁は、床からほぼ直立に立ち上がり、残存が良い部分で0.15mを測る。

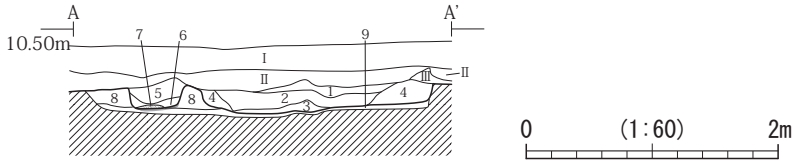
〔掘り方〕　深さは最大0.07m測り、底面は平坦である。

〔カマド〕　北東壁に位置する。長さ0.50mの煙道と燃焼部、燃焼部の囲い、カマド使用に際し堆積した炭化物層を確認した。燃焼部の囲いは粘土で構築している。燃焼部は、被熱により赤変している。

〔出土遺物〕　土師器と弥生土器の破片が、堆積土、カマド構築土、掘り方埋土から出土した。



第70図　SI23竪穴住居跡(1)



SI23　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(0.78)×(2.55)	0.15	方形	1	10YR4/6	褐色	シルト	暗褐色シルトを少し、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			2	10YR4/4	褐色	シルト	暗褐色シルトを少し、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			3	10YR3/3	暗褐色	シルト	暗褐色シルト・炭化物を少し含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			4	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。自然堆積層。【住居内堆積土】
			5	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。カマド天井崩落土。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			6	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を多く、褐色シルト・焼土粒を少し含む。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			7	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物層。自然堆積層。【カマド内堆積土】
			8	10YR4/4	褐色	シルト	均質な層。自然堆積層。【カマド構築土】
			9	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトを少し、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。【掘り方埋土】

第71図　SI23竪穴住居跡(2)

SI24　竪穴住居跡(第72・73図、写真図版9)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の中央付近、L10・11グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、規模、方向〕　平面形は方形を基調とし、東壁が4.35m以上、南壁が1.39m以上を測る。東壁の方向は、N-7°-Eである。

〔堆積層〕　2層に分層した。いずれも掘り方埋土である。

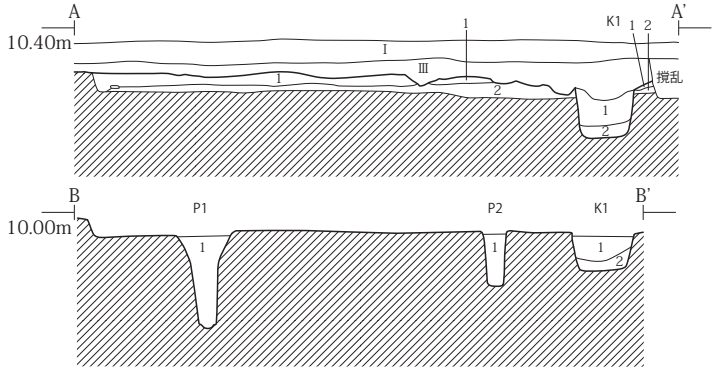
〔床と壁〕　床と壁は、残存していない。

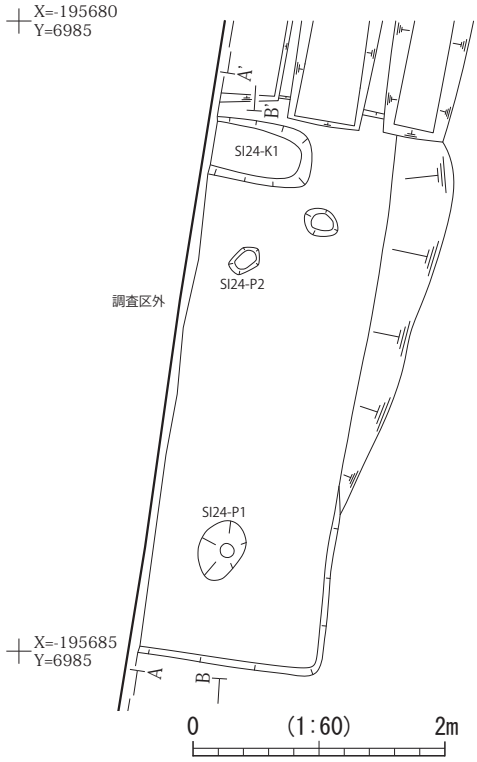
〔掘り方〕　深さは最大0.15mを測り、底面は平坦である。

〔土坑〕　1基(K1)を確認した。住居北に位置し、平面形は隅丸長方形で、長軸0.81m以上、短軸0.48m、深さ0.41mを測る。堆積層は自然堆積である。

〔ピット〕　2基(P1・2)を確認した。いずれも柱抜取穴で、その位置と規模から主柱穴と考えられる。

〔出土遺物〕　土師器坏(第73図1)、甑(第73図2)、甕(第73図3)が、K1-堆積層で折り重なり、まとまって出土した。このほか、土師器と弥生土器の破片が、掘り方、P2堆積層から出土した。図示した土師器坏と甕、甑は、K1に流れ込んだもので、本来床に残されていた可能性が考えられる。その場合、住居の年代を示す資料となる。

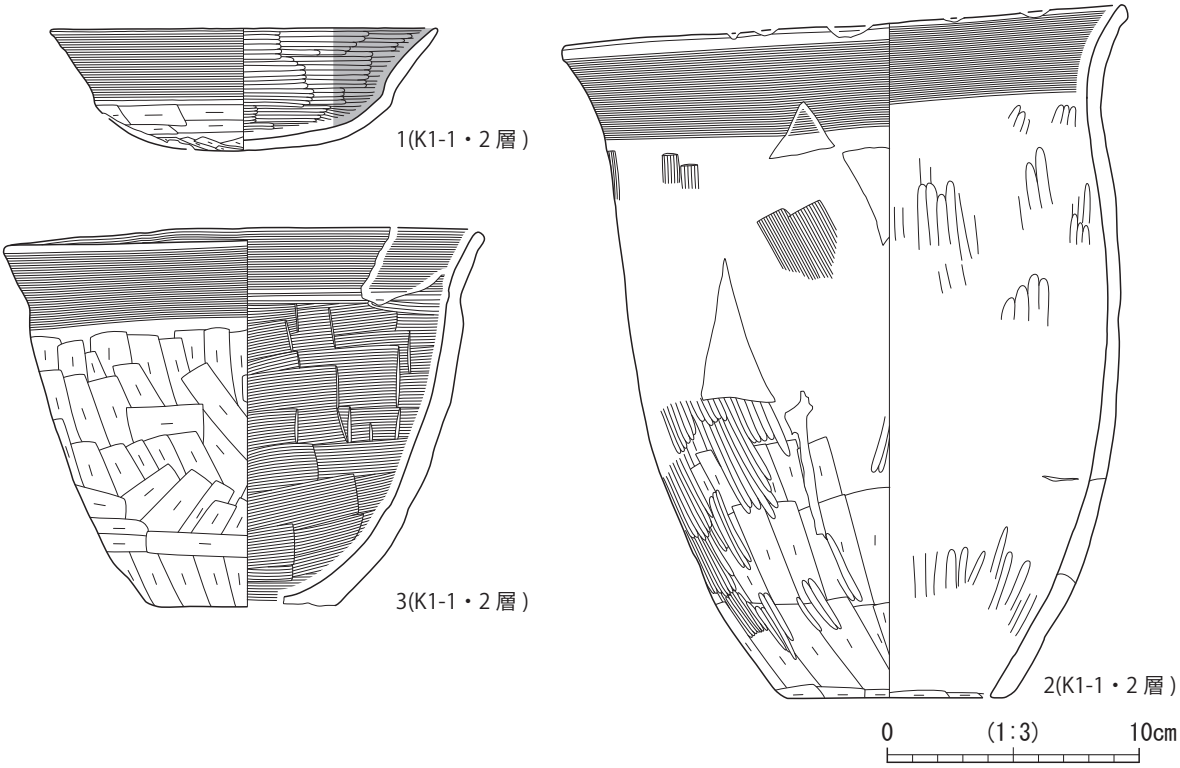




SI24　堆積土註記表

規模(m)	深さ(m)	平面形	層位	土色		土性	備考
(4.35)×(1.39)	0.15	方形	1	10YR2/3	黒褐色	シルト	黄褐色シルト粒を全体に含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
			2	10YR5/6	黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。【掘り方埋土】
(0.81)×0.48	0.41	隅丸長方形	K1-1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	黄褐色シルトブロック少し、炭化物・焼土粒を僅かに含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
			K1-2	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	暗オリーブ褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【住居内土坑堆積土】
0.25×0.15	0.76	楕円形	P1-1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。締り弱い。【柱抜取穴】
0.48×0.30	0.46	楕円形	P2-1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。締り弱い。【柱抜取穴】

第72図　SI24竪穴住居跡



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-045	Ⅲ区	SI24	K1-1・2層	土師器	坏	口縁部～底部	15.4	-	4.8	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	有段坏　内面黒色処理	17-1
2	C-046	Ⅲ区	SI24	K1-1・2層	土師器	甑	口縁部～底部	22.2	8.6	26.7	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、孔:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、孔:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	単孔　内外面摩滅顕著	17-2
3	C-047	Ⅲ区	SI24	K1-1・2層	土師器	甕	口縁部～底部	19.0	7.0	15.0	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	ケズリ甕	17-3

第73図　SI24竪穴住居跡出土遺物

2. 溝跡(第35～38図)

SD13　溝跡(第74図、写真図版10)

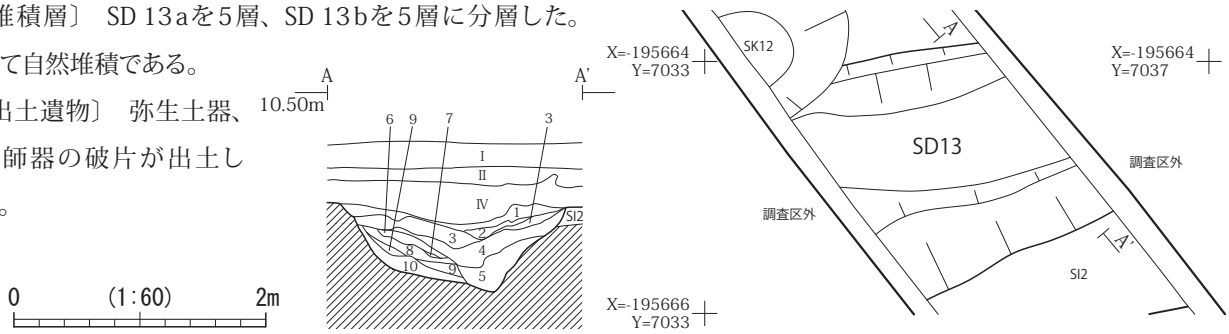
〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央付近、U6・7、V6・7グリッドに位置する。SI2、SK12と重複し、SI2より新しく、SK12より古い。

〔変遷〕　断面の観察から2時期の変遷(SD13a→SD13b)がある。

〔断面形、規模、方向〕　SD13aの断面形は上端が広がるV字形を呈する。上端幅1.71～1.97m以上、下端幅0.45m以上、長さ2.00m以上、深さ0.75mを測る。方向は、N-61°-Eである。SD13bの断面形は逆台形を呈すると考えられる。上端幅0.95m以上、下端幅0.70m以上、長さ2.00m以上、深さ0.47mを測る。SD13bの方向はSD13aと同じと類推している。これら溝跡の底面は、西から東に向かい低くなる。

〔堆積層〕　SD13aを5層、SD13bを5層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片が出土した。



第74図　SD13溝跡

SD13　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m)				層位	土色		土性	備考
				全長	上幅	下幅	深さ					
SD13a	Ⅰ区	U・V-6・7	N-61°-E	(2.00)	(1.71)~(1.97)	(0.45)	0.75	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・にぶい黄橙色シルトを多く、炭化物を少し含む。自然堆積層。【SD13a-1】
								2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・にぶい黄橙色シルトを多く、炭化物を少し含む。自然堆積層。【SD13a-2】
								3	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・酸化鉄を少し含む。自然堆積層。【SD13a-3】
								4	10YR3/2	黒褐色	シルト	部分的に炭化物を多く、酸化鉄を斑に多く、にぶい黄橙色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。【SD13a-4】
								5	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	酸化鉄を多く、にぶい黄褐色砂質シルトブロックを含む。自然堆積層。【SD13a-5】
SD13b	-	-	-	(2.00)	(0.95)	(0.70)	0.47	6	10YR2/2	黒褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを斑に少し、炭化物を少し含む。自然堆積層。【SD13b-1】
								7	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	自然堆積層。【SD13b-2】
								8	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック・酸化鉄を少し含む。自然堆積層。【SD13b-3】
								9	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	自然堆積層。【SD13b-4】
								10	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトとの互層状堆積。自然堆積層。【SD13b-5】

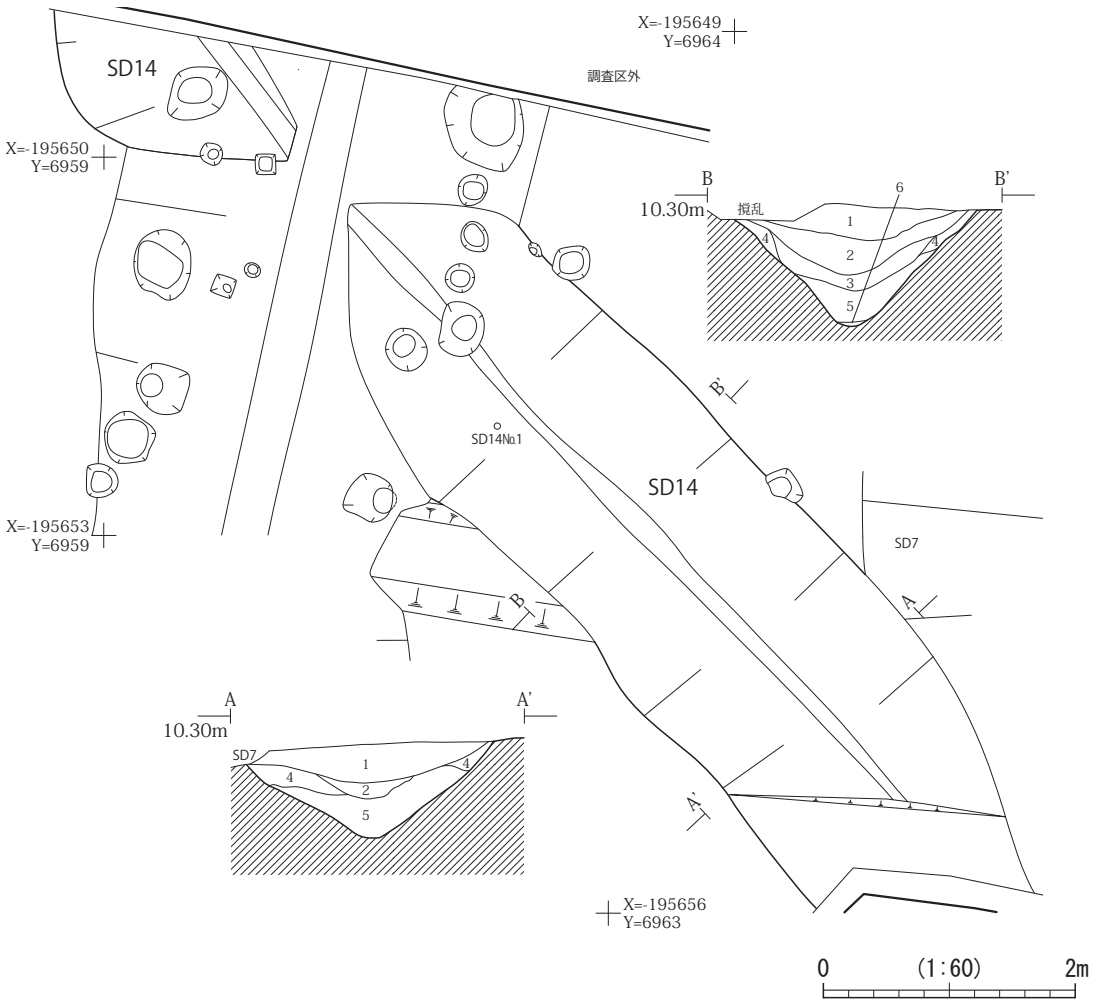
SD14　溝跡(第75～77図、写真図版10)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央、F3、G4・5、H4・5グリッドに位置する。SD7、SD8と重複し、いずれより古い。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はV字形を呈する。上端幅1.89～2.02m以上、下端幅0.07～0.19m以上、長さ8.94m以上、深さ1.23mを測る。方向は、N-41°-Wである。底面は、北西から南東に向かい低くなる。

〔堆積層〕　6層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　坏3点(第76図1～3)、高坏4点(第76図4～7)、小型壺(第77図1・2)、甑(第77図5)、甕2点(第77図3・4)、器台(第77図6)、須恵器瑞(第77図7)が出土した。



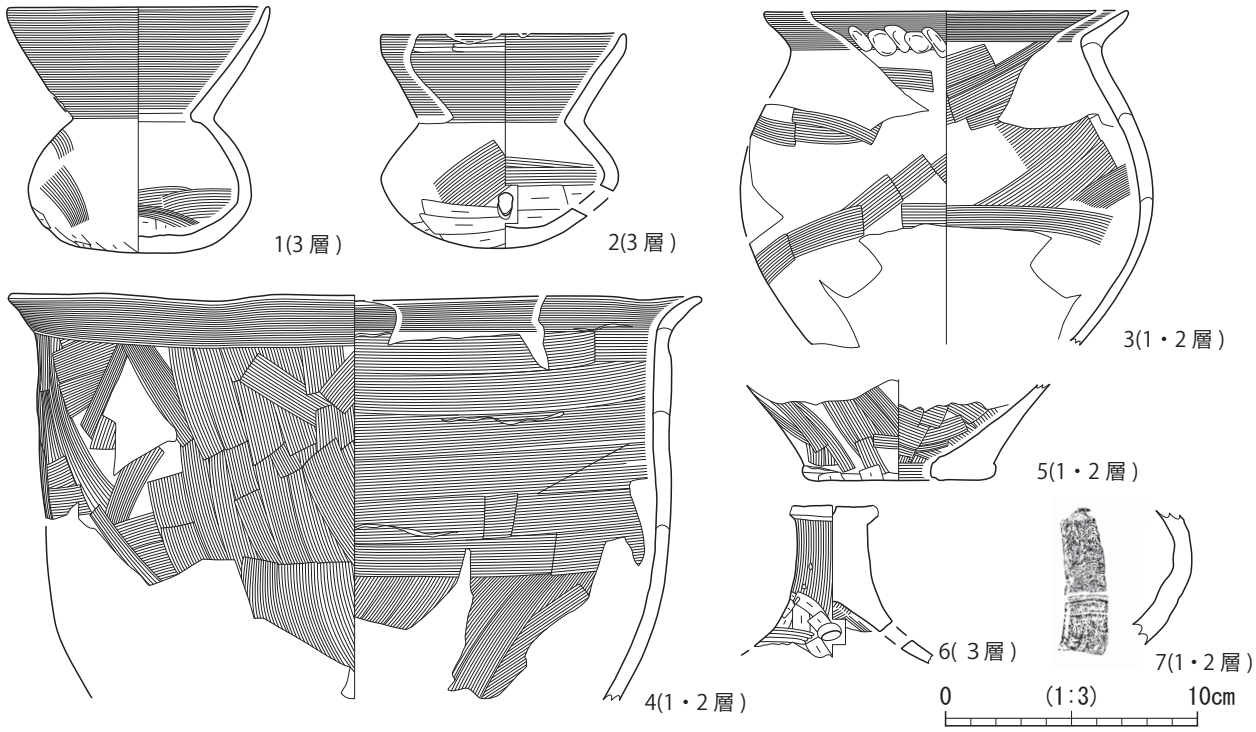
第75図　SD14溝跡

SD14　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m)				層位	土色		土性	備考
				全長	上幅	下幅	深さ					
SD14	Ⅳ区	F-3、G・H-4・5	N-41°-W	(8.94)	(1.89)~(2.02)	(0.07)~(0.19)	1.23	1	10YR4/6	褐色	シルト	炭化物と遺物を多く含む。自然堆積層。
								2	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物と遺物を多く含む。自然堆積層。
								3	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト・炭化物を含む。自然堆積層。
								4	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を含む。自然堆積層。
								5	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を少し、酸化鉄を斑に含む。自然堆積層。
								6	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	自然堆積層。

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-054	Ⅳ区	SD14	1・2層	土師器	坏	口縁部～底部	(15.7)	6.0	8.0	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		17-4
2	C-055	Ⅳ区	SD14	1・2層	土師器	坏	口縁部～底部	15.5	4.0	6.3	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ体部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ		17-5
3	C-057	Ⅳ区	SD14	1・2層	土師器	坏	口縁部～底部	(14.8)	3.5	5.8	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ体部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		17-6
4	C-061	Ⅳ区	SD14	1・2層	土師器	高坏	口縁部～裾部	19.4	(14.2)	16.2	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、坏部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、脚部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、裾部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、坏部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部:ﾅﾃﾞ、裾部:ﾖｺﾅﾃﾞ		17-7
5	C-062	Ⅳ区	SD14	1・2層	土師器	高坏	口縁部～裾部	18.0	13.0	12.2	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、坏部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、裾部:ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	口唇部:ﾊｹﾒ、坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、裾部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		17-8
6	C-063	Ⅳ区	SD14	1・2層	土師器	高坏	口縁部～裾部	18.2	(12.4)	15.4	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ脚部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、坏部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部:ﾅﾃﾞ、裾部:ﾊｹﾒ		18-1
7	C-065	Ⅳ区	SD14	1・2層	土師器	高坏	口縁部～脚部	(26.0)	-	-	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、坏部:ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ脚部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部:しぼり、裾部:ﾅﾃﾞ		18-2

第76図　SD14溝跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-058	Ⅳ区	SD14	3層	土師器	小型壺	口縁部～胴部	10.4	-	9.8	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾅﾃﾞ 底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾅﾃﾞ 底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ		18-3
2	C-059	Ⅳ区	SD14	3層	土師器	小型壺	口縁部～底部	(9.8)	-	8.5	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部:ﾅﾃﾞ →ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	胴部に焼成後穿孔	18-4
3	C-066	Ⅳ区	SD14	1･2層	土師器	甕	口縁部～胴部	(14.4)	-	(13.2)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ →指押え、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	球胴甕	18-5
4	C-067	Ⅳ区	SD14	1･2層	土師器	甕	口縁部～胴部上半	27.3	-	(16.0)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	広口甕　内外面赤彩	18-6
5	C-068	Ⅳ区	SD14	1･2層	土師器	甑	底部	-	6.3	(4.0)	底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、孔:ﾅﾃﾞ	単孔	18-7
6	C-069	Ⅳ区	SD14	3層	土師器	器台	脚部	-	-	(6.3)	脚部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ 裾部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	脚部～裾部:ﾅﾃﾞ	裾部:透し3窓	18-8
7	E-003	Ⅳ区	SD14	1･2層	須恵器	瓶	窓部	-	-	(5.3)	櫛描き波状文	ﾍﾗﾅﾃﾞ	二重瓶　窓部	18-9

第77図　SD14溝跡出土遺物(2)

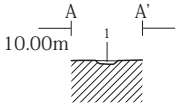
SD3溝跡(第78図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央付近、U5・6グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.08～0.17m以上、下端幅0.06～0.15m以上、長さ1.10m以上、深さ0.04mを測る。方向は、N-0°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第78図　SD3溝跡

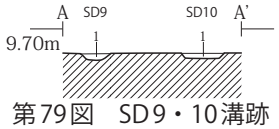
SD9溝跡(第79図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の南側の中央付近、W9・X9グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.12～0.33m、下端幅0.06～0.21m、長さ3.06m以上、深さ0.06mを測る。方向はN-55°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

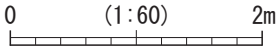
〔〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片が出土した。



第79図　SD9・10溝跡

SD10溝跡(第79図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の南側、X9・10グリッドに位置する。重複する遺構はない。



〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.06～0.35m以上、下端幅0.03～0.30m以上、長さ1.93m以上、深さ0.10mを測る。方向はN-59°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片が出土した。

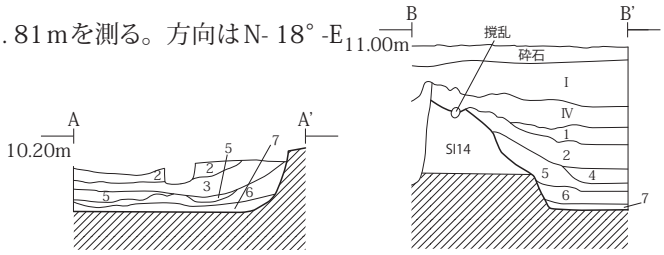
SD12溝跡(第80・91図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、A3・4、B2～4グリッドに位置する。SI14と重複し、これより新しい。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.72～1.80m以上、下端幅0.57～1.44m以上、長さ9.00m以上、深さ0.81mを測る。方向はN-18°-Eである。底面は、ほぼ平坦である

〔堆積層〕　7層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器、須恵器の破片、石製品が出土した。図示したのは、土師器の甕(第91図1・2)、剣形石製模造品(第91図3)、管玉(第91図4)である。



第80図　SD12溝跡

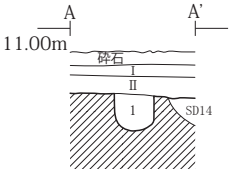
SD16溝跡(第81図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、F3グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はU字形を呈する。上端幅0.27～0.33m以上、下端幅0.10～0.12m以上、長さ0.75m以上、深さ0.30mを測る。方向は、N-6°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第81図　SD16溝跡

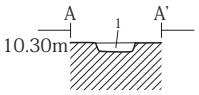
SD17溝跡(第82図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、F3・4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.25～0.34m以上、下端幅0.24～0.27m以上、長さ2.34m以上、深さ0.19mを測る。方向は、N-3°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第82図　SD17溝跡

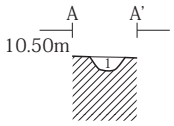
SD20溝跡(第83図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、D3・4グリッドに位置する。重複する遺構はない

〔断面形、規模、方向〕　断面形はU字形を呈する。上端幅0.15～0.29m、下端幅0.05～0.12m、長さ1.14m、深さ0.11mを測る。方向は、N-10°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第83図　SD20溝跡

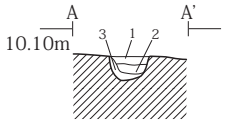
SD22溝跡(第84図)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、L6、M5・6グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はU字形を呈する。上端幅0.31～0.43m以上、下端幅0.06～0.22m以上、長さ6.18m以上、深さ0.24mを測る。方向は、N-45°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　3層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片が出土した。



第84図　SD22溝跡

0　(1:60)　2m

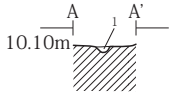
SD23溝跡(第85図)

〔位置と重複〕 Ⅲ区の中央付近、L8、M8・9グリッドに位置する。SD5と重複し、これより古い。

〔断面形、規模、方向〕 断面形はU字形を呈する。上端幅0.09～0.21m以上、下端幅0.03～0.07m以上、長さ2.40m以上、深さ0.10mを測る。方向は、N-22°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。



第85図 SD23溝跡

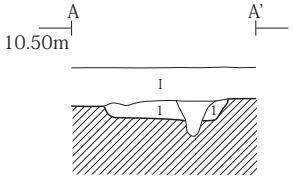
SD24溝跡(第86図)

〔位置と重複〕 Ⅲ区の南側、L12グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕 断面形は逆台形を呈する。上端幅0.87～1.06m以上、下端幅0.66～0.83m以上、長さ3.28m以上、深さ0.19mを測る。方向は、N-88°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕 弥生土器、土師器の破片、剥片石器が出土した。



第86図 SD24溝跡

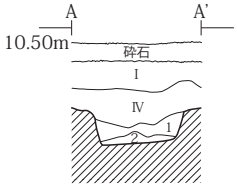
SD27溝跡(第87図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の西側、C4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕 断面形は逆台形を呈する。上端幅0.52～0.72m以上、下端幅0.39～0.56m以上、長さ1.44m以上、深さ0.28mを測る。方向は、N-8°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。



第87図 SD27溝跡

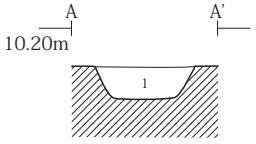
SD28溝跡(第88図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の東側、I4・5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

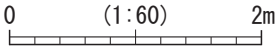
〔断面形、規模、方向〕 断面形は逆台形を呈する。上端幅0.66～0.80m、下端幅0.31～0.47m、長さ2.52m、深さ0.26mを測る。方向は、N-8°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕 須恵器の破片が出土した。



第88図 SD28溝跡



SD29溝跡(第89図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の東側、I4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕 断面形はV字形を呈する。上端幅0.31～0.36m、下端幅0.09～0.12m、長さ3.00m、深さ0.21mを測る。方向は、N-3°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。

SD30溝跡(第89図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の東側、I4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕 断面形はU字形を呈する。上端幅0.25～0.38m、下端幅0.09～0.12m、長さ2.68m、深さ0.08mを測る。方向は、N-5°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。

SD31溝跡(第89図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、I4、J4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はU字形を呈する。上端幅0.30～0.42m以上、下端幅0.09～0.15m以上、長さ2.35m以上、深さ0.30mを測る。方向は、N-6°-Wである。底面は、平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。

SD32溝跡(第89図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、J4グリッドに位置する。SK33と重複し、これより新しい。

〔断面形、規模、方向〕　断面形はU字形を呈する。上端幅0.37～0.66m以上、下端幅0.18～0.46m以上、長さ1.85m以上、深さ0.09mを測る。方向は、N-6°-Wである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。

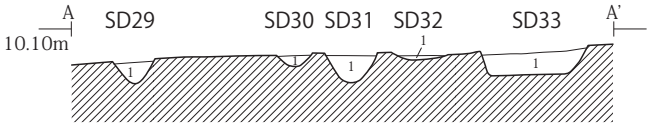
SD33溝跡(第89図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、J4・5グリッドに位置する。SK32・33・34と重複し、これらより新しい。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.63～0.86m以上、下端幅0.31～0.59m以上、長さ3.30m以上、深さ0.26mを測る。方向は、N-1°-Wである。底面はほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第89図　SD29～33溝跡

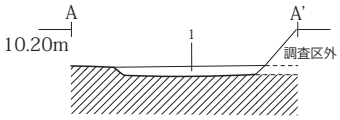
SD34溝跡(第90図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、E7、F6・7グリッドに位置する。SK38と重複し、これより古い。

〔断面形、規模、方向〕　断面形は逆台形を呈する。上端幅0.89～1.51m以上、下端幅0.66～1.30m以上、長さ4.00m以上、深さ0.12mを測る。方向は、N-51°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第90図　SD34溝跡

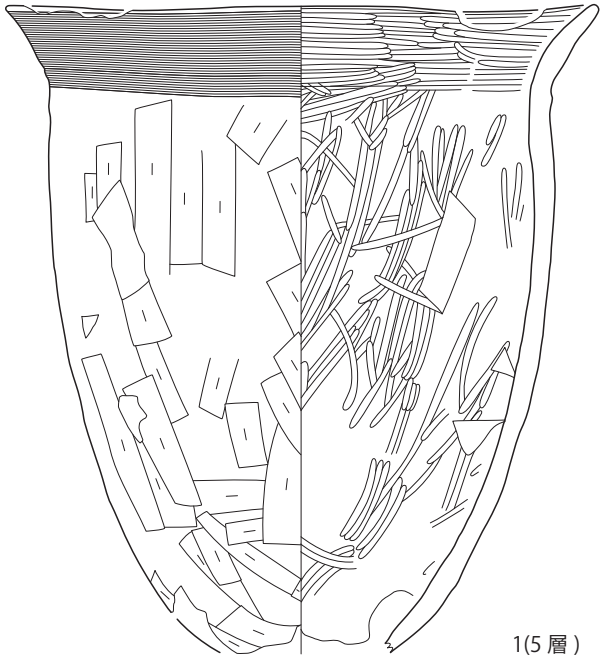
0　(1:60)　2m

SD　堆積土註記表(1)

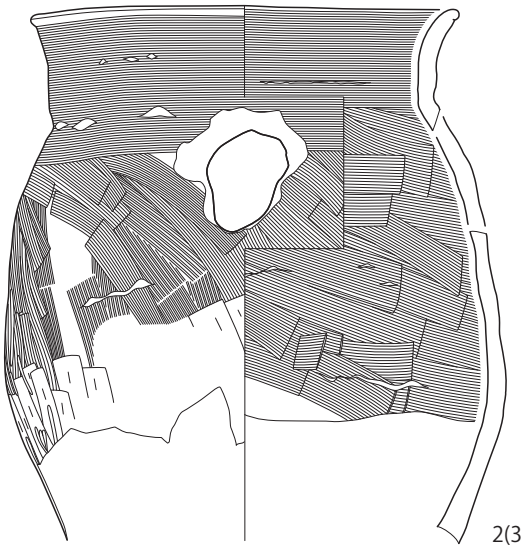
遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m) 全長	上幅	下幅	深さ	層位	土色		土性	備考
SD3	Ⅰ区	U-5・6	N-0°-E	(1.10)	(0.08)～(0.17)	(0.06)～(0.15)	0.04	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト・褐色シルトブロックを多く含む。自然堆積層。
SD9	Ⅰ区	W・X-9	N-55°-W	(3.06)	0.12～0.33	0.06～0.21	0.06	1	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを僅かに含む。人為堆積層。
SD10	Ⅰ区	X-9・10	N-59°-W	(1.93)	(0.06)～(0.35)	(0.03)～(0.30)	0.10	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを僅かに含む。人為堆積層。
SD12	Ⅳ区	A-3・4 B-2～4	N-18°-E	(9.00)	(0.72)～(1.80)	(0.57)～(1.44)	0.81	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。
								2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	暗褐色シルト粒・炭化物を少し含む。自然堆積層。
								3	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。
								4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層
								5	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	暗褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。
								6	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルト粒を少し、炭化物を含む。自然堆積層。
								7	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	炭化物を少し含む。自然堆積層。
SD16	Ⅳ区	F-3	N-6°-E	(0.75)	(0.27)～(0.33)	(0.10)～(0.12)	0.30	1	10YR6/8	明黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。
SD17	Ⅳ区	F-3・4	N-3°-W	(2.34)	(0.25)～(0.34)	(0.24)～(0.27)	0.19	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。
SD20	Ⅳ区	D-3・4	N-10°-W	1.14	0.15～0.29	0.05～0.12	0.11	1	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。人為堆積層。

SD　堆積土註記表(2)

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m) 全長	上幅	下幅	深さ	層位	土色		土性	備考
SD22	Ⅲ区	L-6、M-5・6	N-45°-E	(6.18)	(0.31)~(0.43)	(0.06)~(0.22)	0.24	1	10YR2/3	黒褐色	シルト	黄褐色シルト粒を少し、焼土粒・炭化物をごく僅かに含む。自然堆積層。
								2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	暗オリーブ褐色シルトを斑に、黄褐色シルトブロックと焼土粒・炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
								3	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗オリーブ褐色シルトを少し、黄褐色シルトブロック・焼土粒・炭化物をごく僅かに含む。自然堆積層。
SD23	Ⅲ区	L-8、M-8・9	N-22°-W	(2.40)	(0.09)~(0.21)	(0.03)~(0.07)	0.10	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを少し、炭化物・　焼土粒を僅かに含む。自然堆積層。
SD24	Ⅲ区	L-12	N-88°-E	(3.28)	(0.87)~(1.06)	(0.66)~(0.83)	0.19	1	10YR5/6	黄褐色	シルト	自然堆積層
SD27	Ⅳ区	C-4	N-8°-E	(1.44)	(0.52)~(0.72)	(0.39)~(0.56)	0.28	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。自然堆積層。SI14の外周溝の可能性あり。
								2	10YR7/6	明黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。自然堆積層。SI14の外周溝の可能性あり。
SD28	Ⅳ区	I-4・5	N-8°-W	2.52	0.66~0.80	0.31~0.47	0.26	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。畑の耕作土。人為堆積層。
SD29	Ⅳ区	I-4	N-3°-W	3.00	0.31~0.36	0.09~0.12	0.21	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。畑の耕作土。人為堆積層。
SD30	Ⅳ区	I-4	N-5°-W	2.68	0.25~0.38	0.09~0.12	0.08	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。畑の耕作土。人為堆積層。
SD31	Ⅳ区	I・J-4	N-6°-W	(2.35)	(0.30)~(0.42)	(0.09)~(0.15)	0.30	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。畑の耕作土。人為堆積層。
SD32	Ⅳ区	J-4	N-6°-W	(1.85)	(0.37)~(0.66)	(0.18)~(0.46)	0.09	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。畑の耕作土。人為堆積層。
SD33	Ⅳ区	J-4・5	N-1°-W	(3.30)	(0.63)~(0.86)	(0.31)~(0.59)	0.26	1	10YR4/4	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。畑の耕作土。人為堆積層。
SD34	Ⅳ区	E-7、F-6・7	N-51°-E	(4.00)	(0.89)~(1.51)	(0.66)~(1.30)	0.12	1	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを多く含む。人為堆積層。

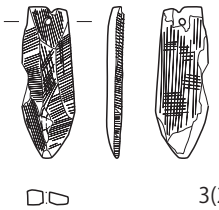


1(5 層)



2(3 層)

0　(1:3)　10cm　1・2



3(2 層)

0　(1:2)　5cm　3

◎ 4(5 層)

0　(2:3)　5cm　4

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-052	Ⅳ区	SD12	5層	土師器	甕	口縁部～胴部	23.5	-	(25.7)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ		19-1
2	C-053	Ⅳ区	SD12	3層	土師器	甕	口縁部～胴部	17.0	-	(21.2)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	焼成後内面より胴部穿孔	19-2

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kd-008	Ⅳ区	SD12	2層	石製品	石製模造品	4.0	1.4	0.48	4.29	緑泥片岩	剣形	19-3
4	Kd-003	Ⅳ区	SD12	5層	石製品	管玉	(1.2)	0.35	0.05	(0.17)	緑泥片岩		19-4

第91図　SD12溝跡出土遺物

3．土坑

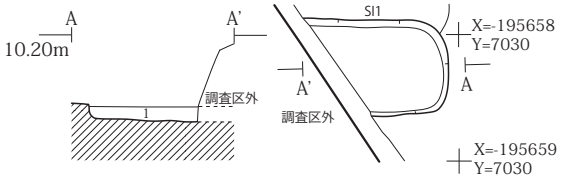
SK4土坑(第92図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央付近、T5グリッドに位置する。SI1と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は隅丸長方形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸1.05m以上、短軸0.69m以上、深さ0.14mを測る。長軸の方向は、N-89°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片、剥片石器が出土した。



第92図　SK4土坑

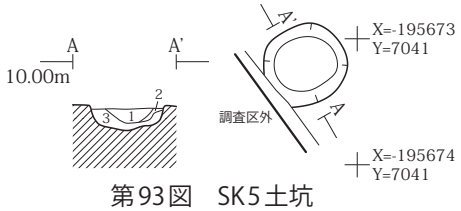
SK5土坑(第93・126図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央付近、W8グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模〕　平面形は円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。径0.60m、深さ0.20mを測る。底面は、中央がやや窪む。

〔堆積層〕　3層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器が出土した。図示したのは、土師器鉢(第126図1・2)である。



第93図　SK5土坑

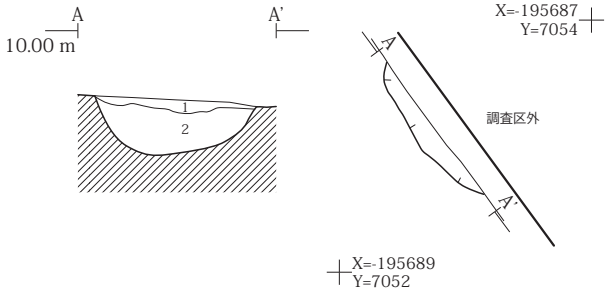
SK6土坑(第94図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の南側、Y11グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔規模、方向〕　長軸1.22m以上、短軸0.15m以上、深さ0.70m以上を測る。底面は、北東がやや低くなる。

〔堆積層〕　2層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第94図　SK6土坑

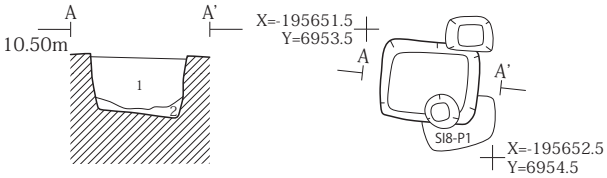
SK8土坑(第95図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、E4グリッドに位置する。SI8-P1と重複し、SI8-P1より新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は隅丸方形、断面形は逆台形を呈する。長軸0.75m、短軸0.66m、深さ0.86mを測る。長軸の方向は、N-84°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第95図　SK8土坑

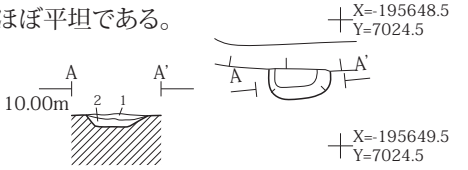
SK11土坑(第96図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の北側、S3グリッドに位置する。SK2と重複し、これより古い。

〔平面形、断面形、規模、方向〕平面形は隅丸方形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸0.48m、短軸0.21m以上、深さ0.10mを測る。長軸の方向は、N-85°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第96図　SK11土坑

0　(1:60)　2m

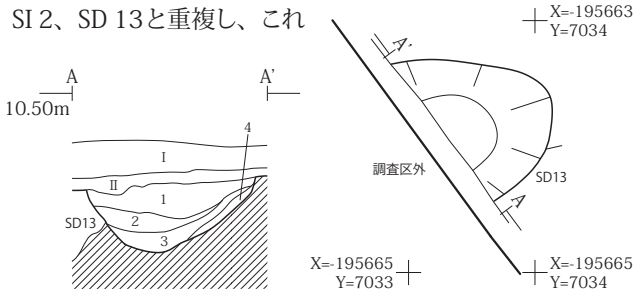
SK12土坑(第97図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央付近、U６グリッドに位置する。SI２、SD 13と重複し、これらより新しい。

〔平面形、断面形、規模〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形はU字形を呈する。長軸1.07m以上、短軸1.36m以上、深さ0.61mを測る。底面は、中央が窪む。

〔堆積層〕　４層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第97図　SK12土坑

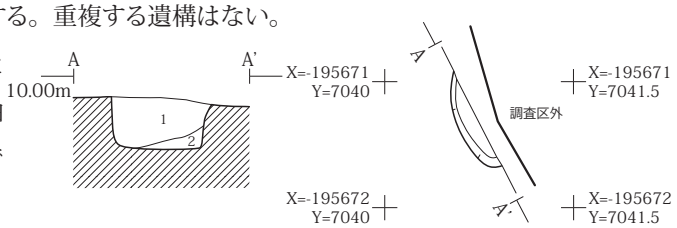
SK13土坑(第98図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央付近、W８グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形は箱形を呈する。長軸0.78m以上、短軸0.15m以上、深さ0.42mを測る。底面はほぼ平坦である。

〔堆積層〕　２層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第98図　SK13土坑

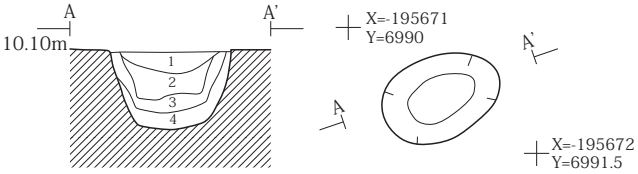
SK15土坑(第99図)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の中央付近、M８グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形はU形を呈する。長軸0.93m、短軸0.63m、深さ0.64mを測る。長軸の方向は、N-64°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　４層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第99図　SK15土坑

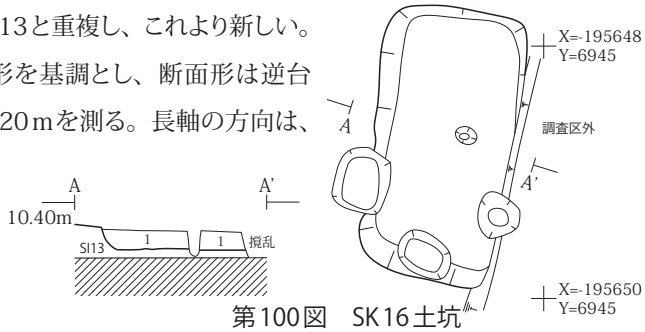
SK16土坑(第100図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の西側、C３グリッドに位置する。SI13と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は隅丸長方形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸2.06m、短軸1.16m以上、深さ0.20mを測る。長軸の方向は、N-9°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第100図　SK16土坑

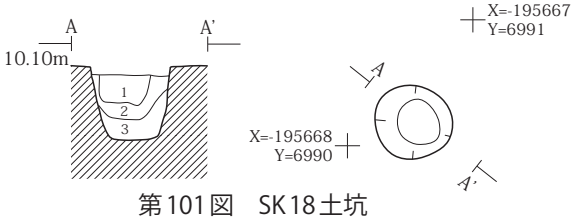
SK18土坑(第101図)

〔位置と重複〕　Ⅲ区の北側、M７グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は円形で、断面形は逆台形を呈する。径0.58m、深さ0.58mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　３層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。



第101図　SK18土坑

0　(1:60)　2m

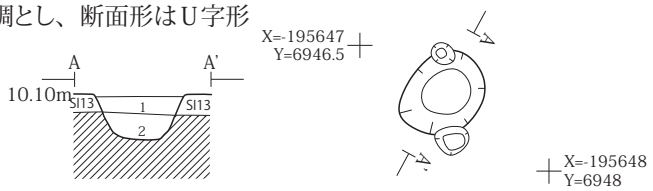
SK19土坑(第102図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の西側、D3グリッドに位置する。SI13と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面形はU字形を呈する。長軸0.69m、短軸0.57m、深さ0.36mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が出土した。



第102図 SK19土坑

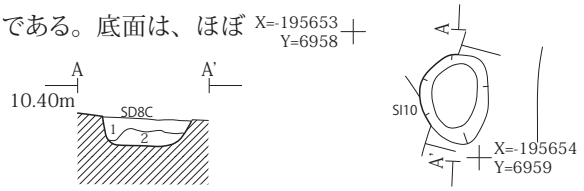
SK20土坑(第103図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央付近、F4グリッドに位置する。SI10と重複し、SI10より新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸0.69m以上、短軸0.54m以上、深さ0.24mを測る。長軸の方向は、N-11°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。



第103図 SK20土坑

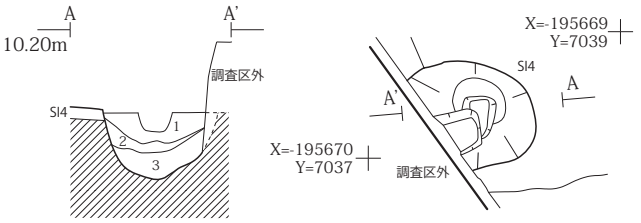
SK21土坑(第104・126図)

〔位置と重複〕 Ⅰ区の中央付近、V7・8グリッドに位置する。SI4と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面形はU字形を呈する。長軸0.90m以上、短軸0.66m以上、深さ0.55mを測る。長軸の方向は、N-77°-Eである。底面は、中央が窪む。

〔堆積層〕 3層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕 弥生土器、土師器の破片、ガラス製品が出土した。図示したのは、ガラス製の管玉(第126図3)である。



第104図 SK21土坑

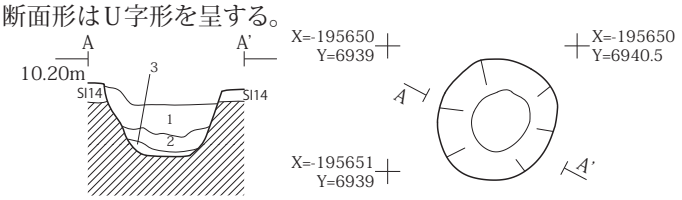
SK22土坑(第105図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の西側、B4・C4グリッドに位置する。SI14と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は円形で、断面形はU字形を呈する。径0.90m、深さ0.58mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 3層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が出土した。



第105図 SK22土坑

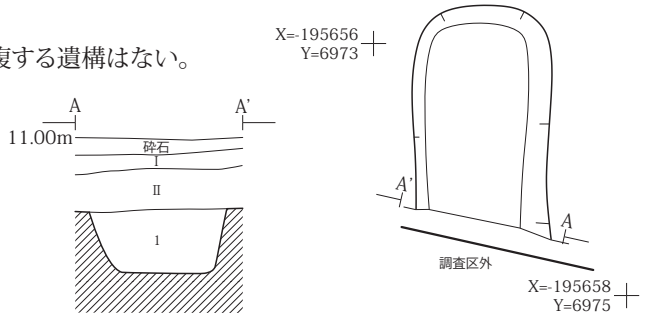
SK24土坑(第106図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の東側、I5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は隅丸長方形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸1.65m以上、短軸1.02m、深さ0.52mを測る。長軸の方向は、N-0°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。



第106図 SK24土坑

0 (1:60) 2m

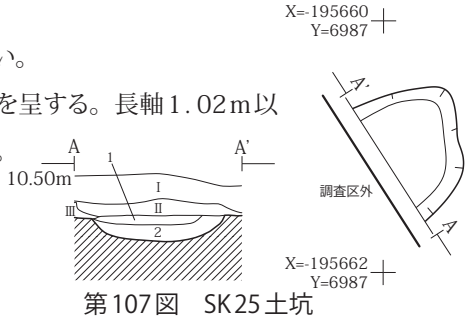
SK25土坑(第107図)

〔位置と重複〕 Ⅲ区の北側、L6グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は不整形で、断面形はU字形を呈する。長軸1.02m以上、短軸0.66m、深さ0.22mを測る。長軸の方向は、N-65°-Eである。

〔堆積層〕 2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 弥生土器、土師器の破片が出土した。



第107図 SK25土坑

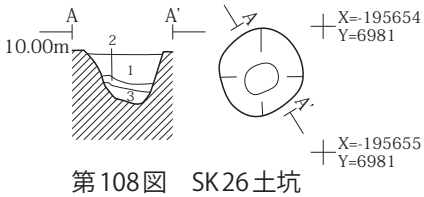
SK26土坑(第108図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の東側、K4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。径0.63m、深さ0.42mを測る。底面は、南西が低い。

〔堆積層〕 3層に分層した。1・2層は人為堆積で、3層は自然堆積である。

〔出土遺物〕 弥生土器、土師器の破片が出土した。



第108図 SK26土坑

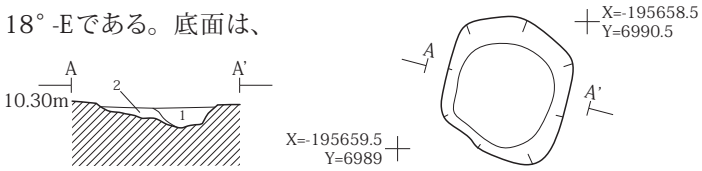
SK27土坑(第109図)

〔位置と重複〕 Ⅲ区の北側、L5・M5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は隅丸方形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸1.02m、短軸0.63m、深さ0.20mを測る。長軸の方向は、N-18°-Eである。底面は、西から東へ低くなる。

〔堆積層〕 2層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 弥生土器、土師器の破片が出土した。



第109図 SK27土坑

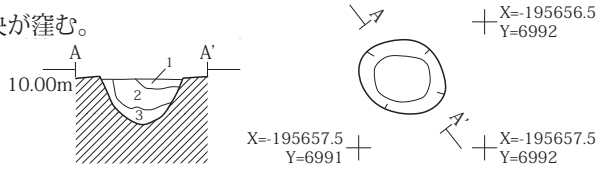
SK28土坑(第110図)

〔位置と重複〕 Ⅲ区の北側、M5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形、断面形はU字形を呈する。長軸0.63m、短軸0.55m、深さ0.38mを測る。長軸の方向は、N-61°-Eである。底面は、中央が窪む。

〔堆積層〕 3層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が出土した。



第110図 SK28土坑

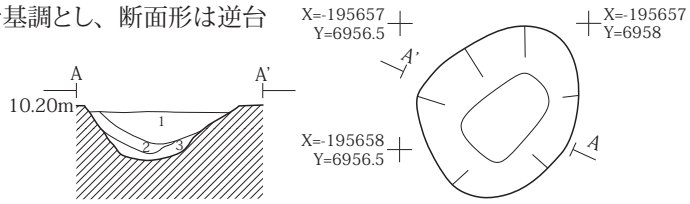
SK29土坑(第111図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央付近、F5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸1.38m、短軸1.11m、深さ0.44mを測る。長軸の方向は、N-43°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 3層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が出土した。

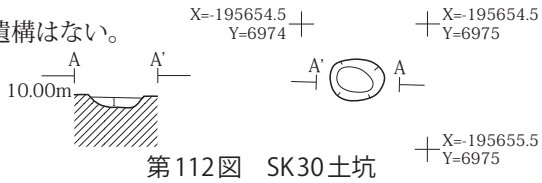


第111図 SK29土坑

SK30土坑(第112図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の東側、I4・5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸0.40m、短軸0.30m、深さ0.10mを測る。底面は、ほぼ平坦である。



第112図 SK30土坑

0 (1:60) 2m

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　遺物は、出土していない。

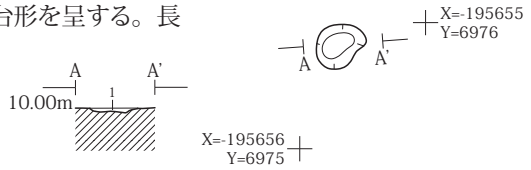
SK31土坑(第113図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、J5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は不整形で、断面形は逆台形を呈する。長軸0.39m、短軸0.31m、深さ0.13mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第113図　SK31土坑

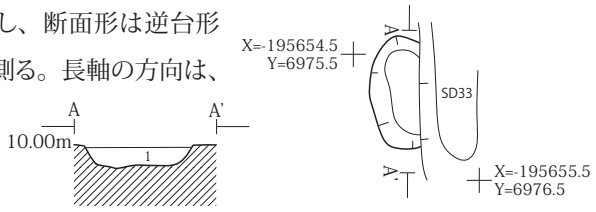
SK32土坑(第114図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、J4・5グリッドに位置する。SD33と重複し、これより古い。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸0.85m、短軸0.37m以上、深さ0.18mを測る。長軸の方向は、N-11°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第114図　SK32土坑

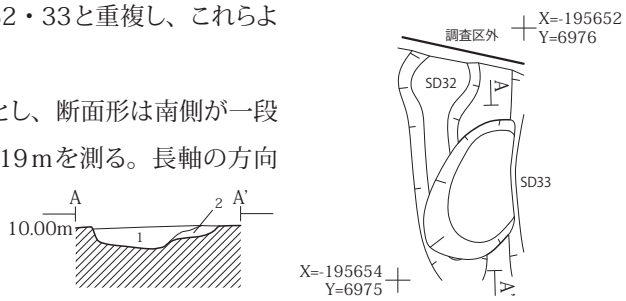
SK33土坑(第115図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、J4グリッドに位置する。SD 32・33と重複し、これらより古い。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形は南側が一段深くなる。長軸1.14m以上、短軸0.90m以上、深さ0.19mを測る。長軸の方向は、N-6°-Wである。底面は、北が低くなる。

〔堆積層〕　2層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第115図　SK33土坑

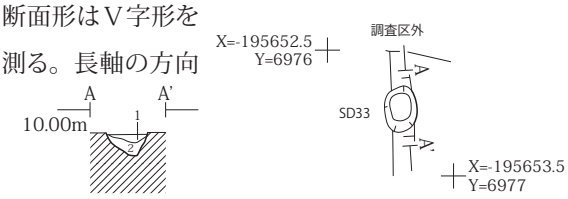
SK34土坑(第116図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、J4グリッドに位置する。SD33と重複し、これより古い。

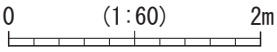
〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形はV字形を呈する。長軸0.33m以上、短軸0.24m以上、深さ0.18mを測る。長軸の方向は、N-6°-Eである。底面は、中央が窪む。

〔堆積層〕　2層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第116図　SK34土坑



SK35土坑(第117図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の東側、J4グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は隅丸　　方形を基調とし、断面は不整形である。長軸0.48m以上、短軸0.33m以上、深さ0.12mを測る。長軸の方向は、N-1°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。

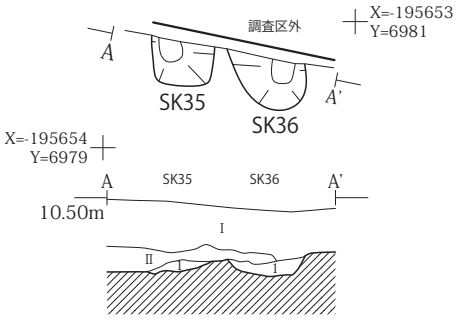
SK36土坑(第117図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の東側、K４グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸0.54m以上、短軸0.42m以上、深さ0.15mを測る。長軸の方向は、N-21°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。



第117図 SK35・36土坑

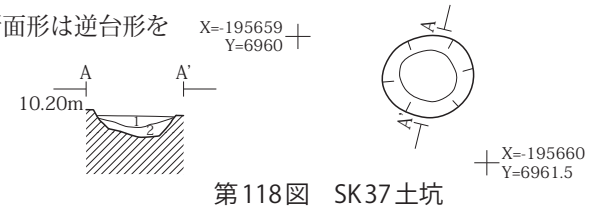
SK37土坑(第118図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央付近、G５グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。径0.90m、深さ0.22mを測る。底面は、中央が窪む。

〔堆積層〕 ２層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が出土した。



第118図 SK37土坑

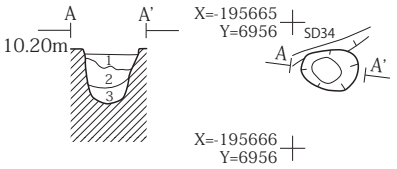
SK38土坑(第119図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央付近、F７グリッドに位置する。SD34と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は楕円形を基調とし、断面形はU字形を呈する。長軸0.42m、短軸0.30m、深さ0.76mを測る。長軸の方向は、N-80°-Wである。底面は、中央が窪む。

〔堆積層〕 ３層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が出土した。



第119図 SK38土坑

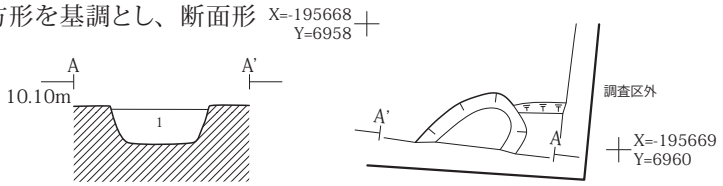
SK39土坑(第120図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央付近、F７グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は長方形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸0.60m以上、短軸0.54m以上、深さ0.31mを測る。長軸の方向は、N-52°-Eである。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 人為堆積の単層である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土していない。



第120図 SK39土坑

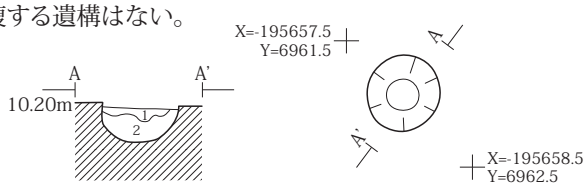
SK42土坑(第121図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央付近、G５グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕 平面形は円形を基調とし、断面形はU字形を呈する。径0.57m、深さ0.32mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕 ２層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の破片が出土した。



第121図 SK42土坑

0 (1:60) 2m

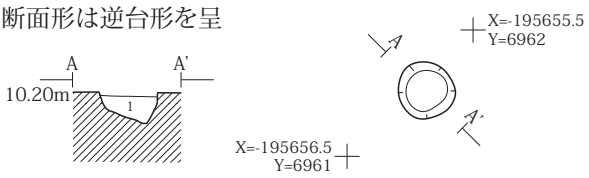
SK43土坑(第122図)

〔位置と重複〕 Ⅳ区の中央付近、G５グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。径0.42m、深さ0.25mを測る。底面は、南東が低くなる。

〔堆積層〕　自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第122図　SK43土坑

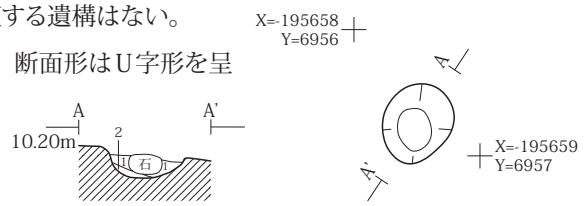
SK44土坑(第123図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、F5グリッドに位置する。重複する遺構はない。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形はU字形を呈する。長軸0.61m、短軸0.60m、深さ0.25mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　2層に分層した。全て人為堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片、礫が出土した。



第123図　SK44土坑

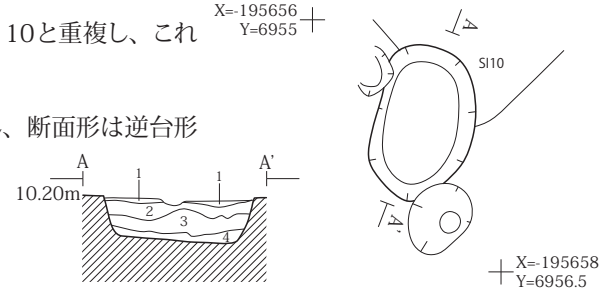
SK45土坑(第124図)

〔位置と重複〕　Ⅳ区の中央付近、F5グリッドに位置する。SI10と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形は逆台形を呈する。長軸1.20m、短軸0.81m、深さ0.40mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　4層に分層した。全て自然堆積である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土した。



第124図　SK45土坑

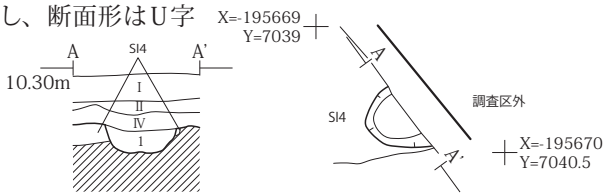
SK47土坑(第125図)

〔位置と重複〕　Ⅰ区の中央付近、V7グリッドに位置する。SI4と重複し、これより新しい。

〔平面形、断面形、規模、方向〕　平面形は楕円形を基調とし、断面形はU字形を呈する。長軸0.57m以上、短軸0.30m以上、深さ0.22mを測る。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積層〕　自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕　弥生土器、土師器の破片が出土した。



第125図　SK47土坑

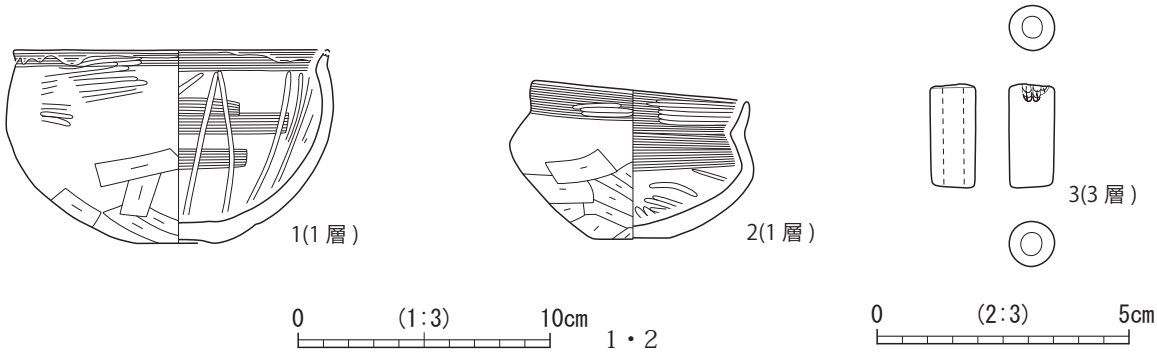
0　(1:60)　2m

SK　堆積土註記表(1)

遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備考
SK4	Ⅰ区	T-5	(1.05)×(0.69)	0.14	隅丸長方形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。人為堆積層。
SK5	Ⅰ区	W-8	径0.60	0.20	円形	1	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを含む。人為堆積層。
						2	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を含む。人為堆積層。
						3	10YR2/2	黒褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを含む。人為堆積層。
SK6	Ⅰ区	Y-11	(1.22)×(0.15)	0.70	不明	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く、にぶい黄褐色シルト粒・炭化物を少し含む。人為堆積層。
						2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を少し含む。人為堆積層。
SK8	Ⅳ区	E-4	0.75×0.66	0.86	隅丸方形	1	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	にぶい黄色粘土・灰黄色砂・炭化物を少し含む。締り強い。粘性強い。自然堆積層。
						2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	灰黄色砂を少し、炭化物を僅かに含む。締り強い。粘性強い。自然堆積層。
SK9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK11	Ⅰ区	S-3	0.48×(0.21)	0.10	隅丸方形	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・焼土ブロックを少し、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
						2	10YR3/1	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
SK12	Ⅰ区	U-6	(1.07)×(1.36)	0.61	楕円形	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒を僅かに含む。自然堆積層。
						2	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物・焼土粒を少し含む。自然堆積層。
						3	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を少し、にぶい黄褐色シルト粒を僅かに含む。自然堆積層。
						4	10YR4/4	褐色	シルト	黒褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。
SK13	Ⅰ区	W-8	(0.78)×(0.15)	0.42	楕円形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。人為堆積層。
						2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを多く含む。人為堆積層。

SK　堆積土註記表(2)

遺構名	調査区	グリッド	規模(m)		平面形	層位	土色		土性	備考
			長軸×短軸	深さ						
SK14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK15	Ⅲ区	M-8	0.93×0.63	0.64	楕円形	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	明黄褐色砂質シルトを斑に少し、黒色シルト粒・炭化物を少し含む。自然堆積層。
						2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	暗オリーブ褐色シルト・明黄褐色粘土質シルトブロック・灰黄色粘土ブロック・炭化物を少し含む。自然堆積層。
						3	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	黒色シルト粒を少し、明黄褐色シルト・酸化鉄粒を斑に少し含む。自然堆積層。
						4	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土質シルト	酸化鉄粒を斑に少し含む。自然堆積層。
SK16	Ⅳ区	C-3	2.06×(1.16)	0.20	隅丸長方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を多く、黄橙色シルトブロックを僅かに含む。自然堆積層。
SK18	Ⅲ区	M-7	径0.58	0.58	円形	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	灰黄色粘土質シルトブロックを少し、炭化物を含む。自然堆積層。
						2	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	暗オリーブ褐色シルト粒を少し含む。自然堆積層。
						3	10YR5/8	黄褐色	粘土質シルト	灰黄色粘土質シルトブロック・酸化鉄粒を斑に含む。自然堆積層。
SK19	Ⅳ区	D-3	0.69×0.57	0.36	楕円形	1	10YR4/4	褐色	シルト	全体ににぶい黄褐色シルトを含む。自然堆積層。
						2	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。
SK20	Ⅳ区	F-4	(0.69)×(0.54)	0.24	楕円形	1	10YR4/6	褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを僅かに含む。自然堆積層。
						2	10YR7/6	明黄褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを僅かに含む。自然堆積層。
SK21	Ⅰ区	V-7・8	(0.90)×(0.66)	0.55	楕円形	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック・暗褐色シルトブロックの混土層。炭化物・焼土ブロックを少し含む。人為堆積層。
						2	10YR2/1	黒色	シルト	にぶい黄褐色黄褐色シルトブロックを少し含む。人為堆積層。
						3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロックを多く、炭化物を少し含む。人為堆積層。
SK22	Ⅳ区	B・C-4	径0.90	0.58	円形	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。
						2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を僅かに含む。人為堆積粗層。
						3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。人為堆積層。
SK24	Ⅳ区	I-5	(1.65)×1.02	0.52	隅丸長方形	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物を含む。自然堆積層。
SK25	Ⅲ区	L-6	(1.02)×0.66	0.22	不整形	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	自然堆積層。
						2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	自然堆積層。
SK26	Ⅳ区	K-4	径0.63	0.42	円形	1	10YR4/6	褐色	シルト	明黄褐色シルトブロックを多く、炭化物を少し含む。人為堆積層。
						2	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色黄褐色シルトを多く、炭化物を少し含む。人為堆積層。
						3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	自然堆積層。
SK27	Ⅲ区	L・M-5	1.02×0.63	0.20	隅丸方形	1	10YR4/4	褐色	シルト	全体ににぶい黄褐色シルトを含む。自然堆積層。
						2	10YR5/6	黄褐色	シルト	暗褐色シルトを少し含む。自然堆積層。
SK28	Ⅲ区	M-5	0.63×0.55	0.38	楕円形	1	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを少し含む。自然堆積層。
						2	10YR5/6	黄褐色	シルト	明黄褐色シルトを斑に含む。自然堆積層。
						3	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを少し含む。自然堆積層。
SK29	Ⅳ区	F-5	1.38×1.11	0.44	楕円形	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物を多く含む。自然堆積層。
						2	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物を多く含む。自然堆積層。
						3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を多く含む。自然堆積層。
SK30	Ⅳ区	I-4・5	0.40×0.30	0.10	楕円形	1	10YR5/6	黄褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。人為堆積層。
SK31	Ⅳ区	J-5	0.39×0.31	0.13	不整形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。人為堆積層。
SK32	Ⅳ区	J-4・5	0.85×(0.37)	0.18	楕円形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。人為堆積層。
SK33	Ⅳ区	J-4	(1.14)×(0.90)	0.19	楕円形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。人為堆積層。
						2	10YR3/3	暗褐色	シルト	人為堆積層。
SK34	Ⅳ区	J-4	(0.33)×(0.24)	0.18	楕円形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。人為堆積層。
						2	10YR4/1	褐灰色	シルト	炭化物・焼土ブロックを少し含む。人為堆積層。
SK35	Ⅳ区	J-4	(0.48)×(0.33)	0.12	隅丸方形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。人為堆積層。
SK36	Ⅳ区	K-4	(0.54)×(0.42)	0.15	楕円形	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多く含む。人為堆積層。
SK37	Ⅳ区	G-5	径0.90	0.22	円形	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	褐色シルト・炭化物を斑に含む。自然堆積層。
						2	10YR4/4	褐色	シルト	全体に黄褐色シルトを含む。自然堆積層。
SK38	Ⅳ区	F-7	0.42×0.30	0.76	楕円形	1	10YR2/1	黒色	シルト	自然堆積層。
						2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	全体に黄橙色シルト粒を含む。自然堆積層。
						3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	黄橙色シルトを斑に多く含む。自然堆積層。
SK39	Ⅳ区	F-7	(0.60)×(0.54)	0.31	長方形	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄橙色シルトブロックを斑に多く含む。人為堆積層。
SK40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK42	Ⅳ区	G-5	径0.57	0.32	円形	1	10YR4/4	褐色	シルト	褐色シルト・炭化物を少し含む。自然堆積層。
						2	10YR4/6	褐色	シルト	自然堆積層。
SK43	Ⅳ区	G-5	径0.42	0.25	円形	1	10YR4/4	褐色	シルト	自然堆積層。
SK44	Ⅳ区	F-5	0.61×0.60	0.25	楕円形	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい褐色シルト・炭化物を含む。自然堆積層。
						2	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	自然堆積層。
SK45	Ⅳ区	F-5	1.20×0.81	0.40	楕円形	1	10YR5/8	黄褐色	シルト	全体に黄橙色粘土を含む。自然堆積層。
						2	10YR3/4	暗褐色	シルト	全体に黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少し含む。自然堆積層。
						3	10YR2/3	黒褐色	シルト	全体に黄橙色シルトブロックを含む。自然堆積層。
						4	10YR4/6	褐色	シルト	全体に黄橙色シルトを互層状に含む。自然堆積層。
SK46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK47	Ⅰ区	V-7	(0.57)×(0.30)	0.22	楕円形	1	10YR4/4	褐色	シルト	自然堆積層。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-070	Ⅰ区	SK5	1層	土師器	鉢	口縁部～底部	(12.4)	3.2	7.5	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→放射状暗紋		19-5
2	C-071	Ⅰ区	SK5	1層	土師器	鉢	完形	8.6	3.0	5.9	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 胴部:ﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ		19-6

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	備考	写真図版
3	X-001	Ⅰ区	SK21	3層	ガラス	管玉	2.1	0.9	0.25	2.36		19-7

第126図　SK5・21土坑出土遺物

4. 河川跡

SR1河川跡(第127・128図)

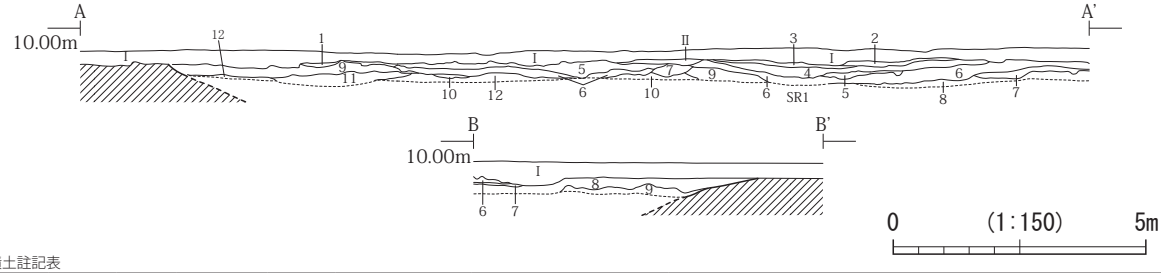
〔位置と重複〕　Ⅱ区の東から中央付近、J～O・18～20グリッドに位置する。SX2・6と重複し、これらより古い。

〔規模、形〕　幅は、東西22.80mである。深さは、調査区の幅が狭いため、表土から約1.5mの深さまでしか掘り下げていない。平面形は不明である。断面形は上端が広がる緩やかなU字形と考えられる。

〔方向〕　おおよそ南北方向である。

〔堆積層〕　12層に分層した。いずれも自然堆積土である。

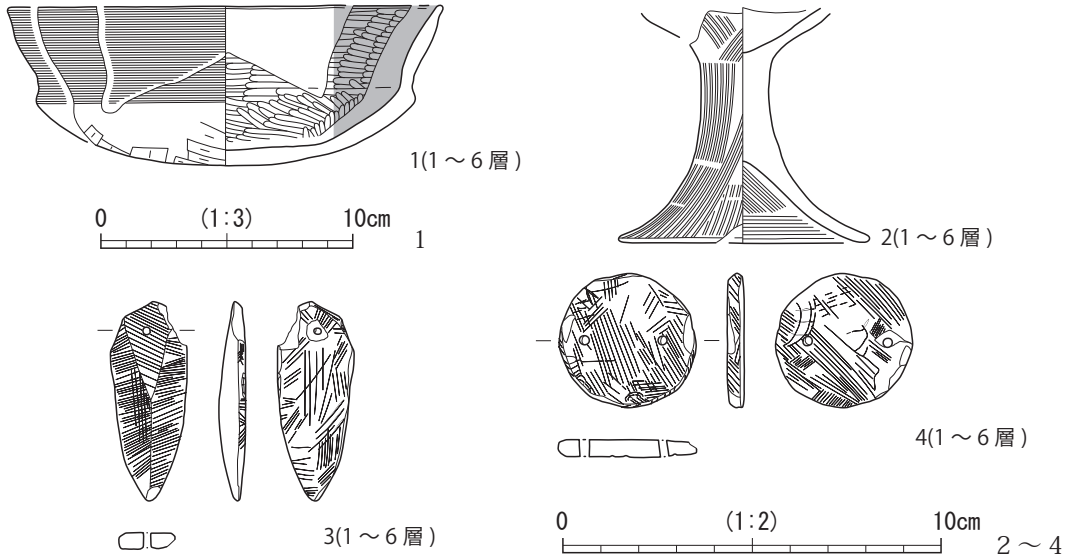
〔出土遺物〕　土師器と弥生土器、須恵器の破片、石器（剥片）が堆積層から出土している。図示したのは、土師器坏（第128図1）、土製品のミニチュア（第128図2）、剣形・円板形石製模造品（第128図3・4）である。土製品のミニチュアは、高坏または器台であると考えられる。剣形石製模造品は、片面にY字状の稜が作出されている。円板形石製模造品には2箇所孔が穿たれている。



SR1　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模(m) 長軸×短軸	深さ	層位	土色		土性	備考
SR1	Ⅱ区	J～O:18～20	南北	-	1.5～	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを斑に含む。自然堆積層。
						2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを斑に含む。自然堆積層。
						3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを多く、褐色シルトブロックを僅かに含む。自然堆積層。
						4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを斑に多く、炭化物を帯状に多く含む。自然堆積層。
						5	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを多く、明黄褐色シルトブロックを含む。自然堆積層。
						6	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	明赤色シルトを斑に僅かに含む。炭化物を少しと遺物を多く含む。自然堆積層。
						7	10YR4/4	褐色	シルト	-
						8	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを多く含む。自然堆積層。
						9	10YR4/6	褐色	砂質シルト	明赤褐色シルト・褐色シルトを多く含む。自然堆積層。
						10	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを斑に多く、炭化物を少し含む。自然堆積層。
						11	10YR4/4	褐色	砂	にぶい黄褐色シルトブロックを含む。自然堆積層。
						12	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	明赤褐色シルトを斑に含む。自然堆積層。

第127図　SR1河川跡



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-072	Ⅱ区	SR1	1～6層	土師器	坏	口縁部～底部	(17.2)	-	6.3	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部～底部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ	有段坏　内面黒色処理 外面やや摩滅	19-8

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
2	P-014	Ⅱ区	SR1	1～6層	土製品	ミニチュア土器	受部～裾部	-	(6.6)	(6.2)	受け部～裾部:ﾊｹﾒ	裾部:ﾅﾃﾞ	器台	19-9

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kd-007	Ⅱ区	SR1	1～6層	石製品	石製模造品	5.3	2.0	0.8	8.20	緑泥片岩	剣形	19-10
4	Kd-020	Ⅱ区	SR1	1～6層	石製品	石製模造品	3.6	3.6	0.5	9.08	粘板岩	円板形	19-11

第128図　SR1河川跡出土遺物

5．土器集中遺構

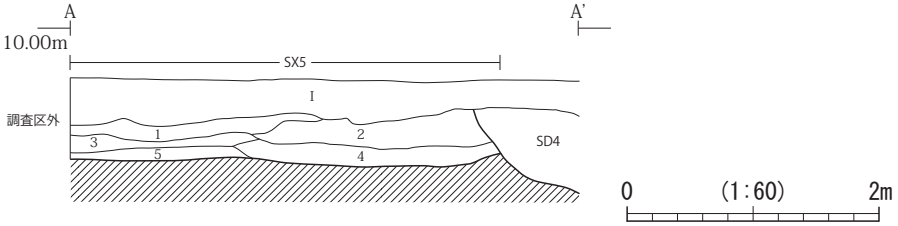
SX5土器集中遺構(第129・130図、写真図版10)

〔位置と重複〕　Ⅱ区の西側、H17グリッドに位置する。SD4と重複し、これより古い。

〔規模と形〕　東西3.15m以上、南北1.62m以上、深さは0.43m以上を測る。平面形・断面形は不明である。

〔堆積層〕　5層に分層した。全て自然堆積層である。

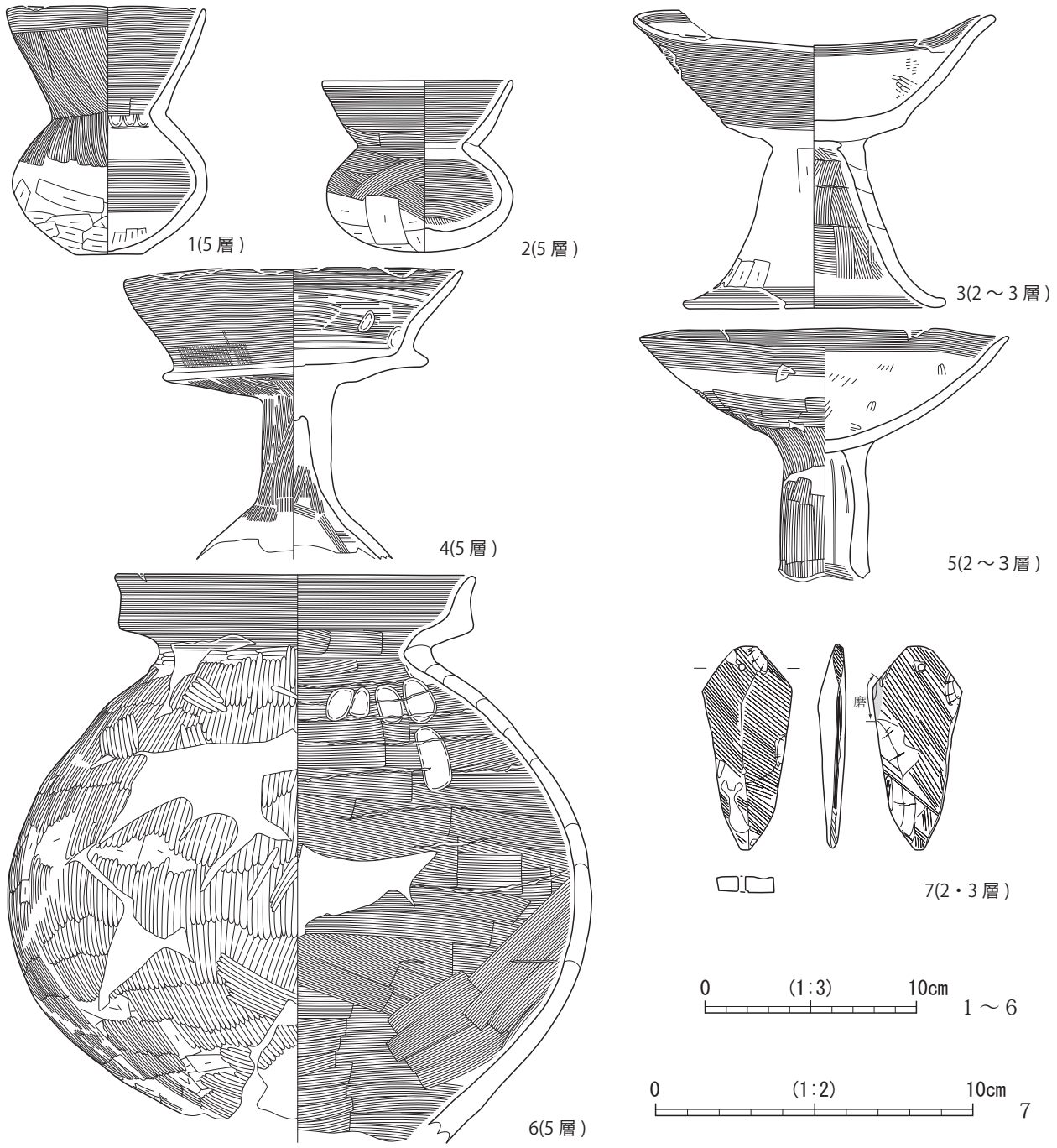
〔出土遺物〕　弥生土器、土師器、須恵器、石製品が出土している。図示したのは、土師器小型壺(第130図1・2)、高坏(第130図3～5)、壺(第130図6)、剣形石製模造品(第130図7)である。4の高坏は、木製品の模倣と考えられる。剣形石製模造品は片面にのみY字状の稜が作出されている。



SX5　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	深さ	平面形	層位	土色		土性	備考
SX5	Ⅱ区	H-17	(3.15)×(1.62)	(0.43)	不明	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	自然堆積層。
						2	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
						3	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物を少し含む。自然堆積層。
						4	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	自然堆積層。
						5	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト粒を多く含む。自然堆積層。

第129図　SX5土器集中遺構



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-075	Ⅱ区	SX5	5層	土師器	小型壺	完形	8.4	3.2	11.7	口縁部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半:ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部下半～底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、指押え、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ		20-1
2	C-076	Ⅱ区	SX5	5層	土師器	小型壺	口縁部～底部	(9.0)	-	8.1	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ、底部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ		20-2
3	C-077	Ⅱ区	SX5	2～3層	土師器	高坏	口縁部～裾部	(17.1)	12.4	14.1	口縁部～坏部:ﾖｺﾅﾃﾞ、脚部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ、裾部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部:ﾅﾃﾞ、裾部:ﾖｺﾅﾃﾞ	内外面摩滅顕著	20-3
4	C-078	Ⅱ区	SX5	5層	土師器	高坏	口縁部～裾部	16.0	-	(13.8)	口縁部:ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ、突帯部:ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ→指頭成形、脚部:ﾊｹﾒ	坏部:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ、指押え、脚部:ﾊｹﾒ、ﾅﾃﾞ	木製品模倣	20-4
5	C-079	Ⅱ区	SX5	2～3層	土師器	高坏	口縁部～脚部	17.4	-	(11.9)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、坏部:ﾍﾗﾅﾃﾞ、脚部:ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、坏部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部:しぼり、ﾅﾃﾞ	内外面摩滅顕著	20-5
6	C-080	Ⅱ区	SX5	5層	土師器	壺	口縁部～胴部	17.1	-	(26.8)	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、頸部:ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部:ﾖｺﾅﾃﾞ、頸部:ﾍﾗｹｽﾞﾘ、胴部:ﾍﾗﾅﾃﾞ→指押え	大型有段壺	20-6

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
7	Kd-006	Ⅱ区	SX5	2・3層	石製品	石製模造品	6.4	2.8	0.8	16.05	緑泥片岩	剣形	20-7

第130図　SX5土器集中遺構出土遺物

6．性格不明遺構

以下に報告するSX２・６はⅡ区に位置し、調査区の南側には佐久間堀がある。いずれも断面形状及び佐久間堀に平行して位置することから、佐久間堀の改修工事による痕跡と推測される。また、SX２・６の堆積土は改修工事後の自然堆積土もしくは、崖の崩落土と考えられる。

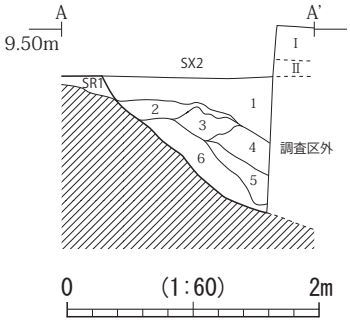
SX２性格不明遺構(第131図、写真図版10)

〔位置と重複〕　Ⅱ区の東側、N 19・20、O 19・20グリッドに位置する。SR１と重複し、これより新しい。

〔規模と形〕　東西7.74ｍ以上、南北1.50ｍ以上、深さは1.08ｍ以上を測る。平面形・断面形は不明である。

〔堆積層〕　６層に分層した。崖の崩落土もしくは自然堆積土である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土している。



SX2　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備考
SX2	Ⅱ区	N・O-19・20	(7.74)×(1.50)	(1.08)	不明	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物を僅かに含む。自然堆積層。
						2	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。
						3	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	壁面崩落層。自然堆積層。
						4	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい黄橙色シルト粒を斑に含む。自然堆積層。
						5	10YR3/3	暗褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを斑に含む。自然堆積層。
						6	10YR4/6	褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックを斑に含む。自然堆積層。

第131図　SX２性格不明遺構

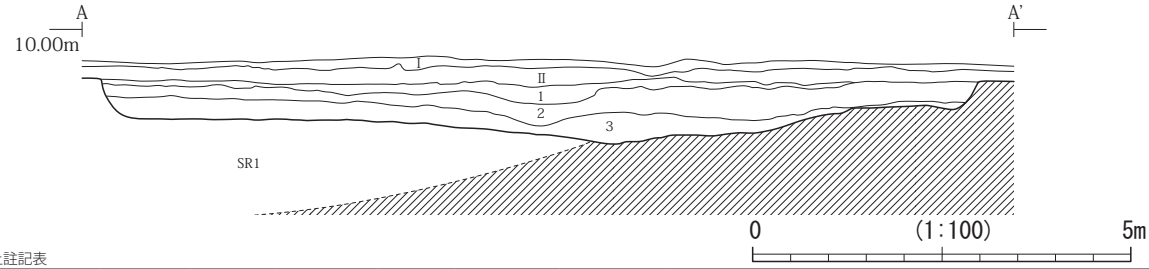
SX６性格不明遺構(第132図、写真図版10)

〔位置と重複〕　Ⅱ区の中央付近、J～L18グリッドに位置する。SR１と重複し、これより新しい。

〔規模と形〕　東西11.20ｍ以上、南北0.60ｍ以上、深さは0.81ｍ以上を測る。平面・断面形は不明である。

〔堆積層〕　３層に分層した。全て自然堆積土である。

〔出土遺物〕　土師器の破片が出土している。



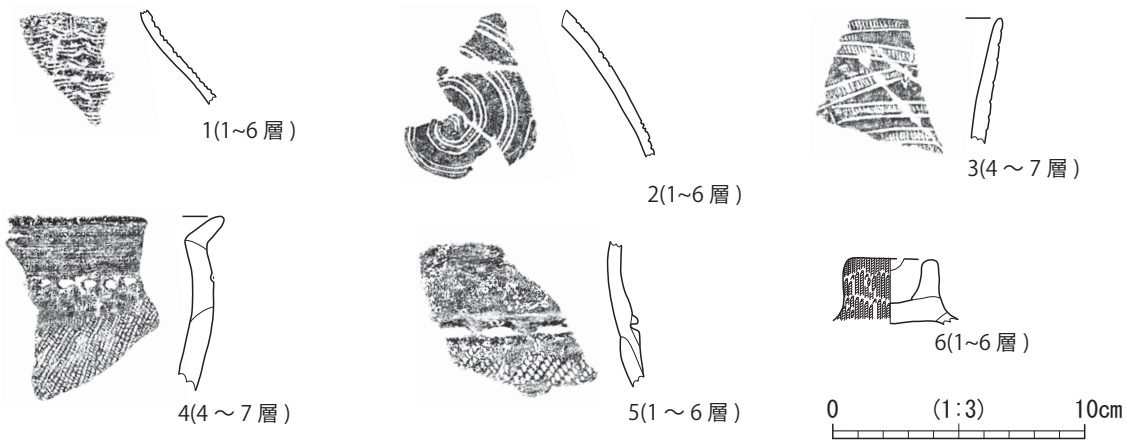
SX6　堆積土註記表

遺構名	調査区	グリッド	規模(m) 長軸×短軸	規模(m) 深さ	平面形	層位	土色		土性	備考
SX6	Ⅱ区	J~L-18	(11.20)×(0.60)	(0.81)	不明	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトを少し含む。自然堆積層。
						2	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	自然堆積層。
						3	10YR4/4	褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを少し含む。自然堆積層。

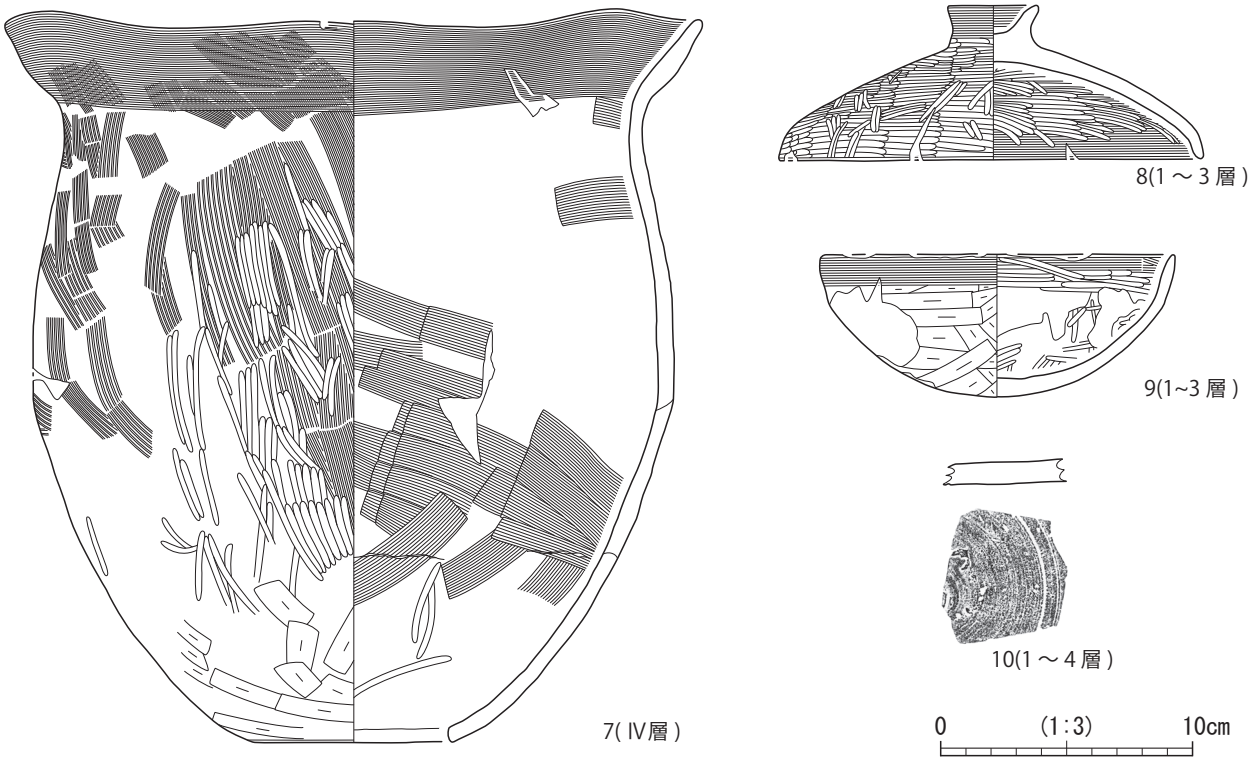
第132図　SX６性格不明遺構

(3)遺構外出土遺物

今次調査において、遺構外からも多くの遺物が出土した。種別は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、陶磁器、石器、金属製品、土製品と多種にのぼる。図示したのは、弥生土器（第133図１～６)、土師器（第133図７～９)、須恵器（第133図10)、硯に転用された軒丸瓦（第134図１)、陶器(第134図２～５)、鉄鏃(第135図１)、土製紡錘車(第135図２)、土製支脚(第135図３)、石鏃(第135図４)、石錐(第135図５)、不定形石器(第135図６)、石庖丁(第135図７・８)、磨製石斧（第136図１・２)、剣形石製模造品(第136図３～６)、円板形石製模造品(第136図７～９)、石製臼玉(第136図10)、石製管玉(第136図11)である。

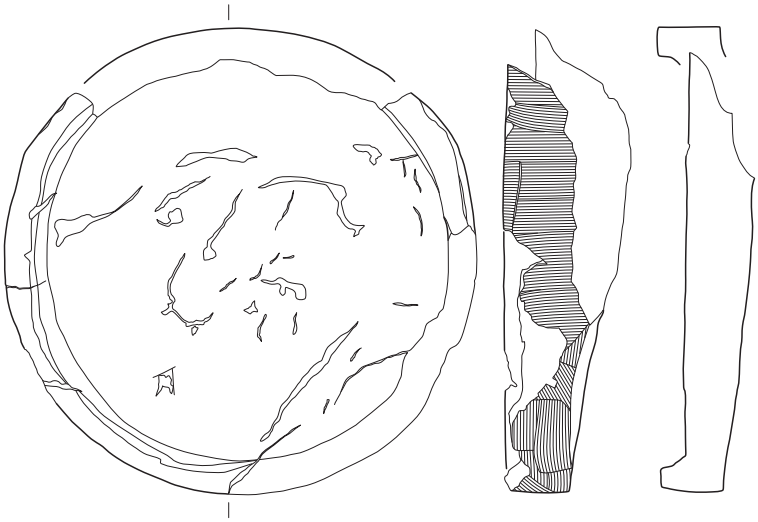


図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	B-003	Ⅱ区	SR1	1 ～ 6層	弥生土器	壺	体部	-	-	(3.6)	ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部：沈線文（1単位３条の沈線）	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21-1
2	B-004	Ⅱ区	SR1	1 ～ 6層	弥生土器	壺	体部	-	-	(5.8)	ﾍﾗﾐｶﾞｷ、渦巻き文（1単位３条の沈線）			21-2
3	B-007	Ⅲ区	SD5	4 ～ 7層	弥生土器	鉢	口縁部	-	-	(4.9)	口縁部～体部：RL縄文→沈線→ﾍﾗﾐｶﾞｷ"	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21-3
4	B-006	Ⅲ区	SD5	4 ～ 7層	弥生土器	甕	口縁部	-	-	(6.9)	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ体部：列点刺突文　LR縄文（横位回転）	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21-4
5	B-010	Ⅱ区	SR1	1 ～ 6層	弥生土器	甕	体部	-	-	(5.8)	隆線文、LR縄文（横位回転）	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21-5
6	B-001	Ⅱ区	SR1	1 ～ 6層	弥生土器	蓋	つまみ部	-	-	(2.6)	RL縄文	ﾖﾋﾞﾅﾃﾞ		21-6



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
7	C-084	Ⅰ区	-	Ⅳ層	土師器	甑	口縁部～底部	(27.6)	7.6	29.0	口縁部：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半：ﾊｹﾒ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部下半～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	単孔　内面一部剥落	21-7
8	C-048	Ⅲ区	SD5a	1 ～ 3層	土師器	蓋	つまみ部～天井部	16.8	3.6	6.1	つまみ部：ﾖｺﾅﾃﾞ天井部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	つまみ部：ﾖｺﾅﾃﾞ天井部：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ		21-8
9	C-050	Ⅲ区	SD5a	1 ～ 3層	土師器	坏	口縁部～底部	(14.0)	-	5.6	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面一部磨耗	21-9
10	E-010	Ⅳ区	SD7	1 ～ 4層	須恵器	盤	底部	-	-	-	-	-	東海製品　回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	21-10

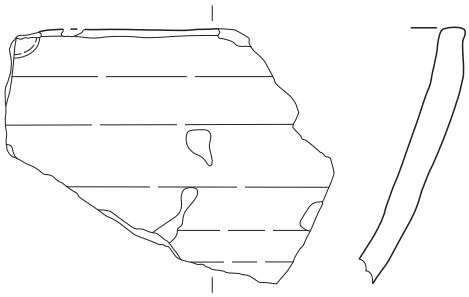
第133図　遺構外出土遺物(1)



1(Ⅰ・Ⅱ層)

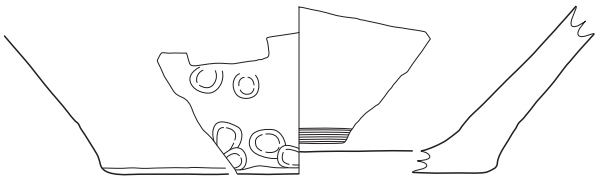
0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			備考	写真図版
							全長	幅	厚		
1	F-001	Ⅳ区		Ⅰ・Ⅱ層	丸瓦	軒丸瓦	(2.5)	-	-	硯に転用。朱が付着。	21-11

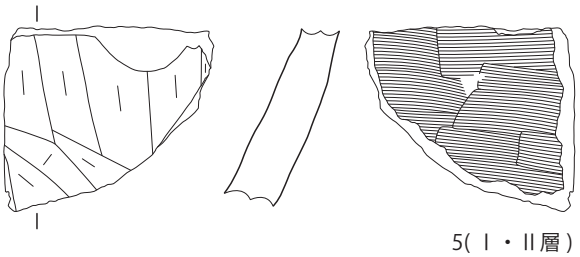


2(Ⅰ・Ⅱ層)

3(Ⅰ・Ⅱ層)



4(Ⅰ・Ⅱ層)

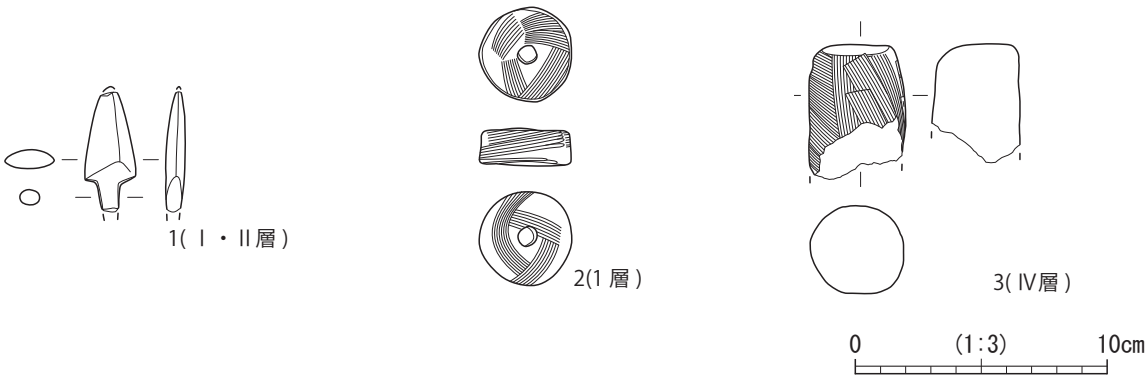


5(Ⅰ・Ⅱ層)

0 (1:3) 10cm

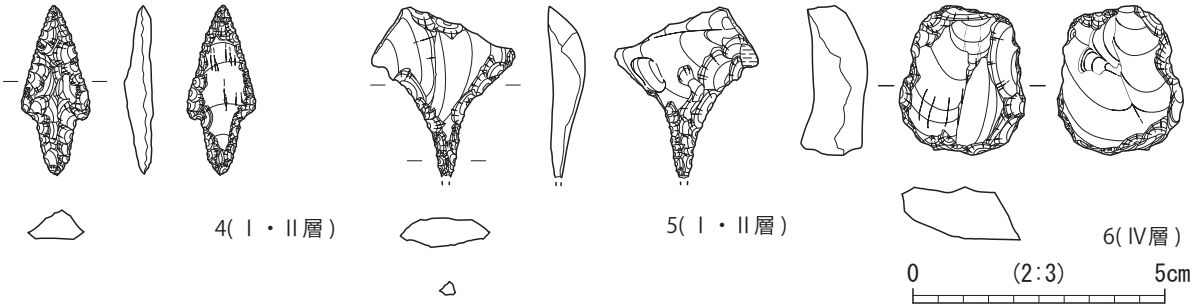
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
2	I-003	Ⅳ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	陶器	捏ね鉢	口縁部	-	-	(10.1)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		22-1
3	I-005	Ⅳ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	陶器	捏ね鉢	口縁部	-	-	(4.0)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		22-2
4	I-006	Ⅳ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	陶器	捏ね鉢	底部	-	(15.8)	(6.6)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、指頭圧痕	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾅﾃﾞ		22-3
5	I-011	Ⅳ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	陶器	甕	体部	-	-	(7.6)	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		22-4

第134図　遺構外出土遺物(2)

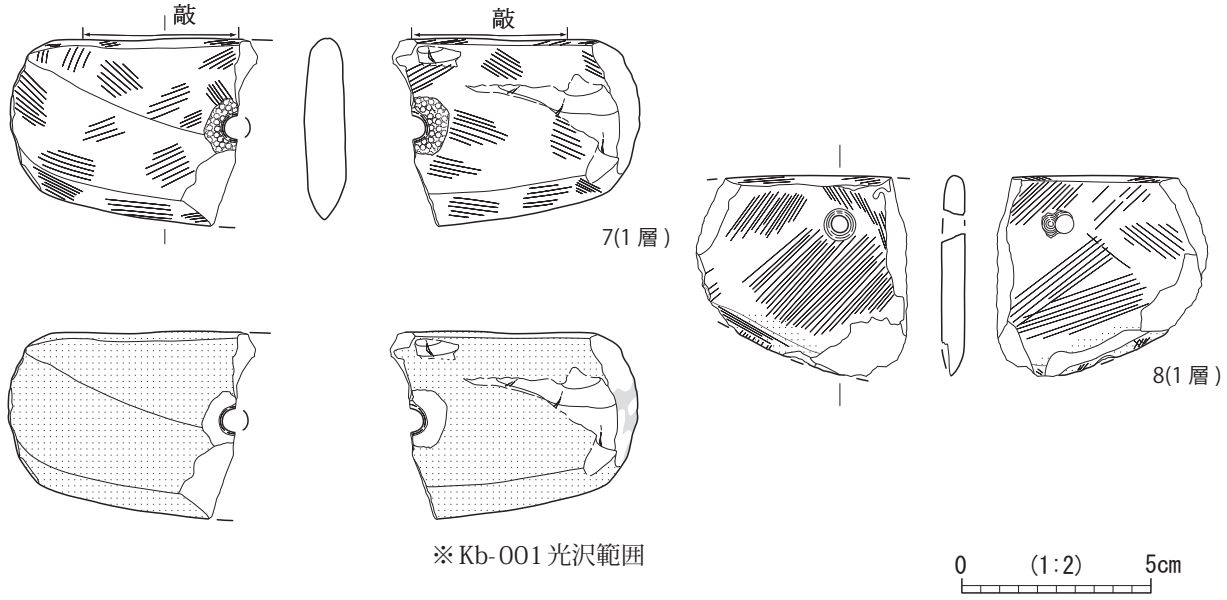


図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	備考	写真図版
1	N-004	Ⅳ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	金属製品	鏃	ほぼ完形	(4.7)	2.0	0.75	10.59	先端欠損　平根式	22-5

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	備考	写真図版
2	P-005	Ⅳ区	P575	1層	土製品	紡錘車	完形	3.8	3.7	1.5	23.73	ﾅﾃﾞ　ﾍﾗﾐｶﾞｷ	22-6
3	P-008	Ⅳ区	-	Ⅳ層	土製品	支脚	-	(5.3)	(3.9)	(3.4)	78.68	ﾍﾗｹｽﾞﾘ　ﾅﾃﾞ	22-7

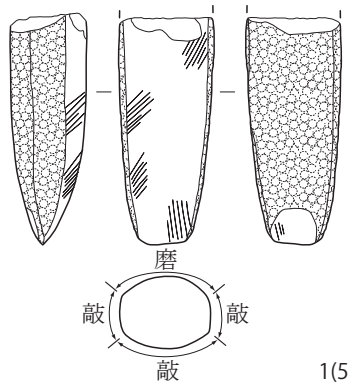


図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
4	Ka-002	Ⅲ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	剥片石器	石鏃	3.4	1.4	0.6	1.58	珪化凝灰岩		22-8
5	Ka-001	Ⅰ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	剥片石器	石錐	(3.3)	2.9	0.7	(4.17)	流紋岩		22-9
6	Ka-005	Ⅳ区	-	Ⅳ層	剥片石器	不定形石器	2.9	2.5	1.2	10.38	黒曜岩	掻器	22-10

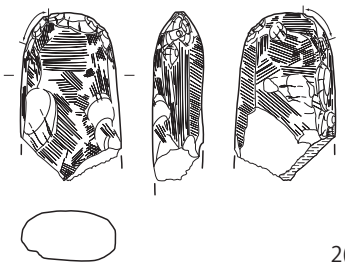


図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
7	Kb-001	Ⅰ区	SK2	1層	磨製石器	石庖丁	5.0	(6.5)	1.1	55.22	砂質片岩		22-11
8	Kb-002	Ⅳ区	SD28	1層	磨製石器	石庖丁	(53)	(56)	0.6	(28.50)	粘板岩		22-12

第135図　遺構外出土遺物(3)



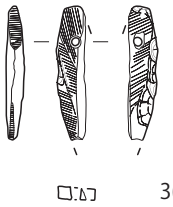
1(5 層)



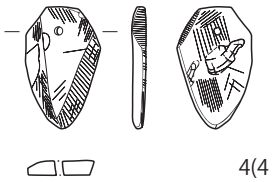
2(1 層)

0 (1:2) 10cm

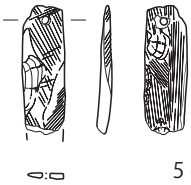
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kb-004	Ⅱ区	SD4	5層	磨製石器	鑿形石斧	(6.1)	2.5	2.0	(46.23)	安山岩		23-1
2	Kb-005	Ⅲ区	SI22	1層	磨製石器	扁平片刃石斧	(6.8)	(4.0)	(2.0)	(81.39)	凝灰岩		23-2



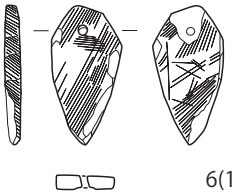
3(1 層)



4(4 層)

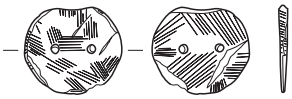


5 (5 層)



6(1・2 層)

7(Ⅰ・Ⅱ層)



8(Ⅰ・Ⅱ層)

9(1～3 層)

10(4 層)

11(柱抜取穴)

0 (1:2) 10cm

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kd-010	Ⅳ区	P351	1層	石製品	石製模造品	(3.5)	(0.8)	0.5	1.40	緑泥片岩	剣形	22-3
4	Kd-009	Ⅱ区	SD4	4層	石製品	石製模造品	3.2	2.0	0.4	3.84	緑泥片岩	剣形	22-4
5	Kd-005	Ⅱ区	SD4	5層	石製品	石製模造品	(3.4)	1.1	0.4	(2.09)	緑泥片岩	剣形	22-5
6	Kd-011	Ⅳ区	SD8c	1・2層	石製品	石製模造品	3.7	1.9	0.4	4.19	緑泥片岩	剣形	22-6
7	Kd-017	Ⅳ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	石製品	石製模造品	1.6	2.1	0.3	1.76	緑泥片岩	円板形	22-7
8	Kd-021	Ⅳ区	-	Ⅰ・Ⅱ層	石製品	石製模造品	2.3	2.6	0.2	2.24	粘板岩	円板形	22-8
9	Kd-014	Ⅲ区	SD5	1～3層	石製品	石製模造品	1.9	2.1	0.4	2.34	緑泥片岩	円板形	22-9
10	Kd-023	Ⅱ区	SD4	4層	石製品	臼玉	0.5	0.5	0.2	0.07	緑泥片岩		22-10
11	Kd-002	Ⅰ区	SB4-P6	柱抜取穴	石製品	管玉	2.3	0.5	0.2	1.32	緑泥片岩		22-11

第136図　遺構外出土遺物(4)

第６章　考察

第１節　中世の検出遺構と出土遺物

(1) 中世区画施設及び掘立柱建物跡と出土遺物について

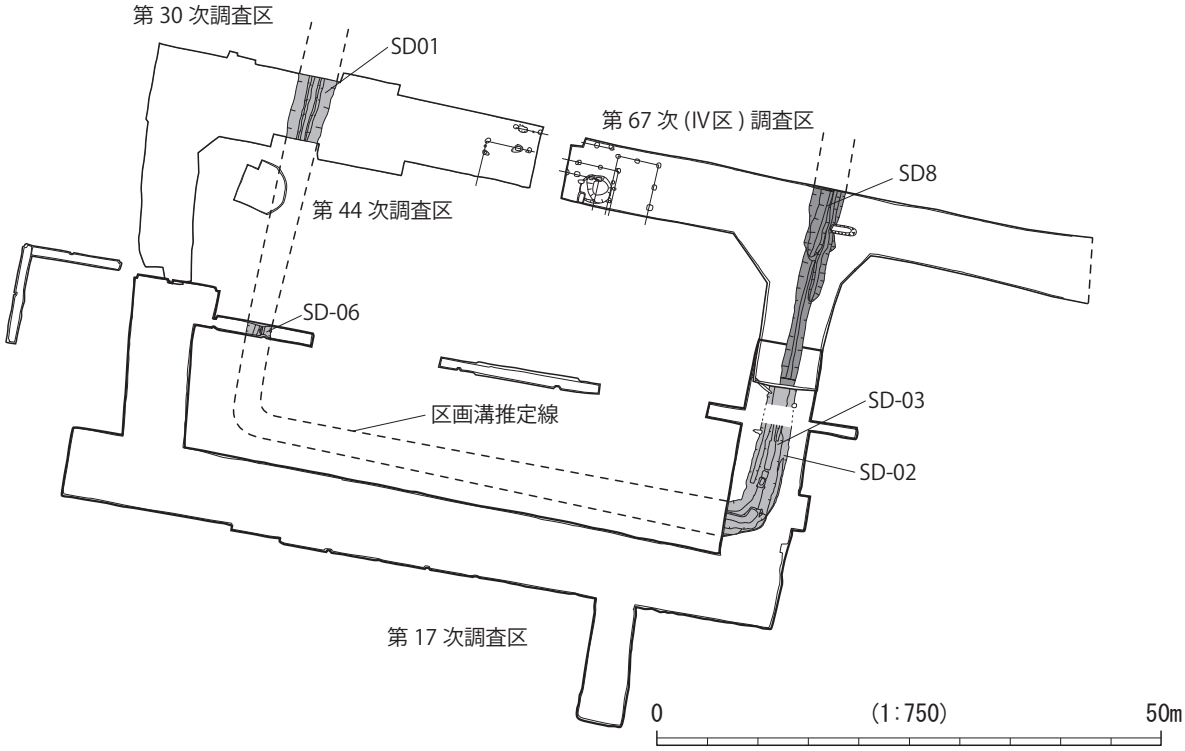
今次調査において、中・近世の遺構検出面であるⅣ層上面で柱列跡１列、掘立柱建物跡４棟、溝跡９条、井戸跡１基、土坑６基、ピット593基を検出した。

1.区画溝と橋脚（第137図）

今次調査のⅣ区中央付近で区画溝（SD８）を検出した。第５章で述べたように堆積土の状況や断面の観察から５時期に分けられ、新しいものからアルファベット小文字でａ～ｅを付した。遺構内からは、第５章で図示した青磁３点を含む中世の陶器・磁器が出土している。第５章で図示した青磁３点のうちJ-001（第18図1）は、SD８ｂから出土した。器種は皿で内面に段を有し、その付近に櫛状工具の痕跡が見られる。年代の上限は12世紀中～後半頃の龍泉窯製品である。J-002（第18図5）はSD８ｅから、J-003（第18図4）はSD８ｃから出土した。いずれも外面に鎬蓮弁文が施された碗で、年代の上限が13世紀初～前半頃の龍泉窯製品である。これらの他に、産地は不明であるが中世陶器の捏ね鉢（第18図1）や15世紀から16世紀頃の奈良火鉢（第18図2）と考えられる瓦質土器の破片等も出土している。

SD８からは20基のピットが検出されており、そのうちＰ１～８・17～19では柱痕跡が確認された。これらのうちＰ１～５・７・８は、検出された位置状況から橋脚跡と考えられ、Ｐ12～15は打込み杭で橋脚の補助柱と考えられる。これらピットは、SD８ｃで検出されている事から、SD８ｃ以前の時期に区画溝の内外を繋ぐ要所であった事が窺われる。

この区画溝は、位置関係や規模、断面形態等の総合的な所見から、本調査区南に隣接する第17次調査（仙台市教



第137図　中世区画溝配置図

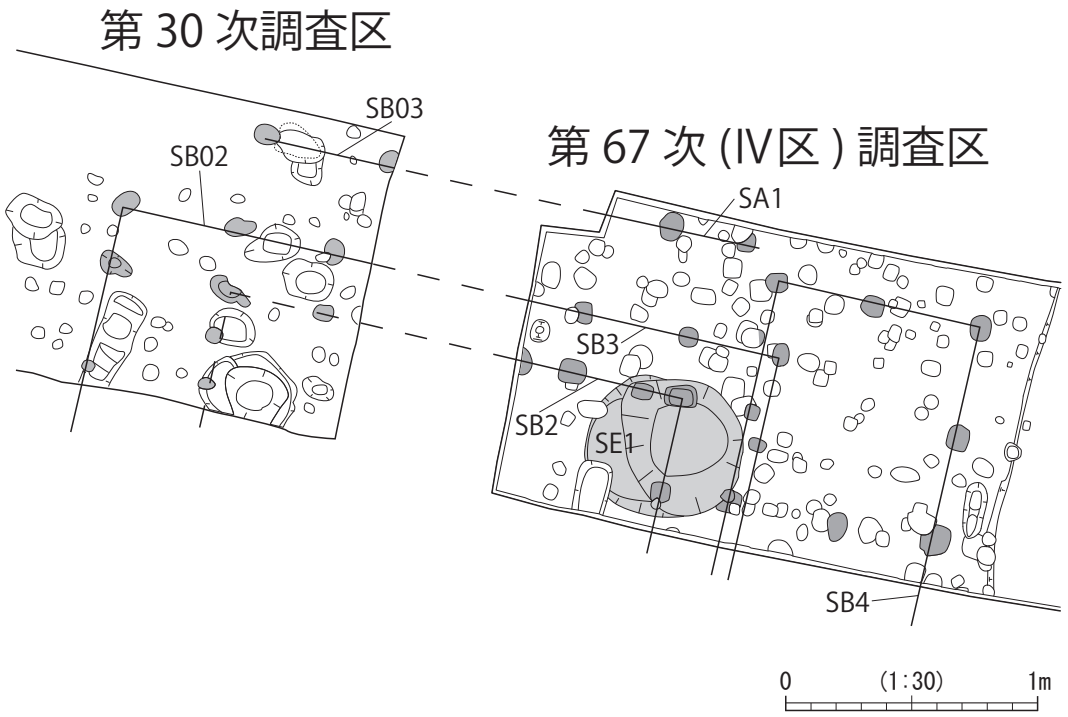
委　1990）で検出されたSD- 02に連続し、同じく第17次調査で検出されたSD- 06、また第30次調査（仙台市教委　1998）で検出されたSD 01と同一の区画溝跡と推定される。出土遺物や遺構の検出状況から14世紀から16世紀後半頃に機能していたと考えられる。また、第17次調査では、SD- 02と同軸方向で重複関係にあるSD- 03が検出されておりこの溝跡は遺物の出土状況も踏まえ16世紀後半から17世紀初頭に機能していた溝と考えられる。

以上のことから、今次調査で検出されたSD 8は14世紀代から機能し、近世遺物は出土しなかったが17次調査で検出されたSD-03とも関連性がうかがわれることから、近世初頭まで機能していたと考えられる。

2.掘立柱建物跡（第138図）

Ⅳ区西側で、多くのピットを検出した。その中で、掘立柱建物を3棟、柱列を1列確認した。また、これらの遺構付近で井戸跡も検出した。SB3、SA 1は、第5章で述べたように第30次調査で検出したSB02、SB03との位置関係から、一連の施設と考えられる。SB 2についても第30次調査区まで延びる可能性が考えられる。また、これらの掘立柱建物跡や柱列跡、井戸跡の重複関係をみると、変遷は「掘立柱建物跡 (SB 4)→井戸跡(SE 1、機能時⇒井戸枠抜取り⇒廃物投棄⇒埋め戻し)→建物群(SB 2、SB 3、SA 1)」となる。井戸の後に造られたSB 2・3、SA 1は、共通して礎板に石を据えている。礎板に石を据えている柱穴は数が少なく、井戸が機能していた以前に造られた、SB 4及び井戸より前に造られている柱穴(P 119、P 120、P 401、P 413)は、礎板石を持たないことから、井戸より前の建物は礎板を持たない建物と考えられる。この建物群の変遷と、この場が区画溝の中心部分であることを考慮すると、「建物群(SB 4)→井戸跡(SE 1)→建物群(SB 2、SB 3、SA 1)」の2回の変化と、「井戸が機能を終え、廃棄物が投棄された時期」と「埋め戻しによって整地され、建物群(SB2、SB3、SA 1)が造られた時期」に時間的な差が認められる。

これらの時期を示す遺物は、残念ながら今回の調査では出土していない。おおよその時期を知るため周辺から出土した遺物の年代をみると、中国産青磁（第18図3～5）が13世紀後半頃、在地産中世陶器（第18図1）が13世紀後半から14世紀前半頃、瓦質土器が（第18図2）15世紀から16世紀頃、土師質土器が16世紀から17世紀前半頃のものである。これを基に屋敷内の年代を導くと、おおよそ13世紀後半から17世紀前半頃の年代となる。



第138図　Ⅳ層上面検出掘立柱建物跡

第２節　古墳時代から古代の出土遺物と検出遺構

(1) 古墳時代～古代の遺構出土土器（第 139 ～ 142 図）
～竪穴住居跡出土土器を中心に～

ここでは東北地方で使われている型式名と須恵器の窯式名を併用し、以下の年代的枠組みを構成した。紙幅の関係で研究史に関する詳しい言及は避けるが、東北地方の古墳時代の型式区分については、氏家和典の編年案（1957）を基軸とし、その他阿部明彦（1989）、青山博樹（2011）、石本弘（1995）、伊藤博幸（1989・1995）、斎野裕彦（2010）、酒井清治（1995）、高橋誠明（1999）、次山淳（1992）、辻秀人（1994・1995、2007）、村田晃一（1995）、柳沼賢治（1999）、掲載の各論考を参照した。

また、古墳時代前期の編年観は、寺沢薫（1986・2002）の編年案に、古墳時代中期以降後期から奈良時代直前に至るまでの須恵器窯式の編年観は、中村浩（2001）を参照し、「田辺昭三の 1981 年案を基礎として細部を修正した」山田邦和の編年案（2011）に依拠した。

器種は、①坏形土器（埦形、皿・盤形を含む）、②高坏形土器、③壺形土器、④甕形土器、⑤甑形土器、⑥鉢形土器、⑦器台形土器、⑧その他の土師器、⑨瑕形土器、に大別し、器形の詳細、特徴について以下に言及した。なお記述時には語尾の「形土器」は省略した。

なお、分類、編年に関わる土器の基本的な見方については、坂詰秀一・福田健司（2002）に依拠している。

1. 時期設定

［第１期：塩釜式期］・・・・・・・・・・・・・・古墳時代前期（３世紀後葉～４世紀後葉）
［第２期：南小泉式期］・・・・・・・・・・・・・古墳時代中期初頭～前葉（４世紀末葉～５世紀前葉）
［第３期：引田式期］・・・・・・・・・・・・・・古墳時代中期中葉～末葉（５世紀中葉～末葉）
［第４ａ期：住社式期］・・・・・・・・・・・・・古墳時代後期前半（６世紀初頭～６世紀末葉）
［第４ｂ期：住社式期～栗囲式期］・・・・・・・古墳時代後期後半（６世紀末葉～７世紀初頭）

2. 遺構出土土器の年代観の概略

各遺構の事実記載箇所に示したように当該遺跡で検出された遺構の重複関係と遺構出土土器によってその遺構の廃絶された時期を知ることができる。ここでは、竪穴住居跡出土土器を中心に設定時期別に各遺構出土土器について言及し、遺構廃絶時期の推定根拠に替えたい。

第１期：塩釜式期

この期に属する遺構は、検出されていないが、SD14 から出土した C-069 の器台をこの期に属するものとして挙げておく。台状の口縁部からほぼ直線状に垂下し、体部下半から緩やかに開く裾部に至る。裾部の三方に透かしの円窓を有する。

第２期：南小泉式期

明確に第２期に属すると考えられる竪穴住居跡は SI17 のみであるが、重複関係と一括遺物から SI9・10・19・20・21・23 も第２期に属すると考えられる。

SI17 から坩形の小型壺が３点、床面直上から出土している。C-030 は平底に近い底部から内弯し直線的に外傾し口唇部に向かって若干内弯しつつ丸くおさめた口唇端部に至る。C-031・032 は平底で、器形は C-030 に類似する。C-032 の口唇端部は、若干内側に摘み上げられており、C-030・031 に比較すると尖頭である。

他の遺構ではSK5、SX5がこの期に属する。

SK5から出土した土師器のうち、2点を図化した。C-070は鉢で、小さな平底からゆるやかに内弯して立ち上がり、頸部から口縁部にかけてわずかに外傾する。C-071は鉢で、平底の底部から内弯しながら立ち上がり、中央で屈曲し、直線的な肩部から口縁部にかけて外反する。

SX5からは、出土した土師器のうち高坏3点と壺3点の6点を図化した。C-077～079は高坏である。C-077の坏部は逆台形で、脚部は裾部に向かってゆるやかに広がる。C-078は坏部の下部に突帯が付されている。脚部は直線的に上部から裾部へかけて緩やかに広がる。C-079は半円形の坏部と直線的な脚上部である。裾部は欠損するがC-078と同様の脚部形態であると考えられる。C-075は、坩形の小型の壺で平底の底部から、球胴形の体部で、口縁部は直線的に外傾する。C-076も小型の壺であるが、偏平な体部で口縁部はやや内弯しながら外傾する。C-080は大型の壺で底部を欠損し、最大径を胴部中央に持つ球形の胴部で、口縁部は受口状である。前代から残るパレス型の壺と思われる。

SD14から出土した土師器のうち、高坏3点、小型壺1点、甕1点の計5点がこの時期のものである。高坏のうち、C-061・063の坏部は底部と体部の境が明確で、C-061の脚部はやや短く、C-063は細めの脚であり、裾部は両者とも強く外反する。C-065は、坏部の下部と中央部に段を有し、裾部を欠損している。坩形の小型壺のC-059は、体部中央からやや下に焼成後の円窓がうがたれている。偏平な体部で口縁部は外傾し、上方に摘み上げられた形の口唇部である。C-067は甕である。底部を欠損し、ずん胴の胴部で口縁部は短く外反する。

第3期：引田式期

当期に属する遺構は、SI2・14・16・19の4軒の竪穴住居跡である。

SI2から出土した土師器のうち、2点を図化した。C-002は埦形の坏で、当期に出現する器形である。底部を欠損するが、緩やかに口縁部まで内弯しながら立ち上がる。C-001は壺である。胴部がやや長胴で、口縁部はわずかに外傾する。

SI14から出土した土師器のうち3点と、小型土製品（ミニチュア）1点を図化した。C-018は坏である。丸底の底部からきわめて緩やかに内弯しながら立ち上がり、口縁部は外反する。C-016・019は壺である。C-016は、引田式期とされており、平底の底部からやや偏平な胴部を経て、口縁部は直線的に外傾し、口唇部でわずかに内弯する。C-019は壺である。底部を欠損し、やや球形の胴部から口縁部は弱く外傾し、口唇部は若干外反する。P-012は、平底の底部から緩やかに内弯しながら立ち上がり、口縁部は外反する。

SI16から出土した土師器のうち、7点を図化した。全て坏である。C-023・027は、底部から直線的な体部に、緩やかに弯曲しながら立ち上がり、口縁部は弱く外傾する。C-026は、丸底の底部から外傾しながら立ち上がり、直線的な体部から口縁部はやや強く外傾する。平底のC-024・025・028は、いずれも埦形、鉢形の器形で、C-025は底部から緩やかに内弯しながら立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は内傾する。C-024の口縁部は短く外反する。C-028は、平底から緩やかに立ち上がり、体部は丸みを帯び、口縁部は短く外反する。C-029は、丸底から緩やかに内弯しながら立ち上がり、体部と口縁部の境目でわずかに段を形成し、口縁部は短く内弯する。第3期でも後半期に出現する器形と考えられる。

SI19からは、土師器坏1点を図化した。

第4ａ期：住社式期

この期にはSI6・7・22・24の4軒の竪穴住居跡が属する。

SI6から出土した土師器のうち、2点を図化した。C-003は、坏である。丸底の底部から緩やかに立ち上がり底部と口縁部の境目で段を持ち、口縁部は強く外傾する。当期から次段階まで残る器形である。C-004は長胴の甕である。低台状の底部から弱く内弯しながら立ち上がり、口縁部は外傾し、口唇部直下がややくびれる。胴部は丹念なヘラケズリ調整が施されている。

SI7 から出土した土師器のうち、1 点を図化した。C-005 は長胴甕で、平底の底部から外傾しながら立ち上がり、胴部ではわずかな膨らみを持ち、口縁部は直線的に外傾し、口唇部は摘み上げられた形状になる。

SI22 から出土した土師器のうち、10 点を図化した。C-037 は坏で、口径 15.1㎝、丸底の底部から緩やかに立ち上がり、体部上半が口縁部に向かって内弯し、口縁部は短く外反する。C -036 は、C-037 に比べると器高の高い埦形の器形で、丸底から緩やかに立ち上がり、体部上半が内弯し、口縁部はわずかに外反する。両者とも 5 世紀代から当期まで残る器形である。C-044 は、小型壺としたが、無頸壺とも考えられる。体部下半を欠損し、球状の体部から内弯しながら立ち上がり、口縁部に至る。口唇端下部に焼成前の穿孔がある。C-035 は、甕である。平底から立ち上がり、球状気味の胴部から口縁部は外反する。外面の胴部下半はヘラケズリ調整である。

SI24 から出土した土師器のうち、3 点を図化した。C-045 は坏で、丸底から緩やかに立ち上がり、口縁部との境目で段を有し、口縁部は外傾する。C-046 は、外面調整がケズリ主体の単孔の甑である。C-047 は甕で、底部から緩やかに立ち上がり、口縁部は外傾し、口唇部はわずかに外反する。ケズリ主体の調整である。

SR1 からは、土師器坏 1 点が出土した。C-072 は、丸底の底部から底部と口縁部の境目に段を有しゆるやかに外傾する。口径は 17㎝を超える。第 4 期に属するものと考えられる。

第 4 b 期：住社期～栗囲式期

掲載遺物から当期に属すると考えた遺構は、SI8・15 であるが、重複関係と一括遺物から SI4・13・18 が同時期の住居と考えられる。

SI8 から出土した土師器のうち、9 点を図化した。C-006 の坏は底部を欠損するが、緩やかに立ち上がり体部と口縁部の境目に段を有し、口縁部は外傾する。前期から残る器形であるが、脚部を欠損した高坏の可能性もある。尚、被熱し再酸化している。C-007 は、小型の甕である。平底からやや外傾して立ちあがる長胴で、口縁部は外傾する。外面には、当期に多く見られるハケメ調整を施す。C-008 は、C-007 と同器形で大、小のセット関係の可能性がある。これも外面はハケメ調整である。C-009 は長胴甕で、口縁部は外傾する。外面はハケメ調整である。C-010 は、頸部に段を有している。外面のハケメ調整とともに、栗囲式期の長胴甕の特徴の一つである。C-011 はやや下膨れ気味の長胴甕で頸部に段を有している。C-009・010 に比べ口縁部下半部が直立し、上半部は外反する。C-013 は、下半を欠損しやや球形の胴部から、口縁部は短く外反する。C-014 は、3 ～ 4 期に多く見られる器形の胴部が球形の甕で、丸底から緩やかに立ち上がり、口縁部は外反する。C-012 は、単孔の甑である。外面はハケメ調整主体で頸部にゆるやかな段を有している。

SI15 から出土した土師器のうち、2 点を図化した。C-022 は、SI8 の C-007 に類似する器形で小型甕とも考えられるが、内面にヘラミガキ調整が施されていることから鉢とした。頸部に段を有している。C-021 は、体部下端を欠損しており、甕か甑か判別できない。長胴形で口縁部は外傾する。

その他の土器

SI5 からは、E-009 の須恵器坏が出土したが、直線的に外傾し、底径と口径の比が大きいことなどの器形の特徴から、10 世紀代と考えられる。宮城県内では、この時期の生産地として、須江糠塚窯が知られている。SI19 出土の E-001、SD14 出土の E-003 はいずれも須恵器の二重瑞である。いずれも窓部で窓と窓の間隙には櫛描き波状文が施文されている。出土例は少なく、生産地では TK85 号窯、濁り池窯、消費地では静岡県山の花遺跡、同県葬所遺跡、長野県鳥羽山洞窟遺跡、三重県神前山古墳、同県森脇遺跡、奈良県三輪山麓等から出土している。これらはいずれも初期須恵器で、田辺編年の代表的な窯式では TK73 号窯式に比定される。なお SD7 からは、須恵器盤の底部（第 133 図 10）が出土している。栗囲式期末から国分寺下層式期に属するものと考えられ、胎土から東海産と考えられる。

3土器以外の遺構出土遺物

Ⅴ層上面検出遺構からは、土器以外の遺物も出土しており、ここではそれらの遺物で図示したものの概略を述べたい。

[石製品]

Ⅴ層検出遺構から出土した石製品は、管玉２点、石製模造品８点、臼玉１点、砥石１点である。管玉はSI4周溝跡から出土した碧玉製のKd-001（第43図1）とSD12から出土した緑泥片岩製のKd-003（第91図4）である。Kd-003は一方の端部が欠損しているため不明であるが、Kd-001は単方向からの穿孔である。Ⅴ層上面検出遺構出土の管玉ではないがKd-002（第136図11）は緑泥片岩製の管玉でこちらは、双方向からの穿孔である。

最も多く出土したのは、石製模造品である。Kd-006（第130図7）・007（第128図3）・008（第91図3）は剣形で、Kd-013（第42図3）・015（第69図6）・019（第58図5）・020（第128図4）は円板形で、Kd-025（第69図4）は勾玉形である。

剣形石製模造品は、いずれも石材は緑泥片岩で一ヶ所穿孔されている。Kd-006・007は、片面にＹ字状の鎬が研磨により作出されている。基部は、Kd-007が一部欠損をしているがいずれも台形状を基調とする。Kd-008は、前述の２点にみられた鎬が面取りされたような状態を呈し、基部は方形状を呈する。これに似たもので、Ⅳ層上面検出遺構のSD4出土のKd-005（第136図5）は緑泥片岩を素材とし、鎬を作出しておらず、基部が方形状を呈する。このほかに、SD8c出土のKd-011（第136図6）は緑泥片岩を素材とし、基部が台形状を呈するが、鎬は作出されていない。

円板形模造品は、いずれも二ヶ所穿孔されている。Kd-013は粘板岩を素材とし、やや楕円形を呈し表裏両面は研磨されているが整形時の剥離痕を残す。Kd-015は粘板岩を素材とし、３箇所角が張り出す様子から三角形状を呈すると考えられる。緑泥片岩製のKd-019と粘板岩製のKd-020は、ほぼ円形を呈する。

Kd-025の勾玉形は１ヶ所穿孔されており、石材には緑泥片岩を使用している。表裏面ともに研磨されている。また、抉り部分も研磨により整形されている。

今次調査で出土した石製模造品は、石材に緑泥片岩もしくは粘板岩を使用している。

[金属製品]

SI5から鎌（第44図2）が１点出土している。錆膨れが著しく判然としないが、太い部分が柄の先端部分で細くなっているところが刃部とみられる。

[土製品]

頭部を欠損したP-001の土製勾玉（第69図3）やP-002の土玉（第55図2）、断面形が台形状を呈するP-005の紡錘車（第135図2）、下端を欠損したP-008（第135図3）の支脚が出土した。これらのほかに小型土製品（ミニチュア）も出土しており、P-009（第51図1）は坏であるが、作りが粗く内外面に明瞭な輪積み痕を残し器厚も厚い。器形は、体部と口縁部の境に段を有しそこから口唇部に向けて短く内傾する。P-011（第55図1）は口縁部を欠損した壺である。やや外傾しながら肩部付近で内傾し、また頸部で外傾する。P-012（第58図4）も壺である。胴部中央付近が最も張り出すように内弯し、口縁部は直線的に外傾する器形を呈す。P-014（第128図2）は、受部が欠損した高坏と考えられる。脚部は柱状中実で、脚部から袖部に向けてやや外反しながら開く。

第 1 期

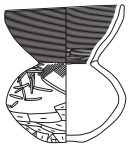
SD 14 出土土器

C-069（3 層）

第 2 期

SI 17 出土土器

C-030(床面直上)



C-031(床面直上)

C-032(床面直上)

SK 5 出土土器

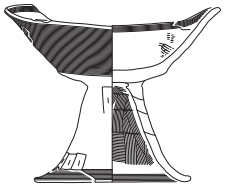
C-070(1 層)

C-071(1 層)

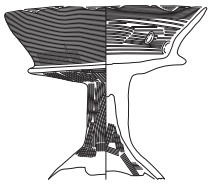
SX 5 出土土器

C-075(5 層)

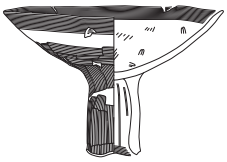
C-076(5 層)



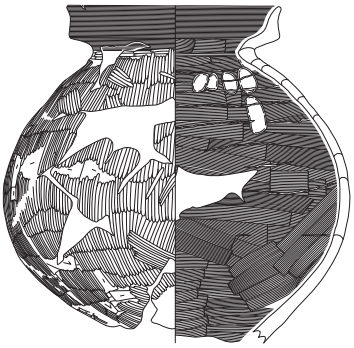
C-077(2～3 層)



C-078(5 層)



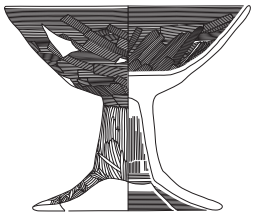
C-079(2～3 層)



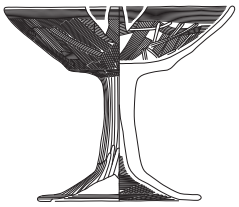
C-080(5 層)

SD 14 出土土器

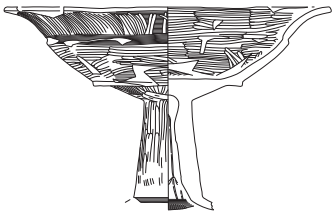
C-059(3 層)



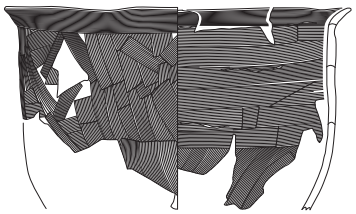
C-061(1・2 層)



C-063(1・2 層)



C-065(1・2 層)



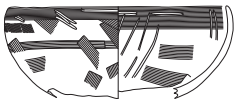
C-067(1・2 層)

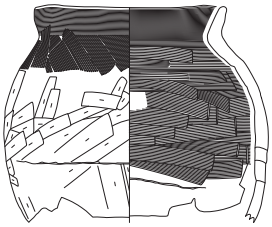
0　S=1/6　20cm

第139図　出土土器集成(1)

第 3 期

SI 2 出土土器

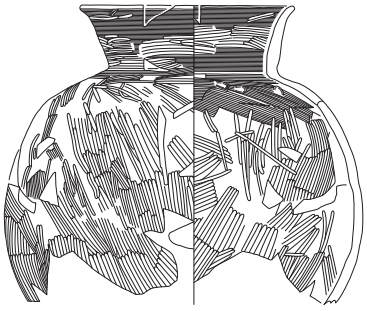

C-002(1 層)


C-001(K1-2 層)

SI 14 出土土器

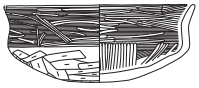
C-018(1 層)

C-016(床面直上)


C-019(床面直上)

P-012(1 層)

SI 16 出土土器


C-023(床面直上)

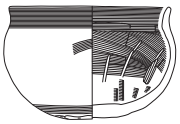
C-026(床面直上)

C-029(カマド)

C-024(床面直上)

C-027(床面直上)

C-025(床面直上)


C-028(カマド)

SI 19 出土土器

C-034(2 層)

第 4a 期

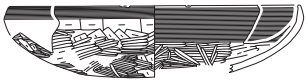
SI 22 出土土器

C-036(床面直上)

C-037(床面直上)

C-038(床面直上)

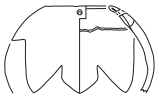
C-039(床面直上)


C-040(床面直上)

C-041(床面直上)

C-042(床面直上)

C-043(床面直上)

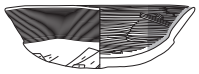

C-044(掘り方)

C-035(床面直上)

0 S=1/6 20cm

第 140 図　出土土器集成 (2)

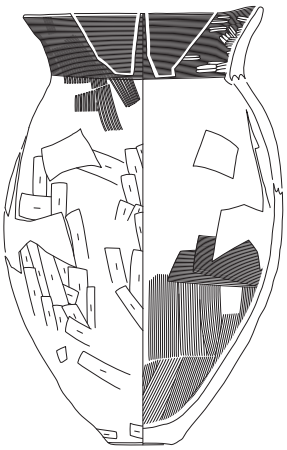
SI6出土土器



C-003(6 層)

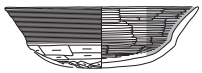
C-004(6 層)

SI7出土土器

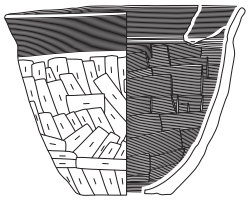


C-005(床面直上)

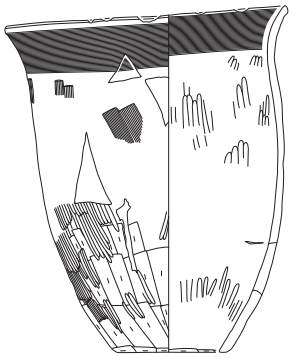
SI24出土土器



C-045(K1-1・2 層)



C-047(K1-1・2 層)



C-046(K1-1・2 層)

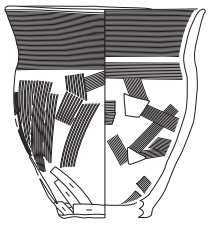
SR1出土土器

C-072(1 ～ 6 層)

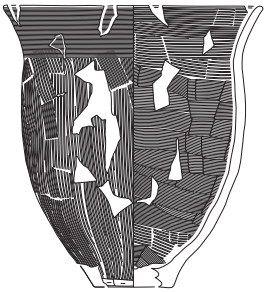
第 4b 期

SI8出土土器

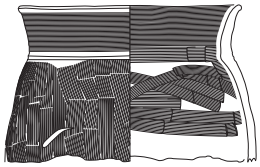
C-006(床面直上)



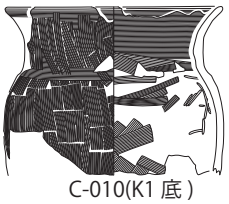
C-007(床面直上)



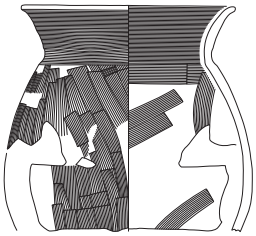
C-008(床面直上)



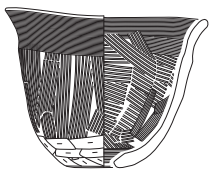
C-009(床面直上)



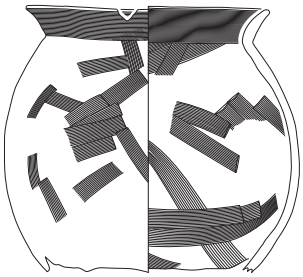
C-010(K1 底)



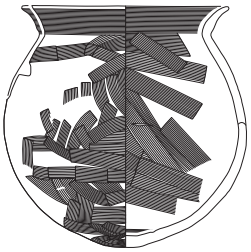
C-011(K1 底)



C-012(床面直上)



C-013(K1 底)

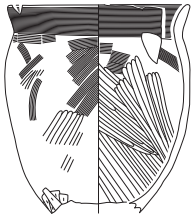


C-014(P3 柱抜取穴)

0 S=1/6 20cm

第141図　出土土器集成(3)

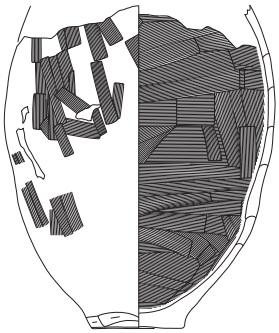
SI15出土土器



C-021(カマド)

C-022(カマド)

SI11出土土器



C-015(床面直上)

その他の土器

SI5出土土器

E-009(1・2層)

SI19出土土器

E-001(1層)

SD14出土土器

E-003(1・2層)

0 S=1/6 20cm

第142図　出土土器集成(4)

(2) 竪穴住居跡について（第 143・144 図）

今回の本発掘調査では、竪穴住居跡をⅠ区で 4 軒、Ⅲ区で 6 軒、Ⅳ区で 12 軒の総数 22 軒検出した。これら竪穴住居跡の重複関係を、前述した掲載遺物の年代観と遺構一括の非掲載遺物の年代観および発掘調査現場での所見や断面観察をもとに第 143 図に整理した。図の下位がより新しく、図中の矢印は直接の重複関係を示している。

[第 1 期]

当期に該当する竪穴住居跡は検出されなかった。

[第 2 期]

出土遺物等から、SI9・10・17・20・21・23 が南小泉式期の竪穴住居跡と考えられる。Ⅲ区北側及びⅣ区西側で検出された。平面形は検出状況から判然としないが概ね方形を呈していると考えられる。カマドは SI23 で検出されており、いずれもカマドの構築に粘土を素材としており、北東壁に設置されている。周溝は SI17・21 で確認されただけでこれら以外では確認されなかった。

[第 3 期]

出土遺物等から、SI2・14・16・19 が引田式期の竪穴住居跡と考えられる。Ⅰ区中央付近、Ⅲ区北側、Ⅳ区西側で検出された。平面形は方形を呈する、または方形を基調とすると考えられる。SI2 以外の竪穴住居跡からカマドが検出され、いずれもカマドの構築材に粘土を使用しており、北東壁または南東壁に設置されている。周溝は SI2 で検出された。SI16 では間仕切り溝跡が 1 条確認されている。SI 2・16 では土坑が確認されており、特に SI16-K1 はその位置関係から貯蔵穴と考えられ、第 5 章で述べたようにその周囲に黄橙色シルトをやや厚く敷き、周囲の床面より少々高くしている。

[第 4a 期]

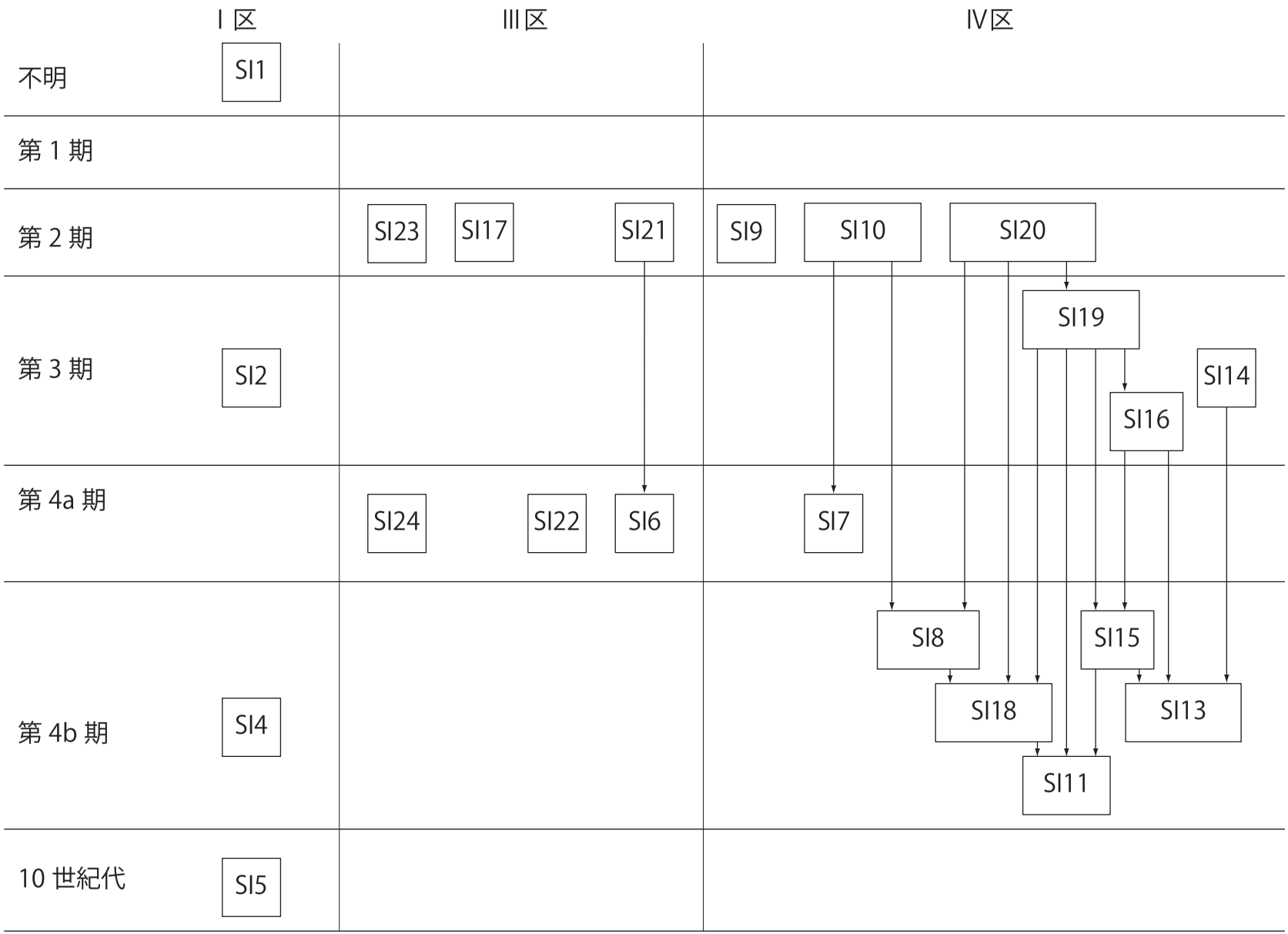
出土遺物等から、SI6・7・22・24 が住社式期の竪穴住居跡と考えられる。Ⅲ区中央から北側、Ⅳ区中央付近で検出された。平面形は方形を呈する、または方形を基調とすると考えられる。SI6・22 からカマドが検出され、SI6 では粘土を構築材に使用したカマドが南東壁に設置されているのを確認した。SI7 では、カマドの痕跡は確認されなかったが、住居ほぼ中央に地床炉と考えられる火床面を確認した。SI22・24 では、土坑を検出した。SI22 の土坑はカマドとの位置関係から貯蔵穴と考えられる。

[第 4b 期]

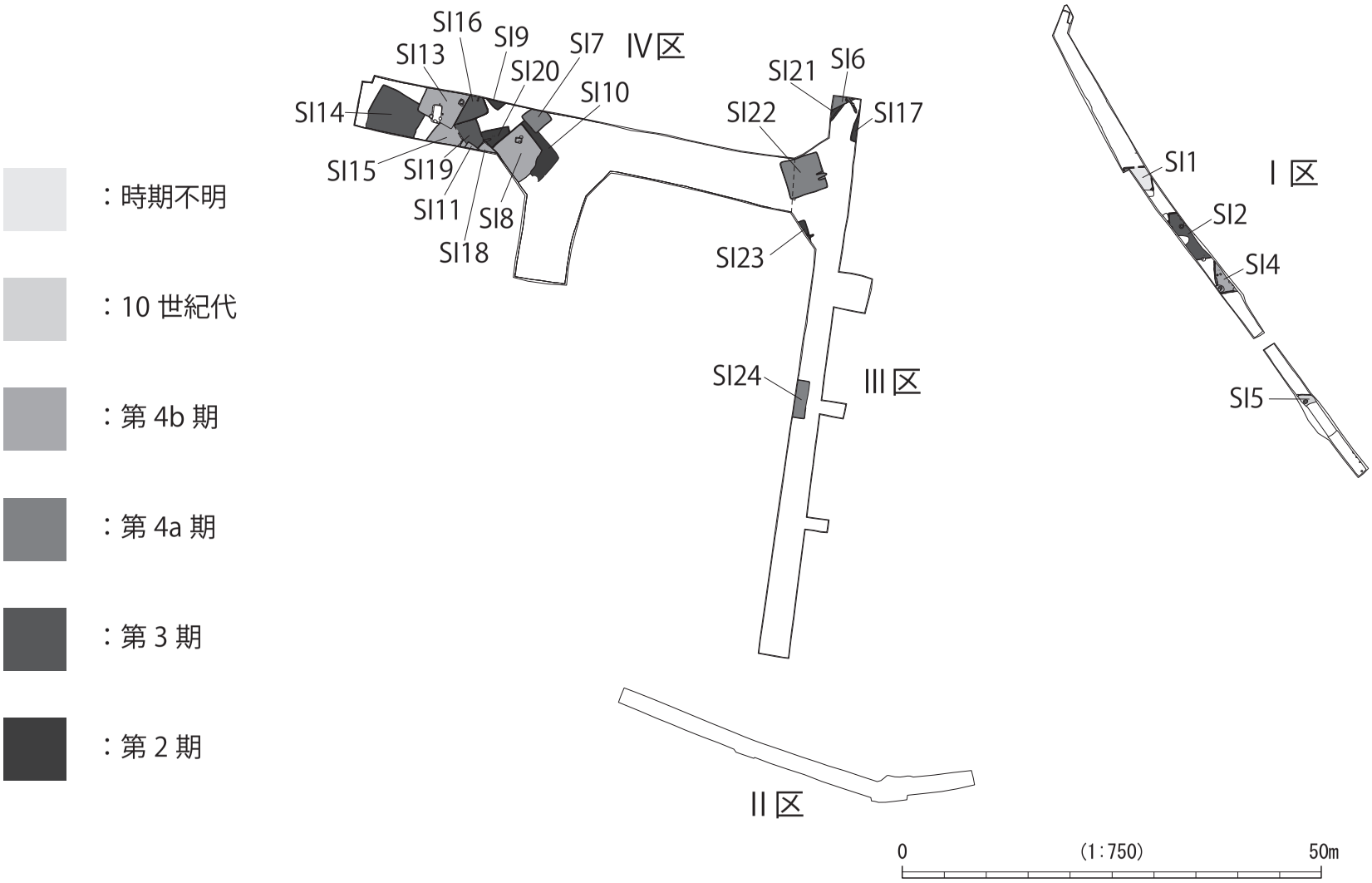
出土遺物等から、SI4・8・11・13・15・18 が住社式期から栗囲式期にかけての竪穴住居跡と考えられる。Ⅰ区中央及びⅣ区西側で検出された。平面形は方形を呈する、または方形を基調とすると考えられる。SI13・15・18 でカマド跡が検出されたが、SI15・18 はカマドの構築材に粘土を使用しているが SI13 は基本層Ⅴ層で作り出している。カマドの設置位置はいずれも北東壁に位置する。SI4・13 では周溝を確認した。SI 8 では土坑を 1 基検出し他に焼土及び炭化物範囲を検出した。SI4 では火床面を 1 ヶ所確認した。

上記以外の時期の竪穴住居跡としては出土遺物等から、SI5 が 10 世紀代の竪穴住居跡と考えられる。Ⅰ区南側で検出した。平面形は残存状況が悪いため判然としないが、方形を基調としていると考えられる。カマド跡は検出されなかったが、土坑 1 基と周溝を確認した。

以上のように出土した土師器から各期毎に分け竪穴住居跡の概要を述べたが、検出状況が撹乱に削平されていたり、遺構同士の重複状況により残存状況が良い遺構が少ないことや、住居内施設で全てに共通するものがなかったため各期における施設の特徴等は見られなかったが、住居跡の分布においては調査区全体で見るとⅠ区中央付近、Ⅲ区北側、Ⅳ区西側に集中して見られ、Ⅲ区南側やⅡ区では住居跡が検出されなかった。これらのことから、今回調査した範囲の北側が居住域として利用されていたと考えられる。この他、今回の調査で検出した住居跡からカマド跡を確認出来たものと、確認出来なかったものがあるため、住居跡の壁を利用して住居跡の示す方位を確認したところ、Ⅰ区で検出した住居跡全てがほぼ真北を示している。これに対しⅢ区及びⅣ区では検出した住居跡の大半が北東または北西を示している。



第 143 図　竪穴住居跡重複関係模式図



第 144 図　竪穴住居跡分布図

第３節　まとめ

（1）　南小泉遺跡は、広瀬川左岸に形成された自然堤防上に立地する。標高は海抜７～ 14m である。

（2）　今回の調査では、弥生時代から近世までの遺物が出土した。また、古墳時代から近世初頭の時期に属する遺構を検出した。

（3）　Ⅴ層上面では、古墳時代の竪穴住居跡を 21 軒、古代の竪穴住居跡を 1 軒検出した。今回の調査範囲においては、中央より北側に竪穴住居跡が集中していることが確認された。

（4）　古代の竪穴住居跡から出土した土師器のうち、4b 期としたものは、住社式期の中でも後出の栗囲式期の特徴が現れるものも含まれ、住社式の中でも後出のものと考えられる。

（5）　Ⅳ層上面では、中世の大型区画溝（SD8）や掘立柱建物跡（SB2 ～ 3）及び柱列跡（SA1）を検出したことにより、第 17 次・30 次調査の成果とあわせて、13 世紀後半から 17 世紀前半頃に区画溝に囲まれた屋敷跡が存続していたことが明らかとなった。

参考文献

青山博樹　2011「年代の物差しと併行関係」土師器の編年⑦東北『古墳時代の考古学1』同成社

阿部明彦　1989「山形県における黒色土器出現の様相と展開」東国土器研究第２号

石本弘　1995「福島県における律令制成立以前の土器の様相とその背景」東国土器研究第４号

伊藤博幸・酒井清治　1989「陸奥国の黒色土師器―岩手・宮城地域」東国土器研究第２号

1995「須恵器集成図録」東日本編Ⅱ　第４巻

氏家和典　1957「東北土師器の形式分類とその編年」『歴史』第14輯

坂詰秀一・福田健司・前川雅夫　2002『落川・一の宮遺跡Ⅲ　総括編』第二分冊　落川・一の宮遺跡（日野３・２・７号線）調査会

仙台市教育委員会　1979『史跡遠見塚古墳　昭和53年環境整備予備調査概報』仙台市文化財調査報告書第15集

仙台市教育委員会　1996『中在家南遺跡他』仙台市文化財調査報告書第213集

仙台市教育委員会　1998『南小泉遺跡第30・31次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第226集

仙台市教育委員会　2004『鴻ノ巣遺跡第７次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第280集

仙台市教育委員会　2008a『南小泉遺跡第28次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第325集

仙台市教育委員会　2008b『南小泉遺跡他　発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第326集

仙台市教育委員会　2010a『西台畑遺跡第１・２次調査』仙台市文化財調査報告書第359集

仙台市教育委員会　2010b『南小泉遺跡第61次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第362集

仙台市教育委員会　2010c『沼向遺跡第４～34次調査』仙台市文化財調査報告書第360集

仙台市教育委員会　2011a『宮城の遺跡100』宮城県文化財保護協会

仙台市教育委員会　2011b『西台畑遺跡第３次調査』仙台市文化財調査報告書第388集

仙台市教育委員会　2012a『沓形遺跡第２・３次調査』仙台市文化財調査報告書第397集

仙台市教育委員会　2012b『鴻ノ巣遺跡第９次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第400集

高橋誠明　1999「宮城県における古墳時代中期の土器の様相」東国土器研究第５号

田辺昭三　1981『須恵器大成』角川書店

次山淳　1992「塩釜式土器の編年とその位置づけ」『埋蔵文化財研究15周年記念論集』

辻秀人　1994「東北南部における古墳出現期の土器編年―その一会津盆地―」東北学院大学論集26
1995「東北南部における古墳出現期の土器編年―その二―」東北学院大学論集27
2007『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト文化交流の研究』
寺沢薫　1986「畿内古式はじきの編年と二・三の問題」『矢部遺跡』奈良県立橿原考古学研究所
東北古代土器研究会　2005『東北古代土器集成 - 古墳後期～奈良・集落編 -〈宮城〉』研究報告2
大宰府市教育員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ』大宰府市の文化財第49集
中村浩　2001『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房
福田健司　2010a『南武蔵の考古学　増補版』六一書房
2010b「須恵系土師質土器 - 土師器でも須恵器でもない土器 - 」『坪井清足先生卒寿記念論集』坪井清足先生の卒寿をお祝いする会
村田晃一　1995「宮城県における6・7世紀の土器の様相」東国土器研究第4号
柳沼賢治　1999「福島県における5世紀の土器とその前後」東国土器研究第5号
山田邦和　2011「須恵器の編年　①西日本」『古墳時代の考古学1』同成社

写真図版

Ⅰ区全景（西から）

Ⅱ区全景（南東から）

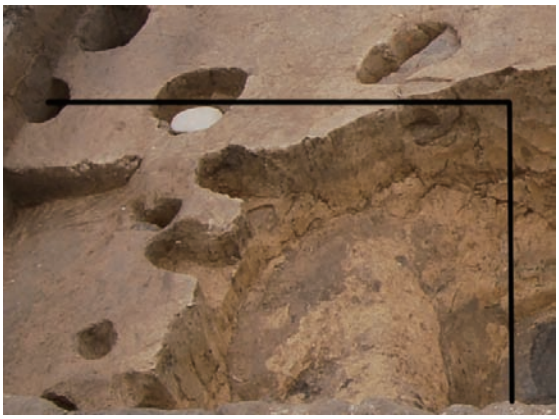
Ⅲ区全景（南東から）

Ⅳ区西側Ⅳ層上面全景（南から）

Ⅳ区西側Ⅴ層上面全景（南から）

Ⅳ区全景（南東から）

Ⅰ区 SB1-P2断面（南西から）


Ⅳ区 SB2全景（南から）

写真図版1　調査区全景・Ⅳ層上面検出遺構

Ⅳ区 SB3全景(南から)

Ⅳ区 SB4全景(南から)

Ⅳ区 SB4-P3断面(東から)

Ⅳ区 SB4-P4断面(西から)

Ⅳ区 SB4-P5断面(東から)

Ⅳ区 SB4-P6断面(東から)

Ⅳ区 SB4-P7断面(南から)

Ⅳ区 SA1全景(南から)

写真図版2　Ⅳ層上面検出遺構(1)

Ⅳ区 SD7全景（南から）

Ⅳ区 SD8検出状況（南から）

Ⅳ区 SD8C全景（南から）

Ⅳ区 SD8E全景（南から）

Ⅳ区 SD8C北壁断面（南から）

Ⅳ区 SD8-P1断面（南から）

Ⅳ区 SD8-P2断面（南から）

Ⅳ区 SD8-P3断面（南から）

写真図版3　Ⅳ層上面検出遺構（2）

Ⅳ区 SD8-P4断面(北から)

Ⅳ区 SD8-P5断面(北から)

Ⅳ区 SD8-P7断面(北から)

Ⅳ区 SD8-P8断面(南から)

Ⅱ区 SD4全景(西から)

Ⅲ区 SD5全景(南西から)

Ⅳ区 SE1全景(南から)

Ⅳ区 SE1断面(東から)

写真図版4　Ⅳ層上面検出遺構(3)

Ⅰ区 SI1 床面検出状況（北西から）

Ⅰ区 SI2 床面検出状況（東から）

Ⅰ区 SI2-SK1 土器出土状況（南から）

Ⅰ区 SI4 床面検出状況（南から）

Ⅰ区 SI5 床面検出状況（南から）

Ⅰ区 SI5 遺物（鎌）出土状況（南から）

Ⅲ区 SI6・21 床面検出全景（南東から）

Ⅲ区 SI6 カマド内遺物出土状況（西から）

写真図版５　Ⅴ層上面検出遺構（1）

Ⅳ区 SI7床面検出状況(南西から)

Ⅳ区 SI7地床炉全景(南西から)

Ⅳ区 SI8全景(西から)

Ⅳ区 SI8-K1遺物出土状況(南西から)

Ⅳ区 SI8遺物出土状況(北東から)

Ⅳ区 SI9床面検出状況(南東から)

Ⅳ区 SI10全景(北西から)

Ⅳ区 SI11床面検出状況(北東から)

写真図版6　Ⅴ層上面検出遺構(2)

Ⅳ区 SI11遺物出土状況(北から)

Ⅳ区 SI13床面検出状況(東から)

Ⅳ区 SI14床面検出状況(西から)

Ⅳ区 SI15床面検出状況(北東から)

Ⅳ区 SI16床面検出状況(南西から)

Ⅳ区 SI16カマド検出状況(西から)

Ⅳ区 SI16カマド遺物出土状況(南から)

Ⅳ区 SI16カマド内支脚出土状況(南から)

写真図版7　Ⅴ層上面検出遺構(3)

Ⅳ区 SI16遺物出土状況（西から）

Ⅳ区 SI16-K1断面（東から）

Ⅲ区 SI17床面検出状況（西から）

Ⅲ区 SI17遺物出土状況（西から）

Ⅳ区 SI18床面検出状況（北東から）

Ⅳ区 SI19床面検出状況（南西から）

Ⅳ区 SI20掘方全景（北西から）

Ⅳ区 SI20カマド遺物出土状況（北から）

写真図版８　Ⅴ層上面検出遺構（4）

Ⅲ区 SI21 床面検出状況（南東から）

Ⅲ区 SI22 床面検出状況（南東から）

Ⅲ区 SI22-K1 遺物出土状況（北から）

Ⅲ区 SI23 床面検出状況（東から）

Ⅲ区 SI24 掘方全景（東から）

Ⅲ区 SI24-K1 遺物出土状況（東から）

Ⅳ区 SD12 全景（南から）

Ⅳ区 SD12 遺物出土状況（東から）

写真図版９　Ⅴ層上面検出遺構（5）

Ⅰ区 SD13全景（南西から）

Ⅰ区 SD13遺物出土状況（北東から）

Ⅳ区 SD14全景（北西から）

Ⅳ区 SD14全景（南東から）

Ⅳ区 SD14遺物出土状況（南から）

Ⅱ区 SX2断面（西から）

Ⅱ区 SD4・SX5全景（東から）

Ⅱ区 SX6断面（北から）

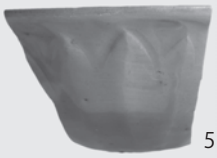
写真図版10　Ⅴ層上面検出遺構（6）

1
I-004（第 18 図 1）

2
I-001（第 18 図 2）

3
J-001（第 18 図 3）

4
J-003（第 18 図 4）



5
J-002（第 18 図 5）

SD8（1 ～ 5）

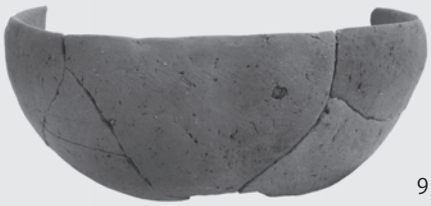
6
I-010（第 28 図 1）

7
I-007（第 36 図 1）

8
N-002（第 36 図 2）

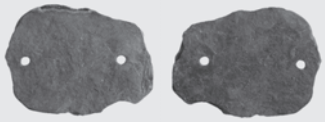
SD19（6）

P265（7）、P248（8）



9
C-002（第 42 図 1）

10
C-001（第 42 図 2）



11
Kd-013（第 42 図 3）

SI2（9 ～ 11）

12
Kd-001（第 43 図 1）

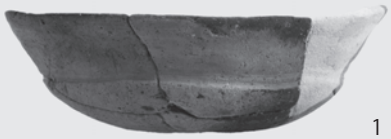
SI4（12）

13
E-009（第 44 図 1）

14
N-001（第 44 図 2）

SI5（13・14）

写真図版 11　溝跡（1）・ピット・竪穴住居跡（1）出土遺物



1
C-003（第 46 図 1）

2
C-004（第 46 図 2）

SI6（1・2）

3
C-005（第 47 図 1）

SI7（3）

4
C-006（第 49 図 1）

5
C-007（第 49 図 2）

6
C-008（第 49 図 3）

SI8（4 ～ 6）

写真図版 12　竪穴住居跡（2）出土遺物

1
C-009（第 49 図 4）

2
C-012（第 49 図 5）

3
C-011（第 49 図 6）

4
C-010（第 50 図 1）

5
C-013（第 50 図 2）

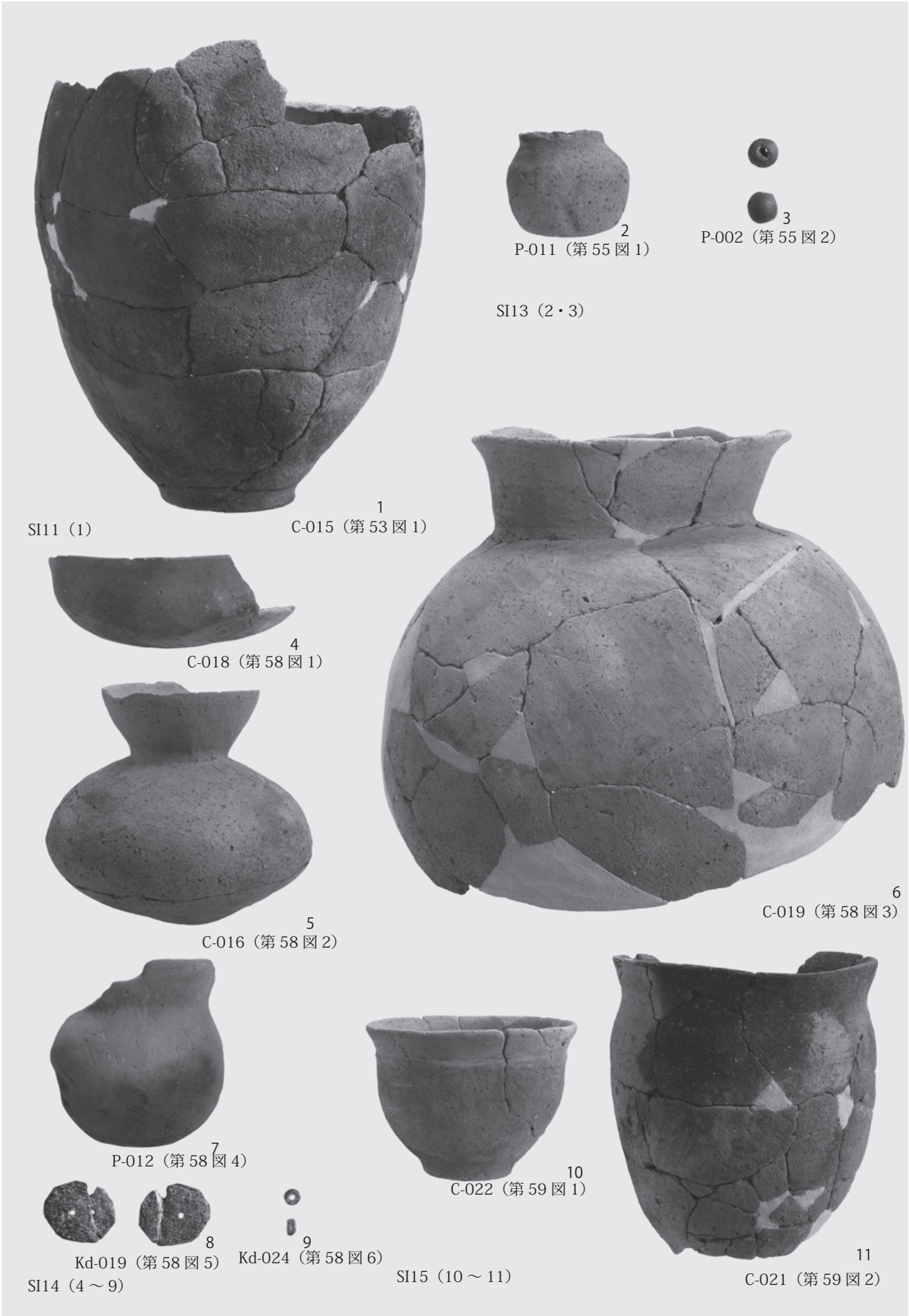
SI8（1 ～ 6）

6
C-014（第 50 図 3）

7
P-009（第 51 図 1）

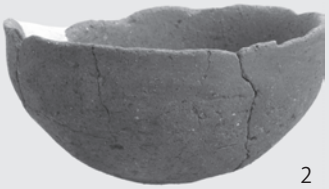
SI9（7）

写真図版 13　竪穴住居跡（3）出土遺物

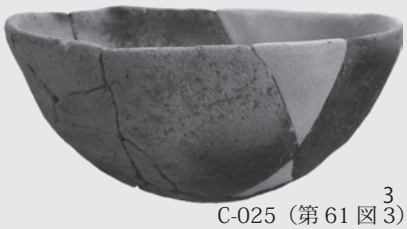


写真図版14　竪穴住居跡(4)出土遺物

1
C-023（第 61 図 1）



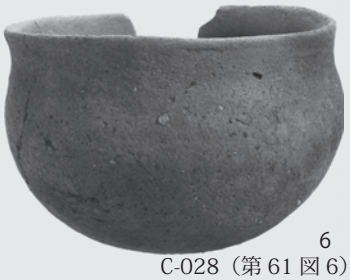
2
C-024（第 61 図 2）



3
C-025（第 61 図 3）

4
C-026（第 61 図 4）

5
C-027（第 61 図 5）



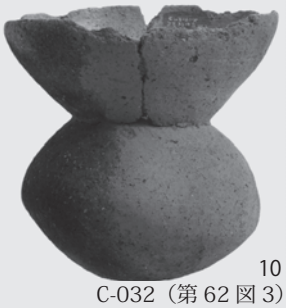
6
C-028（第 61 図 6）

7
C-029（第 61 図 7）

SI16（1 ～ 7）

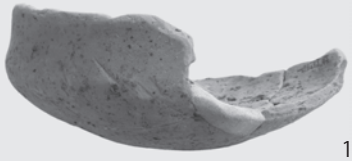
8
C-030（第 62 図 1）

9
C-031（第 62 図 2）



10
C-032（第 62 図 3）

SI17（8 ～ 10）

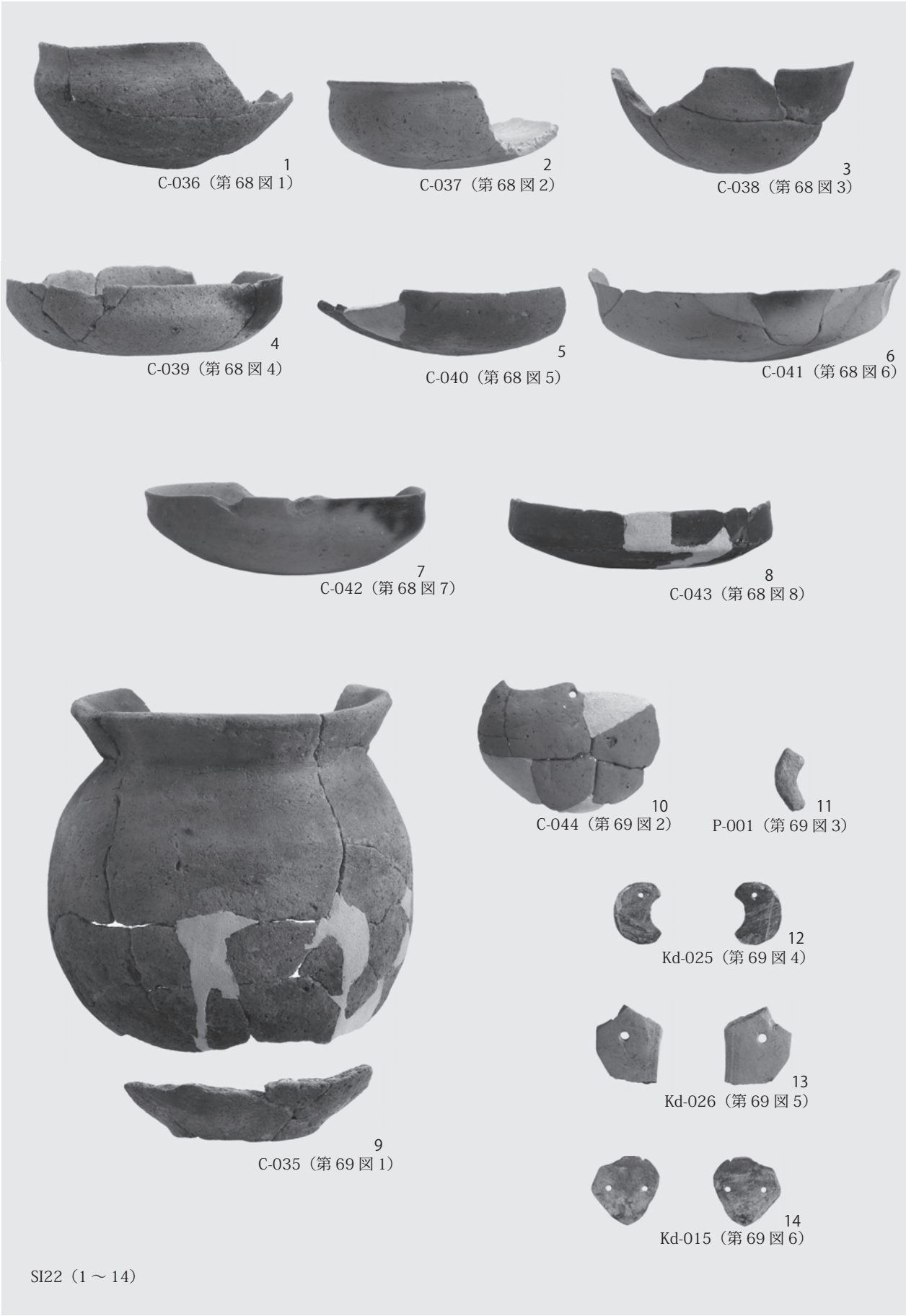


11
C-034（第 64 図 1）

12
E-001（第 64 図 2）

SI19（11 ～ 12）

写真図版 15　竪穴住居跡（5）出土遺物



写真図版 16　竪穴住居跡（6）出土遺物

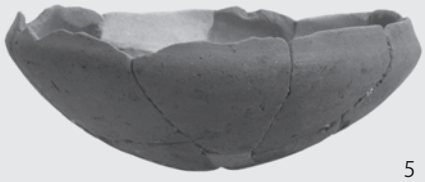
1
C-045（第 73 図 1）

2
C-046（第 73 図 2）

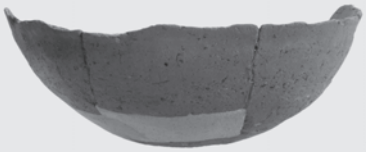
3
C-047（第 73 図 3）

SI24（1 ～ 3）

4
C-054（第 76 図 1）



5
C-055（第 76 図 2）



6
C-057（第 76 図 3）

7
C-061（第 76 図 4）

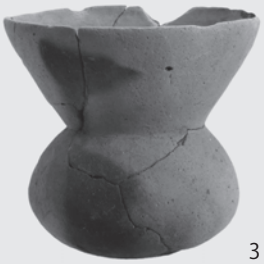
8
C-062（第 76 図 5）

SD14（4 ～ 8）

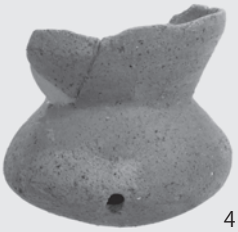
写真図版 17　竪穴住居跡（7）・溝跡（2）出土遺物

1
C-063（第 76 図 6）

2
C-065（第 76 図 7）



3
C-058（第 77 図 1）



4
C-059（第 77 図 2）

5
C-066（第 77 図 3）

6
C-067（第 77 図 4）

7
C-068（第 77 図 5）

8
C-069（第 77 図 6）

9
E-003（第 77 図 7）

SD14（4 ～ 9）

写真図版18　溝跡(3)出土遺物

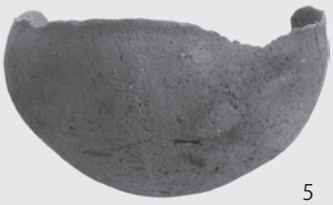
1
C-052（第 91 図 1）

2
C-053（第 91 図 2）

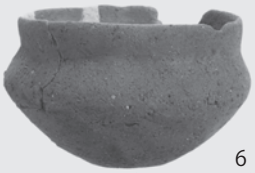
3
Kd-008（第 91 図 3）

4
Kd-003（第 91 図 4）

SD12（1 ～ 4）



5
C-070（第 126 図 1）

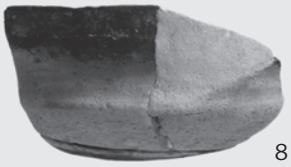


6
C-071（第 126 図 2）

7
X-001（第 126 図 3）

SK5（5・6）

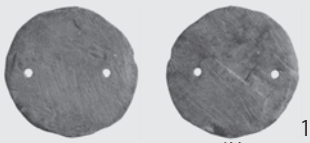
SK21（7）



8
C-072（第 128 図 1）

9
P-014（第 128 図 2）

10
Kd-007（第 128 図 3）



11
Kd-020（第 128 図 4）

SR1（8 ～ 11）

写真図版19　溝跡(4)・土坑・河川跡出土遺物

1
C-075（第 130 図 1）

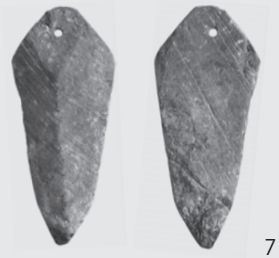
2
C-076（第 130 図 2）

3
C-077（第 130 図 3）

4
C-078（第 130 図 4）

5
C-079（第 130 図 5）

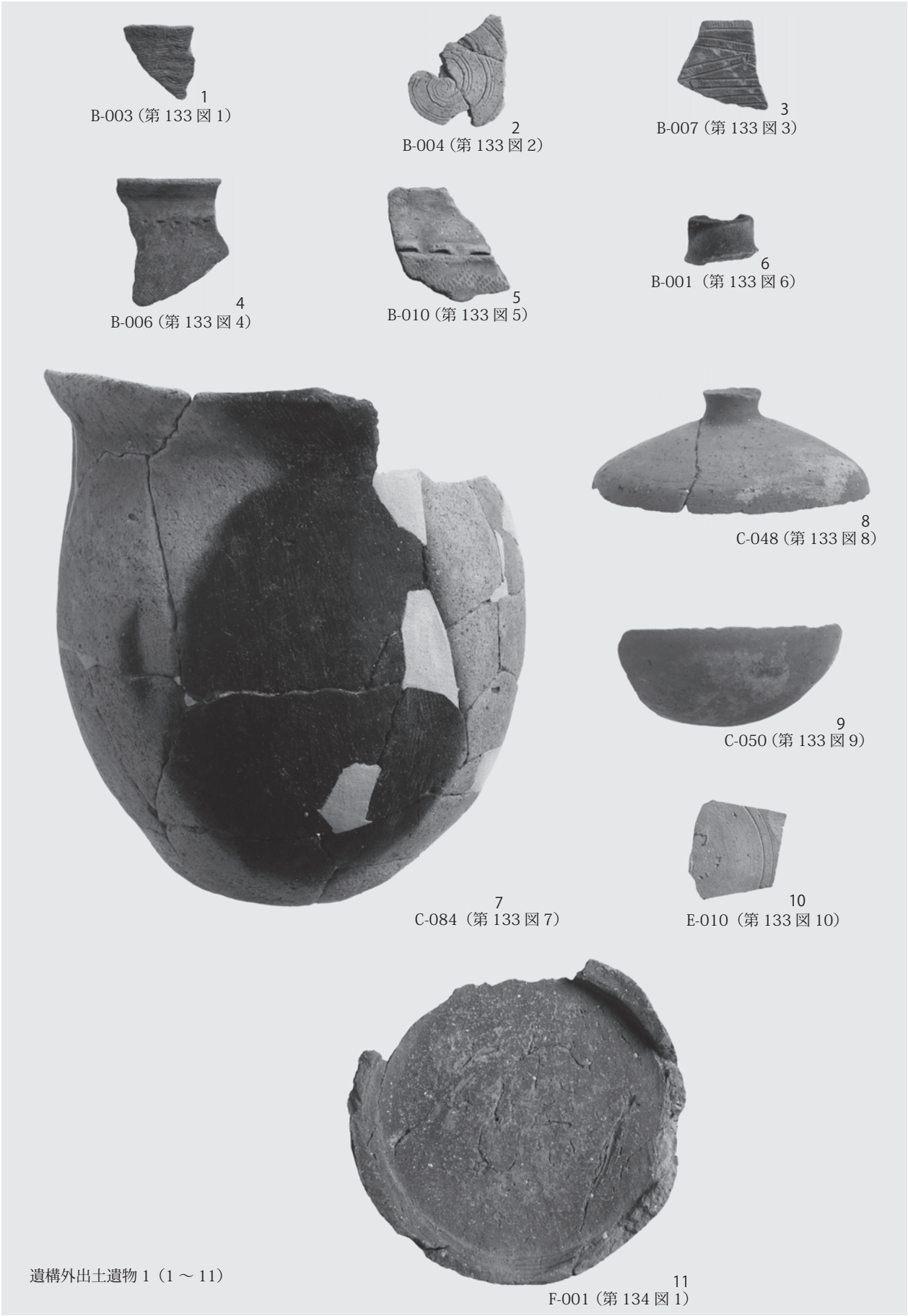
6
C-080（第 130 図 6）



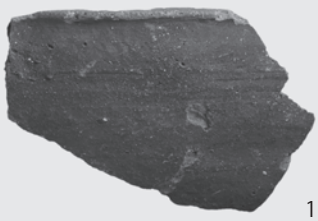
7
Kd-006（第 130 図 7）

SX5（1 ～ 7）

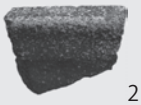
写真図版 20　土器集中遺構出土遺物



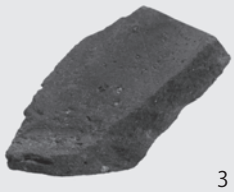
写真図版21　遺構外出土遺物(1)



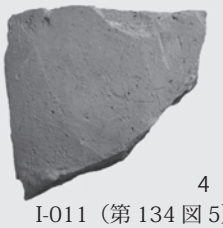
1
I-003（第 134 図 2）



2
I-005（第 134 図 3）



3
I-006（第 134 図 4）



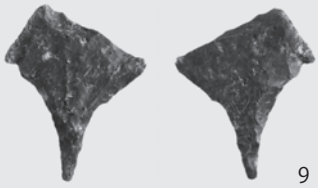
4
I-011（第 134 図 5）

5
N-004（第 135 図 1）

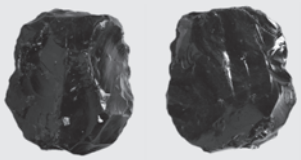
6
P-005（第 135 図 2）

7
P-008（第 135 図 3）

8
Ka-002（第 135 図 4）



9
Ka-001（第 135 図 5）



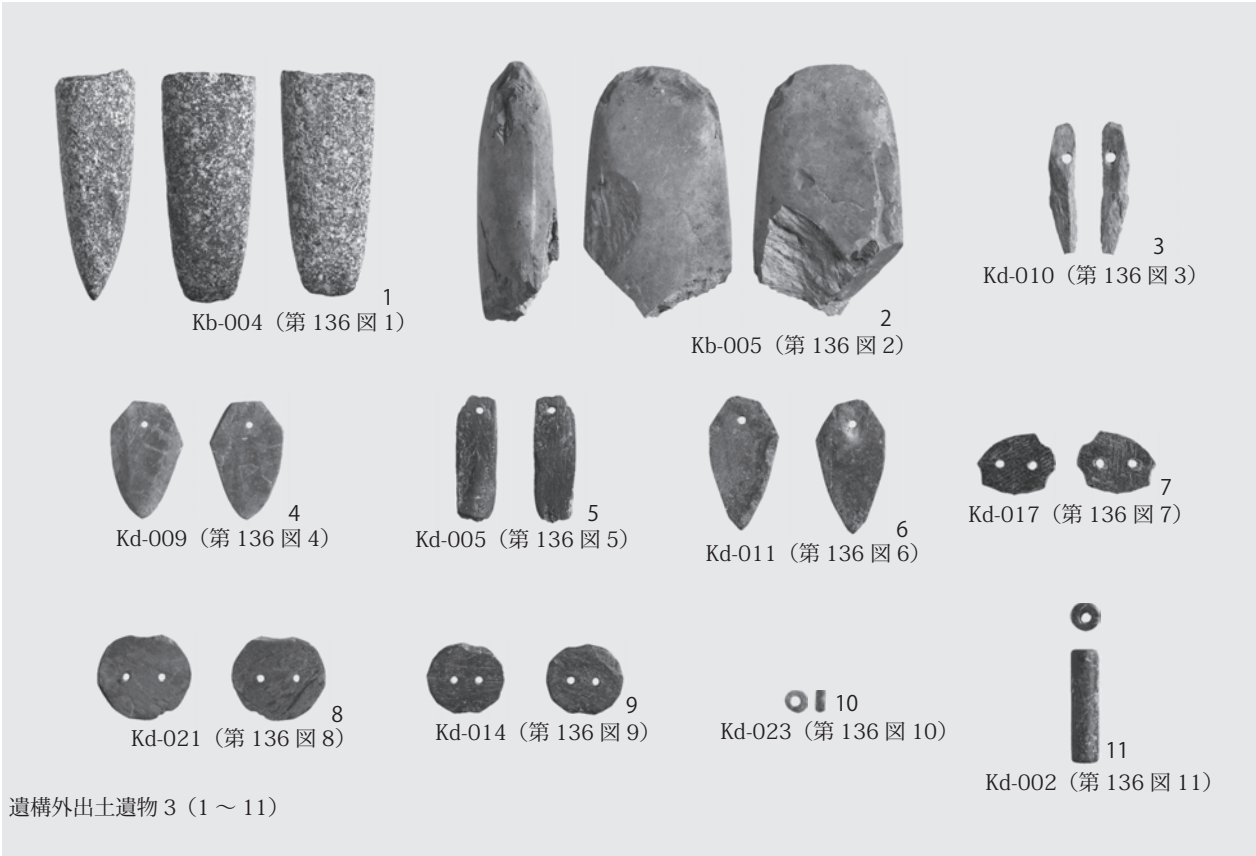
10
Ka-005（第 135 図 6）

11
Kb-001（第 135 図 7）

12
Kb-002（第 135 図 8）

遺構外出土遺物 2（1 ～ 12）

写真図版 22　遺構外出土遺物（2）



遺構外出土遺物 3（1 ～ 11）

写真図版 23　遺構外出土遺物（3）

報　告　書　抄　録

ふりがな	みなみこいずみいせき
書名	南小泉遺跡
副書名	第67次発掘調査報告書
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第419集
編著者名	庄子裕美、主濱光朗、荒井格、工藤信一郎、前川雅夫、吾妻俊典、水上匡彦、横井奏
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-0811宮城県仙台市青葉区一番町４丁目１番25号　℡022-214-8899
発行年月日	2014年２月28日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
南小泉遺跡（みなみこいずみいせき）	宮城県（みやぎけん）仙台市若林区（せんだいしわかばやしく）遠見塚一丁目（とおみづかいっちょうめ）	4100	01021	38°14′14″	140°54′48″	2012/10/1〜2013/1/29	782.5	民間宅地開発

主な時代	種別	主な遺構	主な遺物	特記事項
弥生時代	遺物散布地		弥生土器	
古墳時代	集落	竪穴住居跡　溝跡　土坑	土師器、須恵器、石製模造品、管玉、土製勾玉、土玉、紡錘車、ガラス管玉	古墳時代の竪穴住居跡21軒を検出した。
古代	集落	竪穴住居跡　土坑	土師器、須恵器、軒丸瓦、丸瓦、鎌	竪穴住居跡の床面から、鉄鎌が出土した。
中世・近世	屋敷跡	柱列跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡、ピット	青磁、陶器、瓦質土器、土師質土器、刀、和釘	区画溝及びその内部で掘立柱建物跡３棟と柱列跡１列を検出した。

要約

掘立柱建物跡４棟、柱列跡１列、竪穴住居跡22軒、溝跡30条、土坑42基、井戸跡１基、性格不明遺構３基、ピット593基を調査した。

古墳時代中期から後期の竪穴住居跡を21軒を検出した。

古代の竪穴住居跡を１軒検出し、その床面から鉄鎌が出土した。

中近世の屋敷跡は、13世紀後半から17世紀前半にかけてのものである。区画溝跡の内部では建物の建て替えが行われている。掘立柱建物跡は、礎板に川原石を使用する東西棟の建物である。区画溝跡には、橋脚が設けられている。屋敷跡及び区画溝跡から、龍泉窯青磁などの中世陶器・磁器が出土した。

仙台市文化財調査報告書第 419 集

南小泉遺跡

第 67 次発掘調査報告書

2014 年 2 月 28 日

発行　仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区一番町 4 丁目 1 番 25 号
℡　022-214-8899
印刷　八幡印刷株式会社
福島県いわき市平字田町 82-13
℡　0246-23-1471